

別添資料（公開）グループC

H30年度分

内容

- 1 「母親の育児環境と心身健康に関する一考察」報告書
- 2 「養育者支援の目標家庭に関する一考察」報告書
- 3 「中国浦江県浙江省における幼稚園保護者の育児環境に関する考察」報告書
- 4 「グループCによるマッチングが社会的養護に関わる支援者に及ぼす影響」報告書

1 「母親の育児環境と心身健康に関する一考察」報告書

担当：落合恵美子 郭雲蔚 姚逸葦

研究目的

本報告書は、主に母親の育児環境に注目し、母親の就業形態、育児孤立の状況が養育者としての母親本人と子どもの心身の健康に与える影響を考察する。

データと使用した変数

データに関して、阿部彩先生が2016年東京都内の4自治体（墨田区・豊島区・調布市・日野市）を対象に実施した「子どもの生活実態調査」の小学生調査と中学生調査を利用する¹。当該調査は子ども票と保護者票を含み、親子の情報をリンクできる利点を持っている。調査対象者数が19,929世帯であり、調査で得られた有効回答数に関して、子ども票が8,367票で、保護者票が8,429票である。有効回答率について、子ども票が42.0%で、保護者票が42.3%となっている。

分析に用いる独立変数は主に就業形態と育児孤立の状況からなっている。まず、母親の就業形態について、「フルタイム」、「パートタイム・自営業・自由業」、「主婦・無職」という3分類を採用した。具体的には、「会社役員」、「民間企業の正社員」、「公務員などの正職員」を「フルタイム」に分類し、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」、「学生」、「自営業（家族従業者を含む）」、「自由業」、「団体職員」、「その他の働き方をしている」といった諸類型を「パートタイム・自営業・自由業」にした。残りの「専業主婦」、「引退（退職）」、「その他の無職」は、「主婦・無職」に分類された。次に、育児孤立の状況に関して、主に「育児孤立（子どもの看病してくれる人の不在）」と「育児孤立（相談相手の不在）」の二種類に分けて分析を行った。「育児孤立（子どもの看病してくれる人の不在）」について、調査票の「お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか」という問いに対して「いない」と回答した人を孤立と扱う。「育児孤立（相談相手の不在）」について、「あなたは、本当に困った時や悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）」がいますか。」という項目で「いない」と回答した人を孤立とみなす。

本稿で用いた従属変数は心身の健康である。主に、母親本人および子どもの身体健康に対する主観的評価、および母親のうつ傾向を対象とする。まず、身体健康に対する主観的評価について、「よくない」、「あまりよくない」、「ふつう」、「まあよい」、「よい」といった5つのカテゴリーを点数が大きければ主観的健康の評価が良いように1から5までと配点する。次に、保護者のうつ傾向を測定するために、「次のA～Fの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか」の質問に含まれる6項目の回答を用いる。6項目は具体的に「A 神経過敏に感じた」、「B 絶望的だと感じた」、「C そわそわ、落ち着かなく感じた」、「D 気分が沈み込んで何が起ころうとも気が晴れなく感」、「E 何をするのも骨折りだと感じた」、「F 自分は価値のない人間だと感じた」からなっている。選択肢の「いつも」、「たいてい」、「ときどき」、「少しだけ」、「全くない」にそれぞれ4から0まで配点し、6項目の得点の合計を「うつ傾向」として分析で利用する。ちなみに、6項目のクロンバックの α 係数はおよそ0.9（小学生票は0.887；中学生票は0.894）であり、6項目の得点を合計する処理が適切と言える水準になっている。

本稿は、主に母親の状況に注目するため、回答者が子どもの母親であるケースに限定し、該当調査の保護

¹ 二次分析にあたり、データの利用を許可していただいた阿部彩先生と東京都に感謝を申し上げたい。

者票を用いる。データを上記にあげた変数に基づいてリストワイズ除去を行い、実際に分析で用いたのは全体有効回答者数 8,429 ケースの中の 1,910 ケースである。

上記に挙げた就業形態、育児孤立の状況、心身の健康といった変数以外に、本研究では年齢、等価世帯年収、同居家族人数、子ども数、ひとり親ダミー、国籍も統制変数として使用された。各統制変数の分布も独立変数と従属変数と合わせて表 1 で示している。

表 1 のとおり、小学生票と中学生票において、主婦・無職の女性はそれぞれ 33.2%と 22.0%を占めている。「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」と回答した母親は、小学生票の場合は 18.4%であり、中学生票の場合は 20.6%である。「困った時や悩みがある時の相談者がいない」と回答した母親は、小学生票と中学生票の中でそれぞれ 4.9%と 6.9%を占める。

表 1 記述統計量

変数	小学生票				中学生票			
	最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年齢	30	55	42.290	4.154	31	66	45.070	4.265
等価世帯年収	0	526.5	341.300	130.895	0	526.5	349.190	128.184
同居家族人数	2	10	4.242	0.874	2	8	4.245	0.921
高等教育	0	1	0.841	0.366	0	1	0.824	0.381
子供数	1	5	2.117	0.724	1	5	2.111	0.754
ひとり親世帯	0	1	0.019	0.136	0	1	0.022	0.147
外国籍母親	0	1	0.005	0.072	0	1	0.006	0.097
フルタイム	0	1	0.175	0.380	0	1	0.167	0.373
パート・自営	0	1	0.503	0.500	0	1	0.613	0.487
主婦・無職	0	1	0.322	0.468	0	1	0.220	0.414
孤立：子どもの看病	0	1	0.184	0.387	0	1	0.206	0.405
孤立：相談相手	0	1	0.049	0.216	0	1	0.069	0.253
うつ傾向	0	24	3.679	4.088	0	24	3.625	4.012
親健康評価	1	5	4	1.037	1	5	3.916	1.068
子ども健康評価	1	5	4.455	0.859	1	5	4.362	0.915
N	956				954			

母親の就業形態と心身の健康

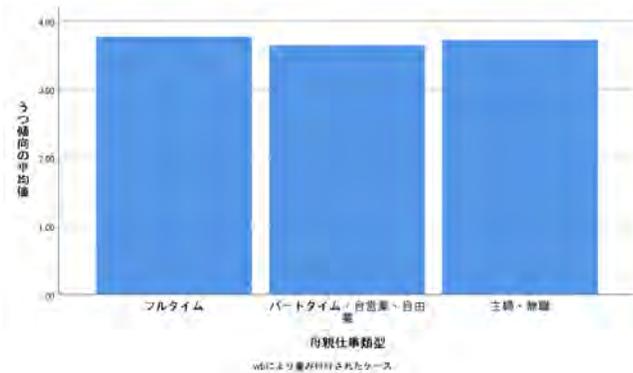


図 1 母親の就業形態と母親のうつ傾向 (小学生票)

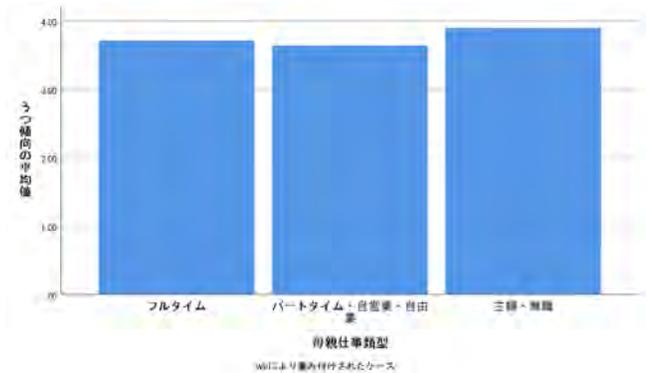


図 2 母親の就業形態と母親のうつ傾向 (中学生票)

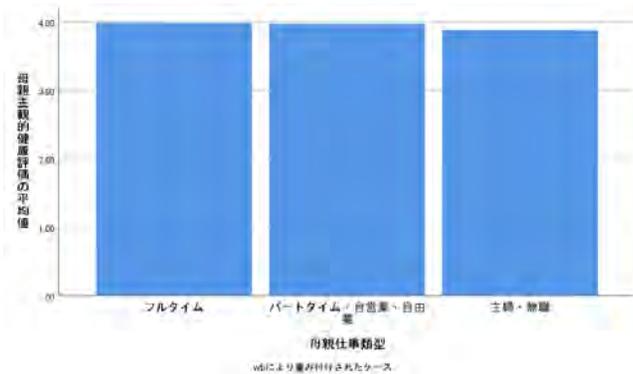


図 3 母親の就業形態と母親の主観的健康評価 (小学生票)

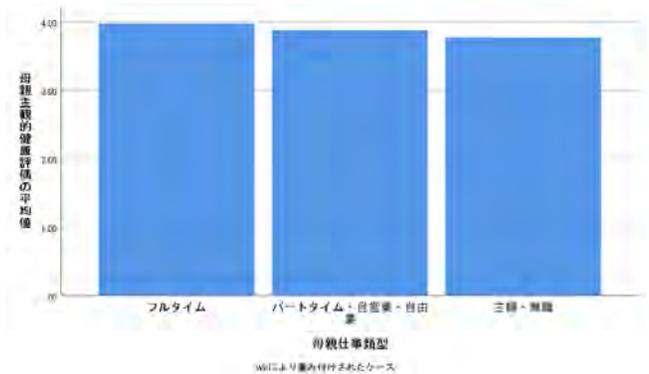


図 4 母親の就業形態と母親の主観的健康評価 (中学生票)

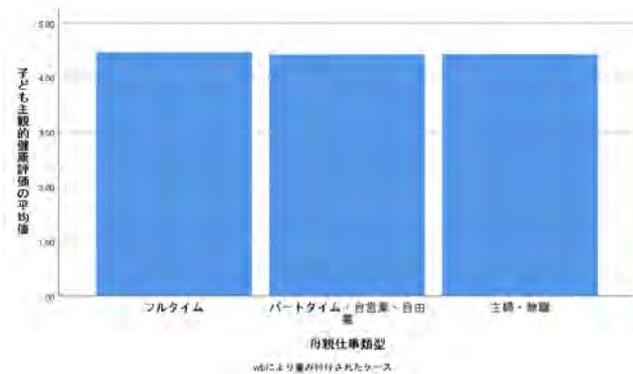


図 5 母親の就業形態と子どもの主観的健康評価 (小学生票)

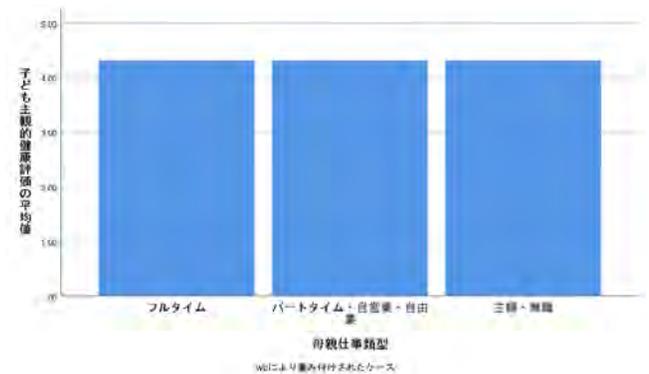


図 6 母親の就業形態と子どもの主観的健康評価 (中学生票)

まず、母親の就業形態と心身の健康を見ていこう。小学生票と中学生票をそれぞれ用い、異なる就業形態で就業している母親の間に、母子の健康への評価と母親のうつ傾向に違いがあるかを比較した。それを図にしたのは図 1 から図 6 までとなる。比較の結果、「主婦・無職」の母親の方が他の就業形態の母親より、主観的健康評価がより低い。中学生票の場合には、主婦・無職の母親は、うつ傾向が比較的に高い。「フルタイ

ム」と「パートタイム・自営業・自由業」で就業している母親の間には、大きな差が見られなかった。また、母親の仕事類型と子どもの主観的健康評価の間には、関連性が特に見えない。

さらに、他の変数を考慮した上で母親の就業形態が母親と子どもの心身の健康に及ぼす影響を調べるために、母親と子どもの主観的健康評価とうつ傾向を従属変数に回帰分析を行った。推計の結果は表 2 で示している。うつ傾向が従属変数となったモデルは、重回帰分析より推定された。主観的健康評価が順序付きカテゴリー変数であるので、それを従属変数にした母親の主観的健康評価のモデルと子どもの主観的健康評価モデルは順序ロジスティック回帰モデルにより推定された。

表 2 母親の就業形態と心身の健康問題の関連性に関する回帰分析の結果

従属変数	小学生票			中学生票		
	うつ傾向	親健康評価	子健康評価	うつ傾向	親健康評価	子健康評価
切片	2.051 (1.687)			1.091 (1.628)		
1 2		-6.255*** (0.947)	-7.889*** (1.382)		-9.007*** (0.996)	-7.065*** (1.285)
2 3		-3.771*** (0.808)	-6.637*** (1.056)		-5.741*** (0.804)	-4.521*** (0.900)
3 4		-0.952 (0.794)	-2.087* (0.894)		-3.207*** (0.787)	-1.269 (0.859)
4 5		-0.613 (0.794)	-1.726 (0.893)		-2.892*** (0.785)	-0.883 (0.859)
年齢	-0.046 (0.033)	-0.022 (0.015)	-0.025 (0.017)	0.003 (0.031)	-0.074*** (0.015)	-0.027+ (0.016)
等価世帯年収(万円)	-0.001 (0.001)	-0.000 (0.001)	0.001* (0.001)	-0.003** (0.001)	0.000 (0.001)	0.001* (0.001)
母親高等教育ダミー	-0.391 (0.369)	0.317+ (0.173)	0.231 (0.188)	-0.552 (0.348)	0.347* (0.166)	0.436* (0.174)
同居家族人数	-0.022 (0.259)	-0.016 (0.118)	0.013 (0.131)	-0.370 (0.259)	0.027 (0.122)	0.097 (0.138)
子ども数	-0.016 (0.312)	0.057 (0.143)	-0.049 (0.159)	0.060 (0.313)	0.070 (0.148)	0.065 (0.166)
ひとり親世帯	0.250 (0.980)	-0.907+ (0.473)	-0.664 (0.480)	0.538 (0.886)	-0.573 (0.431)	1.006+ (0.565)
外国籍母親	-2.146 (1.746)	0.424 (0.869)	0.070 (0.814)	-0.434 (1.611)	-1.654* (0.785)	0.067 (0.883)
母仕事類型: 主婦・無職	0.782* (0.398)	-0.297 (0.187)	-0.060 (0.210)	1.315** (0.422)	-0.408* (0.204)	0.183 (0.225)
母仕事類型: パート・自営	0.199 (0.374)	0.076 (0.175)	0.071 (0.199)	0.618+ (0.359)	-0.314+ (0.174)	0.021 (0.189)
母仕事類型: フルタイム	Ref.	Ref.	Ref.	Ref.	Ref.	Ref.
Aldrich-Nelson R-sq.	0.498	0.601	0.061	0.050	0.048	0.027
Log-likelihood	-2650.139	-2633.612	-1032.066	-1037.857	-828.389	-839.165
BIC	5368.839	5335.783	2146.405	2157.986	1739.051	1760.602
N	949	949	949	949	949	949

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '+' 0.1

小学生票と中学生票の共通する特徴は、家庭の経済状況が豊かなほど、子どもの健康状況がよくなる。高

等教育を受けた女性は、主観的健康評価がより高い。そして、フルタイムの母親と比べて、主婦・無職の母親がうつ傾向が強く、主観的健康評価が低い。つまり、主婦の心身の健康状況に注目するのは必要であろう。それ以外、中学生票の結果からみれば、パートタイム・自営業・自由業に従事した母親の主観的健康評価はフルタイムの女性より低い。外国籍の母親の主観的健康評価は日本人女性より低い。高等教育を受けた母親は、子どもの主観的健康評価が高い。また、小学校票のみ見られるのは、ひとり親家庭の母親の主観的健康評価はふたり親家庭の女性より低い傾向がある。

主婦・無職の母親はなぜうつ傾向が高いのか、こうした疑問を解明するために、次節では女性の就業形態と育児孤立の関連性を調べることにした。

就業形態と育児孤立

本節は、母親の就業形態と育児孤立の関係を考察したい。まず、異なる母親の就業形態の間に、子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無と困り事や悩みのあるときの相談相手の有無を比較して見た。それをクロス表で示したのは表 3 から表 6 までである。「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無」について、小学生票と中学生票と共に、主婦・無職の育児孤立の発生率は他の就業形態の母親と比べてやや低い。ただし、どちらも統計的に有意ではない。

表 3 母親の就業形態と育児孤立（子どもの看病）（小学生票）

		子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無		
		いる	いない	合計
フルタイム	度数	131	36	167
	%	78.4%	21.6%	100%
母親の就業形態 パートタイム・自営・自由	度数	390	91	481
	%	81.1%	18.9%	100%
主婦・無職	度数	259	49	308
	%	84.1%	15.9%	100%
合計	度数	780	176	956
	%	81.6%	18.4%	100%

表 4 母親の就業形態と育児孤立（子どもの看病）（中学生票）

		子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無			
		いる	いない	合計	
	フルタイム	度数	127	32	159
		%	79.9%	20.1%	100%
母親の就業形態	パートタイム・自営・自由	度数	459	126	585
		%	78.5%	21.5%	100%
	主婦・無職	度数	171	39	210
		%	81.4%	18.6%	100%
合計		度数	757	197	954
		%	79.3%	20.6%	100%

表 5 母親の就業形態と育児孤立（相談相手）（小学生票）

		困った時や悩みがある時の相談者有無			
		いる	いない	合計	
	フルタイム	度数	157	10	167
		%	94.0%	6.0%	100%
母親の就業形態	パートタイム・自営・自由	度数	458	23	581
		%	78.8%	21.2%	100%
	主婦・無職	度数	294	14	308
		%	95.5%	4.5%	100%
合計		度数	2454	909	47
		%	92.6%	95.1%	4.9%

表 6 母親の就業形態と育児孤立（相談相手）（中学生票）

		困った時や悩みがある時の相談者有無			
		いる	いない	合計	
	フルタイム	度数	150	9	159
		%	94.3%	5.6%	100%
母親職業	パートタイム・自営・自由	度数	543	42	585
		%	92.8%	7.2%	100%
	主婦・無職	度数	195	15	210
		%	92.9%	7.1%	100%
合計		度数	888	66	954
		%	93.1%	6.9%	100%

それに対し、中学生表から見れば、「困った時や悩みがある時の相談者の有無」について、主婦・無職の母親は他の就業形態の母親より困った時や悩みのある時の相談相手がやや少ない。他の要因を統制した上で、母親の就業形態は育児孤立とどのような関連をもつかを調べるために、母親の就業形態を独立変数に回帰分

析をした。その結果を表 7 で示している。小学生票の回帰分析の結果によると、主婦・無職の母親は、フルタイムの仕事に就いている母親と比べて、子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人のいない確率が 90% の有意水準で低い。一方、この傾向は中学生票で検証されなかった。

小学生票と中学生票の共通の結果として、同居家族の人数が多いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が低い。また、子どもの数が多いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が高い。また、中学生票の結果によれば、日本人母親と比べ、外国人母親の相談相手が少なく、母親の年齢が高いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が高くなる。それに対して、小学生票において、ふたり親家庭と比べて、ひとり親家庭の母親は「困った時や悩みがある時の相談者がいない」状況に陥る可能性が高い。

つまり、育児孤立に至った原因には、母親の雇用形態より同居家族人数、子どもの人数、外国籍であるかどうかなどの複層の要因が絡んでいる。次節では、育児孤立が女性の心身の健康に対してどのような影響を与えるかについて分析を行う。

表 7 母親の就業形態と育児孤立に関する回帰分析の結果²

従属変数	小学生票		中学生票	
	子どもの看病	相談相手	子どもの看病	相談相手
切片	-0.696 (1.242)	-3.394+ (1.910)	0.157 (1.102)	-1.763 (1.572)
年齢	0.052* (0.021)	0.040 (0.037)	-0.008 (0.019)	-0.010 (0.030)
等価世帯年収(万円)	-0.000 (0.001)	-0.000 (0.001)	0.000 (0.001)	-0.003** (0.001)
母親高等教育ダミー	-0.567** (0.220)	-1.000** (0.338)	0.325 (0.236)	-0.002 (0.328)
同居家族人数	-1.137** (0.371)	0.011 (0.289)	-0.770** (0.264)	0.127 (0.218)
子ども数	1.166** (0.391)	-0.171 (0.349)	0.837** (0.288)	-0.592* (0.286)
ひとり親世帯	-1.030 (0.842)	0.049 (1.105)	0.153 (0.540)	1.116* (0.568)
外国籍母親	1.082 (0.906)	1.523 (1.075)	0.415 (0.905)	
母仕事類型: 主婦・無職	-0.434+ (0.252)	-0.251 (0.436)	-0.104 (0.271)	0.117 (0.445)
母仕事類型: パート・自営	-0.197 (0.230)	-0.266 (0.408)	0.117 (0.227)	0.251 (0.386)
母仕事類型: フルタイム	Ref.	Ref.	Ref.	Ref.
Aldrich-Nelson R-sq.	0.033	0.013	0.019	0.022
Log-likelihood	-440.285	-181.530	-476.936	459.780
BIC	949.171	431.661	1022.433	520.408
N	953	953	949	949

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '+' 0.1

育児孤立と身体・精神の健康

回帰分析を実行する前に、まず、棒グラフで育児孤立と女性の心身健康の関係を表現した。図 7 から図 18 まで 12 つの図で示したとおり、子どもの看病をしてくれる人の有無と相談相手の有無と共に、いずれの育児孤立の形態も女性の心身の健康状況に負の影響を与え、育児孤立に落ちいった母親がそうではない母親より親子ともに主観的健康評価が低く、うつ傾向が高い傾向が観察される。

第 3 節と同じように、うつ傾向が従属変数となったモデルは、重回帰分析で推定した。主観的健康評価が順序つきカテゴリー変数であるため、それを従属変数にしたモデルは、順序ロジスティック回帰モデルで推定した。

² 中学生票を用いた分析の中で、「相談相手のいない」が従属変数となったモデルにおいて、母親が外国籍の方であるケース数がかなり少ないため、回帰分析の結果の歪みは生じる可能性がある。そのため、分析の際に、「母親が外国籍」をモデルから除外した。

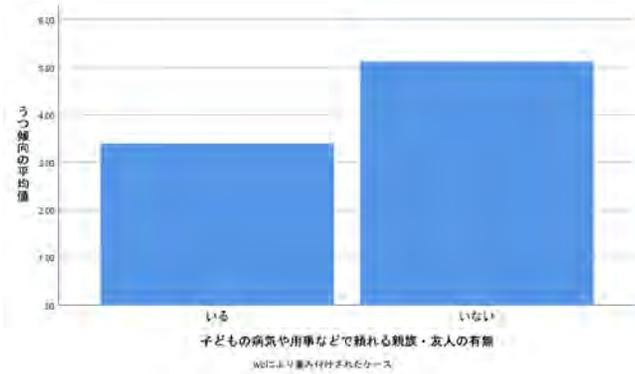


図 7 育児孤立（子どもの看病）と母親のうつ傾向（小学生票）

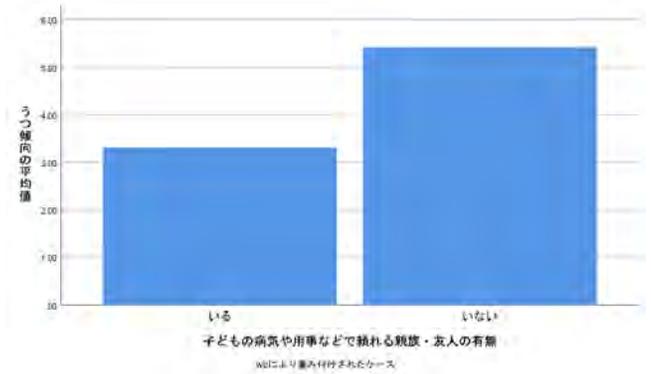


図 8 育児孤立（子どもの看病）と母親のうつ傾向（中学生票）

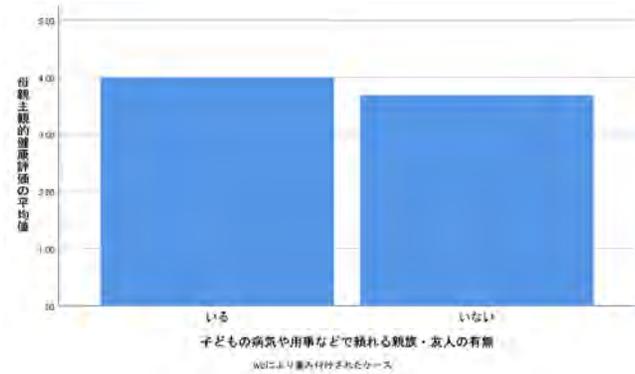


図 9 育児孤立（子どもの看病）と母親の主観的健康評価（小学生票）

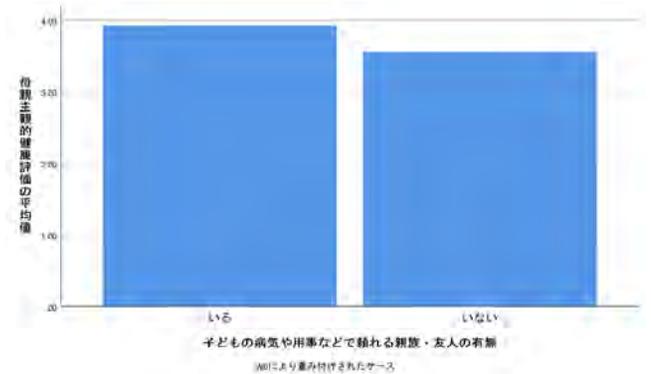


図 10 育児孤立（子どもの看病）と母親の主観的健康評価（中学生票）

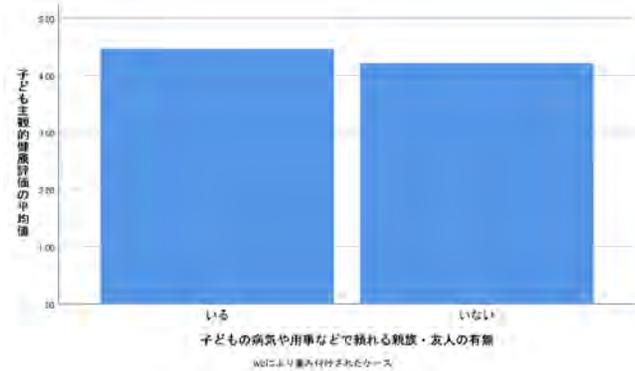


図 11 育児孤立（子どもの看病）と子どもの主観的健康評価（小学生票）

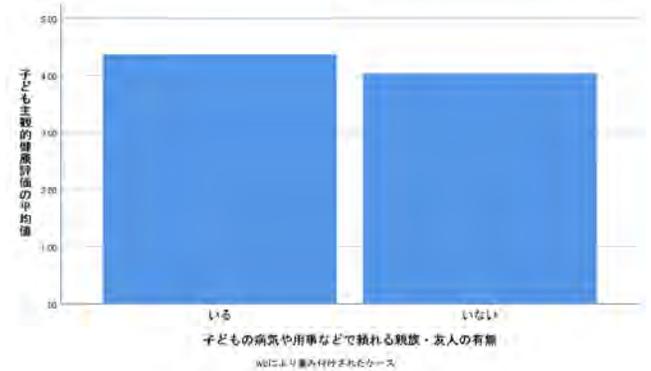


図 12 育児孤立（子どもの看病）と子どもの主観的健康評価（中学生票）

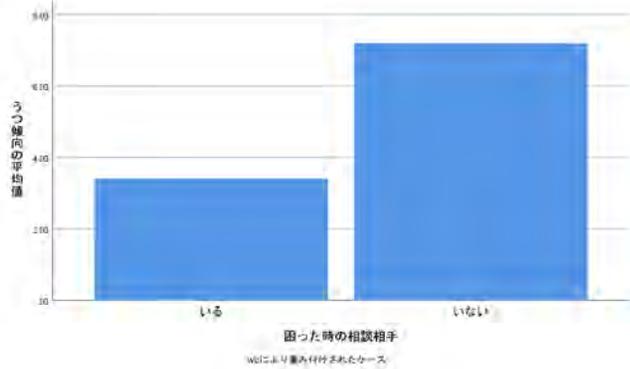


図 13 育児孤立（相談相手）と母親のうつ傾向（小学生票）

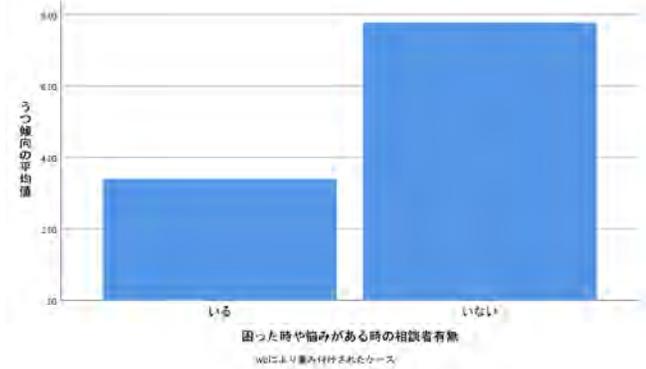


図 14 育児孤立（相談相手）と母親のうつ傾向（中学生票）

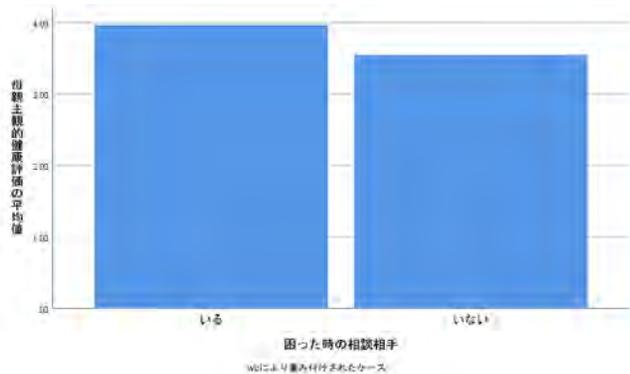


図 15 育児孤立（相談相手）と母親の主観的健康評価（小学生票）

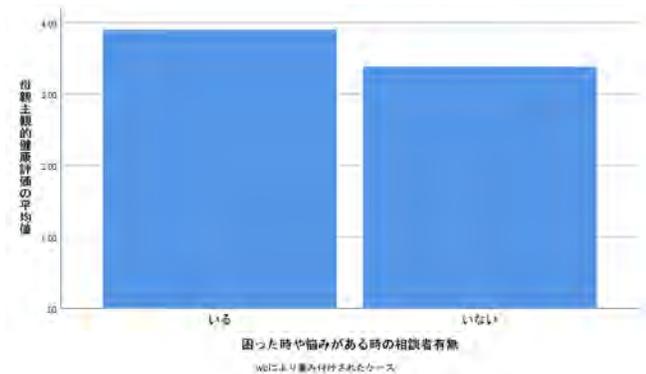


図 16 育児孤立（相談相手）と母親の主観的健康評価（中学生票）

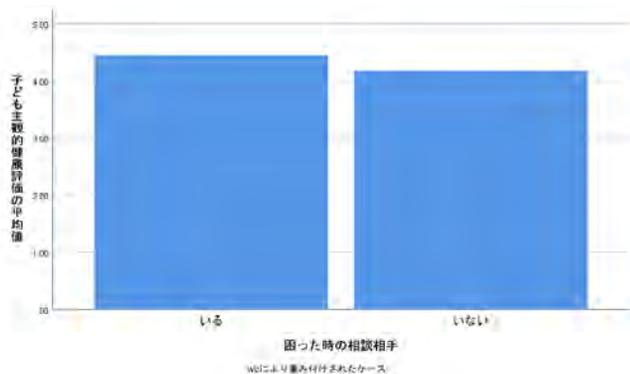


図 17 育児孤立（相談相手）と子どもの主観的健康評価（小学生票）

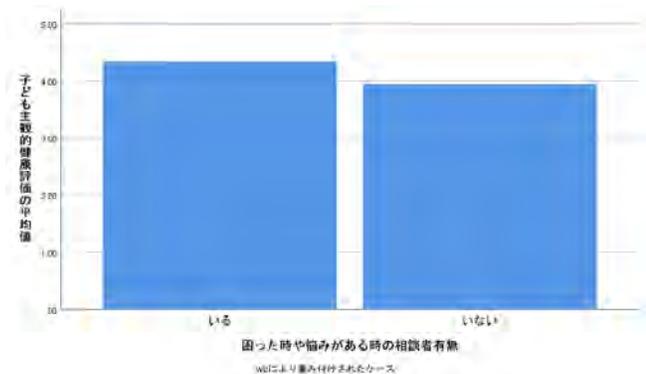


図 18 育児孤立（相談相手）と子どもの主観的健康評価（中学生票）

まず小学生票の結果を確認しよう。グラフの示した傾向と同じ、回帰分析の結果からみれば、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」母親は、うつ傾向と健康問題を抱く確率がより高く、子どもの主観的健康評価がより低い。また、「困った時や悩みがある時の相談者がいない」母親は、うつ傾向が比較的に高いということが分かった。

表 8 育児孤立と心身健康の関連性に関する回帰分析の結果（小学生票）

従属変数	小学生票					
	うつ傾向1	うつ傾向2	親健康評価1	親健康評価2	子健康評価1	子健康評価2
切片	2.415 (1.634)	2.479 (1.633)				
1 2			-6.195*** (0.929)	-6.148*** (0.927)	-7.908*** (1.365)	-7.896*** (1.363)
2 3			-3.714*** (0.787)	-3.667*** (0.784)	-6.655*** (1.034)	-6.644*** (1.032)
3 4			-0.895 (0.772)	-0.859 (0.770)	-2.096* (0.869)	-2.095* (0.866)
4 5			-0.556 (0.772)	-0.521 (0.770)	-1.733* (0.868)	-1.734* (0.865)
年齢	-0.055+ (0.033)	-0.051 (0.032)	-0.018 (0.015)	-0.021 (0.015)	-0.020 (0.017)	-0.025 (0.017)
等価世帯年収(万円)	-0.001 (0.001)	-0.001 (0.001)	-0.000 (0.001)	-0.000 (0.001)	0.001* (0.001)	0.001* (0.001)
母親高等教育ダミー	-0.307 (0.369)	-0.279 (0.369)	0.277 (0.173)	0.301+ (0.173)	0.193 (0.189)	0.236 (0.189)
同居家族人数	0.044 (0.258)	-0.050 (0.257)	-0.041 (0.118)	-0.009 (0.117)	-0.023 (0.130)	0.014 (0.130)
子ども数	-0.100 (0.312)	0.015 (0.310)	0.076 (0.143)	0.045 (0.142)	-0.009 (0.159)	-0.049 (0.159)
ひとり親世帯	0.274 (0.976)	0.177 (0.975)	-0.913+ (0.474)	-0.883+ (0.472)	-0.691 (0.481)	-0.653 (0.479)
外国籍母親	-2.534 (1.738)	-2.611 (1.738)	0.539 (0.864)	0.492 (0.868)	0.177 (0.810)	0.066 (0.812)
育児孤立(子どもの看病)	1.192*** (0.343)		-0.432** (0.162)		-0.474** (0.174)	
育児孤立(相談相手)		2.220*** (0.611)		-0.308 (0.292)		0.059 (0.328)
Aldrich-Nelson R-sq.	0.254	0.265	0.017	0.011	0.019	0.011
Log-likelihood	-2694.058	-2693.483	-1018.912	-1021.919	-752.677	-756.294
BIC	5456.716	5455.565	2120.145	2126.158	1587.675	1594.908
N	953	953	953	953	953	953

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '+' 0.1

さらに、中学生票の分析結果を見よう。表 9 の示したように、2つのタイプの育児孤立は、母親の精神状態と主観的健康評価に対して悪い影響を与えるということが確認できる。そのうえで、2種類の育児孤立は子どもの主観的健康評価に対してもネガティブな影響があるということが分かった。つまり、母親の健康と子どもの健康を守るために、母親の育児孤立の状況を解消させることは、政策の注力すべき焦点である。

表 9 育児孤立と心身健康の関連性に関する回帰分析の結果（中学生票）

従属変数	中学生票					
	うつ傾向1	うつ傾向2	親健康評価1	親健康評価2	子健康評価1	子健康評価2
切片	1.039 (1.574)	1.185 (1.545)				
1 2			-9.049*** (0.988)	-8.850*** (0.983)	-7.554*** (1.283)	-7.233*** (1.276)
2 3			-5.774*** (0.794)	-5.576*** (0.788)	-5.003*** (0.897)	-4.689*** (0.887)
3 4			-3.204*** (0.776)	-3.025*** (0.770)	-1.704* (0.855)	-1.428 (0.845)
4 5			-2.884*** (0.775)	-2.708*** (0.769)	-1.309 (0.854)	-1.040 (0.844)
年齢	0.006 (0.030)	0.005 (0.030)	-0.076*** (0.015)	-0.075*** (0.015)	-0.030+ (0.016)	-0.028+ (0.016)
等価世帯年収(万円)	-0.004*** (0.001)	-0.003* (0.001)	0.000 (0.001)	0.000 (0.001)	0.001* (0.001)	0.001+ (0.001)
母親高等教育ダミー	-0.592+ (0.342)	-0.497 (0.336)	0.384* (0.166)	0.353* (0.165)	0.507** (0.175)	0.448** (0.173)
同居家族人数	-0.241 (0.255)	-0.432+ (0.250)	-0.020 (0.122)	0.042 (0.122)	0.021 (0.139)	0.097 (0.139)
子ども数	-0.103 (0.309)	0.246 (0.303)	0.135 (0.148)	0.033 (0.147)	0.153 (0.168)	0.040 (0.167)
ひとり親世帯	0.328 (0.867)	-0.198 (0.855)	-0.481 (0.432)	-0.366 (0.428)	1.122+ (0.577)	1.126* (0.572)
外国籍母親	-0.203 (1.579)	0.472 (1.552)	-1.631* (0.792)	-1.846* (0.786)	0.196 (0.877)	0.068 (0.883)
育児孤立(子どもの看病)	2.032*** (0.314)		-0.744*** (0.157)		-0.860*** (0.163)	
育児孤立(相談相手)		4.330*** (0.494)		-0.834*** (0.252)		-0.605* (0.250)
Aldrich-Nelson R-sq.	0.269	0.247	0.080	0.106	0.051	0.044
Log-likelihood	-2837.149	-2754.504	-1071.832	-1057.506	-763.174	-766.941
BIC	5736.519	5570.963	2219.712	2190.736	1601.968	1609.461
N	1005	976	1005	976	967	963

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '+' 0.1

まとめ

本報告書の分析を通じ、母親の仕事の形式、育児孤立の状況、そして心身の健康といった三者の関係が解明された。まず、フルタイムの仕事に就いている母親と比べて、主婦・無職の母親の心身の健康はあまりよくない。「フルタイム」、「パートタイム・自営業・自由業」、「主婦・無職」という3つの就業形態の女性は、育児孤立の状況が大きな差が見えなかった。つまり、主婦・無職の心身健康の問題は、育児孤立から由来したものとは言えず、日常生活における様々な問題の総合的作用の結果かもしれない。

また、分析の結果によれば、育児孤立の状況は、母親の心身の健康のみならず、子どもの健康状況に対してもネガティブな影響を与える。子どもを育てている養育者に対して支援を行う際に、育児孤立の改善は重要な一環となるべきである。

2 養育者支援の目標家庭に関する一考察

落合恵美子 郭雲蔚 姚逸葦

一、問題意識

貧困、ひとり親家庭、外国人家庭に注目し、養育者の育児環境および経済的社会的制限にどのような影響を与えるかを分析する。

二、データと使用する変数

データに関して、阿部彩先生が 2016 年東京都内の 4 自治体（墨田区・豊島区・調布市・日野市）を対象に実施した「子どもの生活実態調査」の小学生調査と中学生調査を利用する³。当該調査は学生票と保護者票を含み、親子の情報をリンクできる。有効回答率が子ども票 42.0%で、保護者票が 42.3%である。

1. 貧困世帯

貧困家庭の処理方法について、等価世帯年収⁴を使い三つの層に分類した。まず、厚生労働省の「平成 27 年国民生活基礎調査」から算出される基準⁵を下回る世帯を貧困世帯とする。次のカテゴリーは通常の見解では低収入家庭に属しないが同調査で得られた世帯所得の中央値を平均世帯人数の平方根で除した値である 270.6 万円以下の世帯を中低収入世帯とする。それ以上の等価世帯年収の家庭をその他世帯と分類する。

表 10 等価世帯収入の度数分布表（小学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	貧困世帯	142	5.0	10.2	10.2
	中低収入世帯	239	8.4	17.2	27.4
	その他世帯	1009	35.6	72.6	100.0
	合計	1390	49.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	1443	50.9		
合計		2833	100.0		

³ 二次分析にあたり、データの利用を許可していただいた阿部彩先生と東京都に感謝を申し上げたい。

⁴ 等価世帯年収は各種公的給付金を加算した世帯年収を世帯人数の平方根で割った数値である。

⁵ 厚生労働省が行われた「平成 27 年国民生活基本調査」の世帯所得の中央値（427 万）を平均世帯人数（2.49 人）の平方根で除した値の半分である 135.3 万円。

表 11 等価世帯収入の度数分布表（中学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	貧困世帯	139	4.9	9.9	9.9
	中低収入世帯	244	8.6	17.4	27.2
	その他世帯	1021	35.9	72.8	100.0
	合計	1390	49.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	1444	50.7		
合計		2848	100.0		

上記の分類方法にしたがって計算すると、表 10 と

表 11 のとおり、小学生票において欠損値を除外した場合、およそ 10.2%が貧困世帯に該当する。また、中学生票においては、9.9%のケースが貧困世帯に該当する。

2. ひとり親家庭

ひとり親家庭の割合が欠損値を除外した場合、小学生票において、調査した親子のサンプルの中におよそ 9.5%を占めている（表 12）。中学生票の場合には、11.2%のケースがひとり親家庭である（表 13）。

表 12 ひとり親の度数分布表（小学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	ふたり親	2522	89	90.5	90.5
	ひとり親	266	9.4	9.5	100
	合計	2788	98.4	100	
欠損値	システム欠損値	45	1.6		
合計		2833	100		

表 13 ひとり親の度数分布表（中学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	ふたり親	2482	87.1	88.8	88.8
	ひとり親	314	11.0	11.2	100
	合計	2796	98.2	100	
欠損値	システム欠損値	52	1.8		
合計		2848	100		

3. 外国人家庭

本稿では外国人家庭 2 分類と外国人家庭 3 分類の双方を用い、外国人家庭が日本に占める比率を見た。まず、小学生票においては、両親双方がともに日本人である場合を日本夫婦、片方が外国人の場合および双方が外国人である場合を合わせて日本夫婦以外と分類した。こうした外国人 2 分類で見た場合、調査したサン

プルの中に欠損値を考慮しない場合、小学生票では日本夫婦がおよそ 96.4%で、日本夫婦以外がおよそ 3.6% になっている。それに対して、中学生票において、日本夫婦がおよそ 96.5%で、日本夫婦以外がおよそ 3.5% になっている。外国人のひとり親家庭は今回の分析に含まれていない。

表 14 外国人家庭 2 分類の度数分布表（小学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	日本夫婦	2632	92.9	96.4	96.4
	日本夫婦以外	97	3.4	3.6	100
	合計	2729	96.3	100	
欠損値	システム欠損値	104	3.7		
	合計	2833	100		

表 15 外国人家庭 2 分類の度数分布表（中学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	日本夫婦	2632	92.4	96.5	96.5
	日本夫婦以外	95	3.3	3.5	100
	合計	2727	95.8	100	
欠損値	システム欠損値	121	4.2		
	合計	2848	100		

表 16 外国人家庭 3 分類の度数分布表（小学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	日本夫婦	2632	92.9	96.4	96.4
	片方外国	82	2.9	3.0	99.4
	外国夫婦	15	0.5	0.6	100.0
	合計	2729	96.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	104	3.7		
	合計	2833	100.0		

表 17 外国人家庭 3 分類の度数分布表（中学生票）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	日本夫婦	2632	92.4	96.5	96.5
	片方外国	73	2.6	2.7	99.2
	外国夫婦	22	0.8	0.8	100.0
	合計	2727	95.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	121	4.3		
	合計	2848	100.0		

上記の外国人家庭 2 分類の分類方法に基づき、片方が外国人の場合と夫婦双方が外国人である場合をさら

に分け、外国人家庭 3 分類を作り上げた。外国人家庭 3 分類を用い、小学生票の度数分布表を示したのは表 16 である。表 16 で 3.6%の日本夫婦以外の家庭には、片方が外国人である国際結婚の家庭が最も多く、全体の 3.0%を占めている。残りの 0.6%は夫婦双方がともに外国人の家庭である。中学生票の場合、表 17 のとおり、片方が外国人である国際結婚の家庭は 2.7%を占め、両親とも外国人である家庭は全体の 0.8%を占めている。

三、 経済的充足

1. 子どもにかかる費用に関して

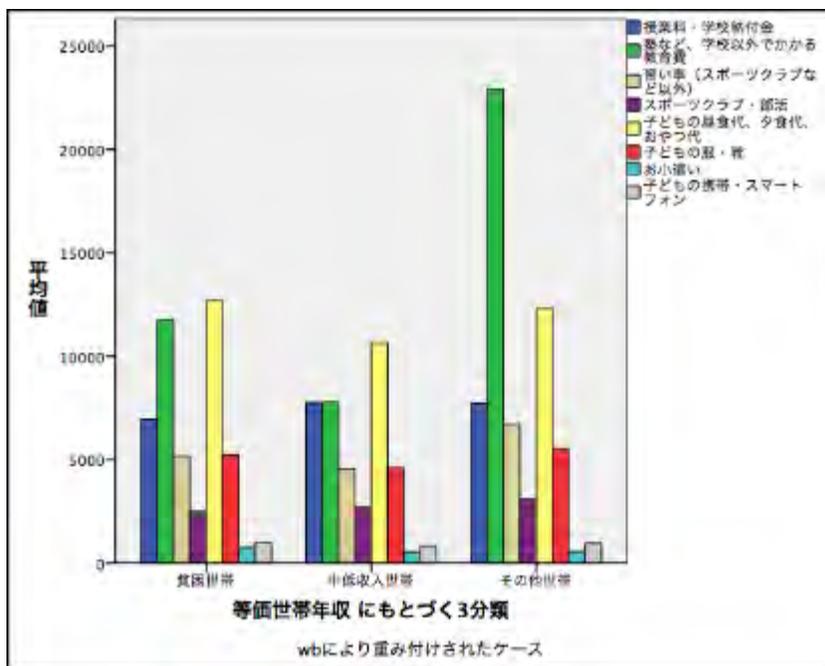


図 19 等価世帯年収にもとづく 3 分類と一ヶ月あたりの子育て費用・小学生票 (単位: 円)

まず、等価世帯年収による分類で一ヶ月あたりの子育て費用を比較してみた。それを棒グラフに示したのは図 19 と図 20 である。小学生票では、一か月あたりの子育て費用の中では、等価世帯年収によって大きな差があるのは塾など学校以外でかかる教育費である。その他世帯は一ヶ月子どもの学校以外でかかる教育費は表 18 で示しているとおおり、およそ 22,177.8 円に対し、貧困世帯と中低世帯はそれぞれ 14,259.4 と 8,548.2 円になっている。一ヶ月あたりの子育て費用では授業料・学校納付金を除く全ての項目について、中低収入世帯は貧困世帯より支出が少ない。平均値の差に関する多重比較分析をしていないので、結論を出すのに留保する必要があるが、興味深い結果である。

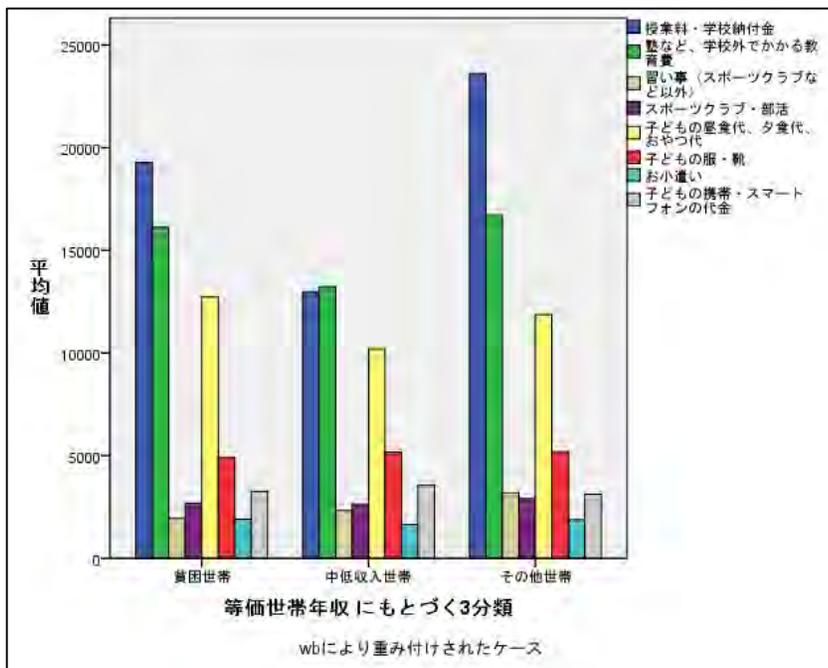


図 20 等価世帯年収にもとづく 3 分類と一ヶ月あたりの子育て費用・中学生票 (単位: 円)

表 18 等価世帯年収にもとづく 3 分類と一ヶ月あたりの子育て費用・小学生票 (単位: 円)

等価世帯年収にもとづく 3 分類		授業料・学校納付金	塾など、学校以外でかかる教育費	習い事 (スポーツクラブなど以外)	スポーツクラブ・部活	子どもの昼食代、夕食代、おやつ代	子どもの服・靴	お小遣い	子どもの携帯・スマートフォンの代金
貧困世帯	平均値	6,644.2	14,259.4	5,365.3	3,266.8	12,148.6	5,367.3	720.4	871.7
	標準偏差	14,532.6	17,604.0	8,051.6	7,824.2	13,105.1	4,907.5	1,213.2	1,467.0
中低収入世帯	平均値	7,012.7	8,548.2	5,134.0	3,005.5	11,310.8	4,438.0	526.7	793.6
	標準偏差	48,703.8	14,353.5	6,524.3	4,478.9	9,340.0	3,838.2	719.9	1,400.2
その他世帯	平均値	7,974.8	22,177.8	7,071.5	3,361.6	12,251.9	5,433.0	546.7	964.6
	標準偏差	18,478.8	46,850.4	9,244.0	5,272.1	11,734.0	5,722.9	826.8	1,649.0
合計	平均値	7,680.9	19,072.8	6,570.4	3,289.8	12,080.5	5,253.6	561.3	925.6
	標準偏差	25,844.6	41,182.0	8,756.4	5,462.7	11,509.7	5,368.5	859.5	1,591.1
分散分析	F 値	0.23	10.81***	5.61**	0.38	0.57	3.10*	2.64+	1.12

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.1$

一方、中学生票 (図 20 と表 19) を見れば、子育て費用の総額が小学生票を大幅に上回った。小学生票と同じ、塾など学校以外でかかる教育費およびほかの習い事ための支出では、等価世帯年収によって有意の差が確認された。また、小学生票と同じように、中低収入世帯の塾など学校以外でかかる教育費の支出は貧困世帯より少ない。さらに、授業料・学校納付金の支出について、等価世帯年収によって大きな差も見られ、支出の多さは、塾など学校以外でかかる教育費と同じ、その他の世帯、貧困世帯、中低収入世帯の順で並べられる。それ以外、習い事 (スポーツクラブなど以外) にかかる費用は等価世帯年収が高いほど増える傾向が観察された。

表 19 等価世帯年収にもとづく3分類と一ヶ月あたりの子育て費用・中学生票 (単位:円)

等価世帯年収にもとづく3分類		授業料・学校納付金	塾など、習い事(スポーツクラブ・部活以外)	子どもの昼食代、夕食代、おやつ代	子どものお小遣い	子どもの携帯・スマートフォン			
貧困世帯	平均値	17975.2	16072.1	2177.3	3147.0	12678.1	4653.0	1937.0	3237.1
	標準偏差	28888.1	18163.2	4800.2	6508.4	15215.2	4278.5	2134.9	3139.6
中低収入世帯	平均値	12919.3	13875.9	2309.1	3033.7	10293.0	5136.3	1723.8	3460.8
	標準偏差	17724.6	22996.6	4769.9	6007.7	9937.0	4354.5	1644.7	4813.4
その他世帯	平均値	24225.2	17660.3	3483.5	3368.0	12009.5	5241.0	1867.4	3148.9
	標準偏差	30607.2	18715.2	8082.2	7360.5	14620.9	5019.5	1722.5	2969.1
合計	平均値	21634.1	16835.6	3140.8	3287.0	11778.9	5164.0	1849.1	3213.9
	標準偏差	28922.4	19521.5	7326.6	7054.2	13992.4	4837.8	1754.2	3391.7
分散分析	F 値	15.23***	3.62*	3.55*	0.23	1.61	0.81	0.80	0.80

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.1$

2. 公共料金の支払い

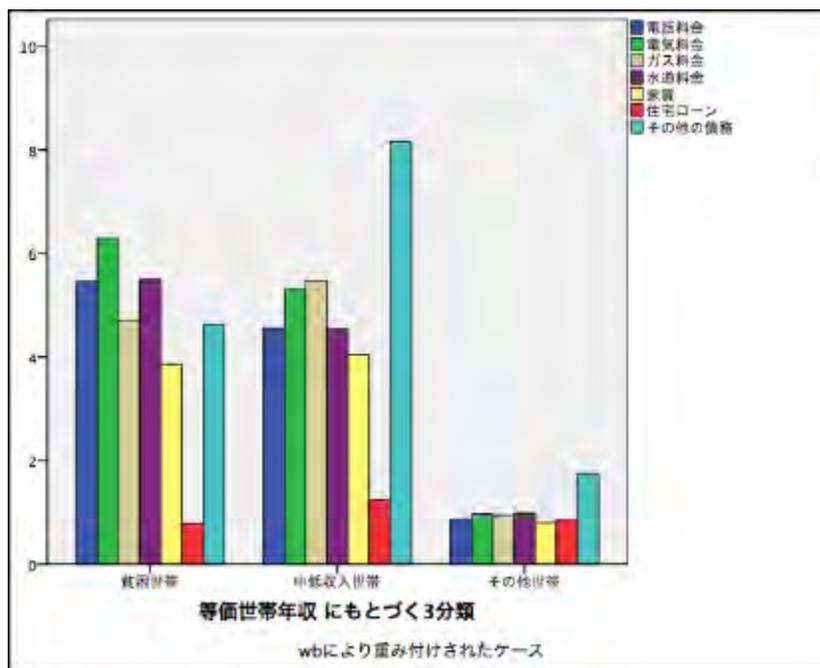


図 21 等価世帯年収の分類で見た公共料金を支払えない経験・小学生票

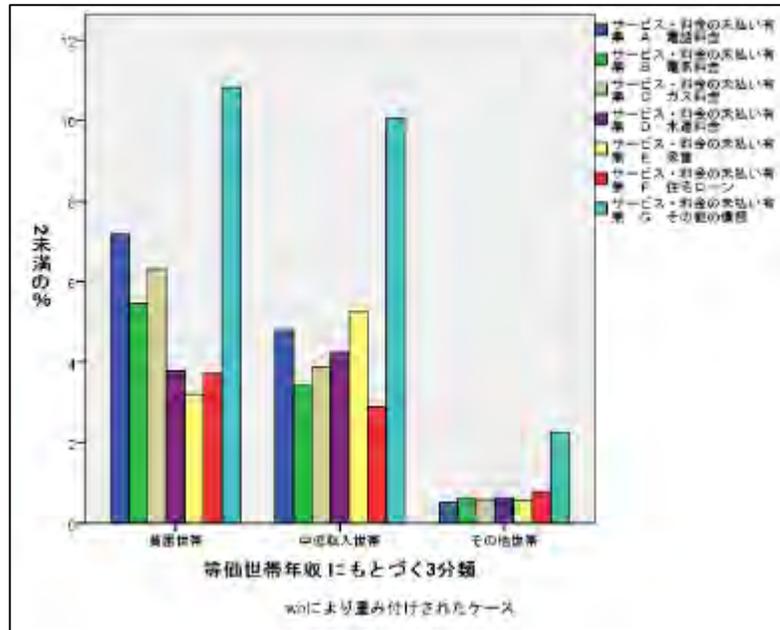


図 22 等価世帯年収の分類で見た公共料金を支払えない経験・中学生票

過去 1 年間の間に、経済的な理由で、電話料金、電気料金、ガス料金、水道料金、家賃、住宅ローン、その他の債務を支払えない経験について、等価世帯年収による比較を行った。まず、小学生票のサンプルの中で、支払えない経験のある人の比率を棒グラフにしたのは図 21 であり、中学生票の棒グラフは図 22 である。小学生票の結果からみると、貧困世帯と中低収入世帯がともにその他世帯より公共料金を支払えない経験率が高い。電気料金を例にすると、貧困世帯の中におよそ 7.1%の人が経済的な理由で過去 1 年間に支払えない経験があり、中低収入世帯はその比率が 5.5%であり、その他世帯は最も低くおよそ 1.1%である。一方、その他の債務について、過去 1 年間の間に支払えない経験のある人の比率は、中低収入世帯の方が貧困世帯より高い。住宅ローン以外の債務について、返済型の奨学金やカードローンなどが考えられる。

それに対して、中学生票の場合は、公共料金の未払いの発生率はほとんど収入状況の良さと共に逡減の趨勢を示しており、そして、電話料金、ガス料金、住宅ローンの未払い発生率の差が統計的に有意である。ただし、例外として、家賃の未払い率は、貧困世帯と比べ、中低収入世帯の方が統計的に高い。

四、子どもとの関わり合い

1. 貧困や時間の制限による体験の制限(低所得、ひとり親)

次に、過去 1 年間に於いて、親が子どもと各種の体験がしたかに関する質問項目を比較したいと考える。各種の体験には海水浴に行く、博物館・科学館・美術館などに行く、キャンプやバーベキューに行く、スポーツ観戦や劇場に行く、遊園地やテーマパークに行く項目が含まれている。こうした項目について、等価世帯年収によって過去 1 年間の経験に違いが存在するか比較を試みた。それを棒グラフにしたのは図 23 と図 25 である。小学生票の結果から、貧困によって子どもへの体験の制限が顕著に現れたのはスポーツ観戦や劇場に行く項目のみである。金銭的な理由で子どもを連れてスポーツ観戦や劇場に行けなかった貧困世帯が 8.5%で、中低収入世帯が 6.4%、その他世帯が 1.0%である。残りの 4 項目について、いずれも中低収入世帯が貧困世帯とその他世帯より、各種体験のある比率が低い。

それに対して、中学生票の場合には、スポーツ観戦や劇場に行く項目のほか、遊園地やテーマパークに行くという項目は、貧困の理由で体験の制限が著しく現れた。海水浴を除く4項目について、いずれも中低収入世帯は貧困世帯とその他世帯より過去1年間の間、体験したと回答した親の比率が低い。また、その他の世帯と比べ、貧困世帯と中低収入世帯の子どもは、金銭的な理由で5種類の体験が制限されたと回答した比率が高い。金銭的な理由で子どもを連れてスポーツ観戦や劇場に行くことや、遊園地やテーマパークに行けなかった家族は、中低収入世帯が貧困世帯よりやや多い。

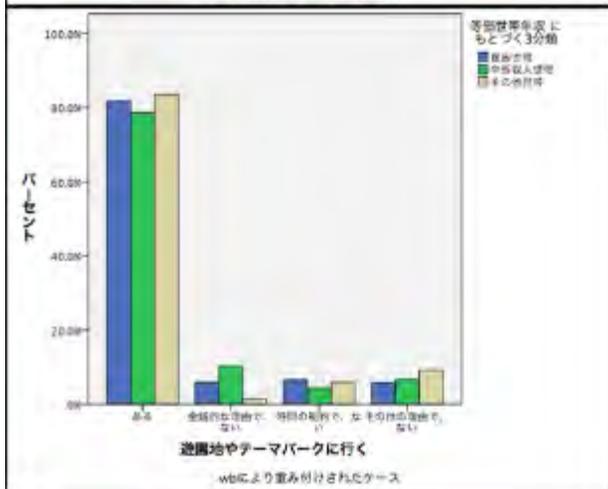
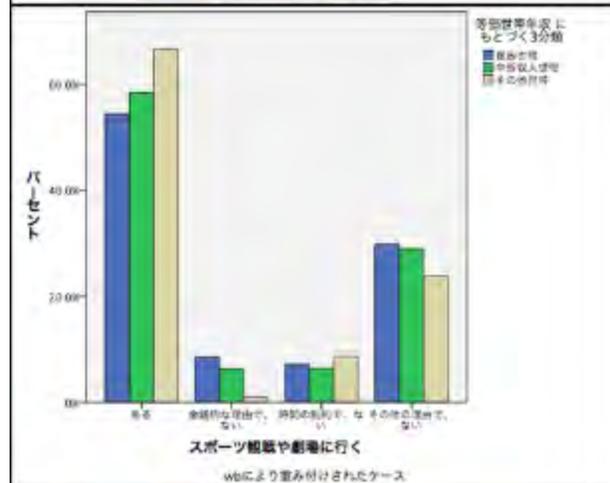
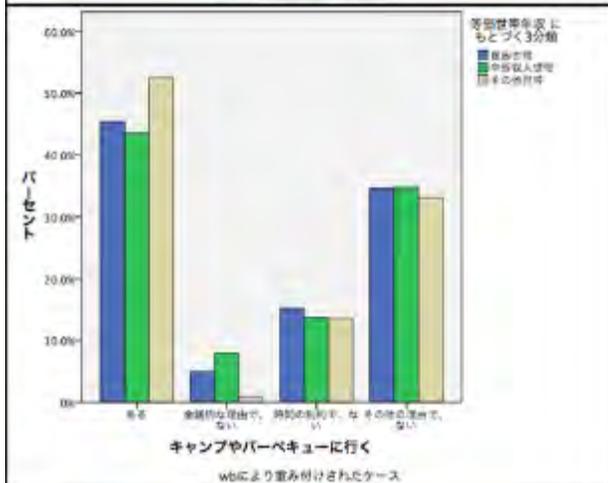
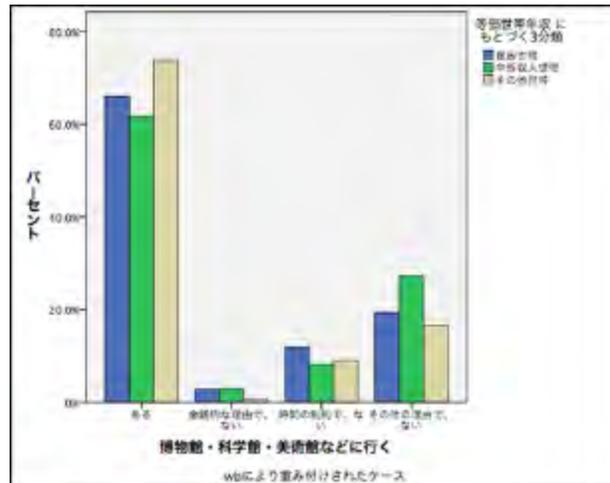
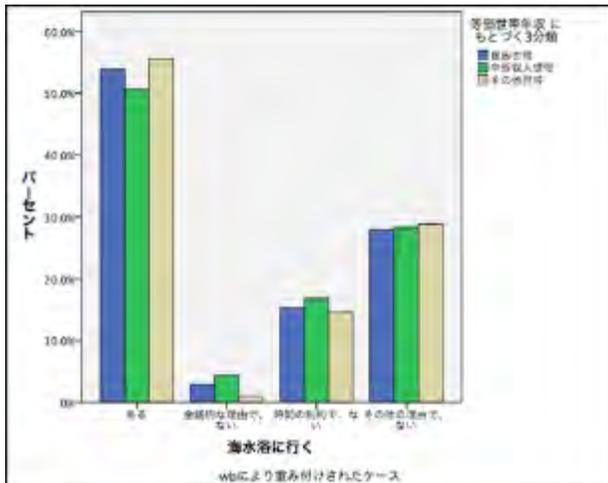


図 23 等価世帯年収による親の子どもへの体験の比較・小学生票

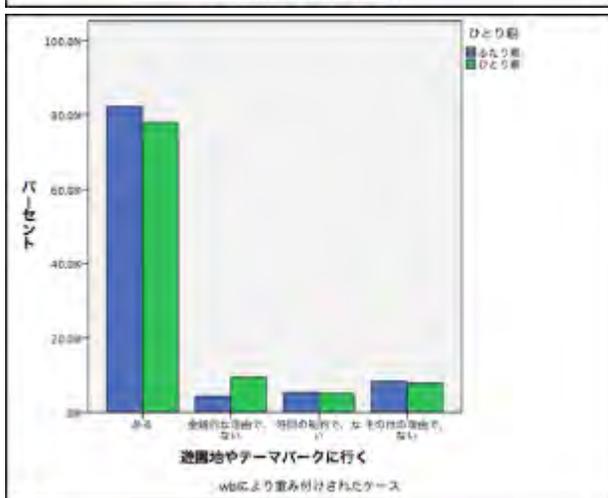
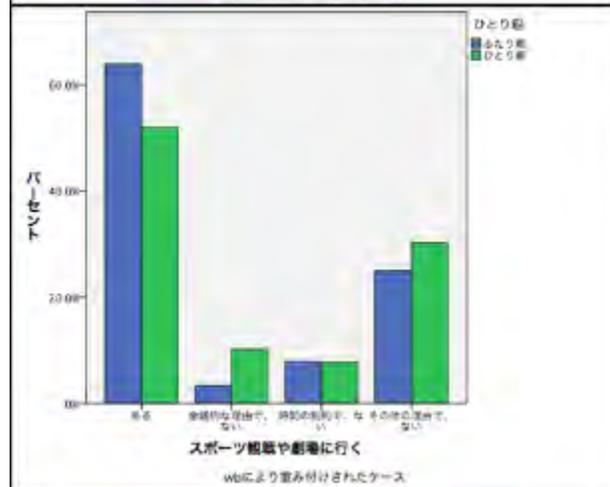
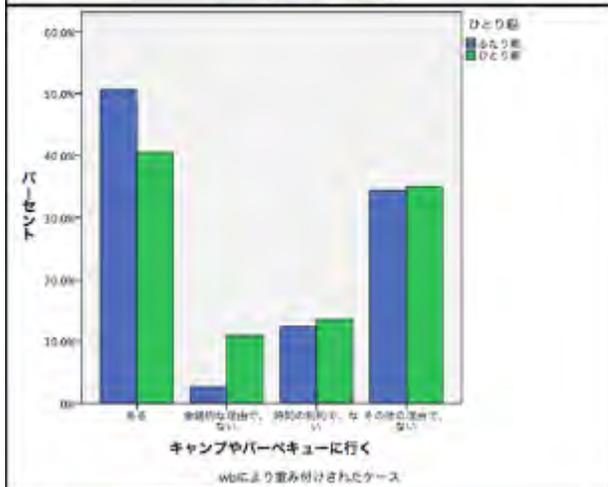
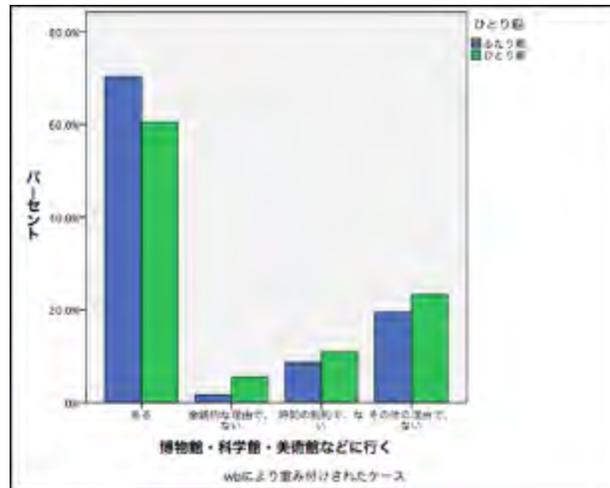
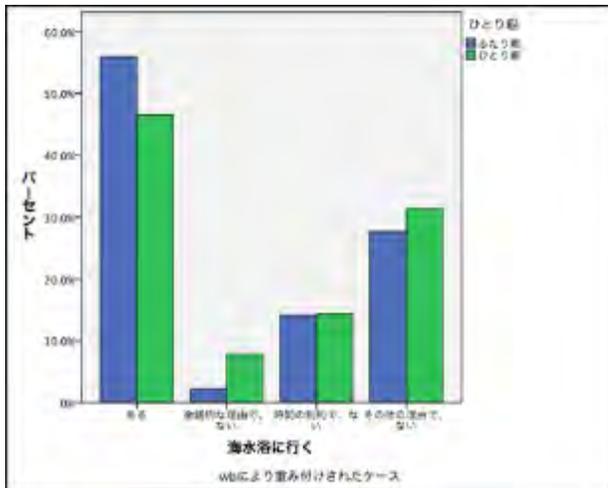


図 24 家族形態による子どもへの体験の比較・小学生票

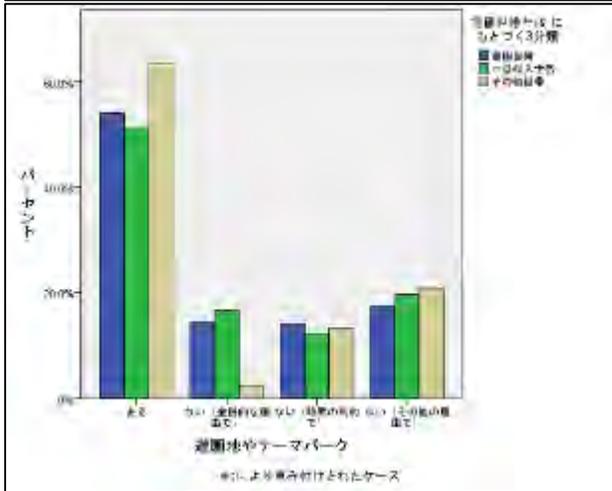
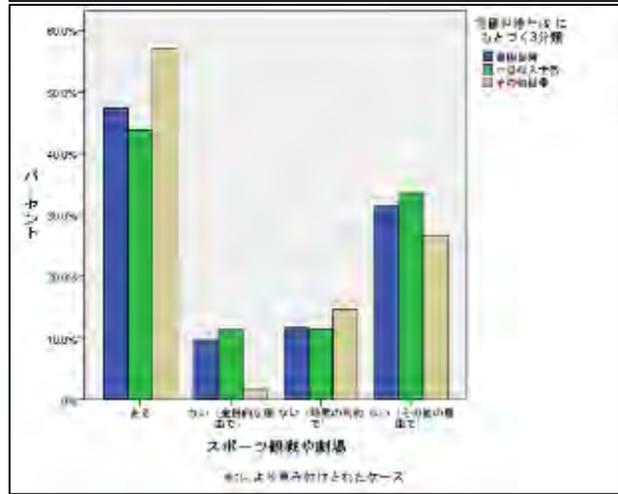
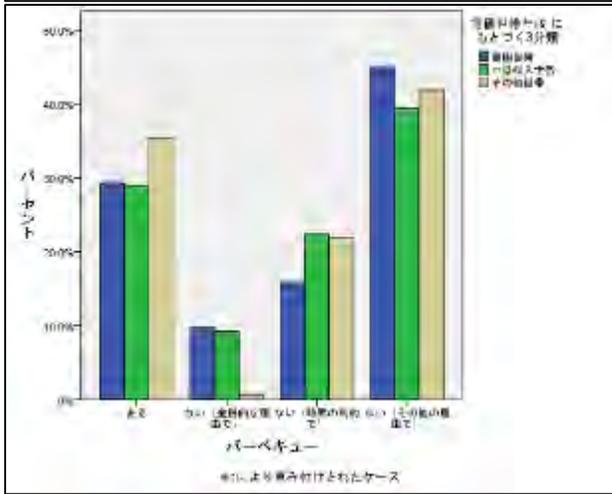
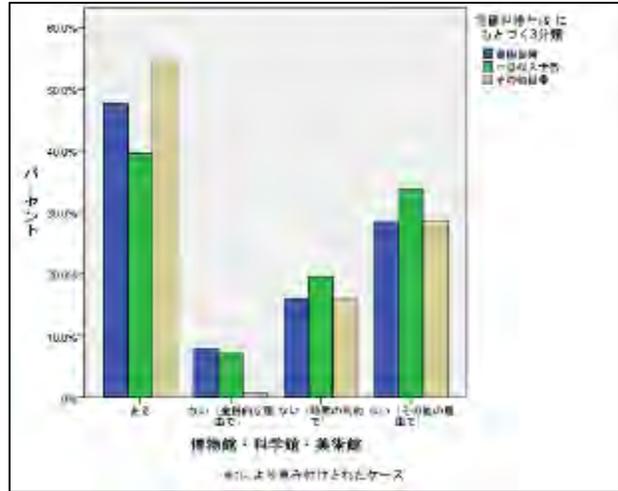
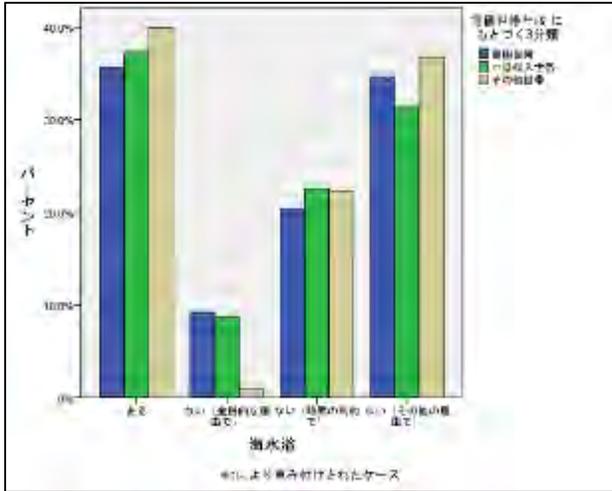


図 25 等価世帯年収による親の子どもへの体験の比較・中学生票

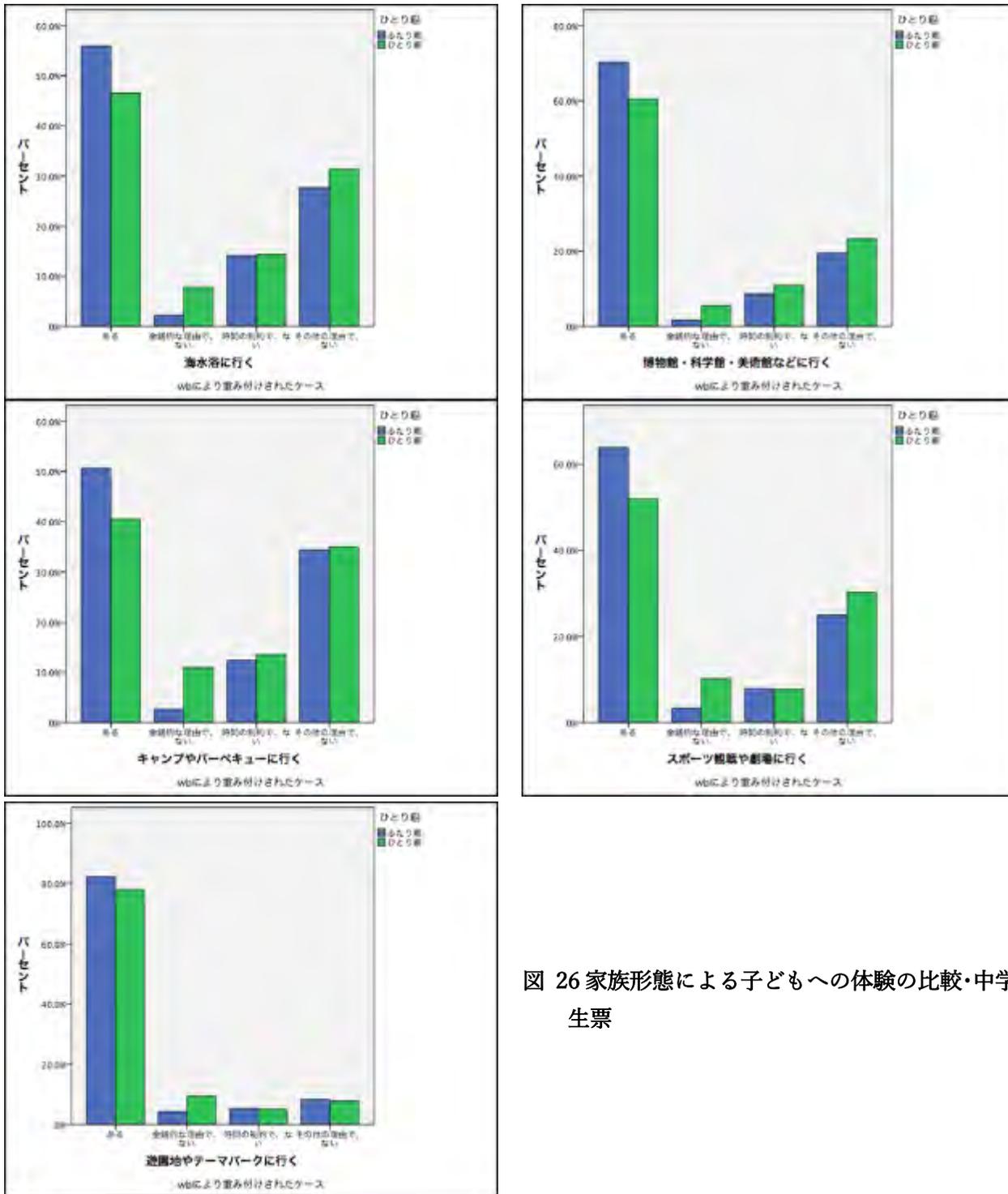


図 26 家族形態による子どもへの体験の比較・中学生票

次に、ひとり親家庭とふたり親家庭によって親が子どもへの体験に違いが存在するか比較を試みた。それを棒グラフに示したのは図 24 と図 26 である。結果から見れば、小学生票と中学生票ともに、5 項目についていずれもひとり親の方が子どもと各種体験のある比率が低い。その理由について、金銭的な理由がふたり親より多く挙げられ、時間的な制限もふたり親とほぼ同じ水準にあげられる重要な要因である。

2. 貧困による日常生活の制限

本節では主に親が子どもに様々な日常的なことをしているかを等価世帯年収、家族形態の二つの側面より比較を試みる。こうした日常活動には具体的には「毎月お小遣いを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回ぐらい家族旅行に行く」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」の8項目が含まれている。

まず、小学生票の結果を確認しよう。等価世帯年収による上記のことをする比率を比較して見た。それを棒グラフに示したのは図 27 である。全体的にみると、「お誕生日のお祝いをする」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」の項目について、等価世帯年収による制限があまり見られない。仮に経済的に余裕がないと考えられる貧困世帯でも一定の形で子どもに誕生日や祝日のお祝いをしてあげていると推測される。一方、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」について、どの等価世帯年収の階層においても経済的にできないと回答した親が相当に存在している。具体的には、中低収入世帯の中にはその割合が最も多く、全体の 32.6%の中低収入世帯が経済的にできないと回答し、貧困世帯の 17.1%とその他世帯の 34.5%を上回っている。

「毎年新しい洋服・靴を買う」と「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」について、貧困世帯が経済的な理由でできない比率が中低収入世帯とその他世帯より高い。「毎年新しい洋服・靴を買う」を例にあげると、貧困世帯にはおよそ 4.3%の親が経済的な理由でできないと回答しているのに対し、その比率は中低収入世帯の場合およそ 3.3%であり、その他世帯の場合わずか 0.7%である。貧困によって生じた新しい洋服・靴の購入や習い事の制限が示唆している。一方、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」と同じ、「毎月お小遣いを渡す」、「1年に1回ぐらい家族旅行に行く」といった項目に関して、中低収入家庭における経済的にできないと回答する親の比率が貧困世帯とその他世帯を上回っている。

次にひとり親か否かという家族形態による各種活動の比較をした。それを棒グラフにしたのは図 29 である。「習い事（音楽・スポーツ・習字等）」と「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「一年に一回ぐらい家族旅行に行く」という3項目についてひとり親家庭の方がふたり親家庭より「している」と答えた人の比率が低く、経済的な理由でできない比率も高い。こうした項目に関して、ひとり親家庭の方が経済的な制限が見られることがわかる。一方、「毎月お小遣いを渡す」項目に関して、ふたり親家庭は方針ではない比率が高く、ひとり親家庭は「している」と「経済的にできない」と回答した比率が共に高い。子どものニーズを自分で全て満たせない代わりに、毎月お小遣いの形で子ども自身に決めさせる育児の様式が伺われる。経済的にできないと回答した比率の高さも加えて、時間的な余裕と経済的な余裕のなさがひとり親家庭の方に集中的に現れていることが示唆される。その他の項目については、ひとり親家庭とふたり親家庭の間に顕著な違いが観察されなかった。

中学生票の結果は図 28 である。小学生票と同じように、「お誕生日のお祝いをする」と「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」の3項目には経済的な格差による制限があまり見られない。ほかの5項目において、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」および「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「1年に1回ぐらい家族旅行に行く」の3項目について、経済的にできないと回答した親が多く存在している。また、経済的な理由でできないと回答したケースの中で、中低収入世帯の割合が最も多い。例を挙げれば、経済的な困難で、子どもは「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」ことができないと回答した貧困家庭は、貧困家庭の総体の 21.3%を占めている。一方、中低収入家庭の中で、28.5%の家族は経済的な理由で子どもに学習塾に通わせないと答えた。その他の世帯の場合には、その比率はわずか 6.7%である。ちなみに、「学習塾に通わせる（または家庭

教師に来てもらう)」ことは「方針ではない」と答えた中低収入世帯が貧困世帯より多い。つまり、主観的原因と客観的原因の共同作用のもとで、中低収入世帯の子どもは学校以外で得られる教育投資が最も少ない。

次に、中学生票において、ひとり親か否かという家族形態による各種活動の比較をした。図 30 である。全ての項目についてひとり親家庭の方がふたり親家庭より「している」と答えた人の比率が低く、経済的な理由でできない比率も高い。こうしたひとり親家庭の方が経済的な理由によって子どもとの日常活動に制限があることが示唆される。一方、「毎月お小遣いを渡す」だけでなく、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」といった子どもの教育に関する項目について、ふたり親家庭は方針でない比率が高い。恐らくひとり親家庭の親は時間的な余裕があまりないため、放課後の教育を塾などの施設に任せる意欲が二人親家庭より高くなるかもしれない。

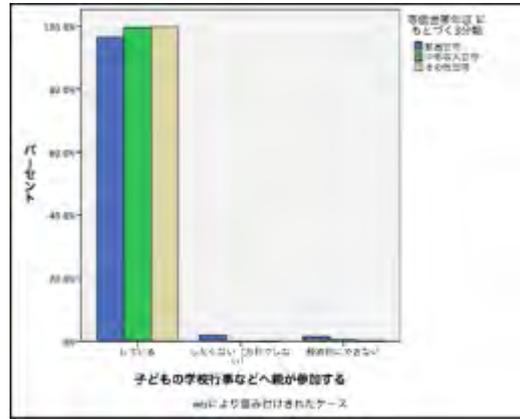
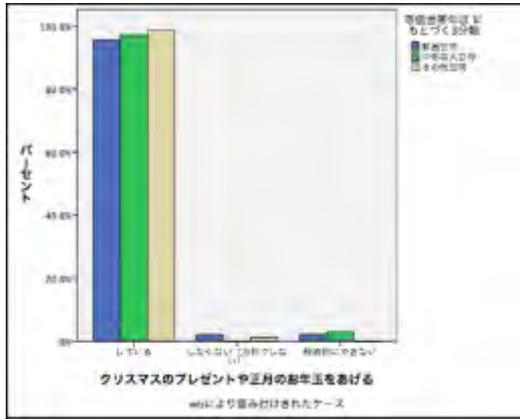
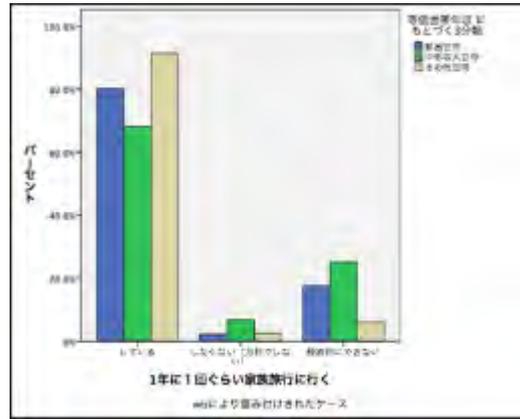
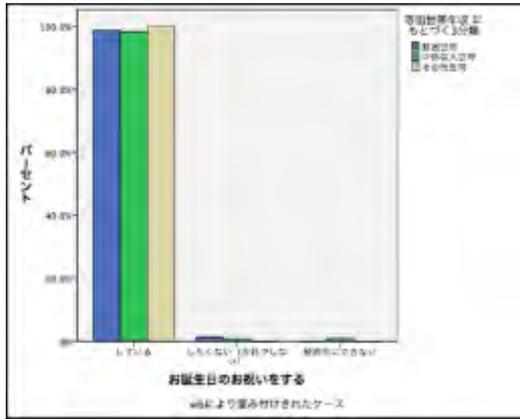
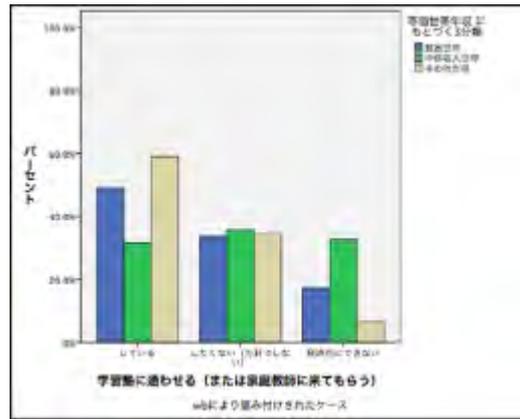
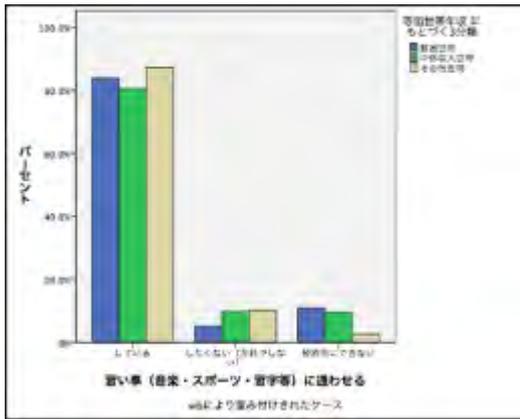
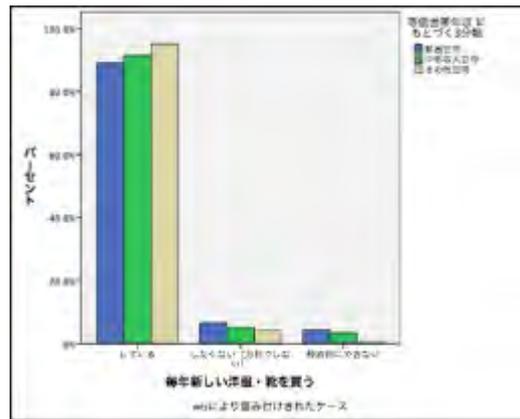
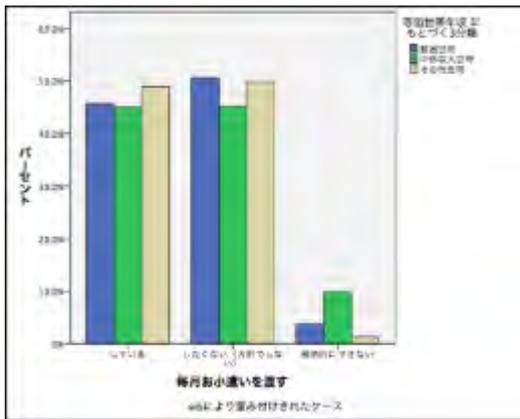


図 27 等価世帯年収による日常活動の比較・小学生票

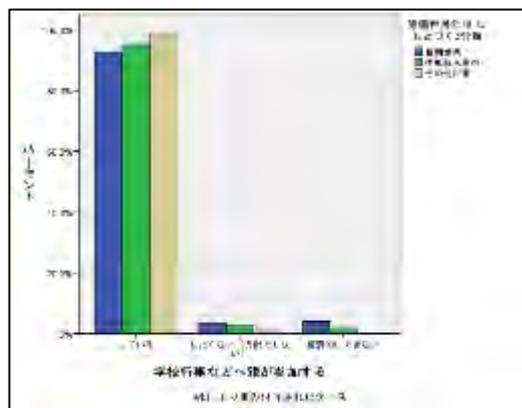
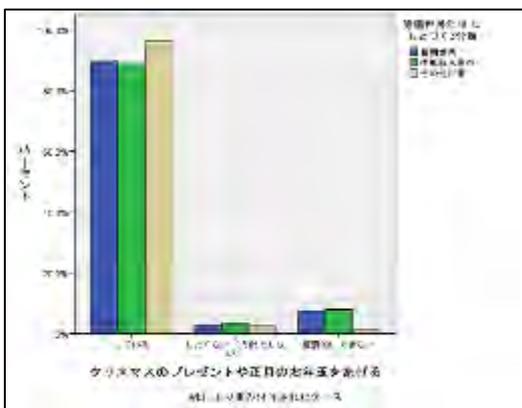
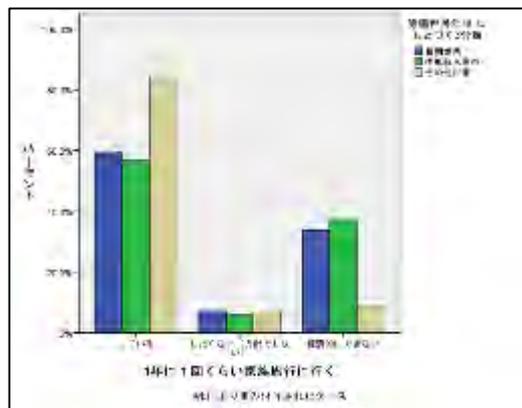
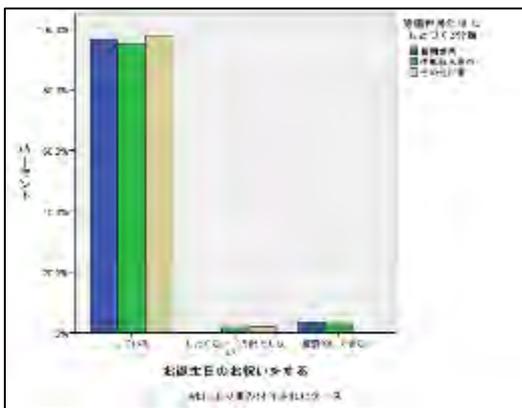
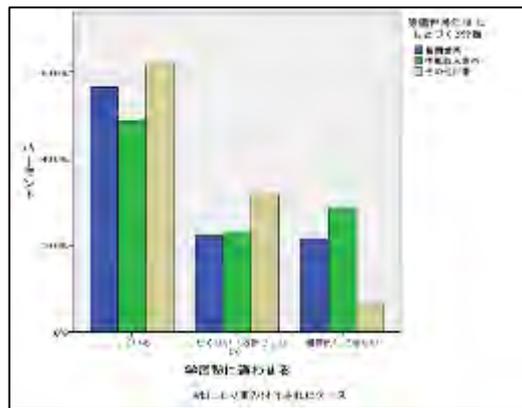
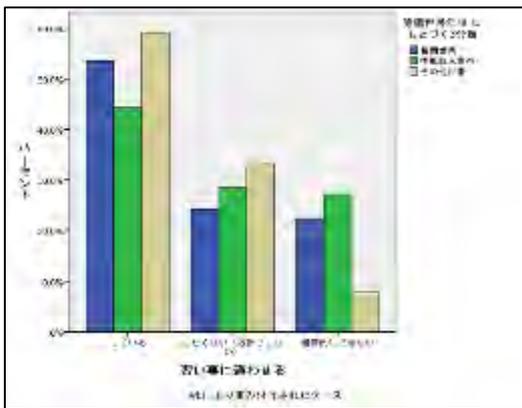
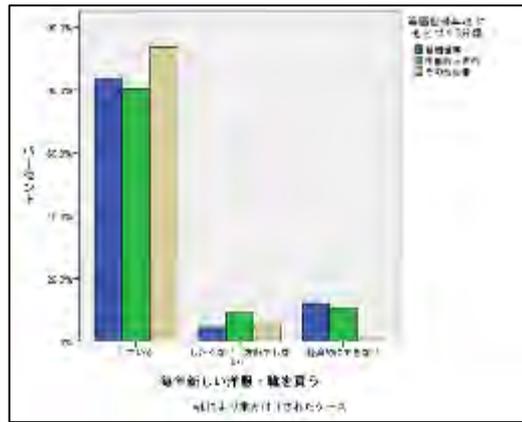
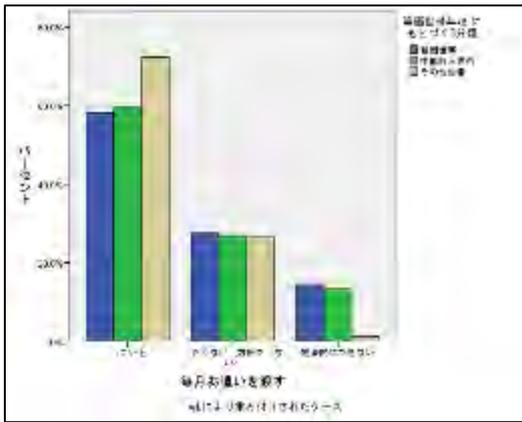


図 28 等価世帯年収による日常活動の比較・中学生票

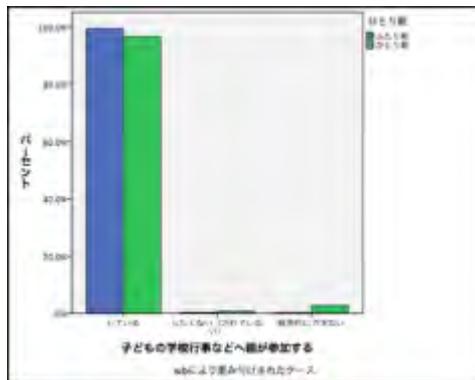
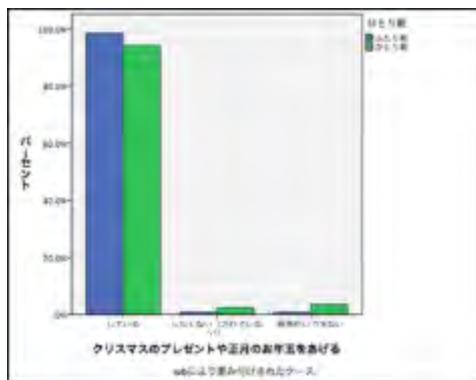
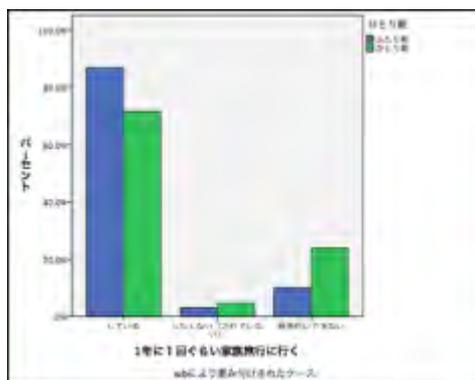
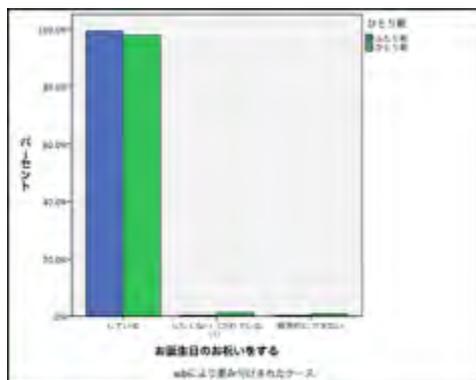
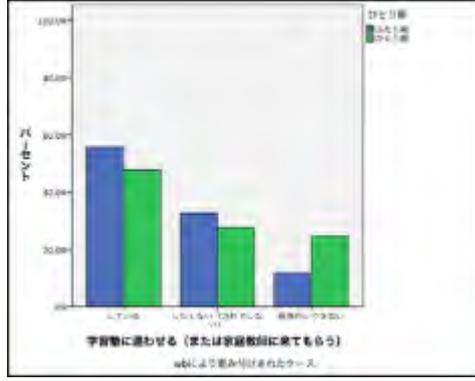
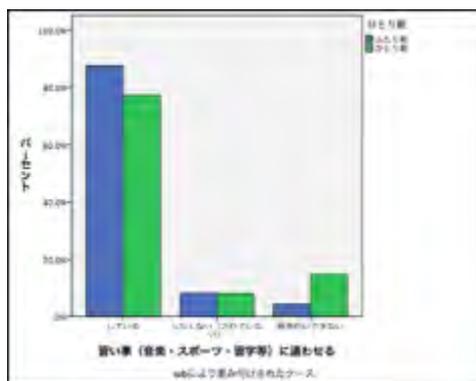
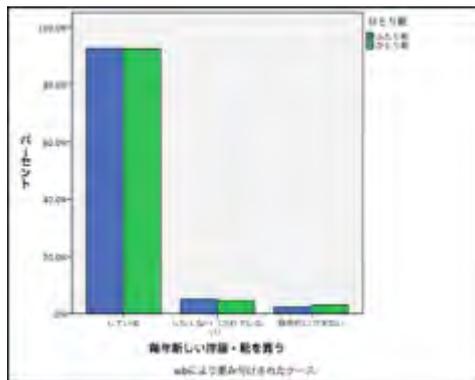
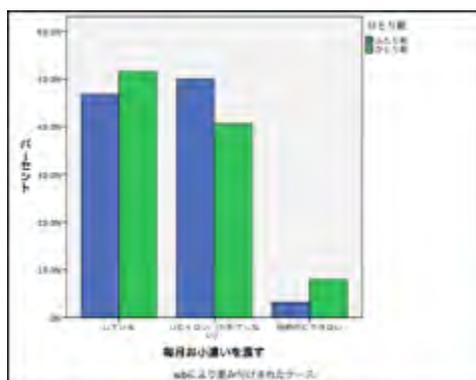
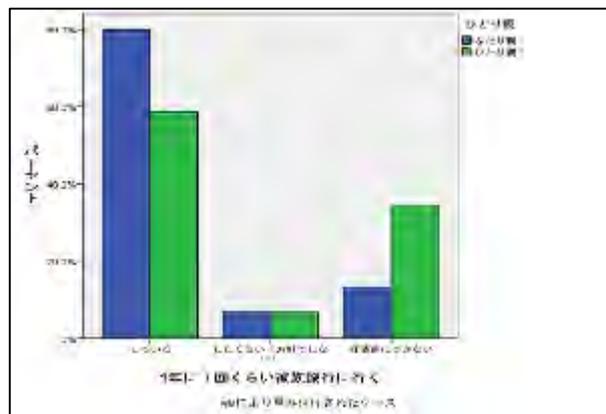
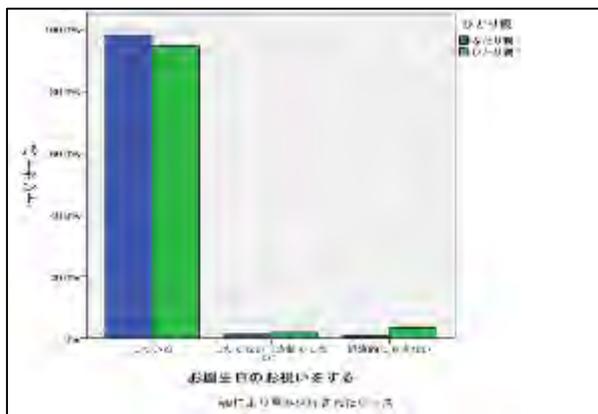
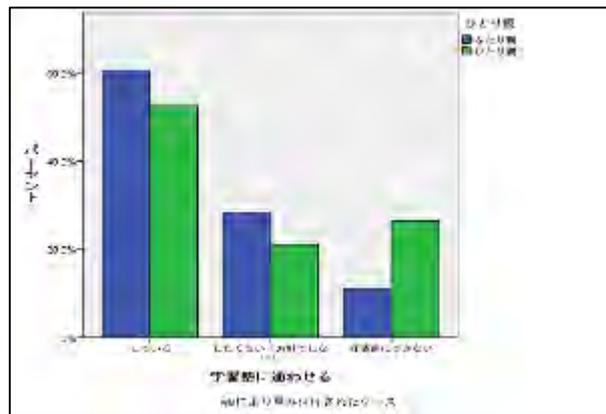
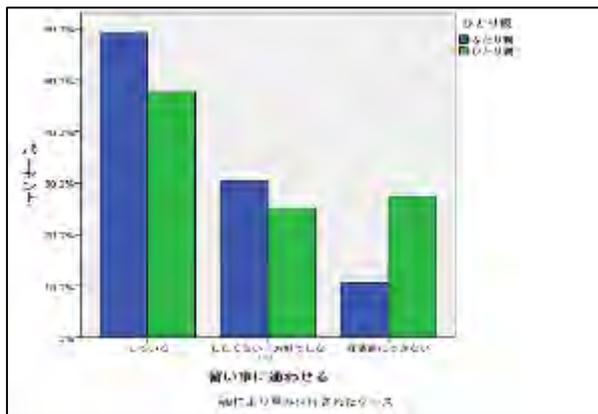
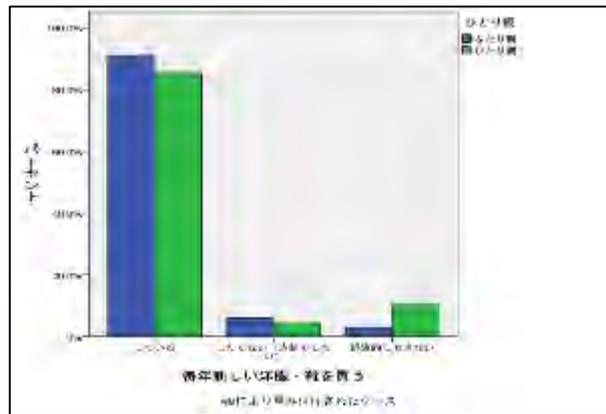
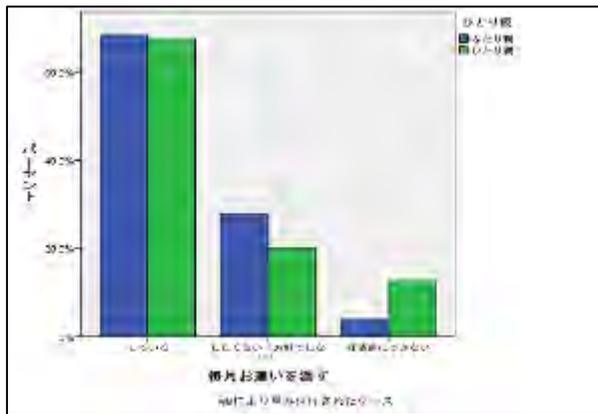


図 29 家族形態による日常活動の比較・小学生票



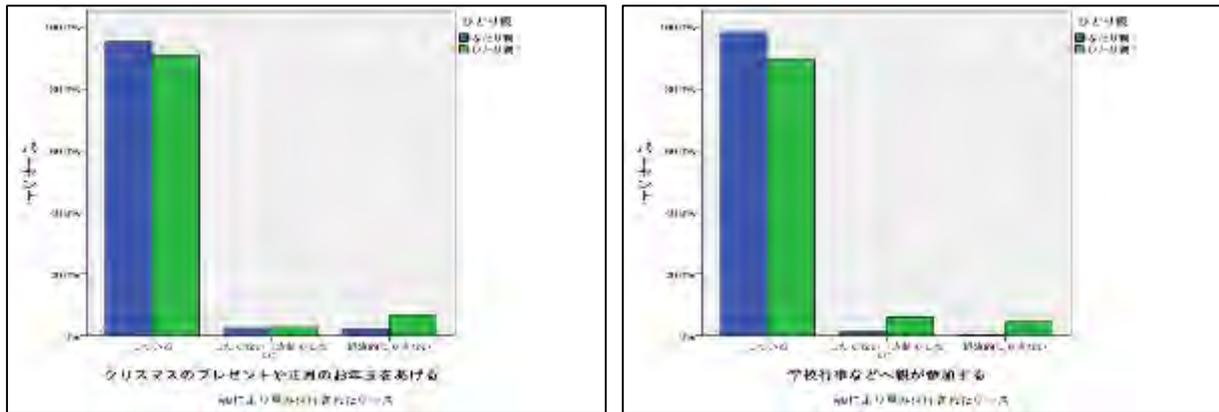


図 12 家族形態による日常活動の比較・中学生票

五、 ネットワークの利用

本節では主に育児の際に利用できるネットワークについて考察したいと考える。育児ネットワークを検討する際に、主にインフォーマルなネットワークとフォーマルなネットワークに分けて、貧困家庭、ひとり親家庭、外国人家庭が果たしてこうした資源の利用上にその他の家庭と違いがあるかを検討する。

1. 子どもの悩みがあるときの相談相手

インフォーマルなネットワークを分析するために、筆者は「本当に困った時や悩みがある時、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか」という調査項目を選んだ。等価世帯年収、家族形態、外国人家庭 3 分類の категорияによる相談できる人の有無を棒グラフに示したのは図 31 と図 32 である。

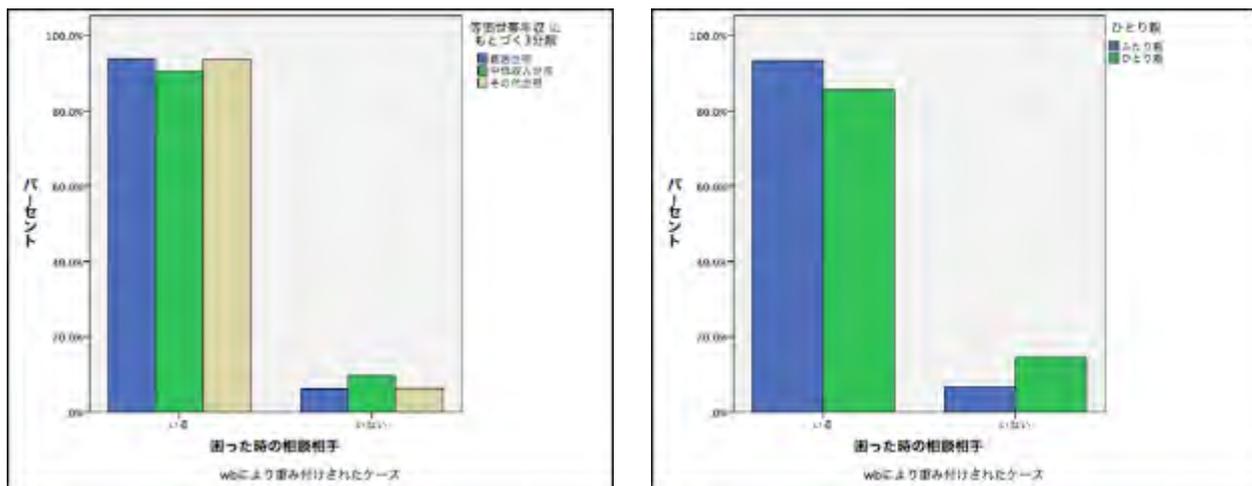


図 30 家族形態による日常活動の比較・中学生票

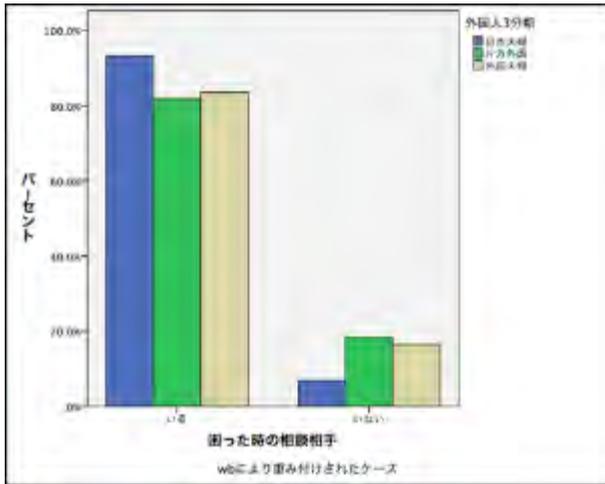


図 31 等価世帯年収、家族形態、外国人家庭による相談できる人の有無の比較・小学生票

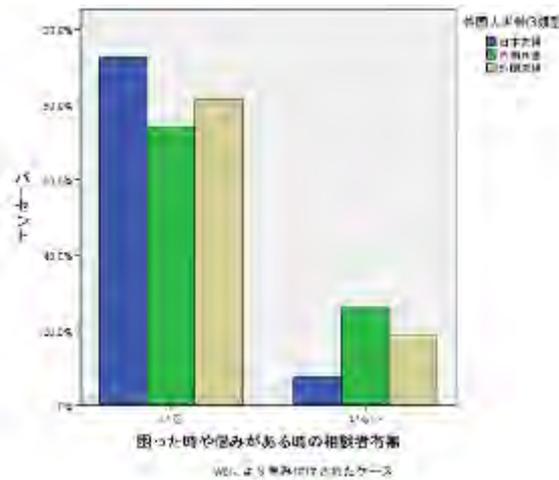
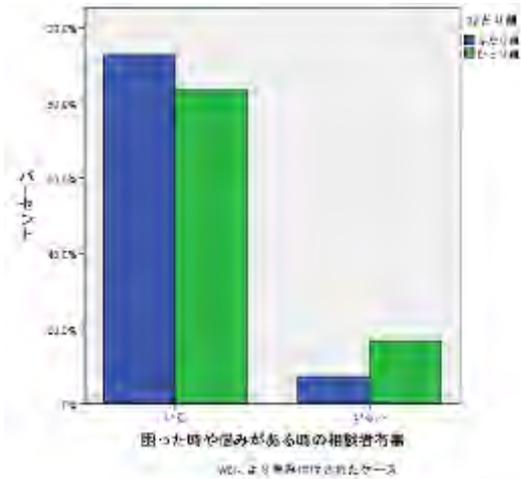
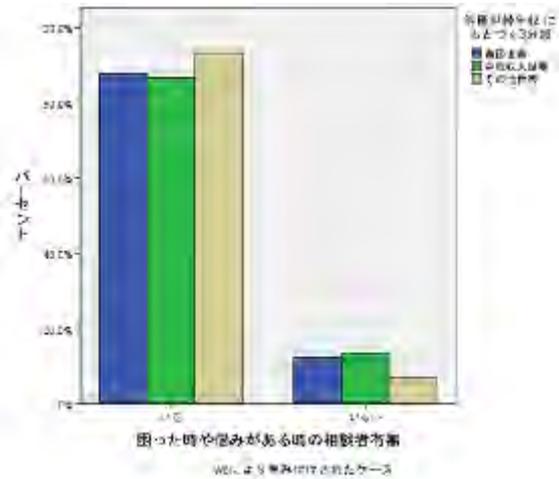


図 32 等価世帯年収、家族形態、外国人家庭による相談できる人の有無の比較・中学生票

まず、小学生票の結果を確認しよう。等価世帯年収による相談相手の有無に関する比較において、どの

等価世帯年収の層でも 90%以上の親は困った時に相談相手がいると回答した。僅差でありながら、中低収入世帯に相談相手がいないと回答したのは 9.4%であり、貧困世帯の 6.5%とその他世帯の 6.2%より高い。

ひとり親家庭か否かによる困った時の相談相手の比較について、ひとり親家庭の方が困った時に相談相手がいると回答した比率がふたり親家庭より低い。ふたり親家庭の方が 93.3%の人が困った時に相談できる人があるのに対し、ひとり親家庭にはその比率が 85.4%であり、およそ 8%低い。

外国人家庭 3 分類による相談相手のいる比率について、片方が外国人である夫婦と二人とも外国人の家庭が日本人夫婦より低い。具体的には、片方が外国人である夫婦とふたりとも外国人である夫婦がいると回答した比率はそれぞれ 81.5%と 84.6%であり、日本人夫婦の 93.2%より低い。

次に、中学生票においては、等価世帯年収による相談相手の有無に関する比較において、90%以上の親は困った時に相談相手がいると回答した世帯類型は最も裕福な「その他の世帯」だけである。12.5%の貧困世帯と 13.2%の中低収入世帯が困ったときに相談相手がいないと報告した。中学生表では相談相手がいないと回答した人が小学生票より多くなっている。

ひとり親の状況については、7.2%のふたり親家庭は困った時に相談相手がいないと回答したことに對して、16.8%のひとり親家庭が育児孤立の状況を報告した。この傾向は小学生票とほぼ変わらない。

外国人家庭 3 分類との関係を考察しよう。小学生票と同じように、片方が外国人である夫婦と二人とも外国人の家庭が日本人夫婦より低い。具体的な数値を見れば、困ったときに相談相手がいないと報告した家庭の割合について、日本人夫婦は 7.5%、夫婦の中で 1 人が外国人の家庭は 26.1%、外国人夫婦の家庭は 18.2%である。中学生になると、片方外国人および二人とも外国人の家庭は子どもが小さい頃よりさらに孤立の傾向が強くなることが示唆される。

以上の比較を通じて、インフォーマルなネットワークにおいて親が外国人であることから受ける不利益が最も大きいことがわかった。常に同じ出身国である人との交流が図れると考えられる外国人親は日本社会において全体的にみると日本人夫婦よりインフォーマルなネットワークが弱い。それにつき、ひとり親家庭は主観的な戸惑いか客観的な時間的な制限なのか理由がよく知らないがふたり親家庭と比べると困った時の相談できる人が少ない。最後に、貧困による相談できる人の差がそれほど大きいではない。経済的な条件以外の要因がインフォーマルなネットワーク形成を左右していることが示唆されている。

2. 公的ネットワークの利用状況

公的ネットワークの利用状況を分析するために、筆者は困ったときに公的機関との相談したことの有無という項目を用い、等価世帯年収、家族形態、外国人家庭の比較を行う。公的機関には「区役所・市役所の窓口」、「子供家庭支援センター」、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」、「民

生委員・児童委員」、「保健所（保健センター）」、「ハローワーク」が含まれる。

まず、等価世帯年収による公的機関との相談状況に違いがあるか比較した。それを棒グラフに示したのは図 33 と図 36 である。小学生票と中学生票の結果の共通点として、6 つの公的機関とも、「相談したいと思っただけで利用しない」を理由に公的ネットワークを利用する意向のない回答者は相当な比率で存在することが確認できた。その中で、民生委員・児童委員と相談する意向のない回答者の比率が最も高い。小学生票の場合、その他世帯、中低収入世帯、貧困世帯の順にその比率はそれぞれ 86.2%、81.2%、73.8% である。中学生票において、その他世帯、中低収入世帯、貧困世帯の順にその比率はそれぞれ 92.1%、76.3%、75.0% である。民生委員・児童委員のほか、どの公的ネットワークについても、等価世帯年収の高い世帯すなわちその他世帯は貧困世帯と中低収入世帯よりも相談する意向を持たない回答者の比率が高い。

6 つの公的機関の中に、相談したことがあると回答する比率が最も高いのは学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーである。等価世帯年収による違いがあまり見られない。小学生票の中で、貧困世帯は他の層より、全ての公的機関について「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した比率が高く、ハローワーク以外の公的機関について「相談時間や場所などが使いづらかった」と回答した比率が高い。中学生票において、「民生委員・児童委員」と「保健所（保健センター）」について、「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した中低収入家庭がほかの世帯類型より多いが、残りの 4 つの機関について、「相談する窓口や方法がわからなかった」貧困世帯がほかの世帯類型より多いということが分かった。

最後に、小学生票において、貧困層は「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」を除き、他の層より「相談したかったが、抵抗感があった」と回答した比率が高い。さらに、中学生票の中で、すべての公的機関について、貧困層が他の層より「相談したかったが、抵抗感があった」と答えた割合が高い。貧困層の方が相談するニーズがあるにもかかわらず、相談する窓口や方法に関する情報に乏しく、相談すること自体に抵抗感を持っていることが示唆されている。

次に、ひとり親か否かという家族形態によって公的機関との相談状況に違いがあるかを比較した。小学生票の結果は図 34 となり、中学生票の結果は図 37 となる。小学生票において、どの項目についても、ひとり親がふたり親より公的機関と相談したことがあると答えた人の比率が高い。特に、ひとり親には「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー」や、「区役所・市役所の窓口」と相談した人の割合が高く、それぞれ 50.4%と 49.6%であった。中学生票の場合、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」と「保健所（保健センター）」のほうが、ふたり親の利用率がより高い。残りの 4 つの機関は、ひとり親がふたり親より相談したことがあると答えた割合が高い。

一方、小学生票と中学生票の共通点として、相談する意向を持っているにもかかわらず、抵抗感や、相談時間や場所などが使いづらく、相談する窓口や方法がわからないなどの理由で相談したことがないと

回答した比率はひとり親家庭がふたり親家庭を上回る。

最後に、公的ネットワークの利用に関して、外国人家庭と非外国人家庭の間に違いが存在するかを比較してみた。分析の際に、外国人家庭 3 分類を利用し、それを棒グラフに示したのは図 35 と図 38 である。これまでの等価世帯年収および家族形態による比較と比べると、外国人家庭の中に公的機関と相談する窓口や方法がわからないと回答した人の割合が顕著に高い。それに対して、日本人夫婦が概ねどの項目においても相談したいと思わなかったから相談したことはないと回答する比率が高い。

小学生票において、夫婦の中に片方が外国人である家庭が夫婦二人とも外国人である家庭よりも相談方法がわからないと回答した比率が高い。一方、中学生票の結果は逆な傾向を示した。具体的に、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」を除き、片方が外国人である家庭と比べて夫婦二人とも外国人である家庭は相談方法がわからないと回答した比率が高い。

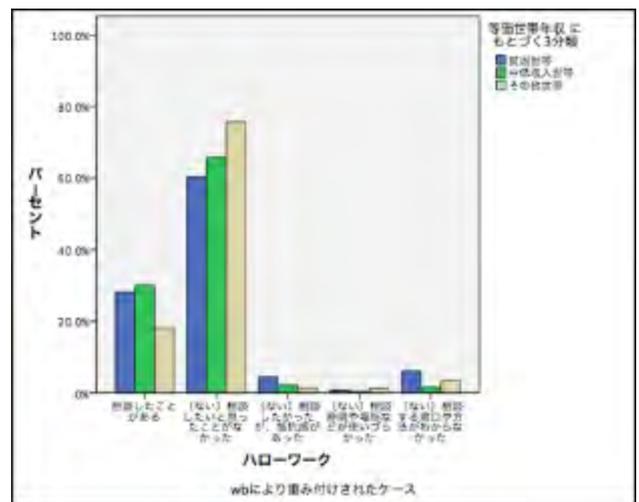
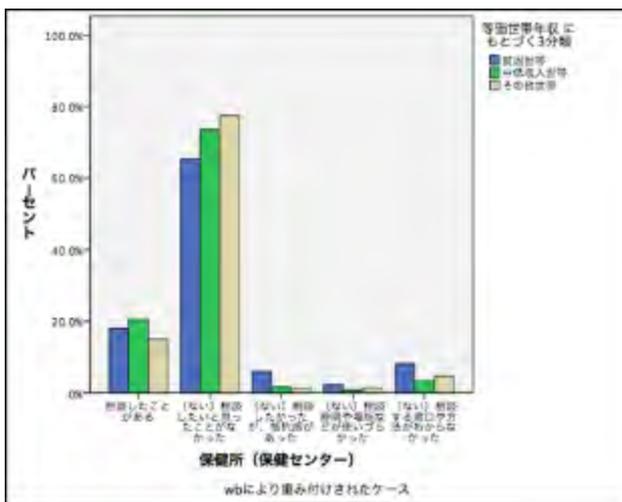
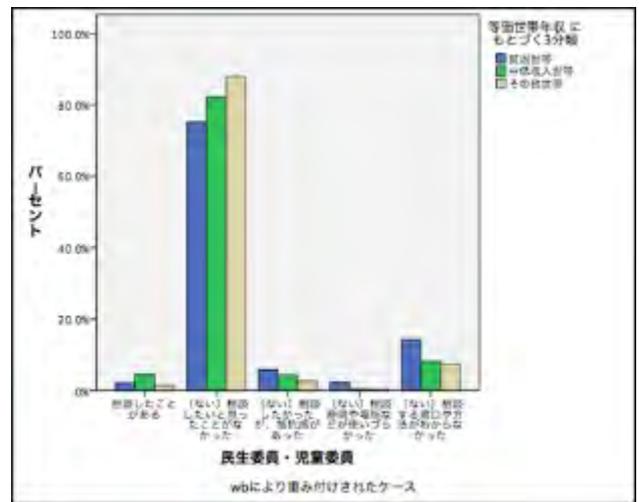
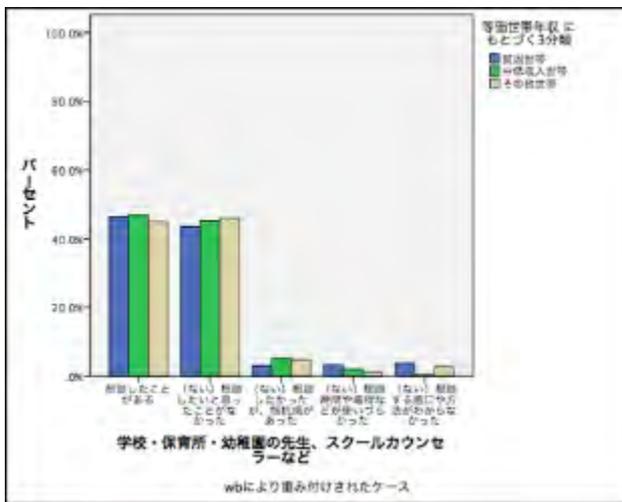
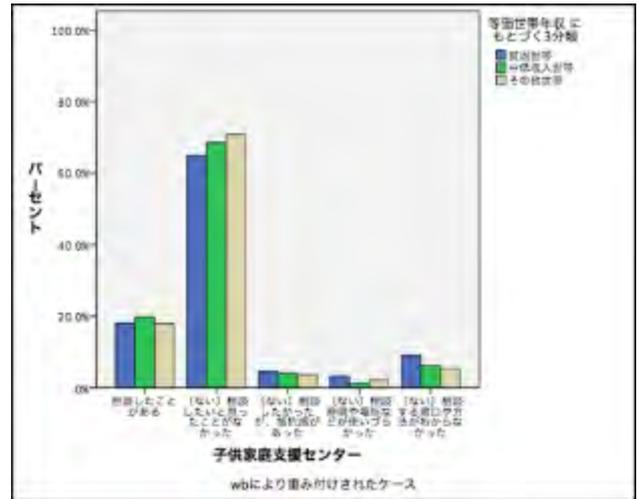
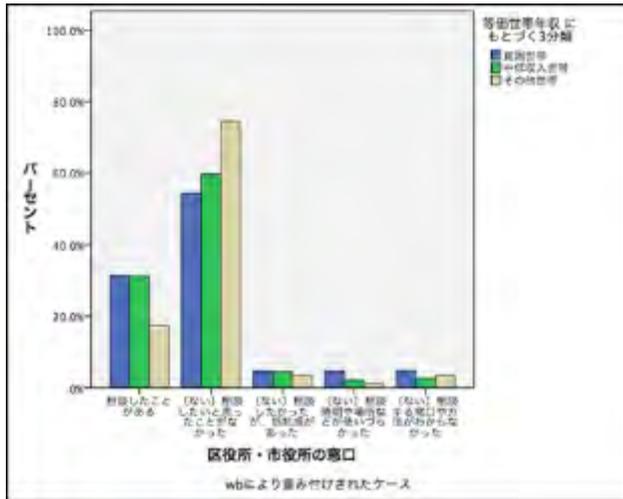


図 33 等価世帯年収による公的ネットワークの利用に関する比較・小学生票

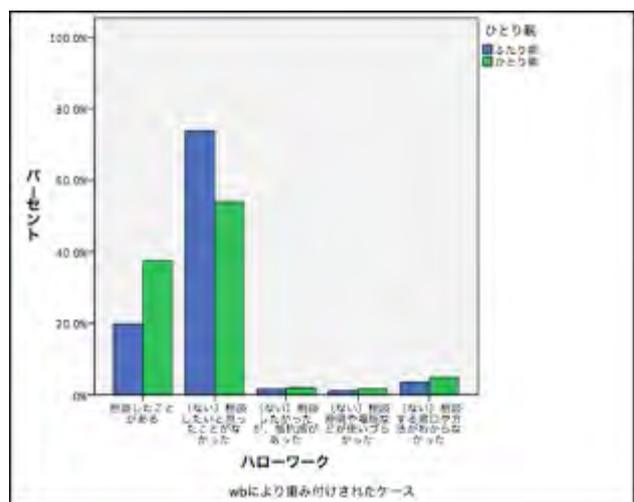
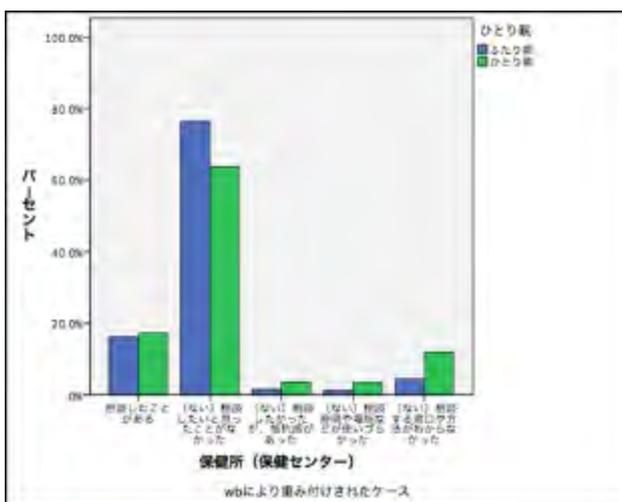
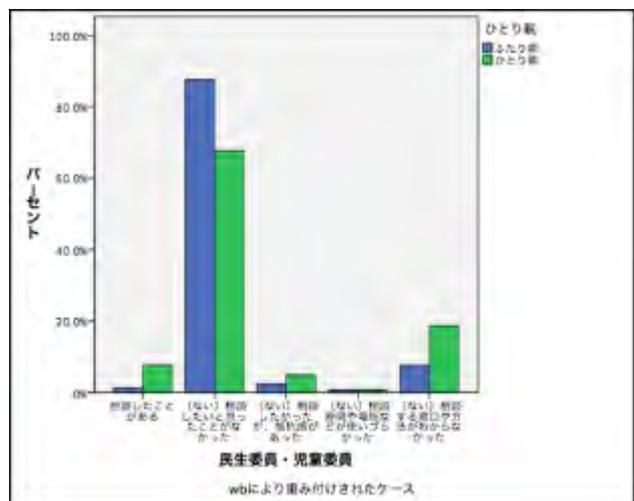
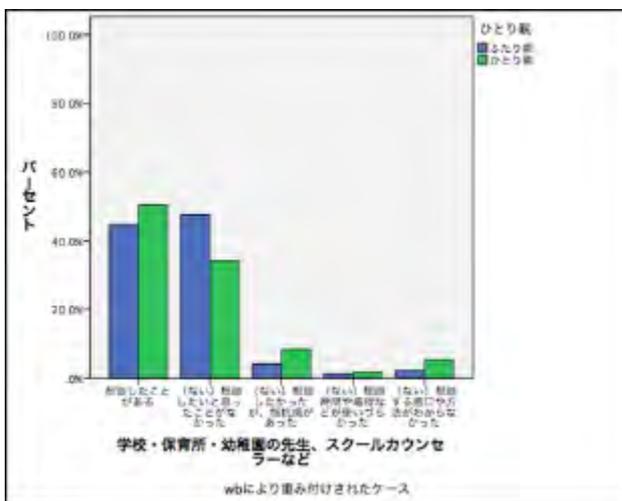
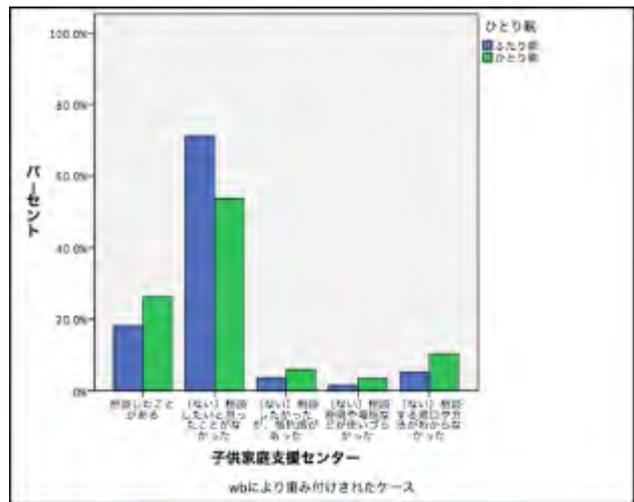
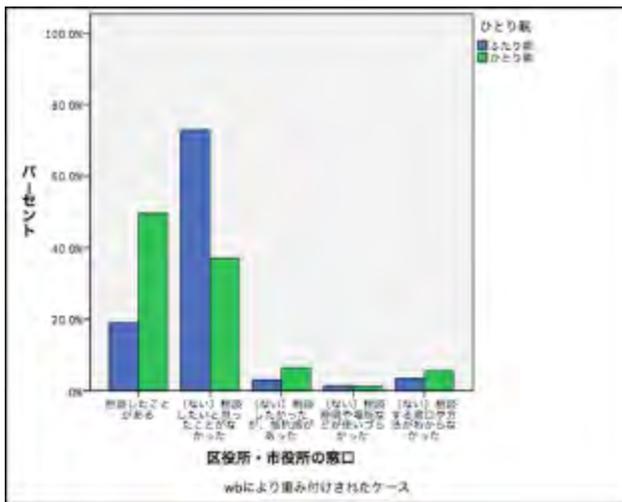


図 34 家族形態による公的ネットワークの利用に関する比較・小学生票

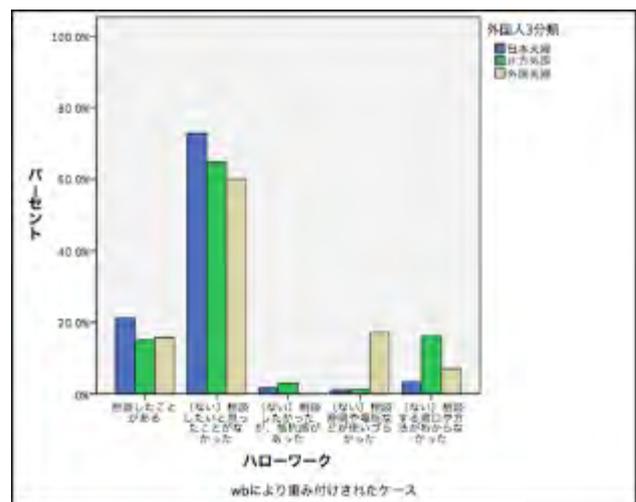
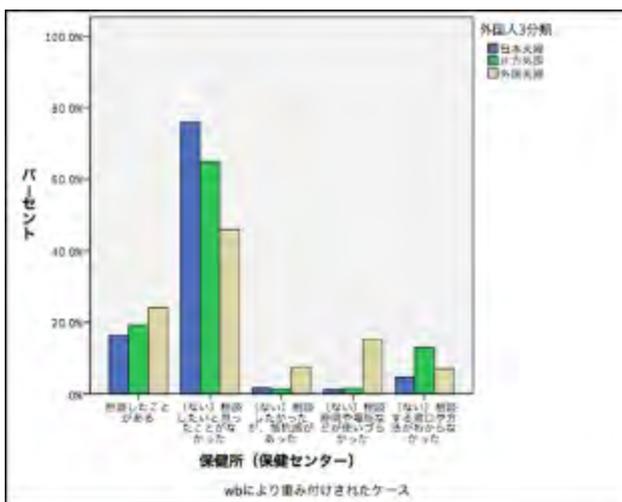
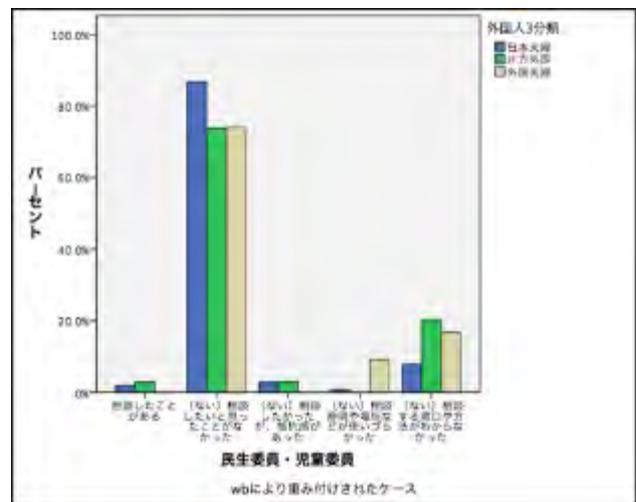
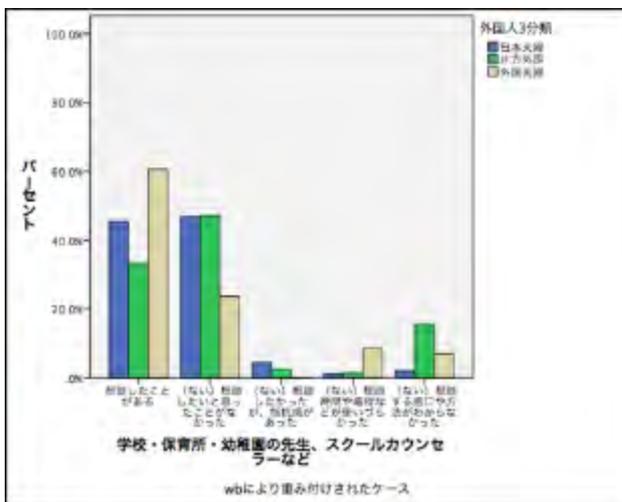
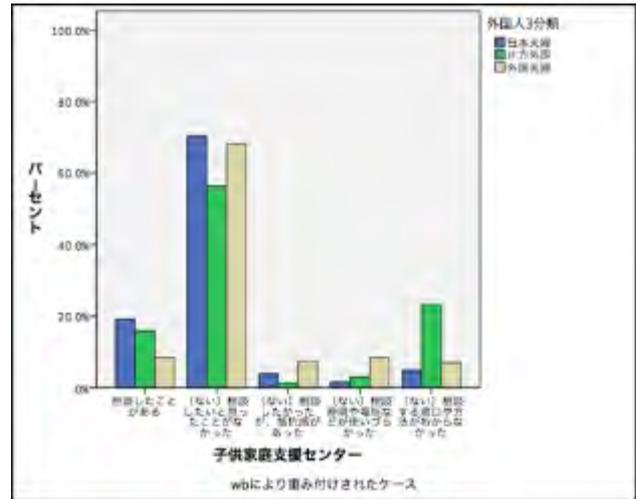
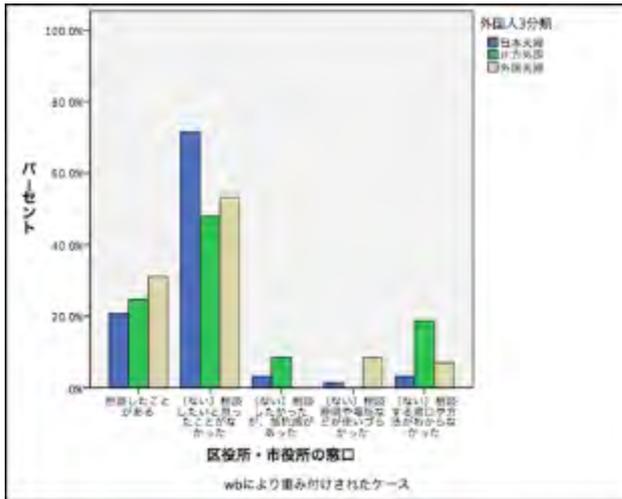


図 35 外国人家庭による公的ネットワークの利用に関する比較・小学生票

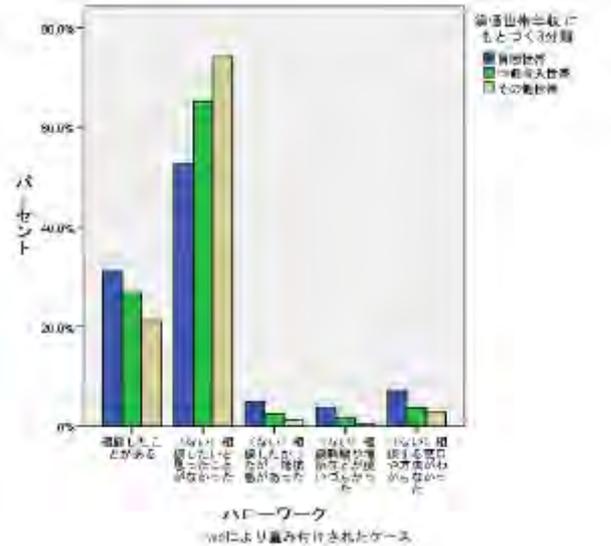
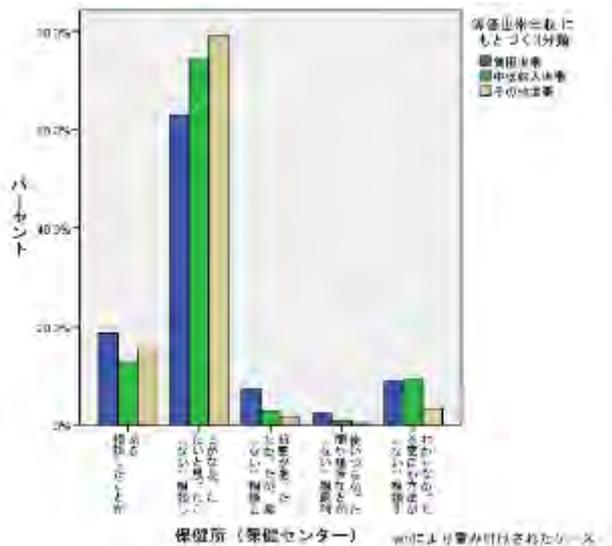
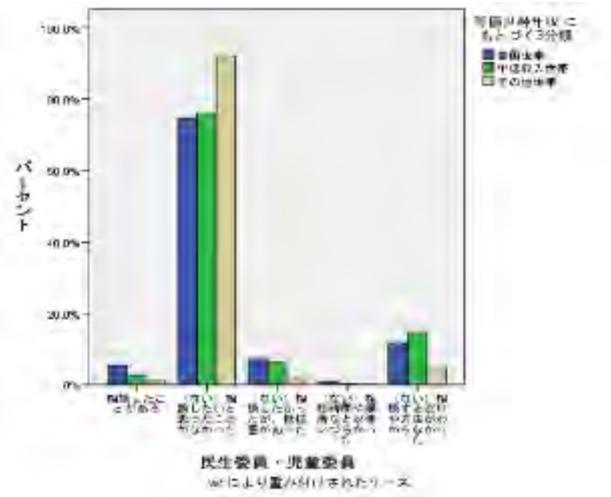
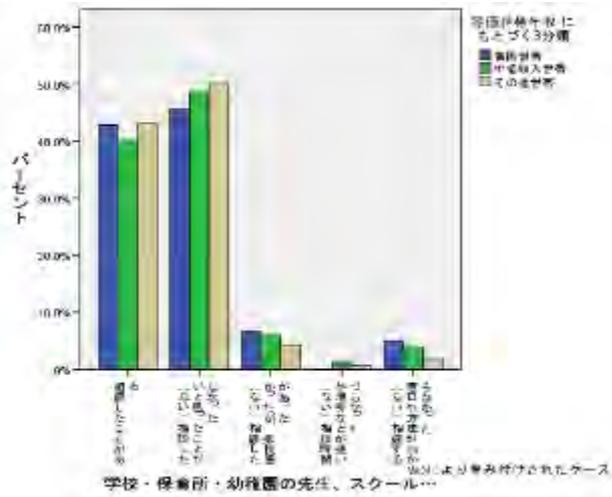
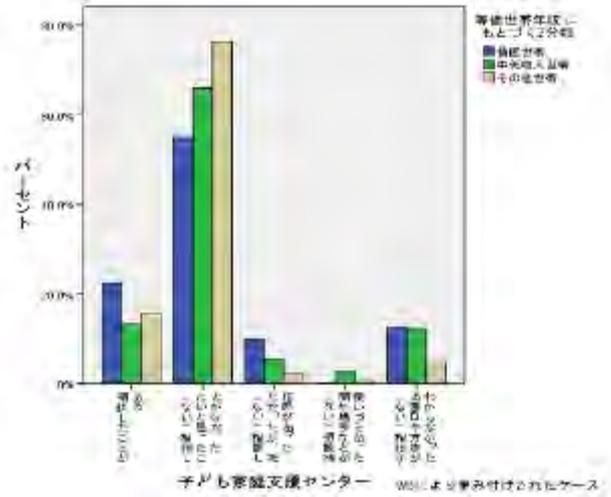
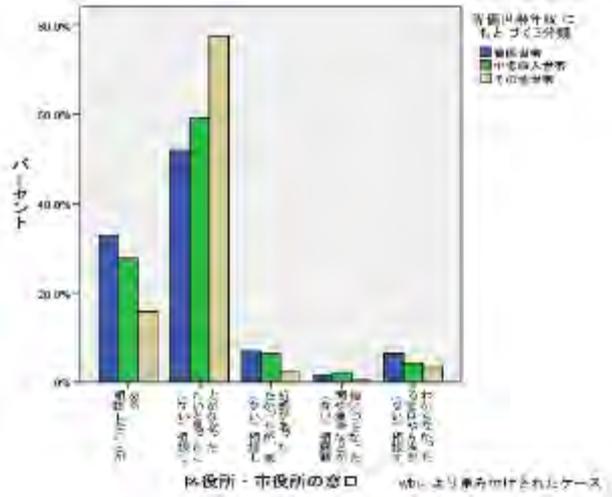


図 36 等価世帯年収による公的ネットワークの利用に関する比較・中学生票

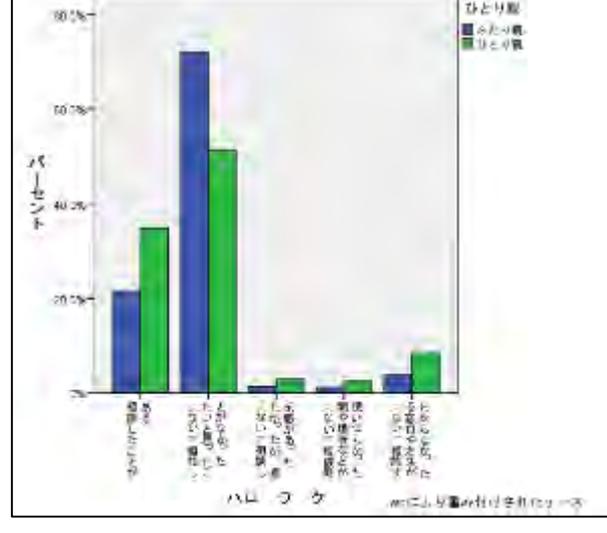
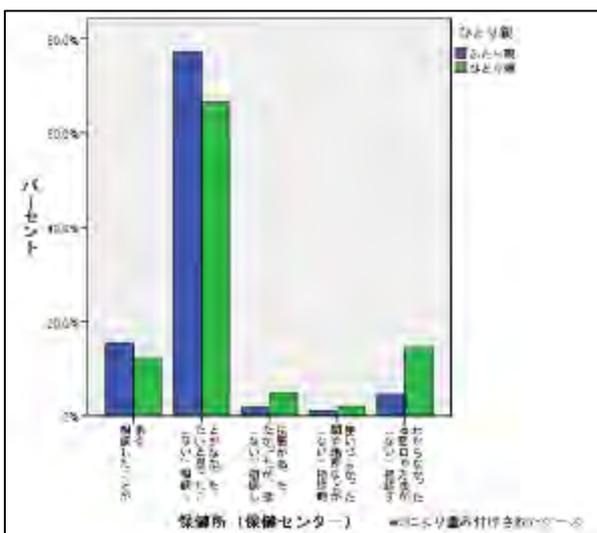
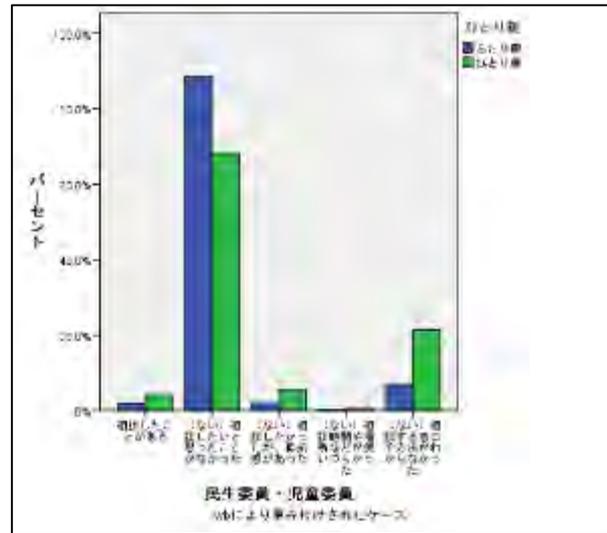
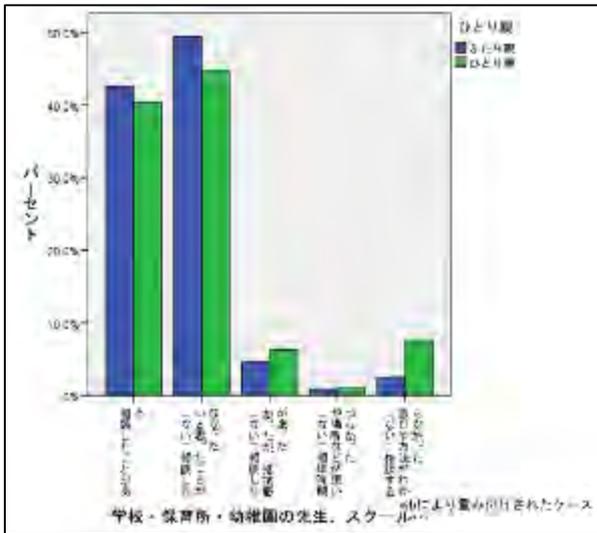
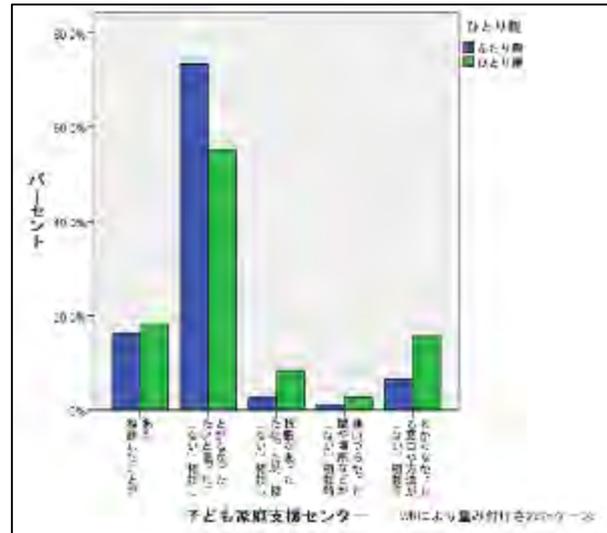
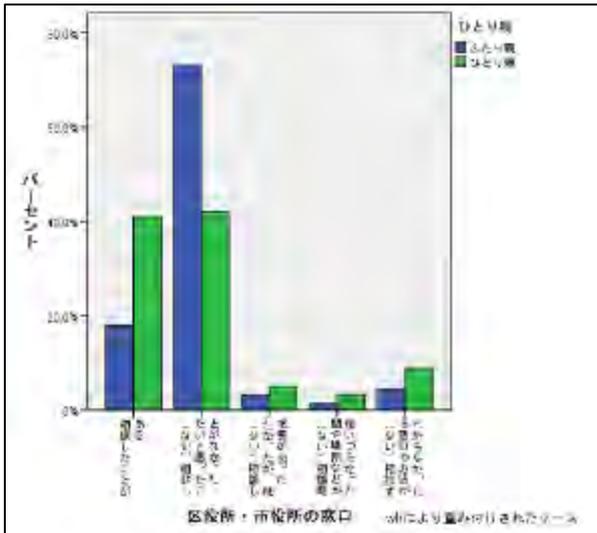


図 37 家族形態による公的ネットワークの利用に関する比較・中学生票

六、 結論

本稿では子育てにかかる費用および親と子どもの関わり合い、ネットワークの利用を等価世帯年収、家族形態、外国人家庭の間に違いがあるかを分析してきた。等価世帯年収によって顕著な違いを見せたのは学校以外の教育費用である。貧困家庭の他に、等価世帯年収が中央値以下でありながら貧困層にはなっていない中低収入家庭の状況も注目されるべきであろう。一ヶ月あたりの子育て費用や公共料金を支払えない経験について、貧困家庭と中低収入家庭の状況が似ている。子どもとの体験や、子どもとの日常活動において、ひとり親であることがふたり親と比べて充実な生活を送る比率が低い。ネットワークの利用について、等価世帯年収による差も見られるがかなり限定的である。ひとり親家庭の方が、私的なネットワークが二人親家庭より欠乏し、公的ネットワークに頼る傾向がある。外国人家庭について、私的なネットワークも欠乏することに加え、公的ネットワークとつながる手段もわからない層が相当存在することがわかった。

3 「中国浦江県浙江省における幼稚園保護者の育児環境に関する考察」報告書

担当：楊芳溟 村田泰子

1. 研究目的

本調査は、平成 27 年度に採択された RISTEX（社会技術研究開発センター）の研究プロジェクト「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」の一環として実施したものである。本研究プロジェクトは、脳科学・小児科学・社会学・法学など文理にまたがる研究者が協働して、科学的根拠に基づき、さまざまなニーズを抱える養育者を適切に支援することで子ども虐待を低減するための仕組みを構築していくことを目的としている。

本調査は社会学者が担当した国際比較調査の一環として、フランス・イギリス・日本・フィリピン・韓国・中国を対象に、養育環境や養育者支援制度の調査を実施したものの一部である。本調査の目的は、中国の地方都市、浦江県浙江省で子どもを養育する幼稚園保護者の育児環境の実態を明らかにすることである。質問項目の検討は楊と村田で行い、調査実施と分析は楊が担当した。

なお、本調査の調査票は、筑波大学安梅勅江研究室の「子育て子育てエンパワメントに向けた発達サポート研究」において 14 年間にわたり使用してきた育児環境調査票を、許可を得て本プロジェクトのために改変の上、使用させていただいた。ここに記して感謝を申し上げたい。

2. 調査概要

2.1 調査対象と調査方法

2018 年 6 月 22 日から 25 日にかけて、中国浙江省金華市浦江県大畷郷中心幼稚園で、112 名園児の保護者を対象とする質問紙調査を実施し、それをもとに分析を行った。質問票を 112 票配布し、その中で、小班 29 票のうち 21 票、中班 29 票のうち 29 票、大一班 27 票のうち 23 票、大二班 27 票のうち 18 票、合計 91 票が回収できた。回収された調査票の中で 1 票が空白なので、それを除去し、90 票の回答が有効な質問票として分析に用いる。回収率は 81.25%である。

配布回収方法としては、班ごとに配布し、当日回収する。一般的に幼稚園では、大・中・小班、托班があるが、この幼稚園では 4 クラス(大班 2 クラス、中班 1 クラス、小班 1 クラス)がある。託班は園児がないから、調査時点では開設していない。

なお、今回の調査対象は幼稚園であるが、中国には日本の保育所に相当する施設はあまりなく、主に幼稚園が児童の集合保育を行う場所であると考えられる。

2.2. 調査地：浦江県

(1)地理：

浦江県は浙江省の中部に、また金华市の北部にあり、面積は 920 km²である。七つの鎮、五つの郷、三つの街道、409 個行政村と 20 個社区を管轄している。

(2)人口：

表 2-1 「2017 年浙江省人口主要数据公报」によると、2016 年、2017 年金華市の年末常住人口はそれぞれ 552.0 万、556.4 万人で、浙江省総人口の約 9.8%を占めている。同年浦江県の年末常住人口（表 2-2）はそれぞれ 41.82 万、41.97 万人で、全市の 7.5%を占めている。2010 年全国調査（表 2-3）によると、浦江県常住人口の中で外来人口が 10.27%であり、全県常住人口の 23.48%を占めている。

また、外来人口の中で、貴州が最も多く 26.52%で、次いで、江西(23.86%)、安徽(14.82%)、河南(13.14%)である（表 2-4）。

(3)収入：

2016 年度の居民人均可支配收入をみると、浦江県では、農村常住居民人均可支配收入は 17857 元で、城镇常住居民人均可支配收入⁶は 38413 元で、農村常住居民人均可支配收入のほぼ 2 倍である（表 2-5）。

⁶城镇居民人均可支配收入: per-capita disposable annual income of urban households. 常住とは、現住地に 6 ヶ月以上在住することをさす。城镇常住居民人均可支配收入とは、城镇に 6 ヶ月以上在住する人の人均可支配收入である。同じく、農村常住居民人均可支配收入とは、農村に 6 ヶ月以上在住する人の人均可支配收入である。

表 2-1 浙江省人口主要データ公報

地区	年末常住人口 (万人)		出生率 (%)		死亡率 (%)		城镇化率 (%)	
	2017 年	2016 年	2017 年	2016 年	2017 年	2016 年	2017 年	2016 年
全省	5657	5590	11.9	11.2	5.6	5.5	68.0	67.0
杭州市	946.8	918.8	12.5	11.1	5.1	5.1	76.8	76.2
宁波市	800.5	787.5	10.0	9.7	4.8	4.7	72.4	71.9
温州市	921.5	917.5	13.7	13.2	5.0	4.9	69.7	69.0
嘉兴市	465.6	461.4	11.7	11.3	5.8	5.8	64.5	62.9
湖州市	299.5	297.5	10.4	9.5	6.7	6.9	62.0	60.5
绍兴市	501.0	498.8	9.2	8.6	6.4	6.5	65.5	64.3
金華市	556.4	552.0	13.3	12.4	5.7	5.6	66.7	65.7
衢州市	218.5	216.2	12.6	11.3	6.5	6.5	55.7	53.7
舟山市	116.8	115.8	9.7	9.3	6.2	6.1	67.9	67.5
台州市	611.8	608.0	12.6	12.1	5.8	5.6	62.2	61.3
丽水市	218.6	216.5	12.8	11.8	6.1	5.9	59.7	58.0

出典：浙江统计信息网--2017 年浙江省人口主要数据公报

http://tjj.zj.gov.cn/tjgb/rkcydgb/201801/t20180131_204500.html

表 2-2 金華市年末常住人口

地区	年末常住人口 (万人)	
	2017 年	2016 年
全省	5657	5590
全市	556.4	552
婺城区	78.44	77.86
その中：開発区	34.64	34.27
金東区	36.15	35.67
兰溪市	56.61	56.51
東陽市	83.89	83.34
义乌市	129.54	128.04
永康市	75.75	74.94
浦江県	41.97	41.82
武义県	36.08	35.93
磐安県	17.97	17.89

出典：金华统计信息网 (http://www.jhstats.gov.cn/jjxx/201802/t20180209_2033268_1.html)

表 2-3：金華市各県外来人口表（2010 年）

地 区	常住人口（万人）	常住外来人口（万人）	占比（%）
全 市	536.16	135.90	25.35
婺城区	76.17	14.89	19.55
金東区	31.56	5.71	18.09
兰溪市	56.05	2.48	4.42
义乌市	123.40	56.23	45.57
東陽市	80.44	15.32	19.05
永康市	72.35	23.01	31.80
武义県	34.99	7.28	20.81
浦江県	43.73	10.27	23.48
磐安县	17.47	0.71	4.06

出典：金华信息统计网—我市外来人口现状分析

(http://www.jhstats.gov.cn/fxyc/201211/t20121122_1170572_1.html)

表 2-4 金华市外省からの常住人口数（万人）

	2010 年	2000 年
贵州	26.52	4.14
江西	23.86	16.43
安徽	14.82	6.29
河南	13.14	2.04
云南	9.32	0.89
湖南	9.07	2.03
四川	5.47	2.03
湖北	5.39	1.23
其他省	14.83	3.70
省内市外	13.42	18.27
合计	135.90	57.05

出典：金华信息统计网--我市外来人口现状分析

(http://www.jhstats.gov.cn/fxyc/201211/t20121122_1170572_1.html)

表 2-5 2016 年度居民收入 (単位：元⁷)

	全年居民人均可支配收入	城镇常住居民人均可支配收入	农村居民人均可支配收入	城镇:农村(比例)
浙江省	38529	47237	22866	2.06 : 1
金華市	37159	46554	21896	2.13 : 1
浦江県	29573	38413	17857	2.15 : 1
2017 年浦江県	32352	41654	19611	2.12 : 1
2018 上半年	18289	22443	12588	1.78 : 1

また、『2016 浦江統計年鑑』、2016 年浙江居民收入状況分析⁸によれば、浙江省の全年・城鎮・農村常住居民人均可支配收入は全国 31 省の中でそれぞれ第 3 位、第 3 位、第 2 位の位置である。また金華市は全省 11 市の中で全年・城鎮・農村常住居民人均可支配收入はそれぞれ第 8 位、第 8 位、第 9 位である。浦江県は金華市の全年・城鎮・農村居民人均可支配收入の平均値以下であることがみられる。

要するに、浦江県の人口規模は市内(金華が 3 区・3 市・3 県を管轄)で第 6 位にあり、外来人口が第 4 位で 23.48%を占めており、比較的に入人口の異質性が高いことが言える。しかし、他省から出稼ぎにきた人たちはそれなりにありながら、現地の経済はそれほど発展を遂げていないことが言える。一つ強調したい点として、浦江県は沿岸部の県の中で際立ってそうというわけではないが、内陸の県の中では比較的豊かなところではある。

(4) 大畈郷中心幼稚園

幼稚園は学前教育に属する幼稚園と民办教育に属する幼稚園二種類がある。前者が公办幼稚園(公立幼稚園)と称し、後者が民办幼稚園(私立幼稚園)と称する。どちらでも政府が統一管理している。大畈郷中心幼稚園の位置づけについて以下のようなものである。浙江省政務服務網⁹に公表されている 2017 年浙江省学校機構信息更新のデータによると、2017 年現在登録されている幼稚園は 8645 所ある。金華市は約 1227 所で、大畈郷中心幼稚園は浦江県 41 所幼稚園の一つである。「浙江省幼儿园等级评定标准」により、幼稚園のレベルは 1 級、2 級、3 級に分けられる(1 級が最も高い)。大畈郷中心幼稚園は 2 級園である。もともと大畈郷中心幼稚園は当地小学校の中に設置されているが、2013 年に新校舎に移った。現在の幼稚園の様子は下記の通りである。

⁷ 2018 年 10 月 25 日 13:50 現在、為替レート 1 元=16.14 円。

<https://info.finance.yahoo.co.jp/fx/convert/?a=1&s=CNY&t=JPY>

⁸ 2016 年浙江居民收入状況分析: http://www.zj.gov.cn/art/2017/2/7/art_5499_2215427.html 2018 年 10 月 25 日にアクセスした。

⁹ 浙江省政務服務網ウェブサイト: www.zjzfwf.gov.cn 2018 年 9 月 11 日アクセス



図 2-4



図 2-5



図 2-6



図 2-7

3. 調査結果

調査結果については、二つに分けて示していきたいと思う。まず、基本情報を提示し、そして、中国の育児環境の実態を考察する。分析手法としては、主に単純集計で得られたデータを使用する。

3.1 基本情報

表 3-1 から表 3-4 は調査の基本情報を簡単に説明する。調査票調査が当日回収なので、記入者が子どもの送迎をする人とみなす。子どもの送迎をみると母親が 53.9%で、半分くらいを占めており、父親が 27%を占めている (表 3-1)。また、子どもの性別については、男児は 54.8%で、女児は 45.2%である (表 3-2)。子どものきょうだい数をみると、きょうだい 1 人いるのは 37.6%で、一人っ子は 28.2%である (表 3-3)。家族類型をみると、3 世代同居が最も多く 46.5%で、2 世代同居が 33.7% (片親家

族を含む)、隔世代同居¹⁰が 16.3%である(表 3-4)。

(1) 調査票の記入者

表 3-1 子どもとの関係

	度数	パーセント
母親	48	53.9
父親	24	27
父方祖母	9	10.1
父方祖父	4	4.5
母方祖母	2	2.2
その他	2	2.2
合計	89	100.0

(2) 子どもの性別

表 3-2 子どもの性別

	度数	パーセント
男	46	54.8
女	38	45.2
合計	84	100.0

(3) 子どものきょうだい数

表 3-3 子どものきょうだい数

	度数	パーセント
一人っ子	24	28.2
1人いる	32	37.6
2人いる	14	16.5
3人いる	15	17.6
合計	85	100.0

¹⁰ 隔世代とは、子どもが両親と同居するのではなく、祖父母と同居することを指す。

(4)家族類型

表 3-4 子どもと一緒に住む人

	度数	パーセント
その他	3	3.5
隔世代	14	16.3
二世世代(片親)	6	7.0
三世世代	40	46.5
二世世代(両親)	23	26.7
合計	86	100.0

3.2.2 分析結果

分析結果については、1) 家族類型と保護者の送迎の関係、2) 保護者のストレスについて、3) 保護者の育児ストレスがどういうふうに反映するかを「育児に悩むかどうか」・「育児に自信の喪失」・「先週子どもを叱った/叩いたか」からみる、4) 保護者のストレスの有無と家族類型や「育児中に何かあったら、誰と相談するか」の関係を考察し、保護者の社会的ネットワークを分析する。

(1)家族類型と保護者の送迎について

表 3-5 家族類型と保護者との関係

	母親	父親	祖父母	その他	合計(実数)
その他	33.3	66.7	0.0	0.0	3
隔世代	21.4	0.0	78.6	0.0	14
2 世代 (片親)	50.0	50.0	0.0	0.0	6
3 世代	66.7	20.5	10.3	2.6	39
2 世代 (両親)	60.9	39.1	0.0	0.0	23
合計	55.3	25.9	17.6	1.2	85

$\chi^2=50.612$, $df=12$, $P<0.01$

表 3-5 から、家族類型と子どもを送迎する人の関係をみると、隔世代は主に祖父母が担い手であり、3 世代同居、2 世代同居(両親)の場合は、母親が送迎するのが半分以上を示している。3 世代同居、2 世代同居(両親)の送迎の違いをみると、父親送迎の役割が祖父母に移転する傾向がみられる。

(2)保護者のストレスに関する

表 3-6 ストレスの程度

	度数	パーセント
ストレスが低い	34	40.0
普通	29	34.1
ストレスが高い	22	25.9
合計	85	100.0

表 3-6 から、子どもの保護者は全体の生活にストレスが「普通・低い」と感じている人は 74.1%を占めている。

表 3-7 をみると、育児をストレスと感じる人は 33 人いて、全体の 39.8%を示している。ストレス内容の組み合わせをみると、育児ストレスは他のストレスと組み合わせて経験されていることが多いことから、育児をストレスと感じる人はほかのストレスを重複して感じている可能性が高くなるのではないかと考えられる。

表 3-7 ストレスの内容

	度数	パーセント
その他	2	2.4
経済状況	16	19.3
夫婦関係	2	2.4
仕事	10	12.0
仕事・人間関係	1	1.2
健康状況	14	16.9
健康状況・人間関係	3	3.6
健康状況・夫婦関係	2	2.4
育児	12	14.5
育児・経済状況	2	2.4
育児・仕事	1	1.2
育児・仕事・経済状況	3	3.6
育児・仕事・人間関係・経済状況	1	1.2
育児・健康状況	3	3.6
育児・健康状況・経済状況	1	1.2
育児・健康状況・人間関係・経済状況	4	4.8
育児・健康状況・夫婦関係・人間関係・経済状況	1	1.2
育児・健康状況・仕事	3	3.6
育児・健康状況・仕事・経済状況	2	2.4
合計	83	100.0

(3)育児ストレスの有無と「育児に悩むかどうか」・「育児に自信の喪失」・「先週子供を叱った/叩いたか」との関係

表 3-8 と表 3-11 から、下記のことが言える。

- 1、育児ストレスがある保護者は育児ストレスがない保護者より、育児に悩む傾向がみられる(表 3-8)。
- 2、育児ストレスの有無にかかわらず、育児に自信がなくなると感じる保護者の差はあまり見られ

ない(表 3-9)。

3、先週子どもを叱ったかどうかと保護者の育児ストレスの有無の関係をみると、育児ストレスがない保護者はある保護者より、子どもを叱る傾向がみられる(表 3-10)。一方、先週子どもを叩いたかどうかと保護者ストレスの有無の関係をみると(表 3-11)、ストレスがある保護者が子どもを叩いた傾向がみられる。その理由として考えられるのは、ストレスは人の根気を消耗する。育児ストレスがある保護者は子どもの行動等に対する許容度が低くなり、叱る代わりに叩いたのかもしれない。

表 3-8 育児ストレスの有無と育児に悩むかどうかとの関係

	あまり悩まない	悩む	時々悩む	合計(実数)
育児ストレスなし	71.4	8.2	20.4	49
育児ストレスあり	39.4	36.4	24.2	33
合計	58.5%	19.5%	22.0%	82

$\chi^2=11.626$, $df=2$, $P<0.01$

表 3-9 育児ストレスの有無と育児に自信失ったかどうかとの関係

	あまりない	ある	時々ある	合計(実数)
育児ストレスなし	87.8	6.1	6.1	49
育児ストレスあり	78.8	12.1	9.1	33
合計	84.1	8.5	7.3	82

$\chi^2=1.125$, $df=2$, n.s.

表 3-10 育児ストレスの有無と先週子どもを叱ったかどうかの関係

	ない	叱った	合計(実数)
育児ストレスなし	55.1	44.9	49
育児ストレスあり	63.6	36.4	33
合計	58.5	41.5	82

$\chi^2=0.592$, $df=2$, n.s.

表 3-11 育児ストレスの有無と先週子どもを叩いたかどうかの関係

	ない	叩いた	合計(実数)
育児ストレスなし	85.7	14.3	49
育児ストレスあり	78.8	21.2	33
合計	82.9	17.1	82

$\chi^2=0.668$, $df=2$, n.s.

(3)育児ストレスの有無と家族類型・「育児中に何かあったら、誰と相談するか」について

表 3-12 と表 3-16 から、下記の結果が見られる。

1、2 世代(両親)同居の場合保護者の育児ストレスが大きく 54.5%を示している。3 世代同居の場合は 36.8%である。隔世代は 27.3%を示している(表 3-12)。

2、育児中、何があったら、相談できる人を示す表 3-13 からは、両親の間で相談するのは 32.1%で、子どもの祖父母とも相談するのも 30%くらい占めている。誰にも相談しない人は 16%を占めている。面白いのは、親族ネットワーク以外に、人間関係を重視し、友人ネットワークや、職場ネットワークなどがたくさん持っているはずだし、また困るときに行政機関よりは、すぐ自分のネットワークに頼る習慣がある。しかし、今回のデータから、親族ネットワークに強く依頼し、友人や職場の人あるいは隣人などと相談する保護者が少ないことが分かった。

3、また表 3-14、家族類型と相談できる人の関係をみると、隔世代は子どもの祖父母の間、子どもの両親とよく相談している。3 世代同居する場合も、祖父母や両親はよく相談している。2 世代同居をみると、夫婦の間で相談することが多く、祖父母と相談する割合が 17.6%に落ちた。すなわち、隔世代同居は、祖父母と子どもの両親の間の交流が多いことが言える。以上のことから、同居するかどうかは、家族間のコミュニケーションを支える一つの要因と考えられるだろう。(「育児中、困難があるとき、相談できる人」についての答えの表は付録に記した)

表 3-12 ストレス内容 育児あるかどうか

	育児ストレスなし	育児ストレスあり	合計(実数)
その他	0.0	100.0	3
隔世代同居	72.7	27.3	11.
2 世代同居(片親)	83.3	16.7	6
3 世代同居	63.2	36.8	38
2 世代同居(両親)	45.5	54.5	22
合計	58.8	41.3	80

$\chi^2=8.565$, $df=2$, n.s.

表 3-13 育児中に何かあったら、相談できる人

	度数	パーセント
両親・祖父母・その他	2	2.5
両親・祖父母	25	30.9
両親・その他	6	7.4
両親	26	32.1
祖父母	6	7.4
その他	3	3.7
相談しない	13	16.0
合計	81	100.0

表 3-14 家族類型と相談できる人との関係

	両親・祖父母・その他	両親・祖父母	両親・その他	両親だけ	祖父母だけ	その他	相談しない	合計(実数)
その他	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	3
隔世代	0.0	38.5	0.0	7.7	23.1	15.4	15.4	13
2世代(片親)	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	5
3世代	2.5	37.5	7.5	32.5	0.0	0.0	20.0	40
2世代(両親)	0.0	17.6	17.6	47.1	11.8	0.0	5.9	17
合計	2.6	30.8	7.7	30.8	7.7	3.8	16.7	78

$\chi^2=42.059, df=2, p<0.05$

4. まとめ

今回の大畷郷中心幼稚園の園児の保護者への質問紙調査から、以下のような結果が得られた。

まず、ストレス内容の考察から、育児ストレスを感じる保護者はほかのストレスそして複数のストレスを重複して経験している傾向がみられる。

また、育児ストレスを感じる保護者は育児に悩む人が多いが、育児に自信がなくなると感じる人は育児ストレスを感じる保護者とあまり差がみられない。

そして、育児中に何かあったら相談できる人の分析結果をみると、親族ネットワーク、特に祖父母に依頼する傾向が強いことが分かった。ほかの社会的ネットワーク、例えば、友人ネットワーク、地域ネットワークを利用する人は少ない。逆に言うと、親族ネットワークに外の社会的ネットワークをあまり頼っておらず、親族ネットワークに頼れない場合、保護者の育児ストレスが深刻になる恐れがあることがわかった。

付録

育児中、困ることがあるとき、相談できる人はいるか

母親	父親	母方の代わりとなる人	父方の代わりとなる人	父方祖母	父方祖父	母方祖母	母方祖父	一緒に住む親戚	一緒に住まない親戚	友人	隣人	近所の人	職場の人	ベビーシッター	園などの職員	政府機関	その他	度数	パーセント
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	15.5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1.2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1.2
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3.6
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2.4
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	17.9
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3.6
0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2.4
0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2.4
0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2.4
0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	8.3
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4.8
1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2.4
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	13.1
1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2
1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4.8
合計																		84	100.0

4 「グループCによるマッチングが社会的養護に関わる支援者に及ぼす影響」報告書

浦田 雅夫*¹¹ 大森 弘子*¹²

1. はじめに（グループCの活動の一部）

RISTEX「養育者支援によって子ども虐待を低減するシステムの構築」のグループCは、「社会環境の要因の解明とその支援」を目指している。その一環として、2016（平成28）年11月27日に米国ワシントン州で社会福祉士として活躍されている栗津美穂氏を招聘し、聞き取り調査を実施した。栗津氏は、IFCA（International Foster Care Alliance）¹の代表である。IFCAとは、2012（平成24）年に米国歳入法により認定された非営利団体（NPO）である。その理念である「すべての子どもと若者が愛され、支えられ、自身の可能性を最大限に発揮できる社会」の実現を目指している。また、日本と米国の社会的養護の当事者の交流と協働を通じて、子どもの日々のケアにあたる人たちが最良の支援を提供するために、日米の専門職が連携することを目的とした団体である。

聞き取り調査後、グループCは、アフターケアの会「メヌエット」²に栗津氏をお連れした。「メヌエット」は、社会的養護の当事者である児童養護施設等を退所した方々により集いやすい居場所を提供し、生活や仕事上の困ったことについて、関係機関と連携して寄り添い支援をしている。当時の出会い



*¹ 京都造形芸術大学

*² 兵庫教育大学大学院

図1. 最初の交流の様子

図2. 「メヌエット」の外観

(「メヌエット」のホームページ³より引用)

と交流の様子を図1、「メヌエット」の外観を図2に示した（詳細は2016年の相澤報告を参照のこと）。

周知の通り、社会的養護は、「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」と定義され、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」という理念を提起している（厚生労働省，2014）⁴。近年の児童虐待相談件数の増加からも社会的養護の当事者に寄り添う支援者には、豊富な経験に支えられた実践力のみならず、持続可能な支援のための効力感（見通しや自信）も求められるであろう。しかしながら、社会的養護の当事者に寄り添い支援する支援者に関する研究はあまり見当たらず、今後の支援者不足が憂慮される。

そこで本報告書では、先ず、「社会的養護」及び「支援者支援」に関する研究動向を概括する。次に、グループCの活動、グループCによるマッチングから渡米まで、及び米国での社会的養護の当事者の様子を明らかにすることを試みる。さらに、社会的養護の当事者による報告会が支援者の効力感等に及ぼす影響について実証的に論考する。以上の結果を踏まえ、最後に、社会的養護の当事者に寄り添う支援者への支援についての論述を行う。

2 「社会的養護」及び「支援者」に関する先行研究

先ずここでは、「社会的養護」及び「支援者」に関わる先行研究を概観する。具体的な手続きとして、国立国会図書館のNDL-OPACを使用し、「社会的養護」及び「支援者」をキーワード検索した。検索時期は、2018（平成30）年10月8日であった。その結果、計18件の主要な先行研究を抽出することができた。

先行研究には、支援者を支援することから社会環境を整え、権利保障の質の向上に取り組もうとする論文が散見される。具体的には、2013（平成25）年発行の『世界の児童と母性』では、「社会的養護における支援者の支援」を特集として16編の論文が示された。

その中では、支援者を支援する必要性を示した論文（e.g., 福山，2013）⁵、職員相互の力量を高めることを目的とした事例検討会での支援の取り組みを示した論文（e.g., 渡辺，2013）⁶、現場における支援者への支援と可能性を示した論文（e.g., 千葉，2013）⁷及び海外の社会的養護の支援者への支援に着目した論文（e.g., 桐野，2013）⁸の4つに大別して掲載している。これらを契機として、支援者への支援研究が認知されるようになってきたと言える。

その後、「人を支えるのは、あくまで人である」という強い信念の下、疲弊する支援者への支援の課題に着目した論文（橋本，2015）⁹、及び子どもの育ちを支える支援者のグループ内研修に着目した論文（上野，2016）¹⁰へと研究が展開している。社会的養護に関わる支援者を支援することは、その先にある養育者支援に繋がっていくと言えるだろう。

しかしながら、社会的養護に関わる支援者が、どのような支援によって、何が向上するのかという実証的な研究はあまり見当たらない。そこで、「グループCによるマッチングにより、支援者が米国での社会的養護の当事者の様子を聴くことによって、支援者の効力感等が向上する。」という仮説を立て、支援者

への質問紙調査を通して、それを検証する。

効力感について、従来から A. Bandura (1995) は、成功経験を持つこと、他者の行動を観察すること、説明的暗示を得ること、及び生理的情緒的な反応の変化を体感することが、この変動に関わると論考している¹¹。換言すれば、社会的養護に関わる支援者が報告会に参加し、当事者の成長を感じ、自らの支援の意味を理解することによって、効力感の向上が期待できる。ただし、前述の上野 (2016) は、効力感を高める要因とグループ内研修で体験したことの関連を示しているが、実際に効力感が向上しているかどうかは判断できていない。

3. グループCによるマッチングから渡米まで

第一筆者が事務局を務めるアフターケアの会「メヌエット」では、月に1度、当事者同士のサロン活動を展開している。2016 (平成 28) 年 11 月 27 日、サロン開催日にグループCのメンバーとともに粟津氏が「メヌエット」を訪問され、当事者4人と初めて交流を持った。米国の社会的養護の当事者との交流や訪米の話は新鮮でありながらも、日常生活のなかで苦勞の多い当事者にとって、どこか現実離れした話と受け取っていた感があり、「あまり興味がない」という声もみられた。以降、「メヌエット」とIFCAとは、特段の交流もなかったが、2017 (平成 29) 年 12 月 15 日、粟津氏が来日されていたこともあり、「メヌエット」の忘年会にお招きした。そこで、粟津氏はあらためてIFCAの活動について参加した当事者に案内されたが、この会に参加していた当事者のAさんは、IFCAの活動に大変、共感し興味を持った。

IFCAの日米当事者の交流や渡米のプロジェクトは単に交流のみを目的とするものではなく、主体的な参画、交流のなかから当事者自身が社会的養護の制度、施策の変革を訴え、最も実状を知る主権者としてソーシャルアクションに繋げるというものである。

2018 (平成 30) 年 4 月 21 日には、粟津氏とともにシアトルからジニー・キー (Jeannie Kee) 氏が来日し、「メヌエット」のメンバーに対してワークショップを行った。このワークショップはジニー氏も含め当事者のみのクローズで実施された。ジニー氏は社会的養護経験当事者として、ワシントン州、米国合衆国連邦政府の社会的養護関連制度策定への参画だけではなく国際的にも活躍する人物であり、社会的当事者のよきメンターとしてユースに関わっている。このワークショップを受けた「メヌエット」の当事者は、「当事者であることが恥ずかしいことではなく、当事者だからできることがあるんだとわかった。」と述べている。

粟津氏との出会い以降、IFCAの活動に大変、共感し興味を持っていたAさんは、月に1度行われるIFCAのウェブ・ミーティングに毎回参加し、ついに2018年8月の渡米が実現することとなった。なお、IFCAではサポーター・アダルト (支援者) の役割も大きく、同行渡米することになっており、長年、児童相談所の児童福祉司の経験のある大学教員、久保樹里氏が同行渡米することになった。また、Aさんの渡米にあたっては、予てからAさんを支えている大学教員、長瀬正子氏のサポートも大きかった。「メヌエット」とIFCAのマッチング、さらに粟津氏やサポーター・アダルトの存在、そして、何よりもAさんの勇気と熱意がなければこの渡米は実現しなかった。他国へ行った経験もなく、パスポートもないひとりの若者が、周囲に支えられながらも自らの意思で渡米し、米国の若者と出会い得たものは大きい。そして、なによりも、その経験、交流、見聞録を整理するために帰国後、開催された報告会の意味

も A さんにとっては大きかった。それは、支援者にとっても同様である。

4. 社会的養護の当事者による報告会の内容

2018（平成 30）年 10 月 14 日、「社会的養護の当事者が誇りをもって生きる」をテーマに渡米プロジェクト帰国報告会が行われた。渡米プロジェクトの目的は、社会的養護を経験した若者の内面的成長と国際的視野の拡大であった。10 日間の渡米の中で社会的養護の当事者は、米国の児童福祉（主要な連邦法とケースの流れ）を学び、米国ワシントン州の自立支援サービス（Youth Care, Center for Children and Youth Justice, Treehouse for Children, YMCA Independent Living Programs 等）を視察し、社会的養護の当事者が施設退所後の困難さや救われた思い出を語る勉強会に参加した。

渡米した社会的養護の当事者 A さんからは、寄り添ってくれる支援者を信じ、戸惑い迷う暇も無く渡米し、多くの交流と流れ星を見て、その後は価値観が変わったことが語られた。特に、A さんは、「話さなくても良いこともある」ことに気付き、話題を「青・黄・赤」に分けて、安全で効果的に戦略を立てて話すことを学んだという。A さんは、この戦略が社会的養護の当事者が自分の生い立ちを聞かれた場合の対処になると報告した。なぜなら、社会的養護の当事者は、生い立ち等を話せなかったり、話しすぎて相手が引いてしまうことがあるからである。また、「誇りをもって生きる」ということが、「施設で育ったことによって、多くの人と出会い、多くの人のおしさや温かさを知り、感謝できる人間になった奇跡が起こったからである」と A さんは力強く断言し、報告会は終わった。

5. 報告会が支援者の効力感に及ぼす影響

グループ C によるマッチングが契機になった報告会は、支援者の心に響いたり、支援者の効力感が向上しなければ、適切に社会的養護の現場に反映させることはできない。そこで、支援者の効力感が向上できたかどうかを測るために質問紙を準備した。具体的には、報告会前及び報告会後の各時に効果測定を行い、実証的検証に繋げる。表 1 には、対象となる社会的養護の当事者による報告会に参加した支援者 4 名を示した。報告会の内容は前述 4 の渡米プロジェクトの報告であった。報告会及びアンケート収集場所は、京都府家庭支援総合センター内の会議室であった。

質問紙の回答は無記名ではあるが、参加支援者の支援状況を問う項目として「性別」「年齢」「支援の

表 1. 報告会への参加支援者一覧

支援者名 (年齢・性別)	特徴
支援者 B (60 代・女性)	保育士として保育園や施設に勤務後、「幸せに生きるとは何か」を追求しながら、社会的養護に関わるボランティア活動を 8 年間行っている。
支援者 C (30 代・男性)	福祉系保育士養成大学を卒業後、入所施設に就職する。入所施設勤務を経て、青少年の自立支援センターで支援活動を 7 年間行っている。
支援者 D (30 代・女性)	保育士養成短期大学を卒業後、青少年の自立支援センターでアルバイトをしながら、援助活動にも 1 年間携わっている。
支援者 E (30 代・男性)	福祉系保育士養成大学を卒業後、児童養護施設で継続勤務をしている。現在は施設運営にも携わっている。

経験年数」の記入を求めた。効力感を測定する先行研究の中から、三木・桜井（1998）の保育者効力感

尺度 10 項目¹²を援用した。回答は「ほとんどそう思わない」「あまりそう思わない」「どちらともいえない」「ややそう思う」「非常にそう思う」の 5 段階評定（1～5 点）で得点化した。また、社会的養護との関連を検討するため、「（現在の支援の）充実度」「（現在の支援の）遂行への自信」「（支援の力量

の）自己評価」を質問項目に加え、回答は 0～100 点で得点化を求めた。さらに、質問紙の最後に自由記述欄を設け、支援への感想や意見を求めた。支援者には個人を特定することはないことを伝え、同意を得た上で質問紙調査を実施した。質問紙調査の実施に関わる配慮は、日本発達心理学会（2000）¹³の倫理基準に準じた。

表 2 には、参加支援者毎の効力感、充実度、遂行への自信、及び自己評価の変化を示した。以下に、新任支援者（支援者 D）（3 年未満の支援年数）、中堅支援者（3 年以上 7 年未満の支援年数）（支援者 C）、熟練支援者（8 年以上の支援年数）（支援者 B、E）に分けて¹⁴、詳細に検討していく。

新任支援者 D は、効力感が報告会前 33 → 報告会后 38、支援の充実度が報告会前 60 → 報告会后 60、遂行への自信が報告会前 60 → 報告会后 60、及び自己評価が報告会前 60 → 報告会后 60、であった。報告会后に効力感の確実な向上が見られた。新任支援者への効力感の向上には、報告会が有効であることが示されたケースと言える。一方、遂行への自信等の他の項目では変化がなかった。保育者の場合、効力感は、初任に比べて中堅や熟練で有意に高いと

表 2. 社会的養護に関わる支援者毎の効力感等の変化

支援者名 (年齢・性別)	項目	報告会前	報告会后
保育者 B (60 代・女性)	効力感	29	34
	支援の充実度	63	70
	遂行への自信	55	65
	自己評価	60	67
保育者 C (30 代・男性)	効力感	32	35
	支援の充実度	80	80
	遂行への自信	70	60
	自己評価	70	60
保育者 D (30 代・女性)	効力感	33	38
	支援の充実度	60	60
	遂行への自信	60	60
	自己評価	60	60
保育者 E (30 代・男性)	効力感	40	40
	支援の充実度	80	85
	遂行への自信	80	85
	自己評価	80	85

の報告（横川・中山，2016）¹⁵があるが、社会人経験のある新任支援者 D は、報告会前から効力感が高く、経験年数と効力感が関連しているとの先行研究と一致しなかった。社会人経験のある支援者の場合、個人差要因が大きいと考えられ、半構造化面接等による他の分析方法を援用したさらなる分析が必

要である。

中堅支援者 C は、効力感が報告会前 32 → 報告会后 35、支援の充実度が報告会前 80 → 報告会后 80、遂行への自信が報告会前 70 → 報告会后 60、及び自己評価が報告会前 70 → 報告会后 60、であった。中堅支援者の場合、新任支援者と同様に、報告会后に効力感の確実な向上が見られた。しかしながら、報告会后に遂行への自信及び自己評価の降下が見られた。この降下の原因で考えられることは、支援者には仲間が必要であり、チームで支援することに気付いた可能性が推察される。なぜなら支援者 C の報告会后の自由記述には、「相談できる仲間を作る力量不足」を記していたからである。また、中堅支援者は、周囲からの期待の重荷や仕事と家庭の不調和を抱えている。具体的に、支援者 C の自由記述には、「安心して働くことができる支援環境（雇用環境や給与）の改善」を記していた。

熟練支援者 B は、効力感が報告会前 29 → 報告会后 34、支援の充実度が報告会前 63 → 報告会后 70、遂行への自信が報告会前 55 → 報告会后 65、及び自己評価が報告会前 60 → 報告会后 67、であった。また、もう一人の熟練支援者 E は、効力感が報告会前 40 → 報告会后 40、支援の充実度が報告会前 80 → 報告会后 85、遂行への自信が報告会前 80 → 報告会后 85、及び自己評価が報告会前 80 → 報告会后 85、であった。熟練支援者 B と E は共に、方向会后に、支援の充実度、遂行への自信、及び自己評価の向上が見られた。しかし、報告会前から効力感が高い熟練支援者 E には、効力感の向上が見られなかった。一方、報告者 A さんのことを現在も継続的に支援している熟練支援者 B にとっては、報告会がかなり有効に働いた事例と言える。

以上のように、グループ C によるマッチングを契機とした報告会による効力感の向上は、元々効力感の高い支援者 E 以外の 3 名の事例で明らかになった。よって、「グループ C によるマッチングにより、支援者が米国での社会的養護の当事者の様子を聴くことによって、支援者の効力感等が向上する。」という仮説は一部支持されたことになる。

グループ C によるマッチングを契機とした「社会的養護に関わる支援者と当事者の成長過程」を図 3 に示した。これは、支援者が当時者に寄り添い、支援、省察、及び報告会参加等の自己研鑽の繰り返しの中で成長し、当事者もまた支援者の支援を享受し、報告等で振り返りをしながら成長していく螺旋連続モデルである。

以上、グループ C によるマッチングが社会的養護の支援者に及ぼす影響について、4 名の支援者への質問紙調査を介して考察してきた。4 名の支援者の内の 3 名の支援者は、報告会を通して、効力感が向上している。このことが、グループ C によるマッチングによる大きな支援者に及ぼす影響であった。また本報告書では、支援者が当事者に寄り添って支援に関わることの必要性を示している。

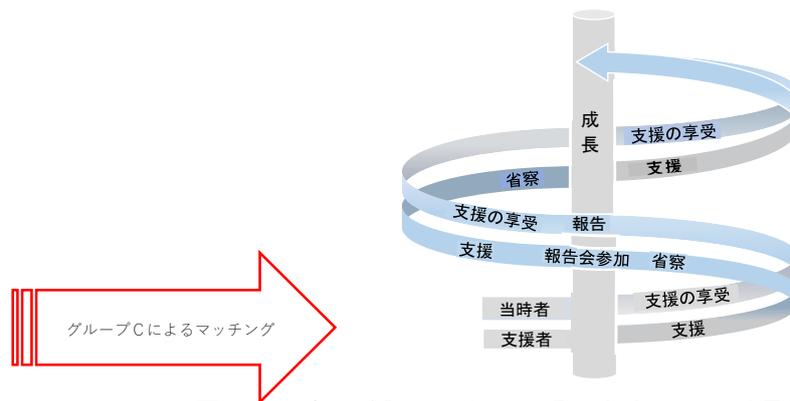


図3. 社会的養護に関わる支援者と当事者の成長過程

6. おわりに

本報告書では、先ず、「社会的養護」及び「支援者支援」に関する研究動向を概括した。次に、グループCの活動、グループCによるマッチングから渡米まで、及び米国での社会的養護の当事者の様子を明らかにした。さらに、社会的養護の当事者による報告会が支援者の効力感等に及ぼす影響について実証的に論考した。その結果、報告会による効力感の向上は、元々の効力感の高い支援者E以外の3名の事例で明らかになった。加えて、グループCによるマッチングを契機とした支援者と当事者の成長過程を図式化し説明を加えた。

その一方で、今後の研究を展望していく上での課題が2点残った。まず、データ収集上の課題である。社会的養護の当事者を支援する支援者4名への希少な質問紙調査の機会を得たと言えるが、元々の効力感の高さが何に起因するのか、中堅支援者が求める支援とは何かを明らかにしていない。今後、データ数を増やし、支援者への半構造化面接を行い、検討することが課題である。

次に、報告会での当事者の語りに寄り添う支援者の力量の課題である。この重要性は、図3で示しているが、寄り添う力量と効力感等との関係は明らかにしていない。なぜなら、寄り添いの力量とは何かを可視化できていないからである。今後、実証的な知見を積み重ね、社会的養護に関わる支援者が、効力感を持って支援ができるように、寄り添いの力量とは何かを明らかにすることも今後の課題である。

6. 注（文献）、謝辞

【注】

1. IFCA (International Foster Care Alliance), <https://ifcaseattle.org/jp/index.html> (2018/10/08 閲覧)
2. 「メニューエット」, <https://twitter.com/minuetkyoto> (2018/10/08 閲覧)
3. 「メニューエット」, <http://www.pref.kyoto.jp/kateisien-sogo/documents/menuett-2804.pdf> (2018/10/18 閲覧)
4. 厚生労働省, https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/syakaiteki_yougo/index.html (2018/10/08 閲覧)
5. 福山和女, 2013, 「ケアする人へのケア—スーパービジョンの視点から—」『世界の児童と母性』第74号, 2-6.

6. 渡辺律子, 2013, 「職員相互に力量を高めるために一事例検討会の取り組み」『世界の児童と母性』第74号, 41-46.
7. 千葉茂明, 2013, 「小規模グループケアにおける支援者へのサポート」『世界の児童と母性』第74号, 59-64.
8. 桐野由美子, 2013, 「米国のトリートメントフォスターケア「社会的養護の支援者への支援」の観点から」『世界の児童と母性』第74号, 75-80.
9. 橋本達昌, 2015, 「疲弊する社会的養護ケアワーカー—求められる支援者への支援—」『連合総研DIO』第305号, 12-15.
10. 上野陽弘, 2016, 「子どもの「育ち」を支える支援者の学び—グループの中での職員の「育ちの要因」を掘り起こす—」『世界の児童と母性』第80号, 50-57.
11. Bandura, A. (1995): *Self-efficacy in changing societies*. Cambridge University Press. (本明寛・野口京子監訳, 1997, 『激動社会の中の自己効力』 金子書房.)
12. 三木知子・桜井茂男, 1998, 「保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響」『教育心理学研究』第46巻第2号, 203-211.
13. 日本発達心理学会 (監修), 2000, 『心理学・倫理ガイドブック—リサーチと臨床』有斐閣 1-154.
14. 福山・前掲論文(4)において、「経験年数の3年未満の層と、8年以上の超ベテラン層の2つの層」を示している。本報告はそれにしたがって、3年未満を新任支援者、3～7年を中堅支援者、及び8年以上を熟練支援者とした。
15. 横川和章・中山みき子, 2016, 「保育者効力感に関する研究—組織を視野に入れた効力感に着目して—」『日本教育心理学会』58回総会, 187.

【謝辞】

本報告書を実施するにあたり、質問紙調査にご協力いただきました支援者の方々、及び報告会を主催されたIFCAやアフターケアの会「メヌエット」の方々にご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。

H29 年度分

内容

- 1 「韓国にて開催した、児童保護・養育者支援施設の見学とセミナーの記録」
- 2 「国内で訪問した児童保護・養育者支援施設とセミナーの記録」
- 3 「韓国における子ども虐待・マルトリートメント問題の文献レビューの実施」

1 韓国にて開催した、児童保護・養育者支援施設の見学とセミナーの記録

2017年8月21日から26日にかけて、韓国ソウル市にて、下記の施設見学とセミナーを実施した。

1-1 見学した施設一覧

日時	施設の名称と見学の概要	お話を伺った方のお名前
2017年8月21日	慶熙学院・慶熙大学校 (Kyung Hee University) 委託運営、江南区大峙 (テチ) 育児総合支援センター	Park Ju Young 氏
2017年8月22日	民間幼稚園、Banpo Fistige Haneul Preschool	Min Haeng-Nan 氏
2017年8月22日	区立保育施設、清潭 (Chung-dam) オリニチブ (保育園)	
2017年8月22日	職場保育施設、ハンソル(Han-Sol) 教育希望財団、プルムオン (Pulmuone) オリニチブ	Hye-won Lee 氏
2017年8月24日	保健福祉部 中央児童保護専門機関 (Child Protection Service Agency)	Ryu, Jeong-Hee 氏、Jang, Hwa Jung 氏、Shim, We Sun 氏、Ahn, Dong-Hyun 氏、Kim, Kyung Hee 氏
2017年8月25日	ハンソル保育園 (현지아 한솔어린이집)	Minji 氏
2017年8月25日	韓国保育振興院 (Korean Childcare Promotion Institute)	Cho Yongnam 氏、Kang Gisook 氏、Lee Daeseong 氏 Yi Kyoung Rim
2017年8月25日	アパート内保育所、ヘンニム(Haet-nim) オリニチブ (おひさま保育園)	Myeong-Ha Park 氏

① 1-2 開催したセミナーやレクチャー一覧

日時	セミナーの名称と概要	お話を伺った人
2017年8月21日, 23日	“Seminar on Child Protection and Childcare Policies in Korea and Japan“ at Shilla Stay Seocho, Seoul	Meesun Yang (Korea Institute of Childcare and Education), Yoon-Jeong Shin (KIHASA),

		<i>Hyung-Mo KIM</i> (<i>Kyonggi University</i>), <i>Jin-Seok KIM</i> (<i>Seoul</i> <i>Womens University</i>), <i>Jeong-Hee RYU</i> (<i>KIHASA</i>)
2017年8月22日	韓国の家族の現状についてのレクチャーと意見交換	<i>Yoon-Jeong Shin</i> (<i>KIHASA</i>)
2017年8月24日	韓国の育児休業とワークライフバランス政策についてのレクチャーと意見交換	<i>Sophia Seung-yoon LEE</i> (<i>Ewha Womans</i> <i>University</i>)
2017年8月25日	現代韓国の家族についてのレクチャーと意見交換	<i>Prof. Jaerim LEE</i> (<i>Seoul</i> <i>National University</i>)
2017年8月26日	韓国における児童の法的保護についてのレクチャーと意見交換	<i>Junbom LEE</i> (<i>judge</i>)

② 1-3 調査記録

1-3-1 調査全体から得られた知見の概要

2015年からの一連の児童虐待事件をきっかけに、韓国社会において児童虐待への関心が高まってきた。従来ゆらぎのあった児童虐待の定義についても、法律においては犯罪認定の範囲拡大と厳格化が見られることがわかった。例えば、韓国の法律の規定によれば、児童の身体と精神の発達を妨害する行為は虐待となり、虐待罪にあたる行為と認定できる。ただし、認定する際にその基準があいまいだった。新設の児童福祉法の中で、児童虐待が新しい犯罪類型として規定された際に、身体的虐待の規定が厳格化され、情緒的虐待も導入されるようになった。さらに、性的虐待も従来の淫乱行為から、性的羞恥心を起こした行為まで広めた。ネグレクト、すなわち放任行為も犯罪化にされた。そこで、CCTVの導入も義務化づけられ、当初先生のプライバシーと自由の侵害という観点から反対する声もあったが、子どもの安全を守る視点から導入が決定された。実際の運営において、児童の安全だけではなく、時には教師もトラブルから守られていたケースもあった。保育園の設置について、企業規模が500人以上の場合、職場保育園の設置も義務付けられ、働く女性の定着に機能している。「出産総合ポータルアイサラン」というワン・ストップサイトがあり、そこに入れば妊娠、出産、保育園など情報があり、貧困層、障害児、共働きの夫婦という優先順位で入園が決まる。民間保育園においても、ウル市の助成プログラムがあって、児童虐待の防止セミナーを不定期的に保護者向けに開催している。



1-3-2 ソウル市江南区大峙育児支援センター (Seoul Support Center) 調査記録

◆施設スタッフ 聞き取り

日付：2017年8月21日（月）17:30~19:15

話者：パクチュウヨン氏

参加者（敬称略）：落合、水野、村田、米野、郭、相澤、大木、姚

記録作成：姚

【江南区大峙育児支援センターの基本情況】

- 当施設は保育と家族支援という2つの機能がある。
- 江南区福祉特区の3つの目標
 - 保育の専門性の確保
 - 乳幼児と両親の幸せな育児の実現
 - 世界一流の先進的な保育
- 「乳幼児保護法」の規定により、育児支援センターは必ず委託機関のもとで運営すべき。当センターの委託機関は慶熙大学校
- 2006年に「育児支援センター」制度を実施した以来、江南区はすでに五つの支援センターを設立した。
 - 利用者（ワーキングマザーとか）の使用の便利さを配慮したため、五つの施設が分れて設置された。当施設は2013年に設立され、五つの施設の中で最も新しくできたものである。
 - 保護者の間ですごく評価され、ほかの区、ほかの都市の手本とされている。
- 江南区保育の特徴について、中間層と富裕層の住民が多いため、人格・性格の教育が重要な内容として強調されている。もちろん、当施設は、低所得の階層にも利用できるように整備されている。

【江南区大峙育児支援センターの機能】

- 二つの主要な支援項目：①保育支援 ②家庭教育・養育支援
 - 保育支援の内容
 - ◇ 運営の強化（保育士の育成、虐待発見の研修など）

- 家庭教育・養育支援の内容
 - ✧ 教育の強化（家庭教育、親の子供理解に関する教育など；特に少子化対策のために、週末には父親向けの育児教育や啓発活動がある）
 - ✧ 相談体制：子育てや教育だけでなく、夫婦関係も相談の内容にもなれる；一対一のカウンセリングで、オーダーメイドのアドバイスをする
 - ✧ 子どもの発達検査をしている
- ほかの施設では、親子が一緒に遊べる大きめの遊具が設けられている。
- 環境にやさしい支援センターの実現を目指して努力している
- 同区の道谷支援センターは、乳幼児から高齢者まですべての市民に利用できる施設である。
- 同区の三成支援センターは、外国人向けの保育サービスや家庭型の保育サービスを提供している。
- 施設のホームページは、家庭養育の関連情報および保育士向けの専門情報は両方とも閲覧できる。施設の専門アプリもある。

【質疑・質問】

- この支援センターが支援している保育所はいくつかある？その分担は？
 - 江南区には、区立と私立合わせて 240 前後の保育所がある。区立 53 所、企業立 20 所くらい、残りは民間。支援センターの分担について、本部（当施設）は保育所を運営している。ほかの 4 施設は在宅保育・育児を支援している。
 - 江南区住民なら、区内どの保育所に預けることができる。
- 当施設には、専門資格を持っている方はいるか？非常勤も含まれる。
 - 26 人の職員の中で、すべて国家専門資格を持っている。例えば、特別保育士や栄養士、育児教育などの資格がある。医者や看護師はない。ほかには、外部施設との契約があるので、外部の支援も利用できる。
 - 当施設は一時託児の施設なので、医者や看護師はない。
- 当施設は一時託児のサービスだけを提供している施設なのか？
 - 本施設はおもちゃ貸出しや育児相談をメインとする施設である
 - 25 個所の専門機関と連携しているので、もし家庭は深刻な困難があれば、ほかの専門施設に案内することも可能である。
- 中低所得階層向けの支援なら具体的には何か？
 - より良いおもちゃを貸してあげるとか、おもちゃの宅配とか、グループカウンセリングをすることか、社会福祉士の派遣とかなどの特別の配慮をしている。
- 児童虐待に関する特別な対策は？
 - 法律に従って行っている。警察や区役所との連携とか、子どもが発達障害の疑いがあれば、親の相談とか、区役所に連絡することなどを実施する。直接でなく、間接的な支援の方が多い。ほかの虐待防止（ストレス低減など）に関連する教育啓発活動も行っている
- 当施設に通っている子どもの年齢は？
 - 0～5 歳。2010 年の法改訂により、6 か月～24 か月の子どもも通えるようになった。5 歳以上の

子どもは幼稚園に行く。

- フォーマルの保育を受けている子どももよくこの施設にくるか？
 - ここは子どもと親の遊び場みたいのところなので、土日には、平日幼稚園に通っている子どもと共働き夫婦もよく来る。平日には専業主婦や専業主夫（育児休暇；でもすごく珍しい）がメインだ
- 当施設の運営の主体は？利用者の資格は？
 - 運営主体は国の保健福祉部、ソウル市、江南区である。
 - ソウル市民はみんな利用できる。
 - サービスはほとんど無料だが、一時保育は有料（一時保育は国からのバウチャーを利用することができる）。江南区の住民や通勤者なら、一部の有料サービスも無料で利用できる。
- 区だけで資金を出して運営している施設はあるか？（日本の区の保健所みたいなもの）
 - 虫歯検診や栄養検査、栄養教育・相談などのサービスは区の保健所で行われている。
- 多文化家族向けの特別サービスはあるか？
 - 多文化家族支援センターという施設がある。具体的には多文化家族支援センターにお聞きください。

1-3-3 民間幼稚園、Banpo Fistige Preschool 調査記録

時 間：2017年8月22日

参加者：（敬称略、順不同）落合・水野・米野・村田・阪本・郭・姚・相澤・大木・郝

対 象： private Childcare facility Banpo Fistige Preschool 園長先生

<http://firstigepreschool.kr>

記録者：郝 洪芳

- 幼稚園の名前の意味
 - 幼稚園の名前は空の意味で、もっと伝統的な意味で言うと、すべての始まりという意味である。ロゴの花びらは、子どもたちのそれぞれの個性が違うという意味を表している。また、ロゴに鳥が三匹いて、空の運気を運んでくれるという意味である。



● 7つの教育哲学

- 1、 耳を傾ける教育
- 2、 文化的場所としての学校
- 3、 実験的空間としてのアトリエ
- 4、 個人と集団学習者としての子ども
- 5、 子どもたちの多くの言語
- 6、 学びのファンタジー
- 7、 対話とコミュニケーションする子ども

● 伝統的な文化思想：正しい教育をする、子どもを主体的に育てること。

- 自然に対する思想をかなり取り入れている。子どもたちのクラスを自然に合わせた名前にしている。例えば、0歳児の場合、水から山に終わって、その間に山うさぎが水を飲んだりとか、リスがどんぐりを食べたりとか、山うさぎ組にリス組、その間に松の実を食べたりして、松組とか、そこから虎とか、大きな動物になって、それが山に登っていくとか、伝統的な自然に対する哲学の思想をここに取り入れているので、クラスの名前もそういうふうになっている。一番年長さんが大きい山組というふうになっているけど、大きい山は空から川を見下すという感じになる。だから、年長さんと年少さんの関係も、そういう自然に合わせた形でクラスの名前を作っている。

● レッジョ・エミリア教育法

- 子どもが主体になることを目標にするために、保育の先生が何か計画を作って、子どもたちに従わせるのではなく、その日のその日の子どもたちの遊び姿を見ながら、どういう風にしたらいかを先生たちが考えていく教育をしている。子どもたちにやらせるのではなくて、この子のやりたいことはなんなのか、ということが教育の内容だったり、教育の方向になったりする。評価方法も、

先生の物差しで評価していくのではなくて、子どもたちが実際に行ったことをちゃんと記録することで、どういうふうなことをしたか、どういうことが必要なのかを考えていくという評価方法になっている。

● 図書館

- 週二回本の貸し出しが可能。親子で読んだり、先生が使ったりして、自由に読むことができる。



● 小グループ遊び場

- 音楽を使って遊んだり、壁（運動しやすいように鏡張りしている）が外すことができるので、大きなグループで体育をしたりすることもできる。本とか、ブロックもあるので、これらを使って自由に遊ぶことができる。



● アトリエ

- 教室で何かを作るときに、必要なものをここに取りにきて、持っていく。自然なものの材料。例えば、木とか、木の葉っぱとか、トウモロコシの蒂とか、紙とかがある。韓国の伝統の織物を作る機会もある。子どもたちが作った作品も置いてある。これらの材料を使って、子どもたちの想像力を作り上げていく。



- ▶ 建物の中、どこからも自然が見えるように気を使っている。鏡もたくさんある。自分が今どういう表情をしているのか、自分で自分を見ることができる。特に階段を降りるときとか、自分と友達がどういう表情なのかが見えるように鏡が置いてある。



- クラス見学

- ▶ 子どもは詩を思うままに書く：
遊園地

遊園地は面白い、遊園地は面白い
面白くて本当に面白い
世の中は面白い、
私たちはそのとき、
みんな笑っていた。

▶ アトリエ

友達と一緒に遊ぶことを学んでいる。勝つ気持ち、負ける気持ちをゲームで学ぶ。将棋、コンピューターを相手にやっている。友達も一緒にどういう戦略がいいかをアドバイスしながらみんなです。七歳の場合、小学校が楽しみになるように、黒板などで学校ごっこをやる。期待をさせて、学ぶとは何か、なんで勉強しないといけないのかをならう。



▶ ブロックの部屋（子どもが説明した）

長さの概念が把握できるように、建築物に対する興味が湧くように。
子どもたちは自分で考えて作っている。
最初作った時は崩れた、その経験で作り直している。
バランスを考えながら、カッコ良いことも考えて作っている。
自分で書いた設計図に基づいて作る。三次元二次元を交差して考えながら作っている。

▶ 四歳の部屋

午前中にリサイクルの材料を使って、みんなで相談して、作る。
私だけの本作り
料理に関心のある子はクッキーを作るためのレシピの本
デザインに関心のある子どもたちはこれを読む
ゲームで遊べるところもある。
字は特別に教えてないけれど、子どもたちが歌を歌う時とか、本を読む時に、この字はどう読むのと聞いてくるので、その時に教える。字の授業はない。
童話の本、歌の歌詞とかで読み聞かせ、言葉に接している時に、自然に学んでいる。

● 時間

- 共働きの場合は、朝7時半から、そうでない場合は9時半から。夜は7時半まで。8時に来る場合もある。その前に帰る子もいて、4時半とか5時に帰る子が多い。
- お箸ボックスは幼稚園で揃っている。自分で持ってくる。使用后、そのまま家に持ち帰り。
- 夕ご飯は園で食べる。
- 先生たちは9時から18時までの9時間勤務になっている。

● 記録パネル

- 先生たちが作っている。一つのおもちゃに対して、6ヶ月も遊ぶ。想像性など優れた能力を見せる。
- 満一歳の子供達が、本来は自分で子育てをしてもらう立場だけど、お人形を使って、子育ての経験をする遊び。仮想の遊びを通して、どういうふうな愛の溢れた顔を見せるとか、育てる気持ちを体験し、他人を意識するようになってくる。男の子もする。幼ければ幼いほど、男女の区別がない。

● 英語教育

- 五歳の部屋で、男性の保育士さんがいたけれど、彼は二言語使用の先生。こちらで英語しか話さない。子どもたちは彼と話す時に、英語で話す。別の先生とは韓国語で、自然に使い分けている。この地域でご両親は英語に対する情熱が高い、注入式な英語の学習ではなかなか身につかないので、先生と一緒に遊びを通して、自然に英語を身につけるしかたである。英語で雇用されて、補助教師だ。資格を問われない。経験とか、子供を中心に考えられるような人を重要視して、採用している。

● 教育現場における工夫

- 1対10の先生の比率。一つの教室で必ず二人以上の先生がいる。何か一つのことを見るにしても、一人の先生の見方ではなくて、複数の人だと見方が違って来るので、バランスを取るようになっている。子どもたちにとって何が一番いいかを一緒に相談して考えながら協力していく関係で、配置されている。
- 教育課程を協力的に進化が深めるように、循環させるように工夫されている。例えば、子供が何かを遊んでいると、先生はそれを記録して、二人以上いる先生がそれを見ながら相談して、子供に伝えたりして、パネル展示を通じてみんなで共有し、次の段階のさらなる遊びに向かっていく。子供と先生、先生同士で循環して、協力して深化していくように。
- 先生は四年制大学で児童学を専攻する人、先生になるための実習を経た人、保育教師の資格も必

要。他の保育園よりも先生に対する資格の要求が高い。他のところでは、四年制大学で児童学専攻までは要求しない。淑明女子大学という有名大学の卒業生が90%。

● 園費用と給料

- 一歳から二歳までは完全に無料で、三歳から五歳までは22万ウォンぐらい。保育料28万8千ウォン、国のシステムで22万ウォンの補助があるから、費用は6万8千ウォンになる。市がまた2万ウォンを出してくれるので、実質的な費用は4万8千ウォンになる。
- 国が決めている基準に合わせているけど、初任給の場合、国から162万、それから区とかいろいろなところから80万（他の区より20万から25万ぐらい多い）なので、合わせて242万ウォンが初任給になる。次の年に6万上がって、3年ぐらいから長期手当、だいたい5年勤めると、280万ウォンになる。他のところは区からの支援がより少ないので、他所より給料が高め。
- 月給がいいので、いい先生が雇用できる。
- 四年制大学を出る人を雇用しているので、だいたい五年間働くと結婚してしまうので、育児休暇を使って、帰って来る人をいま待っている状況。この園は8年前に開園したので、いま働く人たちの中で、一番長いのは5年ぐらい働いている。

1-3-4 区立保育所 チョンダム（清潭 Chung-dam Preschool）オリニチブ 調査記録

日付：2017年8月22日

参加者（敬称略）：落合、水野、米野、村田、郝、姚、郭、相澤、大木

記録作成：郭

2006年6月22日開園し、慶熙大学校の委託を受けて公立保育園として運営している。今は11年目になっている。15名の教員に対し79名の学生がいる。乳児の利用もあり、6ヶ月から利用できる、昔は乳児も利用できるが、今は幼児だけの利用になっている。

最初は親に子どもの日頃の活動を展示するパネルがたくさん置いてある部屋に案内された。その中で二つを紹介された。2歳の子どもたちの様子、子どもたちが自発的に遊ぶ。園が子どもに材料を渡し、子どもがどのように遊ぶかを観察する。紐を渡したり、それを切ったり、結んだりして、それを引っ張って汽車ごっこをする。紐を使った体の遊びなどもできる。みんなで「ナンタ」公園へ見に行き、どんなものは音が出るのかを見学する。それから自分たちで楽器を作ってみて、今度はリズム感も意識し、最終的に公演をする。次はカメラプロジェクトで、使い捨てカメラとかデジタルカメラとかで子どもたちが色々取ってくれるが、例えば水の中でどうやってとるのかを考えて、子どもがGブロックに入れて撮ると提案する。やってみようとやったら本当に撮れた。少しずつ違う遊びをしている、紐の遊び以外に木の遊びや、ビニール、光と影などがある。カメラの遊びは3歳の子どもが遊んでいた。担任の先生が記録をしている。もう一枚が園児のお母さんがパン屋さんで働いて、みんなでパン屋に行ってパンを作ってみた写真だった。小さなプールが保育園の中にある。

昨日（2017年8月21日）訪問した育児支援センターは最初、一緒にここにあった。その後分離し、ここは保育園だけになった。ここの特徴は時間制である。時間制は予約を受け付け、臨時的に保育をする。予約は必要であり、アプリからも予約できる。一階に一時保育があり、訪問した時にみんな三階のプールの隣の部屋で昼寝をしていたので、一階にいなかった。予約制の子どもが15名いる。3組に分かれて、5人ずつ子どもがいる。年齢に応じて先生の配置を決め、幼い子どもが1:3とか、ちょっと大きくなれば1:5になる。院長、保育教師、ヌリ補助と補助教師が2名、調理師が1名、その他保育の手伝いをするのが1名いる。合わせて15名教職員がいる。園訓の一つ目は健康で幸せな子どもたち、二番目は想像力のある子ども。先ほど地下のパネルで見た通り、先生が主導的ではなく、子どもが主導的に遊んで、自ら進んでやれるようにし、先生たちはそういう子どもたちを観察する。園は基本的なプログラムにしたがってやっていて、何か特別にやることはそれほど多くはない。例えば、1歳児の国家プログラムとして五感を育てる内容があって、2歳児の時に絵本プログラムをやり、乳幼児にもプログラムがあるが、それぞれのプログラムを通して、先生はより良いプログラムを開発できるようにしている。ここが都市なので、自然に恵まれていないが、鉢植えで農業をやっていて、人格教育を行う。3~5歳は森体験散歩活動を行う。昨年から多文化教育をはじめ、三段階からなり、去年の一年目は様々な国を知るというテーマであり、アメリカ、ベトナム、日本、韓国、中国の文化の日を行なった。今年は様々な文化に触れるというテーマであり、その時食べ物、仮面、伝統家屋などの共通と差異に注目して、行なっている。世界を身近に感じて、親近感を感じる。差異を特性として捉えるようにしている。これらの教育は両親にも参加してもらう。この両親は一般の韓国人の両親である。外国人の親を持つ子どもが少ない。お父さんがアメリカ人のケースがあった。この活動は両親にも参加してもらうというところに主眼を置いている。お母さんたちとの運営委員会もある。例えば、親御さんを招待して、半日ぐらい一緒に過ごし、どういう風に創意力の教育をしているのかを見ていただく。バザーも行い、そこでの収益金は国連環境計画委員会の韓国支部に寄付している。この親は共働きが多い。幼いけれども、子どもに時間を作ることが非常に必要だとご両親に説得する。親が様々な休暇があるので、それを子どものために使っていただく。第一優先順位は貧困層や、障害児になっているが、この地域ではそういう子がいないので、むしろ共働きの人は優先順位が高くなっている。比率的にはお母さんが多いが、お父さんも増えている。お父さんは一日先生の形で参加し、一緒に遊んでくださったりする。何かイベントの時や、送り迎えの時も、お父さんの姿もちらほら見える。祖父母も多く、ベビーシッターも多い。ベビーシッターはこの地域の特徴で、一般的ではない。ベビーシッターは韓国の方もいるし、中国人朝鮮族の方、フィリピンの方もいる。最近、韓国語でボランティアを才能寄付と言い、親御さんは自分の持っている才能を使って一日教師をする。親御さんの積極的な参加を促す。地域と子どもが旨く関わり合えるように、周辺の機関を利用し、子どもたちが年末に挨拶回りに行く。コンビニは子どもが買い物体験できるように協力してくれる。普通、小さい子どもがギャラリーには入れないが、こちらのギャラリーが配慮してくれて、入れるようにしてくれた。園は先生たちの専門性を高める教育の重要性を感じ、さらに心理的なこととか、フィーリングとか、先生がこの仕事を通して幸せな気持ちになれるようなことも重要であるので、そちらの研修にも気を使っている。支援センターとも連携しながら研修を行なっている。基本的な目標は国が作っているが、こちらの園は慶熙大学の委託を受けているから、慶熙大学が持っている創意性の方向性に関する教育とか、研究にしたがってやっている。多文化教育も今大学がそちらの方向性を進んでいるので園も関連するイベントを行

なっている。園は大学の教授と教育の方向性を検討する会議にも参加する。大学で研究もしているが、大学との関係で人脈作りは一緒にしているが、先生たちへのプログラムは院長が運営委員長なので院長が作ったものである。本好きの子どもを育てるために、園が本を選んで、子どもに貸し出ししている。慶熙大学の委託を受けているので、ここには大学生のボランティアもいるし、実習生もいる。公立の保育園に入るのは難しい。入り口で熱を測る機械が置いてある。伝染病の場合は入り口の所でチェックして、気を使うが、一般的に熱を出したりする子どもに対し、それだけで入れないことはしない。親に直接的に子どもを帰らせるのは難しいが、状況確認など早く対処できるようにする意味で連絡する。園児の決定に関して、政府の作ったオンラインの申し込みシステムがあって、そこで申し込みの内容によって点数がつけられる。点数の高い人から院長が「来られますか」と電話して、来た人から決まる。オンラインシステムは私立が使えなく、国公立だけが使える。「出産総合ポータルアイサラン」というお母さんたちのワンストップサイトがあり、そこに入れば妊娠、出産、保育園などいろいろなことがわかる。一時保育はまた別のサイトがあって、点数をつけられるのは通常保育である。保護者による虐待に気づいたことはない。見つけたら園が警察に申告する義務があり、もし気づいた後に申告しなかったら院長と先生がともに罰せられる。保育園料は国家からの補助があるので、無償教育である。特別活動をするときにも制限があって、活動も三つまで、月に合計で 50000 ウォンの制限がある。もし選択しなかったら、こちらから別の活動を提示する。

1-3-5 職場オリニチブ Plumuone Preschool 調査記録

・聞き取り：

이혜원 = イ・ヘウォン (Hye-won Lee) さん

한솔교육희망재단 = ハンソル(Hansol)教育希望財団

원장 = 院長あるいは園長

・日付：2017年8月22日

・参加者（敬称略）：、落合、阪本、水野、村田、米野、相澤、大木、郭、姚

・記録作成：大木

【プルムオンの職場オリニチブについて】

プルムオンは日本でいう、味の素やヤクルトのような食品会社である。プルムオンで働く親の子どもを対象にした職場保育園である。ハンソル教育希望財団がプルムオンから委託される形で事業が展開されている。

【聞き取り内容】

●施設案内

- ▶ 遊戯室：室外で遊ぶことができないので、中で走り回れるスペースとして遊技場を設けている。ここで走り回ってもいいし、1時間だけ外の遊び場で遊ぶ時間がある。雨で降った時はこの遊戯室を使う。
 - ▶ 図書室：本棚にある本は家にも持ち帰れる。昼ご飯の後に15分間本を読むようにしている。乳児クラス（乳児バン）は絵本の読み聞かせをしてあげるが、幼児クラス（幼児バン）は自分たちで読ませるようにしている。
 - ▶ 韓国の歳で6、7歳の部屋：担任の先生と14名の子ども。
 - ▶ お手洗い：幼児のクラスは2つあり、真ん中にお手洗いがある。子供が便利に使えるように、自動的に水が止まるようになっている。職場保育園は長時間いるので、消毒に気を配っている。
*食べ物に非常に気を使っている。日本でいう、味の素やヤクルトのような会社で、健康食品なども扱う。食品に気を使っていて、おやつも3回だす。朝と12時、15時半と17時半の3回。
 - ▶ 教室：韓国の歳で3歳のクラス、韓国の歳で4歳のクラス、韓国の歳で5歳のクラス（5歳、6歳）の3つある。
- 他に、調理室、職員室、ランドリールーム、トイレがある。

●入園の優先基準

- ▶ 最優先となるのは、両親がプルムオンで働いていて、3人目の子どもを入園させたい場合である。次に優先となるのは、両親がプルムオンで働いている子供を入園させる場合。母親が職員であること、父親が職員であることの順で優先される。すべての分野に渡って勤務している親の子どもを対象としている。研究職だったり、有機農の部門だったりどの分野で働いていても資格はある。プルムオンの中に様々な関連会社があるが、そこで働く親もこの保育園の利用資格がある。

●両親の雇用形態について

- ▶ 両親がどういう業務に従事しているのかは、幼稚園側は把握できない。送り迎えにくる親の様子を見ると、中産階級が多いように感じられるそう。

●子どもたちの受け入れ時間について

- ▶ プルムオンではフレックスタイムを採用しているので、例えば、7:30に入った人が16:30に帰ったりするので、両親の働き方に柔軟に対応している。朝の7時30分から夜の19:30までの12時間保育を行っている。プルムオンでは夜間保育をしていない、残業のない会社であるためである。水曜日は家族の日ということで、明かりを18時30分には消してしまう。
- ▶ プルムオンの会社は幼稚園の入った建物の中に本社が入っている。系列の会社は他の場所にある

ので、そこで働く親はそこから送り迎えすることになる。家が遠い場合は、勤務時間を自由にできるように工夫されている。

●0歳児教育について

- ▶ 韓国でいう、3歳未満の子（0歳未満の子）の教育は行っていない。満1歳を迎えると、入園資格がある。育児休暇を取っている社員も利用することができる。子供が優先なので、母親が育児休暇を取っていても、子供を受け入れている。

●ブルムオンはどうして女性に優しい会社であるか？

- ▶ 3歳のクラスは一番待機者が多い。
- ▶ 勤務年数が長い女性職員が優先される。3歳児のクラスではみんなお母さんがブルムオンの職員。保育園ができてから離職率が低くなった。5年は保育園で見てもらえるので、5年は会社を離れない。保育施設があるため、それが入社動機に繋がるようになっている。

●ブルムオン職場保育園の人気

- ▶ 毎年10名くらいの入所者がいる。今待機者が韓国の3歳児の場合、30名から40名ほどいる。ここの教育方針がいいので、遠くからも通ってくる人がいる。同様に職場幼稚園で有名な資生堂では入所者が定員に届いていない。その原因は、資生堂の保育園が自宅から遠いためである。そのため、家の近くで別の保育園を探すことが多いという。教育方針に賛同している両親ならば時間をかけてここにくる。教育+保育の目的がある。家から2時間くらいかけて通ってくる人もいる。地下鉄で来る人も多い。20%くらい。通勤ラッシュがあるが、その中でも子供を連れて地下鉄で通ってくる親もいる。
- ▶ 私立保育園や公立保育園よりも、ブルムオン職場保育園の方が、人気があり、利用者の大抵は第一希望でやってくる。12月1日から公立の募集があるので、11月にブルムオン職場保育園は入園の結果を出すようにしている。
- ▶ 会社からの支援は国からの3倍くらい多くもらえるので、サービスの質が高い。国からの支援が国からは、37万8千ウォンになるが、会社からは100万ウォンになる。そのため、この保育園で働く従業員の給料もとても良い。公立保育園よりも職場保育園の方が、雇用面でも人気がある。

●教育内容

- ▶ あそびのレシピという、両親と子供が週末一緒に遊べるような工夫が書かれた資料を渡している。身体活動。感覚を育てるプログラムをしている。満2歳の子供たちには、感情に特化する。語彙を増やす。3歳になったら、友達作りのプログラム。一緒に何かを作るという共同作業をするプログ

ラムもある。最年長さんになると、学校に来年いくことになるので、読書・討論プログラムを行っている。結末のない本をみんなで読んで、結末についてみんなで話し合うような内容になっている。初等連結プログラムという、学校に入る前のものである。

●自然学習。

- ▶ ヤンジェ川という川が近くにあって、車でみんなで出かけて自然学習をしている。自然に詳しいおじいちゃん先生から様々なことを学ぶ。

●トダンテルプログラム

- ▶ 本を読むプログラム。ミュージアムあって、そこに何度も子どもと足を運ぶ。

●職員の労働時間

- ▶ 労働時間は、8時間労働になるが、お昼も働くことになるので、実質には9時間になる。先生たちは3交代制。7:30は開始の人は16:30で終了、8:30開始の人は18:30で終了、9:30開始の人は19:30終了となる。もしもこれ以上働いている場合は超過労働時間として手当が付く。

●職場保育園をつくる条件

- ▶ 会社が職場保育園を設置することを決定したら、国から支援がでる。職場保育園を作ることは、会社にとって、会社の従業員の福祉になる。社員人数が500人以上だったら、保育園を作る義務がある。作らない場合、罰金が科されるが、罰金が職場保育園をつくるよりも安いので、作るインセンティブにならない。

●大統領府や国会、KBS（国営放送）からもハンソル希望財団は委託を受けている。

- ▶ CCTVは安全や事故のために、確認するために、法的に義務付けられている。しかし内容を見たいと両親からお願いされても、園長に公開権限がないため、専門の委員会を開いて、許可がでた場合のみ、公開することができる。二か月間、動画は保存される。
- ▶ 管理者は園長に任される。

●虐待をされている児童をみたことはないし、両親の様子から虐待をしているように感じられることはなかった。

●両親の参加授業がある。ハッピーランチタイム、才能寄付など、両親が参加する取り組みがある。才能寄付は年に一回、全ての親がしなければならない。

▶ 中産階級の両親が多いように感じている。

1-3-6 韓国中央児童保護専門機関 (Child Protection Service Agency) 調査記録

- ・日付：2017年8月22日
- ・対象者（敬称略、アルファベット順）、
Ahn, Dong-Hyun（チームリーダー）
Hyung Mo Kin,(法関係担当)
Jang, Hwa Jung（ディレクター）
Kim, Kyung Hee（ポリシーリサーチチーム・チームマネージャー）
Shim, We Sun(ポリシーリサーチチーム・研究補助)
- ・参加者（敬称略）：、落合、阪本、村田、米野、相澤、大木、郭、姚
- ・記録作成：大木

【Child Protection Service Agency 韓国児童保護センターの概要】

韓国中央児童保護専門機関で、60の都市を対象に児童虐待のリサーチを行い、児童虐待防止に向けた活動を行っている。具体的にはスタッフたちの職務教育、業務教育や、政策に対する研究や関連した資料の統計などの外部公開を行っている。地方にある機関からの声を吸い上げて、政府の政策に反映できるようにしている。一般の国民たちに対しても、児童虐待の啓もう活動を行っている。中央児童保護専門機関は2001年から発足した。児童福祉法の45条にもとづいて運営している。こちらは4つのチームに分かれている。サービスサポートチーム、インフォメーションマネジメントチーム、ポリシーリサーチチーム、PR&コミュニケーションチームの4つある。2015年までは地方の予算から運営していたが、国家からの予算に切り替わった。国家から50%、地方から50%に変更されました。もともとは地方が100%だったが、半分を国家が出してくれることになった。それに伴い、子供たちを保護するシェルターが、36か所から58か所に増えた。

【聞き取り内容】

- 韓国では児童虐待は児童虐待禁止法で犯罪だとされている。保護者を含めた成人が児童に身体的、精神的、性的な虐待をしたときに、児童虐待とみなす。ここで、児童というのは満18歳未満のことを指す。保護者は実の両親、養父母、後継人、先生、施設の先生、保育士も保護者に含まれる。
- 2014年9月29日に、児童福祉法の中に含まれている特別法が設けられ、児童虐待防止特別法が施行された。
- 韓国の児童虐待の保護システムでは、申告電話の電話番号である、112番で受け付けを開始する。犯罪の通報も112であるが、児童虐待もそちらの総合コールセンターで受け付けている。なぜならば、児童虐待は犯罪とみなされているからである。通報を受けたら、警察や児童虐待の調査員を同行させる。

●調査の情報によって判断するが、判断基準は3つある。一つ目の判断基準は、初期事例に分類されるもので、これは、まだ児童虐待は起こってないが、家庭の事情を見る限り、家庭に介入する必要がある場合のことである。必要に応じて地域社会の保護を受けられるようにしている。2番目の判断基準は、児童虐待が確認された場合である。3番目は児童虐待が行われていなかった場合で、これは児童虐待の誤認したケースということで、一般ケースとして処理される。児童虐待が確認された場合は保護者と分離するのかどうかの判断に入る。それから虐待の行為者に対して、司法処置を行うのかどうかという判断も行う。それから、虐待があったと認められる家庭においては、相談所を紹介したり、医療サービスを紹介したりと、家庭的サービスを提供することを考える。いろんなサービスをしていった結果、虐待の可能性がなくなったらサービスは終わる。その後も再発の可能性があるので3か月間は観察の対象になる。

●全国の児童保護機関は現在、60か所に設置されていて、そのうちシェルターは54か所に併設されている。

●地域の人たちに広報をしてネットワークをつくるようにしている。

●シェルターは緊急性のある子どもを短期間保護する目的で設置された。全国に54か所ある。韓国で児童虐待を犯罪とみなし始めたのは2000年の後半なので、2001年から統計があり、それによると、2014年くらいから増えてきている。

●児童虐待の中では実の両親によるものが多い。韓国での児童虐待のリスクは身体的なものや情緒的なものなど2つ以上のものが多い。最近になって情緒的な虐待が増えている。実の両親から受ける虐待が全体の80%になっている。最近の韓国では家庭内の虐待もそうだが、集団の保育園だとか学校だとか、集団生活をしている中でも虐待が増えている。

●韓国では児童虐待が見受けられたらかならず申告しなければならない、申告義務がある。申告義務のある人は、申告者全体の34.5%となっている。申告義務のある人の知らないところで起こる虐待というものがある。申告義務のある人が怠ったら、罰金が発生する。義務のある人は23種類の職務についている人を指す。

●子供の目の前で、DVが行われるなどの、前面虐待は情緒虐待の中に含まれている。

●児相全体の中心になっている機関であり、序列という意味で60の施設のうちのトップという意味ではなく、地方の現場できちんと業務が遂行できるようにしている。児相とこちらは別機関になっているが、お互い近くにある。シェルターの場合は家庭に近い形態を作っているため、そこには5~7人の子どもだけがいる。

●児童養育施設もあるが、こちらは大規模である。

- 共同養育施設というのがあって、その中で虐待を受けた子供たちだけをグループホームに入れる場合もあり、こちらは、少人数になる。

【日韓研究者によるディスカッション】

韓国：韓国の児童虐待の状況や定義について研究している。韓国では2000年に福祉法ができて、そのころから社会問題としている。児童虐待の定義が西洋から入ってきているので、正確な定義ができていない。

韓国：2015年に児童虐待福祉法ができてから、福祉の領域から犯罪とみなすようになってきているので、国民の中でも混乱が起きている。これがしつけなのか虐待なのか定義が必要になってきている。

韓国：日本では児童虐待が犯罪とみなされていないと聞いている。しかし韓国と日本では文化的な類似性もあるし、アジア的な情緒というものもあると思います。そういう意味で、日本の虐待の定義や現状についても教えてもらえるといいです。12歳の小学生が修学旅行にいったときに、高速道路の休憩所に置き去りにした。両親に連絡して、子供を迎えに来させた。両親が学校教育の中の虐待だとした。教師は修学旅行中の団体行動の中でやむを終えなかった。こうした事例を体罰、しつけを虐待とみなすのかが大きな議論が起きている。児童虐待をどのように社会的問題としていくのかを日本の中ではどういう研究が進んでいるのかを知りたい。

韓国：若い夫婦の考え方で自然療法をすることによって予防接種をさせなかったり、薬を与えなかったりする事例がありました。自然療法の集まりがあって、そういう子供に対する行動に対して、韓国の医師協会が告発する。こういう対立する見方についてどういうふうに考えますか？

日本：韓国ではなぜ虐待を犯罪としたのでしょうか？犯罪として扱うようになった議論の過程を知りたい。

韓国：日本では両親が児童虐待をした場合、処罰されるのでしょうか？

日本：司法事例も含まれる場合があるが、程度によります。

韓国：韓国は基本的に日本にずっとついて行っている所以日本の状況と基本的には一緒です。処罰の件数はそんなに変わらないように思う。

日本：児童相談所にいった通報されて、児童虐待と判断されたケースのうち、親が虐待を認めて、合意で9割くらい引き離される。10分の1が司法までいって、その10分の1が刑罰を受ける。

韓国：児童虐待という言葉自体、child abuse というのはもっと西洋では広い意味であるのに、児童虐待と翻訳すると犯罪という意味合いが強くなるように思う。日本ではどのようにこの言葉の翻訳はなっているのか。

日本：maltreatment（不適切な養育）というより広い用語を使うことも多くなってきた。

韓国：福祉から犯罪にどういうふうにつつていったかということ、日本の状況と似ているが、なぜそうなったか考えてみると、再犯率が多いことが挙げられると思います。再発率が10%ととても高いこと。それから、両親に虐待に対する処置をするときに拒否をされたときに強制力を働かせなかった。3番目は、親権停止や親権はく奪をすることが、福祉の領域では難しい。20年間でいろんな事例をみてきて結局そうするしかなかった。日本はなぜそういうふうになくてすんでいるのか？関心がある。

日本：日本でも親権の強さは特徴としてある。韓国も同じだと思うが親権停止をするのが難しい。それを解決する手段として犯罪としたという理由は分かる。

日本：フランスでは、犯罪にするわけではないが、司法介入がマジョリティーになっている。そうすることで強制力を持たせることができているようだ。そういう制度は検討されたのでしょうか？

韓国：韓国も基本的には司法介入をしていることになっている。アメリカの事例のように、家族裁判所とか児童裁判所が協力して活動できるようにするにはということで2年ほど研究してきた。韓国は司法介入をすること自体、警察が介入することであることが特殊である。警察の介入なしに、司法介入がありえないという状況である。被害者の子どもを、保護する命令、被害幼児保護命令を裁判所の命令でできるようにした。裁判での議論なしに、裁判所が直接の権利を持つようにしている。

韓国：しつけのための叩くというのがもともとあったため、しつけのために叩くのは仕方ないという道徳的意識がある。

日本：しつけとして体罰を行っていた過去はあるが、最近その傾向が変わったように思う。若い世代は特にそうしたしつけを受けていない。

日本：文化的問題なのか虐待なのかというジレンマはよくある。

韓国：若い世代とそれ以上の世代でどのような違いがあったのか気になる。児童虐待が西洋からきた概念なので、私たちの生活自体が西洋化しているために虐待を問題化してきたのか、私たちが無知だからなのか。伝統文化の残る地域ではまだしつけとして虐待が行われているが、西洋ではこれを虐待とみている。日本はこれをどのように見ているのか？日本は発展した社会なので、興味がある。虐待という概念が伝統対西洋化という文化の対立概念が生じている。日本の方たちが考える虐待の中にアジア的な文脈が入っているのか伺いたい。

日本：日本は虐待が少ない地域でした。ヨーロッパに比べて。なので、アジアと西洋の対立とはそう簡単ではない。日本人は子供を鞭で打たないということが江戸時代の資料に残っている。ヨーロッパ人は子供を虐待というか、すごい叩くしつけを行っている。インドネシアも甘やかす国だと言われている。西洋人が過去に韓国に来た時にそういったことを書き記しているのかを調べるといいと思う。アジアは子供に厳しいというのはうそである。

1-3-7 ハンソル保育園 (현지아 한솔어린이집) 調査記録

◆保育施設スタッフ 聞き取り

日付：2017年8月25日

話者：園長、園長の妹、保育の先生

参加者（敬称略）郭、相澤、大木、姚

記録作成：姚

● 保育園の設立経緯

- 現在の園長は保育園の創立者である。園長は貧しい環境の中で育てられてきたので、幼い頃に学校や先生からたくさんの支援を受けた。大人になり、恩返しのためにこの保育園を創立した。また、園長は赤ちゃんを産んだばかりの時、周りや職場には保育施設はあまりなかった。その時、彼女はやむを得ず、子どもを遠い実家に預けて、子どもに会えるのは週末だけだった。今の若いママたちに自分のような悲しい経験を体験させないように、園長は保護者が信頼できる保育所を開いた。
- 利用している親御さんはどんな方たちですか。主婦か、ワーキングマザーか。
 - 8割くらいの利用者はワーキングマザー。育児休暇を取った保護者や内職で働いている保護者もいる。子どもの父親の中で、1割くらいは育児休暇を取った。
- 入園する園児はどうやって決まりますか。
 - 保護者は「ソウル市児童ケアポータル」を通して保育所の利用を申し込むことができる。一回の申請は同時に3所の保育所を併願することが可能。政府の規定によれば、共働き夫婦や2人以上の子供を持つ家庭、機能不全の家族は優先とされる。
- CCTVが設置されていることについて、どう思いますか。
 - CCTVがあれば、子どものみならず、教師も保護されるようになってきた。例えば、昨年冬、保護者から、先生が子どもの爪切りをした際に子ども指を傷つけたといったようなクレームが届いた。しかし、先生たちは誰も子どもの爪切りをしなかった。指の傷は子どもの爪を噛んだ時に自分でされたはずだったが、母親はそれを信じず、CCTVの記録をチェックしようと求めた。CCTVの記録には、子どもが爪を噛んだシーンはいくつか確認された。その結果、保護者は園と先生に謝罪し、先生たちも守られた。
- 今後文大統領が公営保育園を増やそうとしたらどう思いますか。
 - 公立保育園を増設することが非常に重要だと思う。韓国社会には公立保育園への信頼が高いため、公立施設の増加は少子化対策に対して重要な意義を持つと考える。ただし、公立施設の増加は政府の財政にとって巨大な負担になる。実施する際に、中央政府は地方政府の協力を得なければならない。例えば、江南区は何年前から公立施設の運営を負担できないと言ってきた。近年、江南区の公立施設の数が増えたが、新設の施設はほとんど新しくできた共同住宅だけに設けられた。
 - もちろん、一部の私立施設は公立に変えられた。しかし、私立施設としては、買収される際に、政府から全額を買収費用が得られないという心配は払拭できない。
- support centerからはどういう支援を受けているか。
 - 毎月、サポートセンターから子どもの栄養レシピをもらう。保育所には専門の料理師がいるが、栄養レシピを立てることができない。また、発達障害の子どもの保育について、センターから定期的なチェックや保育方法の助言をもらえる。それ以外、保育士はセンターからトレーニング・プログラム（基礎の業務、安全、ストレス解消など）を受けている。
 - 園児たちは先生たちにセンターに連れられ、無料で安全や健康に関する音楽劇を鑑賞することができる。
- 育児に無関心な親がいるか。

- いる。そのような保護者がいるなら、先生により、保護者を対象とした養育教育を実施する。
- 教育に熱心すぎる親はいますか。
 - 江南区の親たちは教育熱心で有名。当園には、2歳未満の子どもに何かを教えようとした親がいた。
- 先生たちに求めるスキル、資格、学歴。
 - 3級保育士資格を得るために、高校卒業後、1年半の保育課程を受講することが必要だ。2級保育士資格なら、大学、短大または専門学校で保育関連の専攻から卒業した者しか取られない。当園は、3級か2級かを問わず、保育士資格のあることだけを求める。一定の経験があれば、卒業大学のランクや等級はあまり重要ではない。もっとも大切なのは、子どもに対する愛情だ。
- 先生たちの雇用形態、勤務時間、給与体系。
 - 当園の場合、園長を含む8人の先生がいる。ひとりの共同教師（co-teacher）を除き、先生たちは全員フルタイム雇用。
- 園の教育について。方針や方法。
 - 当園は子どもの人格形成を大事にしている。自然に囲まれた環境は、子どもの人格形成にとって重要な役割を果たしていると思うため、付近の丘に遊ばせたり、観賞植物や野菜を植えさせたりするなどの教育活動が実施されている。
 - ほかには、2歳以上の子どもは教育課程を受けることができる。当園は英語、折り紙、粘土、ブロックゲーム、音楽、バレエの課程が選択できる。

1-3-8 アパート内保育所 おひさまディケア保育施設 (햇님 데이 케어 어린이집) 聞き取り 記録

◆保育施設スタッフ 聞き取り

日付：2017年8月25日

話者：園長、園長の妹、延長保育の先生

参加者（敬称略）：落合、村田、米野、郭、相澤、大木、姚

記録作成：姚

【おひさまディケア子どもの家の基本情況】

設立時間：2001年

面積：約140~150平方メートルの4LDK

定員：20人（0~2歳児）

職員：8人（院長1人、調理師1人、保育士6人；保育士と園長全員「保育教育士」資格を持っている）

クラス数：2クラス+延長保育のクラス

聞き取り内容

- 保育施設の性質について
 - 当保育園はヌリ課程の幼稚園である。韓国では、保育園（標準課程）と幼稚園（ヌリ課程）が分離されている。幼稚園がヌリ課程と呼ばれており、保育園のほうが標準課程とヌリ課程を一緒にしている。標準課程は0~2歳の子ども向けの過程となり、ヌリ課程が3~5歳のこどもに向ける。保育園の場合、3~5歳の子ども向けのヌリ課程と幼稚園の3~5歳のヌリ課程は教育の内容が同じだが、保育時間は保育園のほうが長い。昔は「遊び部屋」（ノリバ）と呼ばれていたが、2013年の制度改正で、現在「家庭保育施設」と呼ばれるようになった。当保育園は設立当初の2001年は「遊び部屋」（ノリバ）だった。
- 設立経緯と発展
 - 最初に、母親は忠清南道で定員96人の民間保育施設を経営しており、妹がそこで先生を務めていた。園長自身はほかのところで就職していたが、子女2人がいるため、子育ては難しかった。そのため、退職して家族と一緒に保育所を運営してきた。2001年から、部屋を借りて自分の保育所を始めた。最初に定員は20名だったが、乳児から小学生まで幅広い年齢層の子どもを柔軟に対応していたが、政府の規制で乳児だけを受け入れると転換。夫も48-49歳の頃に退職し、2010年によりここで手伝いになってきた。子どもの数が多いせいで、周辺にうるさいと言われたことがある。設立から保育園の子どもの数が増える一方だった。女性就業率の上昇や0歳児保育の普遍化、主婦の保育利用制限の解除などが要因となる。しかし、近年出生率低下の影響で定員に合わせるのはだんだん難しくなった。
- 資格の保有
 - 保育園を運営する場合、「保育教育士」と「園長」という2つの資格が必要。もともと妹だけが「園長」の資格を持っていたが、拡大経営のため、自分も「園長」資格を取った。近年、資格獲得の基準が厳しくなってきた。例えば、保育教育の訓練時間はもともと1年だったが、最近は延長された。もともと4週間の実習時間も6週間まで延ばされた。3級の保育教育員は1級に行くのは、5年~6年ぐらいかかるようだ。一般の保育士は3級の保育教育士だけが必要だが、園長は1級の保育教育士の資格と1年の勤務経験がないと従業できない。保育施設の人数が20人を超えた場合、3年以上の経験が要求される。
- 経営状況
 - 0歳、1歳、2歳の児童計20名。延長保育、いわゆる24時間保育は当保育園の売りとなる（多文化保育、障害保育、延長保育を提供できる施設は少ない）。通常の保育時間は7:30から19:30までとなるが、昔は6:30より始まった保育、または24:00までの保育ケースがあった。（注：8月25日18:30まで、7人の子どもはまだ帰らなかった）。国の規定によしたがって、スタッフの勤務時間は8時間（7:30~16:30；8:30~17:30；9:30~18:30）となるが、残業もある。保育所の仕事は忙しいので、園長の家族も時々手伝ってくれる。
- 延長保育について
 - 延長保育の場合、保育の先生は疲れて、子どもたちも退屈だったため、やはりそうして欲しくないと思う。しかし、市場、レストラン、病院などの勤務時間が長いいため、やむを得ず延長保育を利

用する母がいる。できるだけ21:00を超えないと伝える。現在、育児意識が高めたため、延長保育の利用者が少なくなった。土曜日にも預けたいなら、相談できる。

- 虐待の発覚・防止について

- 昔は忠清南道にいたとき、実父に殴られ、傷つけられた子どもがいった。園より申告した。現在、ガイドラインがあるため、もし発覚したら、申告の義務が課されている。ちょうど昨日(8月24日)には、保育園は保護者たち(お父さん2人を含む)を集めて、専門の講師を招聘して、虐待防止のセミナーを開いた。このようなセミナーは必ず年2回開催すると義務付けられている。昨日の講師は16年の教育講義の経歴があって、全国の保育施設で両親の育児スキルについての教育をしている。講師の名簿が公文書で書かれているので、園はそれを参考して講師を選ぶ。いま、保護者向けの教育が社会的に重要視されているため、ソウル市が助成プログラムをしており、先着順でセミナー開催の経費を支援しているという。市から支援をもらえない場合、NGOや自費です。

- 乳児保育における施設の役割

- 乳児はやはり家で育てるのは一番良い。しかし、育児はたいへん面倒な仕事であり、全部お母さんに任せるのは過ちだ。近年、母親の幸せこそが子どもの幸せだという考え方がますます広く受け入れられるようになったため、保育園の力を借りて、退職しないまま育児する母親が増えるようだ。実際に、仕事がやめられなかったり、手伝ってくれる親族がなかったりしている母親にとって、保育園の力が必要だと思う。
- 因みに、現在母親の両親(おばあさん、おじいさん)が手伝ってくれるケースが増えた。自分の娘の才能を無駄にさせない(退職させたくない)ため、母親の父親も手伝ってくれるようになった。自分が犠牲にしたくない母親も増えてきたため、育児のトラウマで子どもを叩いたりするケースも多発。

- 文政権の公立保育所の拡張政策についての考え

- 国や保護者としてみれば望ましい方法だと思う。既存の民間の保育所にとって必ずしも良いことではない。まず、民間施設の特性がなくなってしまう。つぎに、子どもは減少しているので、いまの競争が激しい。また、いま無償教育なので、民間保育所の収入も減ってきている。授業料が年3%増えているが、一方、人件費は年26.4%ずつ増加。できれば、差別のないように公立と民間を支援してほしい。

- 利用者層

- 延長保育が特徴である保育所なので、職を持っている女性を最優先にしている。お母さんたちは主に事務職や教師、パートタイマーなどが多い。また、子どもの数が多い(3人以上)家族の場合、専業主婦も利用できる。地勢が高い地域(山の地域)にあるため、周辺の子どものメイン。その中、70%がアパートの子ども、30%がこの地域の原住民(一軒家)。家がちょっと遠い子どももいるので、車送迎のサービス(距離を問わず、月10kウォン)。

- 脆弱家族の対応

- 多文化家族: この地域にはアパート住民(経済的余裕がある家族)が多いため、多文化(移民)家族がない。ほかの地域なら、中国系、ベトナム系、パキスタン系の移民がいるから、ソウル市は特別の対応(特殊な教育プログラム)があるらしい。

- 貧困家族：貧困は親子さんのプライバシーにかかわるため、できるだけ目立たないようにしている。実は、園は両親の収入や財産が知らない。
- 片親家族：貧困家族の同じように、保護者が言わないと知らない。時々、子ども同士の会話や子どもの雰囲気から分かることができる。プライバシー保護のために、保育士はそれについて絶対に言わない。
- 教育セミナーについて
 - 保育者が参加しやすい時間帯を設定しておいた。例えば、夜 7 時。普段聞けないような質問も聞けるので、皆積極的に参加している。育児の参加意識は昔より上がってきた。伝統的な韓国社会は、家父長制の価値観が強かった。そのため、「督迫育児」（育児を全部お母さんに任せる）はいままだに流行っている。いまの段階は、父親の育児参加は様々な困難を直面しているが、社会や父親たちは努力している。



保育所内の様子



保育所内に設置された監視カメラ

2 国内で訪問した児童保護・養育者支援施設とセミナーの記録

下記の施設見学ならびにセミナーを実施した。

③ 2-1 見学した施設一覧

日時	施設の名称と見学の内容	お話を伺った方のお名前
2017年6月14日 13:30-17:00	社会福祉法人飛鳥学院	河村喜太郎氏（飛鳥学院理事長）、川村善一氏（同・院長）、宮崎さん（児童家庭支援センター職員）、うしくださん（臨床心理士）

④ 2-2 開催したセミナー一覧

日時	セミナーの名称と内容	お話を伺った方のお名前
2017年9月23日	「フィリピンでのソーシャルワークの実情」セミナーの開催、於京都大学	エナ・モンテル氏（ソーシャルワーカー）
2017年11月21日	‘When intimate family lives meet public policies: Chinese irregular migrant parents and French child psychiatrists faced with the “Illness Clause”'セミナーの開催、於京都大学	Simeng WANG氏（フランス国立科学研究センター）※京都大学文学研究科アジア親密圏/公共圏教育研究センター（ARCIP）主催

⑤ 2-3 調査記録

日時：平成29（2017）年6月14日（水）午後1:30から午後5:00

聞き取り対象：社会福祉法人飛鳥学院 理事長：河村喜太郎、院長：河村理事長のご子息、児童家庭支援センターで学童保育を担当の宮崎さん、地域で子育て中の母親の支援をしているうしくださん（臨床心理士）

参加者（敬称略）：大森、村田、落合、郭、ヤオ、黒田、イシル、堀口、金、大木、相澤

●河村喜太郎理事長

桜井は、古墳時代の中心地で、万葉集の歌で詠まれた所が随所にある。昭和13年生まれ、79歳、父親が木材業で独立してここに移住してきた。戦争中で親戚のうちに預けられたが、昭和19年にここに帰り、1945年4月国民学校の1年生に入学した。父は、戦争に出ていたが、昭和20年8月ロシアが参戦、父親が乗っていた船が撃沈された。その後、イカダで漂流、8月22日まで日本海を漂流し、アメリカの潜水艦に助けられるという九死に一生の経験をした。9月2日父が帰ってきた。戦災孤児、大阪、焼け野原、ほとんどの都市がアメリカによって爆撃された。身寄りのない子どもたち、親があってもどこにあるのかわからない、そのような子どもたちが特に大阪などにたくさんいた。そんな子どものため、6、7人を保護することからはじまった。昭和23年までは法務省が児童保護を管轄し、24年に児童福祉法が施行されたが、昭和26年に社会福祉事業法が成立するまで国からもどこからもお金が出ていない状態の慈善事業として始まった。昭和22年当時の建物もまだ残っている。現在の子どもの数は、保育所が360名、学童保育が600名、児童発達支援センターでの取り扱いが500ケース、職員は160名、全体でいうと関係している子どもの数は1,500から1,600名ほどになる。

「地域における子育ての社会支援システムの構築」を掲げている。社会福祉法人として、非営利組織として、どのようにマネジメントしていくか。23年前に出された本？から教わった非営利組織の経営、理念（どのようなものを対象としてやるのか）、地域社会において、すべての家庭、すべての子育てに対して子育ての社会支援を行うこと、子どもの自立の支援、報徳精神、社会人としての基本理念としての報徳精神を大事にしている。

システムということを中心に考えている。この考え方は東大システム工学の糸川英夫先生から得たもの。システムとは何か？1人の人間、1つの団体、1つの機関では何もできない。異質を活かし、知恵を借りて、目標を達成しなければならない。システムとはバーベキューの串に例えられる。1人の天才よりも、10人の様々な人が集まったほうが強い。ケースマネジメントにおいても1つのケースに対して、5つの段取り（調査、分析、計画、行動、評価）を行う。母親が直接くることが多いが、母親だけからの情報だけではなく、学校、医者、多くの人から多角的に情報を集める。ほかでそれをやる所はほとんどない。分析、課題を見つけていく。援助計画を立てる、最終的にはチェックする。ソーシャルワーカーは、段取り屋さんとして位置付けている。全国で保護されている子どもは年間4,000人だが、一方で児相に寄せられる相談は年間500,000件もあり、1%に満たず施設や里親が果たしている役割は大きくはない。今から20年ほど前から児童虐待が社会問題になってきたが、児相は虐待かどうかばかりに注目しそれが問題。子どもの貧困や、周辺の問題もある。児童養護施設は、福祉の研究者や人権関係者、大勢の人間からぼろくそに言われてきたがそれはおかしい。日本の児童養護施設はレベルが高い。アメリカ、イギリスでは、サッチャー、レーガンの時代で治療的施設のみが残されて一般の施設がなくなってしまったのではないか（ほんとうのことはわからない）。そうしたイメージで児童養護施設が語られてしまっている。無理やり親子を切り離すのではなく、親が子を（自発的に）あずける「利用施設」にしていかななくてはならないと考えている。社会的養護も子どもの自立をたすける「利用施設」にしていかななくてはならないと考えて

いる。

町づくりということも考えている。ハード面ばかりが推されているが、非営利組織を中心としたコミュニティづくり。小学校の鉦区を1つの単位としてソーシャルワーカーをおき地域支援を行う。医療、福祉、教育、交通などの協働による市民生活全体に関わるコミュニティ構想をする必要がある。

日本の社会は、家族にすべてを丸投げしている。社会的養護は家庭的がいいという神話、思い込みがある。家庭が一番、小規模がいいというのがこればかりではうまくいかない。人の問題もあるし、集団性の利点もある。子どもの自立という一番のテーマが欠落して論じられてしまっている。

在宅の子どもへの支援が非常に重要。発達障害、不登校の問題、家庭における子育ての問題。こういうことに対して、政府、行政、社会は重要性を感じていない。児童家庭支援センターでは、奈良県から820万をもらっているがこれでは2人しか雇えない。ここでは4,000万円の予算を計上している。毎年1,000万足りない。

●院長

経済学部を卒業して、銀行で働いていた。8年半前に、母親が若年性アルツハイマーになり、早めに戻ってきた。帰ってきて、長期的な視野が必要で難しい仕事であると改めて感じた。宮崎さんは、40年近く勤めており、その間に何百人も卒業した。卒園生との交流もある。長くやることが大事。副所長は、勤続43年。曾おばあちゃんから子どもまで、3、4世代にわたって知っている家族もいる。この仕事は長く続けることが大事でこれは福祉におけるすごい強みになる。ノーハウだけではない。トランプ大統領がパリ協定離脱を発表したが、これは今の利益をとっている。アメリカ経済に良くないから離脱して、石炭産業をもっと進めていこうということだ。子育てには時間がかかるし、お金もかかるが、それは将来の子どものためになることだ。子育てを楽しみと思える人もいるが、楽しいと感じられないけれどもそれでも育てていかななくてはならないという人もいて、そういう人のことを考えていかななくてはいけない。

今の出生率は1.4くらい、2050年には1億人を切るといわれているがこうしたこともきちんと考えなくてはならない。人口減少社会で問われる責任。児童養護施設の小規模化もそうだが、そうした話にはほとんど科学的根拠がない。福祉の学問がほとんど学問になってなくて、そもそも家庭というものについても定義がない。家庭と同様の環境における養育の推進というが、そうした一般家庭において、何十万人もの引きこもり、何百万人のフリーターを出してしまっている。

一昨年、児童福祉法の改正がなされた。子どもの最善の利益を達成するためのものだと自画自賛されている。児童養護施設は小規模でないため、良好な家庭的環境とは小規模の施設を指している。里親を見つけ、見つからない場合小規模施設に入るという順番になっている。しかし、児童相談所は里親をそれほど信用していない。

戦後すぐの社会的養護には、戦災孤児が入っていた。その後、貧困の家庭からの入所、1980年代から非行（暴走族、検挙されて）、そして虐待が2000年にできた児童虐待防止法によって一気にクローズアップされた。相談件数は、1,000件から昨年までに10万件を超えた。身体的なひどい虐待が減っている感じがする。一方で、ネグレクト、しつけネグレクト、教育ネグレクト、しつけはダメと言われて見て見ぬ振りをするということが増えているのではないか。虐待とネグレクトは反比例しているのではない

か。虐待へのバッシングが起きると、子へのかかわりが制限されてネグレクトが増えるというように。社会性の欠如、ソーシャルスキルの足りない子どもが増えてきた。インターネットの普及や、核家族、母子家庭で大人と関わる機会が減っているからコミュニケーションスキルが育てられないかもしれない。

子育ては二極化していると思う。手厚い子育てをする家庭とほったらかしにしている家庭。後者のほうに、フリーター、引きこもりが入っている。虐待が社会的養護の中心になり「良い」子育てをする家庭も保護されるようになった。これまでは、貧困などセーフティーネットからこぼれたケースのみが児童養護施設に入ってきていた。これからは、もっと上の方にラインを上げたい。飛鳥学院では「一流の子育て」を目指す。下層に当たる家族を支援するモデルをつくっていききたい。とくに教育を重視している。施設に入ってくる子どもの多くは勉強の習慣がない。さらに勉強は積み上げだが、スタートはマイナスから。3年生で入っていても、1年生の学力しかないような子もいる。それを学校の授業のルールにのれるまで引き上げる。早ければ早い方がいい。子育てって、子どもに自信をつけてあげることだと思う。可愛げを作ってあげる。(ソーシャルスキル?) 自信に繋げる。行ける高校から行きたい高校へ。連鎖をしない、自分でやったことは子どもにもやろうとしている。自分が受けた教育水準を与えてあげようとする。塾に行かせてあげようとか。現在、不幸せである子どもが良い子育てを受けていても甘やかされていると過去を否定する。でも、現在に希望があれば過去の虐待経験も肯定できる。子育ては結果から決まる。子育ては、福祉、教育、医療、地域がそろわないとできない。児童相談施設(厚労省)は不登校を扱わない。教育委員会が不登校を扱う。中学以降は教育委員会と関係ない、不登校が把握されているけど、引きこもりは推定値しかでない。虐待の定義がコロコロ変わっていない、今いじめの定義はやられた側の主観で決まる。虐待がそれに近づいている。心理的な虐待の中にDVが入ってくる、子どもはお父さんがお母さんに暴力振る舞うことを見ていたら心理的な虐待になる。現場、現状、現物を主義としている。プロとしても体罰を一切禁止している。

IQは上がらないというが、環境や教育によって上がるのではないか。来年、寺小屋のような施設、地域で子どもの学習支援をする。足元の所から進めていきたい。

平成12年から児童家庭支援センターを置いており、現在500ケースほどを扱っている。教育機関への根回しをこれまで行ってきた。もともと福祉と教育は別領域で教育現場の情報は福祉へはいかないものだったが、それから小、中学校からの相談が増えた。

相談の始まりはこの発達障害などで入ってくることが多いが、きちんと話を聞くと複雑な背景があることが多い。発達(障害)に関する相談が増えている。

フリースペースあすかといって、不登校の子どもの居場所づくりをおこなっている。また、発達が遅れている子ども向けの事業を始めた。

児童家庭センターは、在宅支援の重要な拠点。ケースマネジメントはここ(飛鳥学院)でしかできていないのではないか。どの児相も忙しくて事務的なことに追われている。ある子どもが発達に関する特別なケアを必要とするかどうかの判断をするサービスも今は無料でやっている。十数年やっても行政がわかってくれない。要対協が児童虐待のネットワークとして各都道府県につくられたが、専門家が参加しておらずほとんど役割を果たせていない。せいぜい虐待対策のネットワークくらい。

日本の里親会は弱い。里親は個人個人で動いている、天理教がやっている里親の会は強い。日本で里親が増えないのは、里親会は弱いというのが1つあるのではないか。里親会と児童養護施設は対立関係に

あった。4年前から里親支援相談員をおけるようになり、里親会と施設が近づいている。

一番課題になっているのは母子家庭、120、130万世帯ある。子どもの貧困に結びついている。自立に影響を及ぼす。子どもは、家庭の中で放置されている。不登校の問題が12万人、小中学生、施設で見れるのは1%にも達していない。学童保育も重要。昔は鍵っ子が多くいたが、誘拐事件もおこっていた。学童保育に対するニーズがすごく多い。180人ぐらいが学童保育にきている。家庭の中での親御さんの不安は、児童相談センターで相談する。発達障害に持っているなど。そういうことを含めて、在宅での子育てを支援する。

今まで1,000人ぐらい入所して、不登校1人もいない。中学校を卒業した段階で、どっかに所属してもらおう。高等学校に行く、新たに、進路が落ち着いていけば、自立に繋がっていく。

保育所の職員は、50、60代が21名、20代が20名、全部で60名、年間2、3人が育休を取る。

質問：児童養護施設しかできないことは？

回答：なんでもできるのではないか。短ければ2、3日、長ければ1ヶ月のショートステイや24時間での在宅支援など。

質問：職員が疲弊しているという問題があるがバーンアウトをどう解決しているのか。

職員に階層を設けて、キャリアづくりをできるようにしている。従来、施設長以下の職員は横並びで、年数の長い、力がある職員が難しいケースを扱い、後輩が先輩のやり方を見ながら成長していた。これは大舎制だからできたこと。小舎制になると、職員が孤立する機会が増える一人になっている。子どもが合わないこともあるし、職員の成長の機会が失われている。トップとボトムの間に中間ポストを設けて、職員を見ている。1人の人に責任をおしつけるようになってきているような構造ではなくて、チームワークでいかに対応するか。みんなでみていく体制をつくる。これもマネジメントの1つ。

質問：学業、勉強以外の習い事はどうなっているか。

回答：くもんをほめるためにやっている。進級賞、枚数賞、担当者賞を設け表彰する。外のクラブもすべて行かせている。空手、柔道、サッカー、野球、ピアノ、書道、リトルリーグ。吹奏楽のフルートを買ったりもした。ただし、ちゃんと続ける、努力することが条件。自分を励ますことであればお金を使うことには前向き。

基本は児童の自立を支援することで親に押しつけがましいことはしない。親も子も満足するように支援することはできない。親の話も聞くがあくまで子どもを中心として状況を描き出すこと。母親については別のカウンセラーを紹介するなど、別のところで支援してもらう。母親も孤立を感じている。何か下のつながりを求めている何かあったら相談できることで安心できる。親を孤立させないことが一番の支援だと考えている。

3 韓国における子ども虐待・マルトリートメント問題の文献レビューの実施

韓国の研究者、趙晟容(Sung-Yong Cho)氏の協力を得て、韓国における子ども虐待・マルトリートメント問題の文献レビューを実施した。

1. 概要

本稿は、韓国における子ども虐待・マルトリートメントに関する経験的な研究と韓国政府および地方自治体により発行された子ども虐待・マルトリートメントに関する政策文書を対象とし、「『児童虐待・マルトリートメント予防のための養育者支援』プロジェクトの文献レビューの手引き」に従って先行研究の知見及び政策の内容を整理したものである。

2. 子ども虐待やマルトリートメントの要因

先行研究において指摘された子ども虐待・マルトリートメントのリスク要因は、作用のレベルに従って、a)子ども及び養育者の個人レベルの要因、b)家族レベルの要因、c)社会レベルの要因の3種類に分けられた。以下では、先行研究における重要な知見を引用しながら、それぞれの要因に分類して要約していく。

a) 子ども及び養育者の個人レベルの要因

子ども及び養育者個人のレベルの要因については、その性別や年齢、健康状況、養育者の学歴、職業、子ども期の被虐待・ネグレクト経験などが指摘されている。

●子どもの性別

- 2016年に児童保護専門機関に受け付けられた事例のなかで児童虐待と判定された18,700件において男児は9,380件(50.2%)、女児は9,320件(49.8%)であって、両者の間で差はあまりなかった(保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017年)。
- 児童保護専門機関に受け付けられた乳幼児および学齢期の児童虐待疑い事例を虐待事例または早期支援事例と判定したときの予測変数を調べた結果、乳幼児モデルをみると、女児は男児より虐待事例と判定される可能性が81%増加し(OR=1.81, p<.001)、このような性別上の差は学齢期の児童虐待事例においても有意な予測変数であった(ガンジヨン・ザンホアジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017年)。
- 虐待が行われた児童福祉施設等の90個の施設において虐待を受けたと判定された369名のなかで男児は226名(61.2%)女児は143名(38.8%)であり、そのなかで虐待の程度がひどい児童90名の場合は男児が54名(60%)女児が36名(40%)であって、施設における虐待の比率その自体はもちろん、その程度のひどい虐待の比率もまた男児のほうが高いことが示された(保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013年)。
- 再虐待を受けた男女の割合は2008年48.5%対51.5%、2009年48.5%対51.5%、2010年47.3%対52.7%で、男児より女児の再虐待率が若干高い(保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年)
- 京畿道の小学校4~6年生の児童虐待の場合、男児が女児より身体的虐待・放任・情緒的虐待を

より多く受けていると出ている（イヒョンギ、2005）。

- ▶ 京畿道では小学校4～6年生の児童虐待の場合、四つの類型ともに男児の児童虐待の発生率が女児のそれより若干上回っている。しかし、京畿道の児童虐待予防センターに2001年1年間通報された1歳未満から17歳までの児童虐待の実態をみると、女児（51.3%）が男児（48.7%）より若干多い（キムヒョンモ、2002年）。

●子どもの年齢

- ▶ 2016年に児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された18,700件における被害児童の年齢をみると、中学生にあたる13～15歳の児童が全体の22.5%で一番多く、小学校高学年にあたる10～12歳が20.6%、小学校低学年にあたる7～9歳が19.2%であって、これらの児童が被害児童の62.3%を占めており、6歳以下の児童は21.5%であった（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017年）。
- ▶ 年齢は学齢期の児童モデルにおいてのみ有意味であり、年齢が1歳増えるたびに虐待事例と判定される可能性も増加した（ガンジヨン・ザンホアジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017年）。
- ▶ 施設で虐待判定を受けた369名の児童のなかで11～14歳の児童は各々10%以上の比率を示しており、全体の46.8%を占めていた。また、各々の施設で虐待の程度がひどい児童を1名ずつ選んで分析した結果、14歳と16歳が14.4%で一番高く、その次は12歳と17歳で11.1%であった。以上から小学校の高学年から虐待の頻度が多くなり、中高生のときは虐待の程度がひどくなることが確認できた（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013年）。
- ▶ 再虐待を受けた児童の年齢別の分布は2007～2009年の3年間全部10～12歳の児童が32.5%-28.6%-31.2%で一番多く、2009年と2010年には13～15歳の児童が27.9%-27.6%、2007年には7～9歳の児童が23.2%で二番目に多かった。これは主に7～15歳の児童に再虐待が行われていることを示すものである（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年）。
- ▶ 身体的虐待中、体罰は3～5歳(M=4.03, SD=3.04)が一番多く、殴打は3～5歳の平均(M=1.37, SD=1.94)が多く、続いて6～8歳(M=1.29, SD=1.83)、9～11歳(M=1.09, SD=1.65)順になっており、乳予期・学齢期の児童が殴打をより多く受けていることが示されている。暴行と障害の場合は15～17歳児童の平均(M=.62, SD=1.45)が一番高いことが示されている。情緒虐待は3～5歳児童の平均(M=5.78, SD=3.94)が一番高く、6～8歳(M=5.73, SD=3.94)、9～11歳(M=5.11, SD=3.80)順であった。これからは体格が大きくなった青少年に対しては身体的虐待または情緒的虐待はよく行われているわけではないが、身体的虐待に限っては一旦それが起こると、かなり深刻な水準に至ることがわかる。放任は15～17歳児童の平均(M=2.21, SD=3.27)が一番高く、12～14歳(M=2.00, SD=2.94)がその次であって、中高生のとき放任される傾向が高くなっている（イゼヨン・ハンジスク、2003年）。
- ▶ 京畿道の児童虐待予防センターに2001年1年間受け付けられた1歳未満から17歳までの児童虐待の実態をみると、1歳未満0.9%、1～2歳2.2%、3～5歳8.9%、6～8歳17.9%、9～11歳28.5%、12～14歳24.6%、15～17歳17%であった（キムヒョンモ、2002年）。

●子どもの身体的、社会情緒的な健康状況

- 2016年児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された18,700件の被害児童の身体的・精神的特長をみると、重複的な答えを合わせて、反抗・衝動・攻撃性、うそ、薬物・飲酒・喫煙、学校不適応、遅い帰宅、盗癖等のような適応・行動の項目が11,334件(32.5%)で一番多く、不安、注意散漫、憂鬱、低い自我尊重感等のような情緒・精神健康の項目が9,814件(28.1%)、衛生問題、言語問題、主な病歴、身体発達遅延等のような発達・身体健康の項目が3,419件(9.8%)、身体的障害および精神的障害のような障害の項目が疑われる場合が1,249件(3.6%)、特性なしが7,732件(22.2%)、その他が1,340件(3.8%)であった。このように被害児童の特性の大部分が児童虐待の行動的徴候に該当するだけに、児童にこのような特性がある場合には注意深く調べる必要がある。ただ、特性なしが22.2%に至ることからもわかるように、特性のない状況においても虐待が起り得ることに興味を持つべきである(保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017年)。
- 身体的虐待・情緒的虐待・放任中、一つの被害を受けた児童は22名(5.7%)、49名(12.6%)、9名(2.3%)であった。同時に二つ以上の重複虐待を受けた児童は55名(14.2%)であって、身体虐待と情緒虐待の重複虐待を受けた児童が36名(9.3%)で一番多く、情緒虐待と放任の重複虐待を受けた児童は8名(2.1%)、身体虐待と放任の重複虐待を受けた児童は3名(0.8%)、身体虐待・情緒虐待・放任を全部受けた児童は8名(2.1%)であった。これは虐待を受けた児童の相当数が重複虐待に露出されていることを示すものである。虐待被害の経験によって児童集団の間に憂鬱不安・注意集中・非行・萎縮・攻撃性・心理社会的な学校環境の認識・主観的な学業成就・学校暴力の被害経験・幸福感等に差異があったが、重複虐待の被害を経験した集団が否定的な結果が一番高く、一つの被害を受けた集団、虐待経験のない集団の順であった(キムセウォン、2016年)。
- 身体的虐待・放任・情緒的虐待をよく受けた児童であればあるほど、交友関係が悪く、性的虐待は学校生活に否定的な影響を及ぼしていた。身体的虐待・性的虐待・情緒的虐待がひどければひどいほど、父母に対する態度が否定的であり、放任と情緒的虐待が少なければ少ないほど、学業成績がよいことが示されている(イヒョンギ、2005年)。

●その他子ども個人レベルの要因

- 児童の問題行動と体罰支持度は統計的に有意な関係を示している。これは、問題行動の多い児童の父母が体罰に対する信念が強い場合、児童の問題行動を体罰をもって訓育する過程で虐待に至る可能性が高くなることもあり、また児童の問題行動が父母を刺激して暴力的な虐待行為を誘発することもあることを示すものである(ヨジンジュ、2008年)。

●養育者の性別(子どもとの続柄)

- 2016年児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された18,700件で男性の虐待

行為者は 10,327 件 (55.2%)、女性の虐待行為者は 8,347 件 (44.6%)、未詳が 26 件 (0.1%) であった (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017 年)。

- 乳幼児の虐待行為者は女性の比率が高かったが、これは児童が幼いほど養育における母の役割が大きく、児童と過ごす時間が父に比べ多いからであると見える (ガンジヨン・ザンホアジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017 年)。
- 虐待行為者 114 名中、性別がわからない 1 名を除いた 113 名を分析してみると、女性が 61 名 (53.3%)、男性が 52 名 (45.6%) であり、性別の間に大きい格差はなかった (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013 年)。
- 2008～2010 年の 3 年間の再虐待行為者の性別をみると、男性が 67.8%-63.9%-63.6%で女性より役 2 倍程度高いとでている (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012 年)。

●養育者の年齢

- 2016 年児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された 18,700 件の場合、40 代が 8,228 件(44.0%)で一番多く、30 代が 5,558 件(29.7%)、50 代が 2,245 件(12.0%)の順であった。40 代と 30 代が一番多いのは、被害児童の一番多い比率を占める小学校高学年と中学生の父母が主に 40 代と 30 代であるからのように見える。19 歳以下の未成年の虐待行為者も 83 件(0.4%)あるが、彼らは虐待行為者でありながら、一方では保護の対象者にもなる (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017 年)。
- 乳幼児モデルにおける行為者の年齢が高くなるほど、虐待事例の判定可能性が減少し (OR=0.98, $p<.05$)、学齢期児童の場合には行為者の年齢が 1 歳高くなる時、虐待事例と判定される可能性が 2%程度高くなった (OR=1.02, $p<.001$)。学齢期児童モデルにおいては行為者特性のなかで養育知識および技術不足 (OR=2.36, $p<.001$)、怠惰・無気力 (OR=2.30, $p<.05$) が虐待事例の判定可能性を高めた (ガンジヨン・ザンホアジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017 年)。
- 114 名の虐待行為者中、年齢不明の 7 名を除いて 107 名を分析してみたら、41～50 歳と 51～60 歳が各々 28 名 (24.6%) であり、31～40 歳が 25 名 (21.9%)、21～30 歳が 22 名 (19.3%) と示されている (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013 年)。
- 再虐待行為者の年齢の分布をみると、40 代が 2008～2010 年の 3 年間連続して 44～49%以上を記録して一番多く、30 代が 30%で 2 番目、50 代が 10～15%で 3 番目であった (保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012 年)。
- 身体的虐待中、体罰の平均は 20 代の父母が一番高く、母が父よりよく体罰を行う傾向があった。殴打の平均は 30 代の母が一番高かった。情緒的虐待の平均をみると、30 代の母が一番よく行う傾向を見せているが、放任の場合には各集団の間に有意な差異は示されていなかった (イゼヨン・ハンジスク、2003 年)。

●養育者の学歴

- ▶ 家庭暴力の程度が高い集団における児童虐待の持続は、父の学歴が小学校である場合は100%で、中学校以上の場合には47.8%であって、児童虐待の持続においては父の学歴が重要な要因となっていた（キミジョン・ヨムドンムン・イギョンウン、2013年）。

●養育者の職業

- ▶ 2016年児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された18,700件の虐待行為者の職業は無職が5,275件(28.2%)で一番多く、サービスおよび販売職2,853件(15.3%)、単純労務職2,654件(14.2%)、専門職2,501件(13.4%)、技術工および準専門職1,364件(7.3%)、未詳1,311件(7.0%)、管理職750件(4.0%)、事務職729件(3.9%)、機械装置操作員532件(2.8%)、農魚畜産業391件(2.1%)、機能職271件(1.4%)、軍人69件(0.4%)の順であった。一方、再虐待事例1,591件の虐待行為者の職業は無職が607件(38.2%)で一番多く、単純労務職291件(18.3%)、サービスおよび販売職255件(16.0%)、技術工および準専門職105件(6.6%)、未詳75件(4.7%)、専門職73件(4.6%)、機械装置操作員52件(3.3%)、管理職45件(2.8%)、農魚畜産業36件(2.3%)、事務職31件(1.9%)、機能職18件(1.1%)、軍人3件(0.2%)の順であった（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017年）。
- ▶ 虐待が行われていた90個の施設の虐待行為者は、全体114名中、生活指導員が59名(51.8%)、施設の長が32名(28.1%)、その他の施設従業員が18名(15.8%)、理事長が2名、志願奉仕者2名、閉鎖された障害者施設の長が1名であった（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013年）。
- ▶ 2008～2010年の3年間の再虐待行為者の職業は毎年無職が30.6%-30.1%-29.8%で一番高く、単純労務職が14.6%-15.5%-15.7%、専業主婦が9.3%-8.8%-8.5%、非正規職が7.3%-5.5%-7.7%、サービス販売職が3.8%-7.4%-7.0%、機能職が4.7%-4.1%-4.8%、小規模自営業職が4.7%-3.1%-4.6%、農漁畜産業が2.0%-3.5%-4.0%の順であった。専門職の場合2010年は4.2%で前年に比べ2～3倍程度増加した（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年）。
- ▶ 父の職業が日傭取の場合、公務員・管理職より身体的虐待がもっと多く発生し、父が一人で働く家庭より共働きの家庭で身体的虐待がもっとよく起こっていた。性的虐待の場合には母が一人で働くケースにおいてのみ有意味な関係が認められ、父の職業、父母の飲酒・宗教、家族の形態はあまり影響を及ぼさなかった。放任の場合にも父母の職業は統計的に有意味な関係を示さなかった（イヒョンギ、2005年）。

●養育者の虐待経験

- ▶ 乳幼児モデルにおいて虐待行為者が幼いとき被虐待の経験を持っている場合、そうでない場合に比べて、虐待事例の判定可能性が188%増加した(OR=2.88, p,.05)（ガンジョン・ザンホァジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017年）。
- ▶ 2008～2010年の3年間の再虐待行為者の特性中、幼いときの被虐待経験と暴力性の比率は7.1%

- 6.6% - 6.8%であって、幼いときの被虐待の経験等が再虐待の発生の重要な原因の一つであることが示されている（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年）。

- ▶ 父母の児童期の被虐待の経験は、養育ストレス、結婚満足度、社会的支持体系等とは異なって、子女に対する身体的虐待・情緒的虐待・放任との関連性が多くないとされている（イゼヨン・ハンジスク、2003年）。

●その他の養育者個人レベルの要因

- ▶ 父の性的役割の固定観念が高いほど、夫婦間の暴力水準が高いほど、父母の指導監督の水準が低いほど、虐待経験のない集団より重複虐待集団に属する可能性が高かった。この研究の結果は重複虐待が児童虐待の重要な側面であり、児童虐待の予防と治療のための実践的介入においてもかならず考慮すべきものであることを示した。しかし、他の先行研究とは違って、父のアルコール問題と依存度、母の憂鬱の水準、学歴、年齢、住居環境、世帯の所得、児童の性別等は、虐待被害経験の類型に統計的に有意な影響を与えなかった（キムセウォン、2016年）。
- ▶ 2008～2010年の3年間の再虐待行為者の個人および社会的特性を分析した結果、養育態度と方法不足が30.3%-33.5%-32.9%で一番高く、社会経済的ストレスと孤立が24.2%-23.3%-23.9%、中毒と疾患問題が15.1%-14.0%-16.6%、性格と気質問題が11.0%-10.9%-9.2%、家族間の宗教問題が8.0%-7.6%-7.7%、幼いときの虐待経験等が約7%順であり、これらが再虐待行為の発生において重要な個人的および社会的特性となることがわかった。（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年）。
- ▶ 身体的虐待・性的虐待・情緒的虐待・放任の児童虐待のあらゆる類型において、父の飲酒頻度が高いほど児童虐待の発生率が高かった（キムヒョンモ、2002年）。
- ▶ 児童虐待関連要因の頻度をみると、父母のアルコールおよび薬物問題が1.72で4番目、不適切な養育態度が1.67で5番目、性格的・気質的欠陥が1.41で6番目に高い平均値を見せた。6番目の性格的・気質的欠陥は、保護者がストレスや怒りを調節できず暴力行為にでることによって、アルコールや薬物中毒と同じく、児童に致命的な身体的傷害を与える可能性が高かった（ヨジンジュ、2008年）。
- ▶ 母が飲酒する場合身体的虐待がもっと増加したが、父の飲酒は身体的虐待とあまり関係がなかった。情緒的虐待の場合にもひどい飲酒癖の母が虐待をよく行うことがわかった。しかし、放任の場合には父と母の飲酒がともに否定的な影響を及ぼしていた。父母が同じ宗教を持つ場合より宗教を持たない場合に身体的虐待の頻度が低かったが、放任の場合には父母の年齢・宗教は統計的に有意でなかった（イヒョンギ、2005年）。
- ▶ 父の飲酒頻度が多いほど殴打や放任がよりよく行われる傾向があったし、毎日飲酒する母はそうでない母に比べてもっとよく体罰・殴打・情緒的虐待・放任をする傾向があった。子女に対する期待感または児童の気難しい気質等によって父母のストレスが大きくなる時、体罰・情緒的虐待・放任がよりよく発生することがわかった。特に児童が泣いたり癩癩を起こしたり煩わしくさせたりする場合には深刻な身体的虐待である暴行や傷害にまで至り得ることがわかった（イゼヨン・ハンジスク、2003年）。

b) 家族レベルの要因

次に子どもと養育者との主たる関わり場であり、特に子どもにとってはもっとも基礎的な日々の生活の基盤となる、家族レベルでのリスク要因をまとめていく。

●家族形態

- 2016年児童保護専門機関に受け付けられた事例中、児童虐待と判定された18,700件中、被害児童の家族の形態をみると、両親父母の家族が9,931件(53.1%)で一番多く、その他の形態(父と子女、母と子女、未婚の父と子女または未婚の母と子女の家庭)が7,681件(41.1%)、代理養育の形態が334件(1.8%)であった(保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017年)。
- 継父または継父母と住む児童が両親父母と住む児童より身体的虐待と放任をより多く受けている。しかし、情緒的虐待の場合は継父母と両親父母の間に有意な差異がなかった。部屋を父母と共有する場合はその他の家族と共有する場合より性的虐待がよりよく発生することがわかった(イヒョンギ、2005年)。
- 2世帯の家族が3世帯または4世帯の家族より父母の放任が多かった($M=1.22$, $SD=2.46$)。独り身の母と子女だけの偏母家族($M=3.92$, $SD=3.02$)が父母と子女だけの核家族($M=1.19$, $SD=2.40$)はもちろん他の家族形態よりも放任の程度が高かった。多世帯住宅($M=2.24$, $SD=2.68$)に住む場合がアパート($M=2.32$, $SD=2.70$)または単独住宅に住む場合より体罰がより多く行われていることがわかった。多世帯住宅の場合住居空間の比率のために父母と子女が家庭内で衝突する可能性が高く、多数の世帯が密集しているためにストレスの要素が多く存在するからであると推定される(イゼヨン・ハンジスク、2003年)。
- 身体的虐待と情緒的虐待においては両親父母より継父母と住む児童の虐待発生率が高いことがわかった。しかし、性的虐待と放任の場合には両者の間に有意な差異がなかった(キムヒョンモ、2002年)。

●社会経済的地位

- 家庭暴力の程度が高く父の学歴が中学校以上の集団において、月平均の世帯所得が310万ウォンより多い場合児童虐待の持続は58.8%であり、310万ウォン以下の場合児童虐待の持続は43.4%であった。家庭暴力の程度が相対的に低い集団において、月平均の世帯所得が650万ウォンより多い場合児童虐待の持続は100%であり、650万ウォン以下の場合児童虐待の持続は32.5%であった(キムミジョン・ヨムドンムン・イギョンウン、2013年)。
- 2008～2010年の3年間の再虐待行為者と月所得水準との関係を見ると、所得がないかあるいは50万ウォン未満が22.7%-21.9%-22.3%、50万ウォン～100万ウォン未満が16.6%-20.1%-26.6%、100万ウォン～150万ウォン未満が6.7%-17.7%-18.3%、150万ウォン～200万ウォン未満が4.7%-8.8%-

11.1%、200万ウォン～250万ウォン未満が2.8%-2.9%-3.4%、250万ウォン～300万ウォン未満が1.0%-2.6%-2.2%、300万ウォン以上が1.0%-1.9%-1.0%で、月200万ウォン未満の低所得層において再虐待行為が多く発生していることがわかった（保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012年）。

- ▶ 父母の失業は児童虐待と放任に直接的に影響を及ぼすだけでなく、経済的な剥奪感、父母の憂鬱の増加、家族機能の低下等の媒介変数を通じても影響を及ぼしており、これは統計的に有意味であった。特に「失業→父母の憂鬱→家族機能の低下→児童虐待と放任」の順序が一番主要な経路であった（イボンジュ・キムゴアンヒョク、2009年）。
- ▶ 児童虐待の関連要因の頻度をみると、低い経済的状态が2.36で一番高い平均値を見せている。これは、児童保護専門機関によって児童虐待と判定された事例の場合、低い経済的状态が虐待発生において一番大きい比重を占めていることを示すものである。低い経済的状态は社会的支持網の欠如と密接な関係を結んでいるが、生計のために仕事に追われ外部との親交を結ぶ時間的余裕が足りず、また貧困による心理的疎外感が重なり自ら外部との関係を遮断する傾向があるからであると見られる（ヨジンジュ、2008年）。

●養育者同士の関係性

- ▶ 本研究で児童虐待の中断および持続に一番大きな影響を与える変数は「家庭暴力の程度」であることが示されている。家庭暴力の程度の平均が2.250以上の高い場合児童虐待の持続は49.2%であり、これは何の予測変数も入れない場合の児童虐待の持続が38.8%であることに比べて大きく増加したものである（キムミジョン・ヨムドンムン・イギョンウン、2013年）。
- ▶ 児童虐待関連要因の頻度をみると、夫婦不和が2.34で2番目に高い平均値を見せており、これは貧困とともに夫婦不和が韓国の児童虐待の発生において大きな比重を占めていることを示したものである（ヨジンジュ、2008年）。
- ▶ 結婚に対する満足度や配偶者に対する信頼度が落ちるとき、夫婦間の言語的・身体的暴力の平均が高いとき、身体的虐待・情緒的虐待・放任がよく発生することがわかった（イゼヨン・ハンジスク、2003年）。

c) 社会レベルの要因

最後に、子ども、養育者、そして彼らが暮らす家庭をとりまく社会レベルのリスク要因についてまとめる。

●教育機関、コミュニティの環境

- ▶ 2005年1年間手を借りた、父母の社会的支持網は「3親等以上の親戚、友達、同僚、隣、社会福祉公務員、宗教団体、社会団体、学校等」であり、児童の社会的支持網は「学校、社会福祉館、勉強部屋、地域児童センター、協会等」と分類される。父母の社会的支持網は貧困に対しては身体虐待の場合に、また夫婦不和に対しては身体虐待と放任の場合に有意な調節効果を見せた。これに反し

て、児童の社会的支持網は貧困に対しては放任の場合に、また夫婦不和に対しては情緒虐待と放任の場合に有意な調節効果を見せた（ヨジンジュ、2010年）。

- ▶ 児童虐待関連要因の頻度をみると、社会的支持網の欠如が1.93で3番目に高い比重を占めており、児童虐待が社会的孤立のような環境的要因と深い関連があることを見せている（ヨジンジュ、2008年）。
- ▶ 周りに頼ったり手を借りたり助言をもらったりすることができる親戚または隣等の誰かが存在する場合は、そうでない場合より相対的に子女に対する身体的虐待・情緒的虐待・放任をより少なく受けており、父母の社会的支持体系と虐待との間に関連があることがわかった（イゼヨン・ハンジスク、2003年）。

3. 文献リスト

3-1. 子ども虐待の要因調査に関する文献リストおよび調査方法の概要

ガンジョン・ザンホァジョン・キムギョンヒ・キムミギョン、2017、「家庭内の乳幼児の虐待事例の予測変数に対する研究：学齢期児童虐待事例に対する理解を並行して」『児童と権利』、21（2）：177-202.

本研究では全国児童保護専門機関に2012年から2014年9月まで受け付けられた乳幼児3,845名、学齢期児童10,584名の児童虐待事例を分析対象として児童、行為者、家族、事例の特性を調べて、児童虐待事例の予測変数を明らかにすることを目的とした。乳幼児虐待の場合は学齢期児童の虐待事例に比べて、虐待の深刻性、虐待証拠、再発の可能性以外に、より多様な行為者の特性が影響を与えていることがわかった。特に行為者の特性中、幼いときの虐待経験、養育の知識と技術の不足、ストレス、アルコール中毒等が統計的に有意な予測変数であることがわかった。

キムセウォン、2016、「児童の重複虐待の被害経験と父母及び家族特性に対する研究」『児童と権利』、20（4）：583-607.

児童の重複虐待の被害経験の如何によって児童発達結果における差異を把握し、重複虐待の被害予測において父母の要因を調べることを目的とする。「2015年度韓国福祉パネル児童付加調査」の対象児童471名中、父または母あるいは父母のある家庭の子女であって、児童虐待設問事項に答えた388名を対象として調査を行ったが、虐待経験のない児童は253名（65.2%）で、一つ以上の虐待を経験した児童は135名（34.8%）であった。

キムミジョン・ヨムドンムン・イギョンウン、2013、「CART分析を活用した児童虐待の予測要因に関する研究」『被害者学研究』、21（1）：293-311.

本研究では2004年から2006年にかけて行われた韓国青少年パネル調査の小学校4年生の1～3次年度資料を用いた。分析対象は、1次年度パネル調査資料で虐待を受けていた児童のなかで2次年度と3次年度にその持続と中断が確認された570名の小学生を対象として分析を行った。2次年度と3次年度に虐待がしばらく中断されてからまた再発生した場合は除いた。

ヨジンジュ、2010、「児童虐待の類型別の社会的支持網の調節効果：貧困及び夫婦不和と児童虐待の関係」『児童と権利』、14 (3) : 427-448.

本研究は貧困、夫婦不和が児童虐待に及ぼす影響に対して父母および児童の社会的支持網の調節効果を虐待の類型別に検証したものである。韓国福祉パネルの1次年度（2006年）の資料を分析したが、このパネルでは7,072世帯、14,469名の世帯構成人が調査に参加し、児童は小学校4、5、6年生の759名であった。

イボンジュ・キムゴアンヒョク、2009、「失業が児童虐待に影響を及ぼす経路」『児童と権利』、13 (2) : 177-197.

本研究はソウル11個の小学生1,785名（低所得地域8個の学校1,102名、非低所得地域3個の学校683名）とその父母を対象とした「ソウル児童パネル1次年度（2004）」の「ソウルの児童発達と福祉状態の調査」をもとに行われた。この調査では学業成就、社会的・情緒的発達、児童虐待および放任、非行、健康、家族環境等に対する詳細な情報が調べられた。本研究では児童虐待と放任、経済的剥奪感、父母の憂鬱、家族機能等の変数と家族貧困、家族構造、児童の性、兄弟順序等に対する情報が分析に利用された。

ヨジンジュ、2008、「児童虐待の発生要因に対する生態学的分析－慶尚北道東部圏の児童を中心として」『保健社会研究』、28 (1) : 3-26.

本研究は児童虐待の発生要因を総合し生態的モデルを基礎として、各要因が虐待発生に露出された程度を比較分析し、虐待発生するとき各要因の間の相関関係を検証したものである。既存の資料を再分析する2次資料分析（secondary data analysis）の研究手法を使用した。活用された資料は慶尚北道の東部圏にある1個の児童保護専門機関に2004年12月から2006年7月にかけて通報、受付された事例のなかで児童虐待と判定されたもの中、「児童虐待危険尺度」で2次的に調査された資料129件を活用した。この尺度66個の質問事項中、児童保護専門機関の実務者1名および児童臨床専門家2名と協議して研究者が設定した分析枠と変数にあわせて、適切な38個の質問事項を選定した。これは、父母領域と関連しては性格的・気質的欠陥（精神障害も包含）4個、アルコール・薬物問題1個、被虐待経験1個、不適切な養育態度6個、養育ストレス4個、衰弱な健康状態3個であり、児童領域と関連しては身体的・精神的障害4個、問題行動8個、家族特性領域と関連しては低い経済的状态1個、夫婦不和2個、地域社会領域と関連しては社会的支持網2個、文化的領域と関連しては体罰支持2個であった。

イヒョンギ、2005、「児童虐待の類型別の危険要因に関する研究」『社会福祉政策』、23 : 77-108.

本研究は2001年京畿地域の小学校4、5、6年生を対象として、設問事項に答えた6,000個の設問紙を回収して行ったが、応答率は98%以上であった。男児と女児の割合は50.6%対49.4%であり、都市の児童と農村の児童の割合は73.1%対26.9%であった。父母の形態は両親父母98.4%、継母0.8%、継父0.6%、継父母0.2%であり、就職形態は父母共働き51.2%、父一人働き44.2%、母一人働き3.1%、父母が無職の場合0.7%であった。父の職業は事務職が38.2%で一番多く、日傭取が0.4%で一番少なかった。父の

年齢は30代20.1%、40代77.8%、50代2%、60代0.1%であった。発生率は身体的虐待23%、性的虐待0.9%、放任51.1%、情緒的虐待31.7%であった。

イゼヨン・ハンジスク、2003、「児童、父母および家族環境の特性による児童虐待の実態の研究」『児童学会誌』、24(2):63-78.

本研究は全国単位で父母を対象として、児童虐待と関連のある児童、父母および家族環境の特性と各特性による虐待の程度を把握することに目的がある。全国郵便番号簿を基礎と地域比例の系統抽出(systematic sampling)の方法を利用して、全国の18歳未満の子女を持つ1,094世帯を、全国の人口比率、単独住宅対多世帯住宅およびアパートの比率を考慮して表集し、各世帯に対する専門調査員による直接面接調査を実施したし、児童虐待行為と関連しては父と母両方の行為について答えることを要請した。答えた者の比率は実母が83.6%、実父が16.1%であった。身体的虐待を「体罰」、「殴打」および「暴行と傷害」と細分して分析したが、体罰は手または細い木の枝のようなもので手のひら、尻、ふくらはぎ等を殴る行為であり、殴打はこぶし、足または棒等でむやみに殴る行為である。暴行と傷害は乱暴な行動および他人の体に傷を負わせる行為と定義した。

キムヒョンモ、2002、「京畿道の児童虐待の実態および児童保護体系の現況の分析」『児童権利研究』、6(2)、246-266.

本研究は京畿道の児童虐待の実態調査の結果と児童保護体系の現況とを分析することに目的がある。児童虐待の実態を把握するために群集表集方法(cluster sampling)を利用したが、京畿道を五つの生活圏域と分けた後、また各圏域を市・郡と分けて、各生活圏と市郡の児童数の比率を適用して表本を割り当て、調査を行った。調査対象は性的虐待のような敏感な質問と調査の妥当性を考慮して小学校4~6年生に限定したが、京畿道の4~6年生全体の403,638名の1.6%の6,500名を選定した後、最終的に6,443名に対する調査結果を分析した。本調査の評価尺度は一般事項と学校生活の関連事項7個、父母関連事項8個、児童虐待関連事項21個等総81個の事項と構成されている。京畿道の児童虐待の発生率は身体的虐待17.8%、性的虐待0.4%、情緒的虐待84.7%、放任57.1%であるが、情緒的虐待の場合は父母が意図的に虐待をするという解釈よりは無意識的にしてしまう言葉と行動が児童の情緒的発達を阻害しているという解釈が妥当である。性的虐待の発生率はかなり低いほうであるが、これは実際の発生率があるのまま反映されたとするよりは、質問事項の数が4個に過ぎず、その妥当性が高くないと解釈したほうが望ましい。これに反して、京畿道の児童虐待予防センターに2001年1年間受け付けられた1歳未満から17才までの児童虐待を見ると、身体的虐待25.9%、性的虐待6.3%、情緒的虐待4%、放任20.1%、重複虐待43.7%であった。

3-2. その他文献リスト

保健福祉部・中央児童保護専門機関、2017、『2016年全国児童虐待現況報告書』

保健福祉部・中央児童保護専門機関、2013、『2013年度児童虐待事例分析Ⅱ－児童福祉施設を中心として』

本研究では2010年から2012年まで3年間の児童虐待疑心事例として児童保護専門機関に受け付けられた165個の施設の586名の児童を対象として分析したが、これらの施設について現場調査を実施した結果、90個の施設において369名の児童が施設従事者から虐待を受けたと判明された。本研究においては「施設児童虐待」は「児童福祉施設、児童を保護している障害者施設と未認可施設等、その他の施設を含めて、施設従事者によって児童に行われた虐待」と定義した。また、当該事例を基に児童と虐待行為者の特性、具体的な虐待行為と状況、虐待による結果、虐待判定の如何と理由、児童保護専門機関の措置と内容等について分析した。

保健福祉部・中央児童保護専門機関、2012、『韓国の児童虐待の再発生の実態に関する研究報告書』

本研究は、2007年1月1日から2009年12月31日まで全国の児童保護専門機関に受け付けられて国家児童虐待電算システムに登録された児童虐待事例を2010年12月31日まで追跡し再発の有無を調査した事例を基礎として、児童虐待現況報告書の虐待再発生の児童の特性と虐待行為者の特性を分析し、再虐待を受けた児童と、はじめの受付の後虐待が持続しなかった虐待児童とが、どんな特性をみせるのかを分析することによって、児童虐待の再発生の特性と原因を見つけようとするものである。韓国の児童虐待現況報告書においては、「再虐待」事例は児童保護専門機関の介入が終了した後に再び受け付けられた事例のなかで児童虐待と判定されたものと定義されている。

よりよい子育て支援についてのお尋ね お子さんのお名前 () 年齢 (歳 か月)

(男・女)

これは、よりよい子育て支援のために皆様のご意見やお子さんのおうちでの様子をお伺いするものです。この目的以外に使用するものではありませんし、個人の名前が出ることはありませんので、どうかありのままをご記入下さいますようお願い申し上げます。

★ご記入にあたってのお願い★

選択肢がある質問は当てはまる番号ひとつに○を、「あてはまるものすべて」とした質問は**あるものすべてに○**を付けて下さい。

ご不明な点は右記までご連絡下さい。(連絡先：京都大学社会学研究室**)

1. あなたと園を利用するお子さんとの関係に○を付けてください。 1) 母親 2) 父親 3) 祖母 4) 祖父 5) その他 ()

2. 世帯構成：同居人数（お子さん含む） () 名 →同居している方すべてに○をしてください。

- 1) お子さんの実母 2) お子さんの実父 3) お子さんの母方の祖母 4) お子さんの母方の祖父 5) お子さんの父方の祖母
6) お子さんの父方の祖父 7) お子さんの年上のきょうだい 8) お子さんの年下のきょうだい 9) 母親の代わりとなる方
10) 父親の代わりとなる方 11) その他親族（具体的に)
12) 親族以外（具体的に)

3. 1日にお子さんと向き合って一緒に遊ぶ時間はどれくらいとれますか。(但し、睡眠時間は除く)

- 1) 平日 約 時間 分 2) 休日 約 時間 分

4. お子さんと一緒に遊ぶ機会（子どもと向き合って過ごすこと）はどのくらいありますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

5. お子さんと一緒に買い物に行く機会はどのくらいありますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

6. お子さんに本を読み聴かせる機会はどのくらいありますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

7. あなたは童謡やお子さんの好きな歌と一緒に歌いますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

8. お子さんと公園など散歩に行く機会はどのくらいありますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

9. お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚とどの程度の頻度で訪問したりされたりしますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

10. お父さん（お母さん）は（または父親（母親）代わりとなる方）どの程度協力的ですか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

11. お子さんは両親（または母親、父親の代わりとなる方）と一緒に食卓を囲んで食べるのは何回くらいですか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

12. お子さんがわざと牛乳をこぼしたらどうしますか。あてはまるものひとつに○を付けてください。

- 1) 子どもをたたく 2) 口でしかる 3) 何等かの方法で悪いことをわからせる (内容 ;)
4) 別の方法でこぼさないように考える 5) その他 ()

13. 先週は何回くらいお子さんをたたいたりしましたか。

- 1) たたかない 2) 1~2回位 3) 3~4回位 4) 5~6回位 5) ほぼ毎日

14. 夫婦 (または母親、父親の代わりとなる方) で子どもの話をする時間はどの程度とれますか。

- 1) めったにない 2) 月に1~3回 3) 週に1~2回 4) 週に3~4回 5) ほぼ毎日

15. 園以外に、日常的にお子さんの面倒を見ている人がいますか。

1) いない 2) いる→それは誰ですか。あてはまるすべての番号に○を付けてください。

- 1) お子さんの実母 2) お子さんの実父 3) お子さん母方の祖母 4) お子さんの母方の祖父 5) お子さんの父方の祖母
6) お子さんの父方の祖父 7) お子さんのきょうだい 8) 母親の代わりとなる方 9) 父親の代わりとなる方
10) その他の同居の親族 () 11) その他の別居の親族 () 12) 友人 13) 隣人
14) 近所の人 15) 職場の人 16) ベビーシッター 17) 自治体や民間の施設 18) その他 ()

16. 子育てについて誰か相談できる人はいますか。

1) いない 2) いる→それは誰ですか。あてはまるすべての番号に○を付けてください。

- 1) 配偶者 (代わりの方含む) 2) 祖父母 3) 友人 4) 同居の親族 5) 別居の親族 6) 隣人 7) 近所の人
8) 園などの職員 9) ベビーシッター 10) 職場の人 11) 自治体や民間の施設 12) その他

17. お子さんが何歳の頃から、託児所、ベビーホテル、ベビーシッターなどの保育サービス (保育所は除く) を利用し始めましたか。

- 1) 利用したことがない 2) 利用した (お子さんが 歳 ヶ月の頃から)

18. 次の自治体による子育て支援のうち、利用したことがあるものすべてに○をしてください。

- 1) 地域子育て支援拠点事業 2) 一時預かり 3) 乳児家庭全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん事業)
4) 養育支援訪問事業、その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業 5) ファミリー・サポート・センター
6) 子育て短期支援事業 (ショートステイなどの宿泊を伴う預かり) 7) 延長保育 8) 病児・病後児保育 9) 妊婦健康診断への助成

19. お子さんは園に行くのを楽しみにしていますか。

- 1) たいへん楽しみにしている 2) まあ楽しみにしている 3) どちらでもない 4) あまり行きたがらない 5) 嫌がっている

20. お子さんはいつも、何時に起きて何時に寝ますか。一番多い時間を、平日と休日それぞれ記入してください。

<平日> 起床 (AM・PM) 時 () 分ごろ 就寝 (AM・PM) 時 () 分ごろ

<休日> 起床 (AM・PM) 時 () 分ごろ 就寝 (AM・PM) 時 () 分ごろ

21. お子さんの睡眠は規則的ですか。

- 1) いつも不規則 2) ととき不規則 3) ほぼ規則的 4) いつも規則的 5) わからない

22. あなたのストレスはどの程度ですか。ひとつに○を、またその内容についても該当するものすべてに○をつけてください。

(無い・低い・中程度・やや高い・とても高い) → 内容 (子育て・体調・仕事・人間関係・その他 ())

23. お子さんをご両親の国籍を教えてください。複数の国籍をお持ちの方はあてはまるものすべてに○をつけて、空欄に国名をご記入ください。

例) お子さんが日本・ドイツ・イギリスの3重国籍の場合 お子さん: 日本・外国 (ドイツ・イギリス)

お子さん: 日本・外国 () お母さん: 日本・外国 ()

お父さん: 日本・外国 ()

24. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。

- 1) 一戸建て (持ち家) 2) 一戸建て (賃貸) 3) 分譲マンション 4) 民間の賃貸マンション
5) 都市再生機構 (旧公団)・公社などの賃貸住宅 6) 公営住宅 7) その他 ()

25. あなたは現在の地域にどれくらい住んでいますか。() 年 (1年未満の方 ヶ月)

26. お母さん・お父さんの職業を【A群】と【B群】から1つずつ選び、それぞれの()内に番号をご記入ください。複数の仕事をしている場合は、主要なものをお答えください。例)パートタイム事務職(A群:③)(B群:d)、専業主婦(A群:⑧)(B群:i)

母さん(A群:) (B群:) お父さん(A群:) (B群:)

A群】 ①経営者・役員 ②常時雇用の一般従業者 ③臨時雇い・パート・アルバイト ④派遣社員・契約社員・嘱託社員
 ⑤自営業・自由業 ⑥自営業の家族従業者 ⑦内職 ⑧専業主婦 ⑨無職 ⑩その他()

B群】 a 販売職・サービス業 b 管理的職業 c 専門職・技術職 d 事務職・営業職 e 技能職・労務職・作業職
 f 農林漁業職 g 不明 h その他() i 働いていない

27. お母さん・お父さんは平均して週に何時間働いていますか。複数の仕事をしている場合は、合計時間をご記入ください。
 お母さん(時間) お父さん(時間)

28. お子さんが誕生後に、お母さん・お父さんは育児休業を取得しましたか。それぞれの()内に番号をご記入ください。
 お母さん() お父さん()

1)取得した(ケ月間) 2)取得したのち退職した 3)取得せず、出産を機に退職した
 4)取得せず、就労を続けた 5)働いていなかった 6)その他()

29. お母さんは、お子さんが何歳の時に仕事に復帰されましたか。復帰された時のお子さんの年齢をご記入ください。(歳 ケ月頃)

30. 産後24時間以内に、お子さんに母乳を与えることを試みましたか。 1)試みた 2)試みていない

31. お子さんが何ヶ月になるまで母乳を与えましたか。(母乳と一緒に母乳以外の栄養物(乳児用粉ミルクや離乳食など)を与えている場合も含む)
 1) 与えていない 2)与えた (歳 ケ月頃まで)

32. おさしつかえなければ昨年1年間の収入(税込み)をお答えください。お母さん・お父さんの収入には仕事からの収入についてお答えください。世帯全体の収入には年金や児童手当・児童扶養手当・生活保護などの社会保障給付費、養育費や仕送りなど全ての収入を含めてください。
 お母さん() お父さん() 世帯全体()

1)なし 2)100万円未満 3)100~200万円 4)200~300万円 5)300~400万円 6)400~600万円 7)600~800万円 8)800万円以上

33. ご家庭で、家計管理をしているのは主にどなたですか。ひとつだけ○をしてください。
 1)主にお母さん 2)主にお父さん 3)共同管理 4)その他()

34. あなたはこれまでに、配偶者から暴力(精神的なものも含む)暴行を受けた経験がありますか。1)はい 2)いいえ

35. あなたは子どもの時に、親から暴力(精神的なものも含む)を受けた経験がありますか。1)はい 2)いいえ

36. お子さんを育てながら、育児の自信が無くなると感じることはありますか。1)よくある 2)時々ある 3)あまりない 4)全くない

37. 子育てについてお困りのことはありますか。(お金がかかる、時間がかかる、手伝ってくれる人がいない、仕事との両立が難しい、など)

38. 子育てで支援について何かご意見やご希望がありましたら書いてください。

※下記の質問は、外国につながるご家庭の方のみお答えください

39. いつから日本に（長期）滞在していますか。

お母さん 1)生まれたときから 2) (西暦 年・ 歳のときから)
お父さん 1)生まれたときから 2) (西暦 年・ 歳のときから)
お子さん 1)生まれたときから 2) (西暦 年・ 歳のときから)

40. お母さん・お父さんが取得している資格を教えてください。

お母さん 1)ない 2)ある (具体的に)
お父さん 1)ない 2)ある (具体的に)

41. 家庭での使用言語を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけて、空欄に使用言語をご記入ください。

例) 日本語・英語・ポルトガル語を使用している場合 1)日本語 2)外国語 (英語・ポルトガル語)
1)日本語 2)外国語 ()

42. お子さんの母語（一番得意な言語）は何語ですか。

1) (語) 2)わからない

43. 言葉の発達に関してお気づきのことがあれば書いてください。

例) 来日して1年以上たつのに、保育園での日本語の日常会話（友だち、先生）に支障がある、家庭で家族との会話に支障があるようだ、など。

ご協力ありがとうございました。

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

6. How often do you read to your child?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

7. How often do you sing songs with your child?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

8. How often do you go to park with your child?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

9. How often do you and your child meet with friends or relatives with children of a similar age?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

10. How often does your spouse, partner, or other care giver help you with the child?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

11. How often does your child eat meals together with both parents?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

12. What do you do if your child spills milk purposely?

1) spank the child 2) scold the child 3) discipline in another way (content: _____)
4) determine how to prevent it in the future 5) other (_____)

13. How many times did you spank your child last week?

1) never 2) 1~2times 3) 3-4times 4) 5-6times 5) almost every day

14. How many times do you have a chance to talk with your partner about your child?

1) rarely 2) 1~3/ month 3) 1~2/ week 4) 3~4/ week 5) almost every day

15. Aside from the early childhood education and care centers, is there someone who take care of the child regularly?

1) No 2) Yes→Please encircle them all.

1) Child's mother 2) Child's father 3) Child's maternal grandmother 4) Child's maternal grandfather 5) Child's paternal grandmother 6) Child's paternal grandfather 7) Child's siblings 8) Child's step-mother (including common-law) 9) Child's step-father (including common-law)

- 10) Relatives living with the family (Please indicate: _____)
 11) Relatives residing elsewhere (Please indicate _____)
 12) Friend 13) Next door neighbour 14) Neighbour 15) Office mate 16) Baby sitters
 17) Municipal or private facilities 18) Other (_____)

16. Do you have someone to consult with about childcare?

- 1) No 2) Yes → If yes, circle all the following that apply:
 1) spouse 2) grandparent 3) friend 4) relative 5) neighbor 6) child care professionals from the nursery
 7) director of nursery 8) babysitter 9) other

17. From what age of the child did you start using private child-rearing support (nursery, baby hotel, baby sitter, etc.)?

- 1) Never used 2) Used (from _____ year _____ month old)

18. Among the following public child-rearing support programs, please choose all that you have used or availed of.

- 1) Local Children's Center to enhance childcare support 2) Short-term child-care
 3) Home visiting service for infants (*Konnichiwa Akachan* program)
 4) Child support visiting program, and/or other programs to support children who are in need or need protection (*Youiku Shien Houmon Jigyou*)
 5) Family Support Center 6) Short-term assistance program for child-rearing (Overnight childcare)
 7) Extended-hours child care 8) Day care for sick children
 8) After school child health care program (After school child club *houkago jidou kurabu*)
 9) Financial support for medical examination for pregnant women

19. Does your child feel happy when go to the early childhood education and care centers?

- 1) very happy 2) happy 3) neither 4) do not want to go 5) hate to go

20. When does your child get up and go to sleep? Please write down the most frequent time.

- [weekdays] get up (AM·PM) hour (_____) minutes go to sleep (AM·PM) hour (_____) minutes
 [weekend] get up (AM·PM) hour (_____) minutes go to sleep (AM·PM) hour (_____) minutes

21. Does your child have a regular sleep?

- 1) Often not 2) sometimes not 3) almost regular 4) often regular 5) not sure

22. What are you feeling about stress? Circle all the following that apply:

please add up the total of your working hours and indicate them below.

Mother (hours) Father (hours)

28. Did the mother or the father avail of child-care (maternity) leave?

Mother () Father ()

- 1) Yes (How many months?) 2) Yes, but retired afterwards
3) No, I resigned upon pregnancy 4) No, I continued working 5) I did not work
6) Other ()

29. When did you (the mother) start working again after giving birth?

When the child was () year(s) and () month(s)

30. Did you (the mother) try to feed the child with breast milk within 24 hours after birth?

- 1) Yes 2) No

31. Until what age did you (the mother) feed your child with breast milk (it can be accompanied with other nourishment such as powdered milk, baby food, etc.)

- 1) No, I did not 2) Yes, I did (Until () year(s) and () month(s))

32. How much was the parents' annual income (tax included) in the past year? Please indicate the number in the blanks. Please also answer the annual income of the household that should include pension, child rearing allowances, welfare payment, child-rearing costs paid by the former spouses, etc.

Mother () Father () Household ()

- 1) None 2) Below 1,000,000 yen 3) 1,000,000 to 2,000,000 yen
4) 2,000,000 to 3,000,000 yen 5) 3,000,000 to 4,000,000 yen
6) 4,000,000 to 6,000,000 yen 7) 6,000,000 to 8,000,000 yen 8) Above 8,000,000 yen

33. Who mainly manages the household budget? Please encircle only one.

- 1) Mainly the mother 2) Mainly the father 3) Co-management
4) Others (Please indicate:)

34. Have you experienced violence (physical or emotional) from a spouse?

- 1) Yes 2) No

35. Have you experienced violence (physical or emotional) from a parent?

- 1) Yes 2) No

36. Do you feel no confidence with child care?

1) often 2) sometimes 3) rarely 4) never

37. Is there anything you feel distressed or inconvenienced in bringing up your child? (money, time, childcare supporter, work-life-balance, etc.)

38. Please write down your comments or requests regarding childcare support.

※Please answer the questions below only if you have family abroad.

39. When did you start residing (long-term) in Japan?

Mother: 1) Since birth 2) from AD () , age ()

Father: 1) Since birth 2) from AD () , age ()

Child: 1) Since birth 2) from AD () , age ()

40. Qualifications received by mother and father

Mother 1) None 2) Yes (Please indicate:)

Father 1) None 2) Yes (Please indicate:)

41. Languages spoken at home (Please indicate all languages spoken)

1) Japanese 2) Others (Please indicate:)

42. Child's mother tongue (language spoken best by child)

1) () 2) Do not know

43. If you have any concerns regarding the language development of the child, please write them down.

(Example: 1 year after coming here to Japan, the child still has difficulty conversing in Japanese to friends and teachers at the day-care, the child has difficulty conversing with parents and relatives at home, etc.)



育儿支援环境提升项目 调查问卷

儿童姓名 () 年龄 (周岁 个月) 性

别 (男・女)

本调查旨在了解您的孩子在家的表现，并听取您对提升当前育儿支援环境的宝贵意见。您的回答只会用作今后提升育儿支援工作的参考，并不会涉及孩子姓名等隐私内容。因此请您根据您和孩子在日常生活中的真实情况回答，感谢您的理解和协助。

★回答过程中的注意事项★

如未标注多选，请在最符合题目设问的一项序号上划圈。如果题目注明“请选择符合题目设问的所有选项”，请在符合设问的全部选项的序号上划圈。

如果您对调查内容存在疑问，欢迎您通过以下联系方式随时联系我们。

(联系单位：京都大学社会学研究室**)

1. 您是孩子的 ()。 1) 母亲 2) 父亲 3) 祖母或外祖母 4) 祖父或外祖父 5) 其他 请注明 ()

2. 孩子的家庭结构：您家一起居住的有 () 口人 (包括孩子) →请在下列选项中标出所有同居人。

- 1) 孩子的生母 2) 孩子的生父 3) 孩子的外祖母 4) 孩子的外祖父 5) 孩子的祖母
6) 孩子的祖父 7) 孩子的哥哥、姐姐 8) 孩子的弟弟、妹妹 9) 代理母亲职责的人
10) 代理父亲职责的人 11) 其他亲属 (与孩子的关系是)
12) 非亲属 (与孩子的关系)

3. 您每天和孩子一起面对面玩耍的时间有多长？(睡眠时间除外)

- 1) 平日：约 小时 分 2) 休息日：约 小时 分

4. 您经常和孩子一起面对面玩耍吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

5. 您经常和孩子一起购物吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

6. 您经常读书给孩子听吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

7. 您经常给孩子唱儿歌或孩子喜欢的歌吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

8. 您经常和孩子一起去公园玩或外出散步吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

9. 你经常带孩子去到朋友家或者亲戚家找同龄的小伙伴玩，或邀请他们来家里玩吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

10. 您的配偶 (或者代理孩子父亲或母亲职责的人) 经常帮助您照看孩子吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

11. 孩子经常和爸爸妈妈 (或者代理孩子父亲或母亲职责的人) 一起同桌吃饭吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

12. 如果孩子故意将牛奶打翻，这时候您会如何处理。请标出所有符合的选项 (多选)。

- 1) 打孩子 2) 责备孩子 3) 用其他方式让孩子知道自己的错误 (具体方式：)
4) 想办法用其他方式让孩子不要再犯 5) 其他 ()

13. 在过去的一周里您打过孩子几次？

- 1) 没有打过 2) 1~2次 3) 3~4次 4) 5~6次 5) 几乎每天

14. 您和您的配偶 (或者代理孩子父亲或母亲职责的人) 经常一起聊孩子的事情吗？

- 1) 很少 2) 每月1~3次 3) 每周1~2次 4) 每周3~4次 5) 几乎每天

15. 除幼儿园外，平时有其他人帮您照看孩子吗？

- 1) 没有 2) 有 → 谁会帮您照看孩子？请标出所有符合的选项 (多选)。
1) 孩子的生母 2) 孩子的生父 3) 孩子的外祖母 4) 孩子的外祖父 5) 孩子的祖母
6) 孩子的祖父 7) 孩子的兄弟姐妹 8) 代理母亲职责的人 9) 代理父亲职责的人
10) 住在一起的其他亲属 () 11) 其他不住在一起的亲属 () 12) 朋友 13) 邻居
14) 家附近的其他人 15) 同事 16) 保姆 17) 政府或者民间机构 18) 其他 ()

16.您在育儿过程中遇到问题时，有其他能够咨询的人吗？

1) 没有 2) 有 → 您能够咨询谁呢？请标出所有符合的选项（多选）。

- 1) 配偶（包括代理孩子父亲或母亲职责的人） 2) 祖父母或外祖父母 3) 朋友 4) 住在一起的其他亲属 5) 不住在一起的其他亲属
6) 邻居 7) 家附近的其他人 8) 幼儿园等保育机构的员工 9) 保姆 10) 同事 11) 政府或者民间机构 12) 其他（ ）

17. 孩子从几岁开始利用托儿所（託児所）、婴儿旅馆（ベビーホテル）、保姆（ベビーシッター）等保育服务（保育所除外）？

1) 没用过 2) 用过（孩子从 周岁 个月时开始利用）

18. 请在下列政府提供的育儿支援制度中，标出您使用过的全部服务（多选）。

- 1) 地区育儿支援据点事业（地域子育て支援拠点事業）
2) 临时托儿服务（一時預かり）
3) 婴儿家庭全户访问事业（乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業））
4) 养育支援访问事业，或其他以需要支援儿童、需要保护儿童为对象的事业（養育支援訪問事業、その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業）
5) 家庭服务中心（ファミリー・サポート・センター）
6) 短期育儿支援事业，或类似的短期托儿服务（子育て短期支援事業（ショートステイなどの宿泊を伴う預かり））
7) 延长保育（延長保育）
8) 患病儿童或康复期儿童保育（病児・病後児保育）
9) 孕期妇女体检补助（妊婦健康診断への助成）

19. 您的孩子喜欢去幼儿园吗？

1) 十分喜欢 2) 比较喜欢 3) 说不出喜欢还是不喜欢 4) 不是很喜欢 5) 讨厌

20. 孩子每天几点起床，几点睡觉？请您区分平日和休息日，填写孩子最经常的起床和睡觉时间。

<平日> 起床（AM・PM ）时（ ）分左右 就寝（AM・PM ）时（ ）分左右

<休息日> 起床（AM・PM ）时（ ）分左右 就寝（AM・PM ）时（ ）分左右

21. 孩子的睡眠规律吗？

1) 一直不规律 2) 偶尔不规律 3) 基本上规律 4) 一直规律 5) 不知道

22. 您感觉自己的压力大吗？压力程度为单选，请选择最适合的一项。压力的内容为多选，请标出所有符合的选项。

压力程度：（没有・低度・中度・较高・很高） → 压力内容（育儿・身体状况・工作・人际关系・其他（ ））

23. 孩子以及孩子父母的国籍是哪国？如果持有多重国籍，请标出所有符合的选项，并在括弧中填写国名。

例) 孩子持有日本・德国・英国三重国籍时 孩子本人：日本・他国（德国・英国）

孩子本人：日本・他国（ ） 孩子母亲：日本・他国（ ）

孩子父亲：日本・他国（ ）

24. 您家现在的居住环境符合下面哪一项？

- 1) 自有独栋楼房（一戸建て（持ち家）） 2) 租住独栋楼房（一戸建て（賃貸））
3) 自有公寓（分譲マンション） 4) 租住民间公寓（民間の賃貸マンション）
5) 租住都市再生机构（旧公团）或公社的住宅（都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅）
6) 公营住宅（公営住宅） 7) 其他（ ）

25. 您在现住址居住了多长时间？（ ）年（如果未满1年，您居住了 个月）

26. 孩子父母的职业是什么？请您从【A组】和【B组】中各选择最适合的一项（单选），并填入下面的括弧中。如果同时从事多项工作，请就最主要的一项工作作答。例) 事务职的小时工（パートタイム事務職）（A组：③）（B组：d）；例) 专业主妇（A组：⑧）（B组：i）

子母亲（A组： ）（B组： ） 孩子父亲（A组： ）（B组： ）

A组】①经营者，董事（経営者・役員） ②一般正式员工（常時雇用の一般従業者）

③临时工，小时工（臨時雇い・パート・アルバイト） ④劳务派遣员工、短期合同工、返聘员工（派遣社員・契約社員・嘱託社員）

⑤个体户、自由职业者（自営業・自由業） ⑥帮家里照看生意（自営業の家族従業者）

⑦在家中从事副业补贴家用（内職） ⑧专业主妇 ⑨无业 ⑩其他（ ）

B组】a 销售、服务业（販売職・サービス業） b 管理职（管理的職業） c 专业、技术职（専門職・技術職）

d 事务、市场经营职（职事務職・営業職） e 技能、劳务、体力工人（技能職・労務職・作業職）

f 农业、林业、渔业劳动者（農林漁業職） g 不清楚 h 其他（ ） i 不工作

27. 孩子的父母平均每周工作多少小时？如果同时从事多项工作，请填写各项工作时间的总和。

孩子母亲（ ）小时 孩子父亲（ ）小时

28. 孩子刚出生时, 孩子的父母是否获得过产假和育婴假(育児休業)? 请选择最符合的一项, 并将序号填入括弧中。

孩子母亲 () 孩子父亲 ()

- 1) 获得过(假期为 个月) 2) 获得之后退职 3) 以生育为契机退职, 因而未获得过
4) 未获得过, 一直坚持工作 5) 不工作 6) 其他 ()

29. 孩子的母亲在孩子几岁的时候重新回归工作? 请您填写孩子母亲回归工作时孩子的年龄(孩子 岁 个月时)

30. 产后 24 小时以内, 当时是否尝试过给孩子喂母乳? 1) 尝试过 2) 没尝试过

31. 孩子到产后几个月为止还在喝母乳呢?(在喂母乳的同时给孩子加入其他营养辅食(如婴儿奶粉或离乳食等)的情况, 视为还在喝母乳)

- 1) 没喂过母乳 2) 喂过母乳(直到 岁 个月为止)

32. 如果方便的话, 您能否让我们了解一些去年您家的收入状况的信息?

孩子父母的收入只包括各自的劳动收入(税前)

家庭整体的收入还包括年金以及儿童补贴(児童手当)·儿童抚养补贴(児童扶養手当)·生活保障(生活保護)等社会保障援助金·抚养费和其他人给予的生活补贴。

孩子母亲 () 孩子父亲 () 家庭全体 ()

- 1) 无收入 2) 低于 100 万日元 3) 100~200 万日元 4) 200~300 万日元 5) 300~400 万日元
6) 400~600 万日元 7) 600~800 万日元 8) 800 万日元以上

33. 在您家中, 全家的财务主要由谁管理? 请选择最适合的一项(单选)。

- 1) 主要由母亲管理 2) 主要由父亲管理 3) 父母共同管理 4) 其他 ()

34. 至今为止, 您是否遭受过来自配偶的暴力行为(包括精神暴力)? 1) 遭受过 2) 没遭受过

35. 您在小时候是否遭受过来自父母的暴力行为(包括精神暴力)? 1) 遭受过 2) 没遭受过

36. 您在育儿的过程中, 是否有过对育儿失去信心的时候? 1) 经常有 2) 偶尔有 3) 基本上没有 4) 完全没有

37. 您在育儿过程中遇到的困难吗?(例如花费过多的金钱、占用自己过多的时间、育儿时不能得到他人的帮助、工作和育儿难以兼顾等等)

38. 您对于育儿支援问题的宝贵意见或希望请在下栏中告诉我们。

※如果孩子或孩子的父母有人不是在日本出生的话, 请您继续回答以下题目。

39. 孩子以及孩子的父母从何时开始(长期)在日本居住?

孩子母亲 1) 出生开始 2) (公元 年· 岁开始)

孩子父亲 1) 出生开始 2) (公元 年· 岁开始)

孩子本人 1) 出生开始 2) (公元 年· 岁开始)

40. 孩子的父母是否持有职业资格或技术资格?

孩子母亲 1) 没有 2) 有(资格名称)

孩子父亲 1) 没有 2) 有(资格名称)

41. 您的家庭中使用哪种语言? 请标出所有符合的选项(多选), 并在括弧中填写语言的名称。

例) 如果在家庭使用的语言有日语、英语和葡萄牙语时 1) 日语 2) 日语以外的语言(英语·葡萄牙语)
1) 日语 2) 日语以外的语言 ()

42. 孩子的母语(说的最好的语言)是哪种语言?

- 1) (语) 2) 不知道

43.关于孩子语言能力的发展问题,您是否感到困扰或不安。如果有的话请在下栏中告诉我们。

例)来日本已经1年多了,但孩子在保育院里用日语和小伙伴和老师进行日常交流时仍然存在语言障碍;孩子在家中与家人对话存在语言困难等等。

感谢您对我们工作的支持!

資料4 保健学チームの調査票 + 社会学チームの新規調査票・ポルトガル語版

Datas de preenchimento: (Ano: _____/Mês: ____/Dia: ____) (Ano: _____/Mês: ____/Dia: ____)
(Ano: _____/Mês: ____/Dia: ____)

Código da escola () Número de identificação individual ()

Formulário de avaliação da habilidade da criança nas relações sociais e interpessoais

"Furigana"() **Responsável pelo preenchimento**() **Família:** isenta de imposto / sujeita a imposto **Nacionalidade estrangeira:** pai / mãe / criança

Nome completo da criança () **Sexo:** M / F **Data de nascimento:** (Ano: _____/Mês: ____/Dia: ____) **Idade com que entrou na escola:** ____ anos ____ meses

Período na escola: Normalmente das ____ H ____ MIN (AM/PM) às ____ H ____ MIN (AM/PM) A criança vem à escola em outros horários? 1) Não 2) Sim, das ____ H ____ MIN (AM/PM) às ____ H ____ MIN (AM/PM)

Composição familiar: ____ pessoas 1) mãe 2) pai 3) avó 4) avô 5) irmão mais velho (quantos? ____) 6) irmã mais velha (quantas? ____) 7) irmão mais novo (quantos? ____) 8) irmã mais nova (quantas? ____) 9) outros (quantos? ____)

Profissão da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-10) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

1) setor de serviços 2) negócio próprio 3) profissional com formação especializada 4) funcionário de escritório 5) técnico/trabalho manual/vendedor 6) autônomo 7) dona de casa 8) sem ocupação 9) ocupação desconhecida 10) outro()

Escolaridade da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-8) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

1) ensino fundamental completo 2) ensino médio (colegial) completo 3) escola profissionalizante (senmon gakko) 4) faculdade de curta duração (tanki daigaku) 5) curso superior completo 6) pós-graduação 7) outro () 8) desconhecido

Habilidade no Trato Social (Responder as 30 perguntas)

Perguntas	2012	2013	2014	Observações
	sempre / às vezes / não / não sei			

- 1) A criança olha para o rosto das pessoas quando estão falando
- 2) Ela reage claramente quando alguém está falando
- 3) Ela mostra uma expressão alegre quando pede algo a alguém
- 4) Ela deixa o rosto expressar o que ela está sentindo
- 5) Ela cumprimenta as pessoas
- 6) Ela puxa conversa com as pessoas
- 7) Ela olha para o rosto das pessoas quando ela está falando
- 8) Ela brinca junto com os outros quando eles chamam
- 9) Ela age com consideração pelas outras crianças
- 10) Ela evita ser agressiva com as outras crianças
- 11) A criança consegue falar o próprio nome e sobrenome
- 12) Ela toma a iniciativa para falar sobre coisas que viu e ouviu
- 13) Se dizem que alguma coisa tem de ficar para depois, ela espera
- 14) Ela divide suas coisas com as outras crianças
- 15) Ela ouve até o fim o que os outros têm a dizer
- 16) Ela sabe respeitar a sua vez
- 17) Ela empresta e toma emprestado os brinquedos

D) Fatores relacionados ao ambiente em que vive o responsável

- 1) Falta do apoio de outras pessoas
- 2) Estresse por problemas na vida do casal, da família ou por causa de parentes
- 3) Estresse por causa dos vizinhos
- 4) Estresse por causa do trabalho
- 5) Os outros costumam interferir demais
- 6) Incerteza com relação às condições de vida
- 7) O ambiente é precário do ponto de vista material
- 8) A razão não é clara, mas a causa está no ambiente
- 9) Outros ()

⟨Informar caso tenha havido alteração nos dados abaixo⟩

2013

Nome completo da criança: () **"Furigana":** () **Responsável pelo preenchimento** ()

Família: isenta de imposto / sujeita a imposto **Nacionalidade estrangeira:** pai / mãe / criança

Período na escola: Normalmente das ___H ___MIN (AM/PM) às ___H ___MIN (AM/PM) A criança vem à escola em outros horários? 1) Não 2) Sim, das ___H ___MIN (AM/PM) às ___H ___MIN (AM/PM)

Composição familiar: ___ pessoas 1) mãe 2) pai 3) avó 4) avô 5) irmão mais velho (quantos? ___) 6) irmã mais velha (quantas? ___) 7) irmão mais novo (quantos? ___) 8) irmã mais nova (quantas? ___) 9) outros (quantos? ___)

Profissão da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-10) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

- 1) setor de serviços
- 2) negócio próprio
- 3) profissional com formação especializada
- 4) funcionário de escritório
- 5) técnico/trabalho manual/vendedor
- 6) autônomo
- 7) dona de casa
- 8) sem ocupação
- 9) ocupação desconhecida
- 10) outro()

Escolaridade da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-8) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

- 1) ensino fundamental completo
- 2) ensino médio (colegial) completo
- 3) escola profissionalizante (senmon gakko)
- 4) faculdade de curta duração (tanki daigaku)
- 5) curso superior completo
- 6) pós-graduação
- 7) outro ()
- 8) desconhecido

2014

Nome completo da criança: () **"Furigana":** () **Responsável pelo preenchimento** ()

Família: isenta de imposto / sujeita a imposto **Nacionalidade estrangeira:** pai / mãe / criança

Período na escola: Normalmente das ___H ___MIN (AM/PM) às ___H ___MIN (AM/PM) A criança vem à escola em outros horários? 1) Não 2) Sim, das ___H ___MIN (AM/PM) às ___H ___MIN (AM/PM)

Composição familiar: ___ pessoas 1) mãe 2) pai 3) avó 4) avô 5) irmão mais velho (quantos? ___) 6) irmã mais velha (quantas? ___) 7) irmão mais novo (quantos? ___) 8) irmã mais nova (quantas? ___) 9) outros (quantos? ___)

Profissão da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-10) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

- 1) setor de serviços
- 2) negócio próprio
- 3) profissional com formação especializada
- 4) funcionário de escritório
- 5) técnico/trabalho manual/vendedor
- 6) autônomo
- 7) dona de casa
- 8) sem ocupação
- 9) ocupação desconhecida
- 10) outro()

Escolaridade da família pai () mãe () Escolha apenas uma das alternativas abaixo (1-8) e marque o número correspondente para o pai e para a mãe no espaço entre parênteses

- 1) ensino fundamental completo 2) ensino médio (colegial) completo 3) escola profissionalizante (senmon gakko) 4) faculdade de curta duração (tanki daigaku) 5) curso superior completo 6) pós-graduação 7) outro ()
8) desconhecido

Checklist sobre as crianças que causam certa preocupação

1) Problema auditivo

- 1) A criança demora para reagir aos sons ou não tem reação nenhuma
2) Ela é muito sensível aos sons

2) Choro excessivo

- 1) A criança chora muito
2) Ela chora pedindo que alguém a pegue no colo
3) Ela costuma chorar de noite

3) Dificuldade para ficar no colo

- 1) A criança não gosta de ficar no colo
2) Ela fica com o corpo duro quando está no colo

4) Crescimento fora do nível normal

- 1) A criança não está crescendo normalmente
2) Ela mostra sinais de que pode ter problemas de crescimento no futuro

5) O ritmo do dia a dia é desregrado

- 1) A quantidade de comida varia muito de uma refeição (amamentação) para outra
2) O número de refeições (amamentações) varia muito de um dia para outro
3) O tempo de sono varia muito de um dia para outro
4) A hora em que a criança vai dormir varia muito de um dia para outro
5) A hora em que a criança acorda varia muito de um dia para outro
6) O tempo de soneca da criança varia muito
7) A temperatura da criança varia muito durante o mesmo dia
8) A criança não distingue entre dia e noite

6) Problema de visão

- 1) A criança não tem uma reação normal a estímulos visuais
2) Ela é pouco sensível à luz, ou então é sensível demais

7) Convulsões

- 1) Epilepsia
2) Espasmo do choro
3) Convulsão febril

8) Alergias

- 1) A criança tem alergia a certos alimentos
2) Ela já teve choque anafilático
3) Ela tem dermatite atópica
4) Ela tem alergia a pólen (kafunsho)

9) Timidez excessiva ou medo excessivo de ficar sozinha

- 1) A criança é excessivamente tímida com pessoas que não conhece
2) Ela tem um medo excessivo de ficar sozinha

10) A criança é introvertida ao extremo

- 1) A criança não consegue se expressar muito bem
 - 2) Ela é muito quieta
- 11) Falta de espontaneidade nos relacionamentos
- 1) A relação com os amigos não é espontânea
 - 2) A relação com os pais não é espontânea
- 12) Apatia
- 1) A criança não ri mesmo quando brincam com ela
 - 2) Ela não olha nos olhos dos outros
 - 3) Quando alguém atrás dela a chama pelo nome, ela não se vira para olhar
 - 4) Ela não imita os gestos das outras crianças ou dos adultos
 - 5) Ela não mostra interesse pelos amigos
- 13) Manias
- 1) A criança fica absorta em algum objeto específico que estiver perto dela
 - 2) Ela tem hábitos um pouco diferentes, como enfileirar objetos com muita precisão
 - 3) Ela se preocupa muito com a ordem em que as coisas são feitas
 - 4) Ela tem apego a certos espaços e lugares
 - 5) Ela costuma repetir a mesma ação seguidamente (comportamento repetitivo)
 - 6) Ela fica muito preocupada com certos tipos de comportamentos
- 14) Vômitos
- 1) A criança tem algum problema digestivo
 - 2) Ela tem algum problema físico
 - 3) Ela tem vômito psicogênico (devido a estresse emocional)
- 15) Hábitos alimentares fora do normal
- 1) A criança come demais
 - 2) Ela come pouco
 - 3) A quantidade de comida que ela come varia muito de uma refeição para outra
 - 4) Pica (a criança tem vontade de comer objetos, ou então ingredientes ainda não preparados)
 - 5) Outros
- 16) Dificuldade para engatinhar, andar ou se movimentar/ demora para a criança dar os primeiros passos
- 1) Problema no sistema neurológico
 - 2) Problema no sistema locomotor
 - 3) Atraso no desenvolvimento da motricidade ampla (do corpo todo)
- 17) O movimento dos dedos é lento ou diferente
- 1) Problema ortopédico nos dedos
 - 2) Atraso no desenvolvimento da motricidade fina (destreza nos dedos, mãos, etc.)
- 18) Acesso de raiva
- 1) A criança perde a paciência e fica com muita raiva com facilidade
 - 2) Ela entra em pânico quando a proibem de fazer alguma coisa que ela quer
- 19) Comportamento mimado
- 1) A criança de repente começa a ter um comportamento mimado
 - 2) Ela dificilmente tem um comportamento mimado
 - 3) Ela monopoliza os adultos (funcionários, responsáveis)
- 20) Silêncio
- 1) Ela fica sem falar nada

- 21) Hiperatividade
- 1) A criança tem falta de atenção
 - 2) Ela é hiperativa
 - 3) Ela é impulsiva
- 22) Brigas
- 1) A criança tem momentos agressivos (provoca brigas)
- 23) Rebeldia
- 1) A criança é excessivamente rebelde
 - 2) Ela mexe nas coisas de maneira violenta
- 24) Aversão a exercícios físicos
- 1) A criança não gosta de fazer exercícios físicos
- 25) Problemas relacionados à comunicação verbal
- 1) A criança fala muito devagar
 - 2) É difícil manter uma conversa com ela
 - 3) Ela fala demais
 - 4) Ela tem alguma deficiência que a impede de pronunciar os sons corretamente (sigmatismo)
- 26) Ansiedade
- 1) A criança tem aversão exagerada a sujeira
 - 2) Ela fica muito preocupada com detalhes e coisas pequenas
- 27) Cansaço
- 1) A criança costuma dormir já de manhã, logo depois de ter chegado à escola
 - 2) Ela tira sonecas longas
 - 3) Ela costuma ficar com o corpo mole e largado
 - 4) Ela costuma dizer que está cansada ou que não aguenta mais
- 28) Enurese noturna (xixi na cama)
- 1) A criança faz xixi na cama em grandes quantidades
 - 2) A quantidade não é grande, mas o problema ocorre com frequência
- 29) Necessidade frequente de urinar
- 1) Mesmo depois de ir ao banheiro, ela costuma ir novamente logo em seguida
 - 2) Ela costuma ir ao banheiro praticamente de hora em hora
- 30) Manias que chamam a atenção
- 1) Chupar o dedo
 - 2) Roer as unhas
 - 3) Masturbação
 - 4) Tiques
- 31) Desrespeito às regras
- 1) A criança pega as coisas dos outros sem avisar
 - 2) Ela age sem dar atenção às orientações dos adultos
- 32) Comportamento agitado
- 1) A criança não para de falar mesmo quando a hora e o lugar não são apropriados

- 2) Ela fala só daquilo que lhe interessa, sem atentar para os outros. Ela repete muito a mesma frase
- 3) Ela fala demais mesmo em situações em que o trato social exige mais discrição

33) Hábitos que são muito imaturos para a idade da criança

- 1) Hábitos relacionados à alimentação
 - 2) Hábitos relacionados à excreção
 - 3) Hábitos relacionados ao sono
 - 4) Hábitos relacionados ao uso das roupas
 - 5) Hábitos relacionados à higiene
 - 6) A criança tem dificuldade de se aprontar sozinha para ir à escola ou voltar para casa
-

7:06	Ela consegue se equilibrar em um só pé por 30 segundos	Ela consegue tocar piano ou órgão	Ela faz faxina com vassoura	Ela colabora com alguém para fazer a faxina (uma segura a pá e a outra, a vassoura)	Ela lê por completo o livro que está em hiragana	Ela consegue calcular somas simples
7:00	Ela consegue passar a bola por baixo das pernas no jogo de "maritsuki"	Ela faz dobraduras de balão e de "tsuru" sozinha	Ela consegue fazer um laço com uma corda	Ela consegue adivinhar o que um amigo quer que ela faça, e ela mesma colabora	Ela quase não usa mais a "fala de bebê"	Ela consegue vê as horas no relógio de ponteiro
6:06	Ela pula corda sozinha	Ela desenha usando o material próprio para desenho	Ela torce toalhas e panos molhados	Ela consegue jogar "babanuki"	Ela lê a maior parte do livro que está em hiragana	Ela consegue jogar o jogo da memória
6:00	Ela consegue se equilibrar em um só pé por 10 segundos	Ela faz desenhos da figura humana com seis partes do corpo	Ela consegue se aprontar completamente sozinha para sair	Ela consegue jogar sozinha jogos com regras simples	Ela conta histórias com as próprias palavras	Ela adivinha os antônimos (Fogo quente, gelo... Cavalo grande, rato... Dia claro, noite...)
5:06	Quando ela brinca no balanço, ela se levanta e senta com o balanço em movimento	Ela tenta incrementar o avião de papel para que ele voe melhor	Ela seca o corpo com a toalha	Ela pede o troco quando compra alguma coisa	Ela consegue brincar de "shiritori"	Ela brinca de charada
5:00	Ela consegue se equilibrar em um só pé por 5 segundos	Ela faz desenhos da figura humana com três partes do corpo	Ela consegue se aprontar quase sozinha para sair	Ela consegue jogar jogos com regras simples imitando os outros	Ela conta histórias repetindo ou imitando alguém	Ela entende o que é estar com fome, com frio ou cansada (ela sabe o que fazer em cada caso)
4:08	Ela consegue andar saltitando	Ela consegue fazer aviões de papel sozinha	Ela consegue se vestir sozinha	No tanque de areia, ela colabora com outras crianças para fazer uma mesma montanha	Ela consegue repetir frases (2/3): "Duas crianças estão no balanço", "A lua grande saiu de trás da montanha", "Ontem fui fazer compras na loja"	Ela tem noção de direita e esquerda
4:04	Ela consegue ficar em pé no balaço e fazê-	Ela consegue pegar a bola depois que ela	Ela atravessa a rua corretamente,	Ela resolve disputas com o jogo de pedra,	Ela consegue repetir grupos de quatro	Ela tem noção dos números (até 5)

	lo movimentar-se	quicou no chão	prestando atenção ao semáforo	papel e tesoura ("janken")	números (2/3): 5-2-4-9, 6-8-3- 5, 7-3-2-8	
4:00	Ela consegue dar alguns passos pulando em uma só perna	Ela consegue cortar uma folha de papel em linha reta	Ela consegue tomar banho praticamente sozinha	Ela avisa um adulto antes de ir de um lugar para outro	Ela sabe o nome completo dos pais	Ela aponta para os objetos sabendo para que eles servem (5/5): livro, lápis, relógio, cadeira, lanterna
3:09	Ela consegue dar saltos longos (com os dois pés juntos e para a frente)	Ela consegue desenhar uma cruz	Ela consegue assoar o nariz	Ela compartilha as coisas com os amigos, respeitando a sua vez (por exemplo, revezando o uso do balanço)	Ela consegue repetir frases (2/3): "Uma linda flor está desabrochando", "O avião voa no céu", "Eu canto bem esta canção"	Ela tem noção dos números (até 3)
3:06	Ela consegue andar de triciclo	Ela consegue pegar a bola que foi jogada para ela	Ela lava e seca as mãos	Ela empresta e toma emprestados brinquedos	Ela consegue repetir frases (1/3): "Uma linda flor está desabrochando", "O avião voa no céu", "Eu canto bem esta canção"	Ela tem noção dos números (até 2)
3:03	Ela consegue dar cambalhota	Ela consegue abotoar o botão da roupa	Ela lava o rosto sozinha	Ela pede permissão para fazer as coisas	Ela consegue conversar com crianças da mesma idade	Ela tem noção de alto e baixo
3:00	Ela consegue se equilibrar em um só pé por 2 ou 3 segundos	Ela consegue cortar papel com uma tesoura	Ela tira o casaco sozinha	Ela consegue interpretar o papel de outra pessoa quando brinca de casinha	Ela consegue repetir frases com dois termos (2/3): "Boneca pequena", "Balão vermelho", "Doce gostoso"	Ela tem noção de vermelho, azul, amarelo e verde (4/4)
2:09	Ela consegue girar em torno de si mesma quando está de pé	Ela consegue desenhar um círculo olhando para um modelo	Ela consegue se calçar sozinha	Ela quer tomar conta das crianças menores	Ela consegue repetir grupos de dois números (2/3): 5-8, 6-2, 3-9	Ela tem noção de comprido e curto
2:06	Ela consegue subir a escada colocando apenas um pé em cada degrau	Ela consegue desenhar uma linha reta olhando para um modelo	Ela consegue comer sozinha, sem deixar a comida cair do prato	Ela conta briga com um amigo	Ela consegue falar o próprio nome completo	Ela tem noção de grande e pequeno

2:03	Ela consegue dar pulinhos com os dois pés juntos	Ela consegue ficar pendurada com as duas mãos na barra	Ela consegue tirar a calça sozinha	Ela finge que está falando ao telefone	Ela consegue se expressar para dizer que algo é "bonito" ou "gostoso"	Ela sabe apontar para o nariz, cabelo, dente, língua, umbigo, unha (4/6)
2:00	Ela consegue chutar uma bola para frente	Ela enfileira dois ou mais blocos de montar um do lado do outro	Ela avisa quando vai fazer xixi	Ela brinca mesmo estando longe da pessoa que costuma cuidar dela	Ela consegue falar frases com dois termos (e.g. "Cachorro chegou")	Ela consegue entender a ideia de "mais um" e "mais um pouco"
1:09	Ela consegue subir a escada sozinha, pondo os dois pés em cada degrau	Ela consegue desenhar um círculo se girar o lápis várias vezes no papel	Ela bebe de canudo	Ela fica de mãos dadas com os amigos	Quando ela vê um livro ilustrado ela consegue dizer o nome de três coisas que aparecem nele	Ela consegue apontar para os olhos, boca, orelhas, mãos, pés e barriga (4/6)
1:06	Ela consegue correr	Ela consegue passar água de um copo para outro	Ela abre as pernas na hora de alguém colocar a calça nela	Ela pede ajuda quando encontra alguma dificuldade	Quando ela vê um livro ilustrado ela consegue dizer o nome de uma coisa que aparece nele	Ela gosta de pedir para que alguém leia um livro ilustrado para ela
1:04	Ela consegue andar de sapatinho ou tênis	Ela consegue colocar um bloco de montar sobre o outro	Ela tenta limpar a própria boca	Ela oferece ajuda com coisas simples	Ela consegue falar três palavras	Ela consegue seguir instruções simples (e.g. "Pegue o jornal")
1:02	Ela consegue dar 2 ou 3 passos	Ela tenta tirar bolinhas de dentro de um copo	Ela consegue tirar o embrulho dos doces antes de comer	Se ela faz alguma coisa e alguém elogia, ela repete a mesma coisa	Ela consegue falar duas palavras	Ela entende quando alguém pede algo (3/3) ("Vem cá", "Dá pra mim", "Vamos dormir")
1:00	Estando sentada, ela consegue se levantar por conta própria	Ela consegue fazer rabiscos	Ela tenta comer de colher	Ela gosta de seguir a pessoa que costuma cuidar dela	Ela consegue imitar uma ou duas palavras corretamente	Ela entende quando alguém pede algo (1/3) ("Vem cá", "Dá pra mim", "Vamos dormir")
0:11	Ela consegue andar apoiando-se em alguma coisa	Ela consegue fazer o carrinho de brinquedo deslizar no chão com as mãos	Ela consegue pegar o copo sozinha e beber o conteúdo	Ela fica tímida com estranhos	Ela tenta imitar os barulhos que ela ouve	Ela reage quando alguém diz "tchau" ou "até logo"
0:10	Ela consegue se levantar	Ela consegue abrir e fechar a	Ela mostra o que ela quer sem	Ela imita gestos (e.g. dar um leve	Ela balbucia muito	Se alguém fala que ela não

	apoiando-se em alguma coisa	tampa das garrafas	chorar	tapinha na cabeça)		pode fazer alguma coisa, ela para
0:09	Ela consegue permanecer em pé apoiando-se em alguma coisa	Ela consegue tocar o tambor de brinquedo	Ela consegue levar o copo até a boca segurando com as duas mãos	Quando alguém tira um brinquedo dela, ela expressa insatisfação	Ela emite sons como "dá", "tá", "tchá"	Ela consegue identificar a voz de pessoas conhecidas
0:08	Ela consegue se sentar por conta própria e brincar	Ela tenta pegar coisas usando o polegar e o indicador	Ela não gosta quando tentam limpar o rosto dela	Quando ela olha no espelho, ela ri ou fala alguma coisa	Ela emite sons como "má", "bá", "pá"	Quando ela ouve a voz de alguém, ela se vira na direção da pessoa
0:07	Ela consegue rolar no chão	Ela consegue passar o brinquedo que ela está segurando de uma mão para outra	Ela consegue beber no copo	Ela entende quando alguém faz uma cara amigável ou uma cara zangada	Ela emite sons na direção de certas coisas, como brinquedos	Ela consegue identificar certas emoções no tom de voz das pessoas (e.g. proibição, etc.)
0:06	Estando deitada de costas, ela consegue se virar para ficar de barriga para baixo	Ela consegue estender a mão para pegar alguma coisa	Ela leva à boca as coisas que ela consegue segurar na mão	Ela reage ao ver o próprio rosto no espelho	Ela emite sons na direção das pessoas	Ela começa a rir quando vê certas coisas
0:05	Se alguém a deixa deitada de lado, ela vira e fica de barriga para baixo	Ela balança o chocalho	Ela fica agitada quando vê um brinquedo	Ela começa a rir quando vê as pessoas	Ela dá gritos	Ela consegue distinguir a voz da pessoa que costuma cuidar dela
0:04	Ela consegue manter a cabeça erguida quando está na vertical	Ela pega os brinquedos	Ela consegue beber na colher	Ela ri quando brincam com ela	Ela ri em voz alta	Quando alguém a chama, ela tenta se virar nessa direção
0:03	Quando está deitada de costas e é erguida na horizontal, ela consegue manter a cabeça alinhada com o corpo	Quando ela tem alguma coisa na bochecha, ela mexe as mãos como se quisesse limpar	Ela demonstra insatisfação quando passam algum pano sobre seu rosto	Quando ela ouve uma voz ela se vira nessa direção	Ela emite sons sem chorar (ela diz "a" ou "uá")	Ela se acalma com a voz das pessoas
0:02	Ela consegue levantar um pouco a cabeça quando está deitada de barriga para	Ela chupa o dedo	Quando ela está de barriga cheia, ela empurra o mamilo com a língua ou então vira a cara	Ela fica encarando o rosto das pessoas	Ela chora de várias maneiras diferentes	Ela olha quando alguém chama

	baixo						
0:01	Quando está de costas, ela às vezes vira o pescoço da direita para a esquerda ou vice-versa	Ela segura tudo que encosta na mão dela	Quando ela está com fome e a pegam no colo, ela vira o rosto na direção do peito	Ela para de chorar se a pegam no colo	Ela chora com força	Ela reage a barulhos altos	
Idade	Motricidade ampla	Motricidade fina	Atividades do cotidiano	Relações interpessoais	Capacidade de expressão	Capacidade de compreensão	
	Desenvolvimento motor		Desenvolvimento da sociabilidade		Desenvolvimento linguístico		

Questionário para melhorar o apoio na educação das crianças Nome da criança: _____ Idade: ____ anos ____ meses
Sexo: M / F

O objetivo deste questionário é ouvir sua opinião e saber mais sobre como seu (sua) filho (a) se comporta dentro de casa, a fim de oferecer maior apoio na educação das crianças. As informações obtidas com este questionário não serão usadas para nenhuma outra finalidade, e nenhum nome será divulgado, por isso pedimos que você responda com franqueza as questões a seguir.

Sobre o preenchimento do questionário

Em princípio, deve-se escolher **apenas uma** alternativa para cada questão, mas quando a questão pedir para “assinalar todas as alternativas relevantes”, devem ser assinaladas **todas as alternativas que forem adequadas**. Caso haja qualquer dúvida, favor entrar em contato com: Kyoto University **.

1. Qual sua relação com a criança que frequenta a escola? 1) mãe 2) pai 3) avó 4) avô 5) outro
(_____)

2. Composição do domicílio: Número de pessoas morando juntas, incluindo a criança: _____ pessoas Quem mora junto na casa? Assinale todas as alternativas relevantes:

- 1) mãe biológica 2) pai biológico 3) avó materna 4) avô materno 5) avó paterna
6) avô paterno 7) irmãos mais velhos 8) irmãos mais novos 9) pessoa que exerce a função de mãe
10) pessoa que exerce a função de pai 11) outros familiares (quem especificamente? _____)
12) pessoas de fora da família (quem especificamente? _____)

3. Quantas horas por dia você consegue reservar para passar com a criança, interagindo ou brincando com ela (sem contar o período em que ela está dormindo)?

- 1) Durante a semana: cerca de ____ horas ____ minutos 2) Fins de semana e feriados: cerca de ____ horas ____ minutos

4. Com que frequência você brinca com a criança (ou passa tempo interagindo com ela)?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

5. Com que frequência você sai para fazer compras com a criança?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

6. Com que frequência você lê um livro para a criança?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

7. Você canta canções infantis ou alguma outra canção de que a criança gosta junto com ela?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

8. Com que frequência você vai ao parque ou sai para passear com a criança?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

9) Com que frequência você visita ou recebe visitas de amigos ou parentes que têm crianças com mais ou menos a mesma idade que a sua?

- 1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

10) O outro responsável (pai, mãe ou parceiro) costuma ajudar? Com que frequência?

1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

11) Com que frequência a criança se senta à mesa para comer junto com os pais (ou com quem exerce a função dos pais)?

1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

12) O que você faz se a criança derruba leite na mesa de propósito? Escolha apenas uma alternativa.

1) dou uma palmada 2) dou uma bronca 3) tento achar um meio de fazê-la entender que isso é errado (descrever o tipo de medida: _____)

4) procuro um outro modo de dar o leite para que ela não derrube 5) outro (_____)

13) Quantas vezes você deu palmadas na criança na semana passada?

1) não dou palmadas 2) uma ou duas vezes 3) três ou quatro vezes 4) cinco ou seis vezes 5) quase todo dia

14) Com que frequência você consegue ter tempo para conversar sobre a criança com seu esposo(a)/parceiro(a)?

1) quase nunca 2) uma a três vezes por mês 3) uma a duas vezes por semana 4) três a quatro vezes por semana 5) quase todo dia

15) Além do pessoal da escola, há alguém que costuma tomar conta da criança?

1) não 2) sim: quem? Assinale abaixo todas as alternativas relevantes

1) mãe biológica 2) pai biológico 3) avô materna 4) avô materno 5) avô paterna

6) avô paterno 7) irmãos 8) pessoa que exerce a função de mãe 9) pessoa que exerce a função de pai

10) outro familiar que mora junto (_____) 11) outro familiar que não mora junto (_____) 12) amigos 13) vizinhos

14) alguém da vizinhança 15) colegas de trabalho 16) babá 17) instituições públicas ou particulares 18) outros (_____)

16) Você tem alguém para pedir conselhos sobre a educação da criança?

1) não 2) sim: quem? Assinale abaixo todas as alternativas relevantes

1) cônjuge ou parceiro(a) 2) avós 3) amigos 4) parentes que moram junto 5) parentes que não moram junto 6) vizinhos 7) alguém da vizinhança 8) funcionário da escola 9) babá 10) colegas de trabalho 11) instituições públicas ou particulares 12) outros (_____)

17) Quantos anos a criança tinha quando você começou a usar serviços como creches e babás para ajudar a tomar conta dela? (Não incluir aqui a escola que ela está frequentando)

1) nunca usei esses serviços 2) uso esses serviços desde que a criança tinha ____ anos ____ meses

18) Você já fez uso de alguma das seguintes atividades de apoio à educação das crianças oferecidas pelo governo da província ou da cidade? Assinale todas as alternativas relevantes.

1) centro regional de apoio à criança (*chiiki kosodate shien kyoten*) 2) locais que cuidam da criança por um certo período (*ichiji azukari*) 3) visitas ao recém nascido (*konnichiwa akachan*) 4) visitas de apoio no cuidado com a criança (*yoiku shien homon*) ou outra atividade para crianças que precisam de apoio (*yoshien jido*) ou de proteção (*yohogo jido*) 5) centro de apoio à família 6) locais que cuidam da criança por um curto período no caso de problema físico, psicológico ou profissional enfrentado pelo responsável (*kosodate tanki shien*) 7) extensão do horário da creche/escola (*encho hoiku*) 8) locais que ajudam no cuidado com crianças adoecidas ou convalescentes 9) auxílio em exame médico para gestantes

19) A criança tem vontade de ir para a escola?

1) ela tem muita vontade 2) ela tem uma certa vontade 3) ela é indiferente 4) ela não tem muita vontade 5) ela não quer ir

20) A que horas a criança acorda, e a que horas ela vai dormir? Marque os horários mais frequentes, tanto para os

dias da semana como para os fins de semana

Dias da semana: hora de acordar ____ h ____ min (AM/PM) hora de dormir ____ h ____ min (AM/PM)

Fins de semana: hora de acordar ____ h ____ min (AM/PM) hora de dormir ____ h ____ min (AM/PM)

21) A criança tem horários regulares para dormir?

1) o horário é sempre irregular 2) às vezes o horário é irregular 3) o horário é praticamente regular 4) o horário é sempre regular 5) não sei

22) Você sofre de estresse? Marque apenas uma alternativa para o nível de estresse, mas marque todas as alternativas relevantes com relação ao tipo de estresse

nível de estresse: não sofro / sofro pouco / sofro mais ou menos / sofro num nível considerável / sofro muito

tipo de estresse: educação da criança / problema de saúde / trabalho / relações pessoais / outro ()

23) Qual a nacionalidade da criança e dos pais? Caso haja mais de uma, assinale todas as opções, especificando no espaço indicado o nome do(s) país(es)

Exemplo: se a criança tiver tripla nacionalidade (japonesa, alemã e inglesa), marcar da seguinte forma: criança: nac. japonesa/estrangeira (Alemanha, Inglaterra)

criança: nac. japonesa / estrangeira ()

mãe: nac. japonesa / estrangeira ()

pai: nac. japonesa / estrangeira ()

24) Como é a sua moradia atual?

1) casa própria 2) casa alugada 3) apartamento próprio 4) apartamento alugado

5) moradia alugada da *UR Toshi Kiko* (antiga *Kodan*) ou de empresa pública (*Kosha*) 6) moradia de administração pública da província, cidade, etc. 7) outro ()

25) Há quanto tempo você mora na região em que está residindo hoje? Há ____ anos (para quem está na região há menos de um ano: ____ meses)

26) Qual a profissão da mãe e do pai? Leia abaixo a "LISTA A" e a "LISTA B". Escolha uma alternativa em cada lista para preencher os espaços descrevendo a profissão do pai e da mãe (um número da "LISTA A" e uma letra da "LISTA B" para cada um). Se mais de uma alternativa parecer relevante em cada lista, escolha aquela que diz respeito à profissão principal da pessoa.

Exemplo: trabalho em tempo parcial em escritório: (LISTA A: 3) (LISTA B: d); dona de casa: (LISTA A: 8) (LISTA B: i)

mãe (LISTA A:) (LISTA B:) pai (LISTA A:) (LISTA B:)

LISTA A: (1) gerente/diretor (2) funcionário efetivo (3) funcionário temporário/em tempo parcial/*arubaito* (4) trabalhador contratado por empreiteira (*haken*) / trabalhador temporário com contrato específico (*keiyaku*) / trabalhador sênior temporário (*shokutaku*) (5) negócio próprio/autônomo (6) trabalha do negócio da família (7) trabalho complementar para melhorar a renda da família (8) dona de casa (9) sem ocupação (10) outro ()

LISTA B: (a) setor de vendas ou de serviços (b) atividade de supervisão (c) profissional com formação especializada (d) trabalho em escritório/setor administrativo (e) técnico/trabalho manual/operador (f) agricultura e pesca (g) desconhecido (h) outro () (i) não está trabalhando

27) Quantas horas por semana o pai e a mãe da criança trabalham em média? Se eles têm mais de uma ocupação, preencha com o tempo total.

mãe(____ horas) pai(____ horas)

28) A mãe e o pai da criança receberam licença do trabalho depois que ela nasceu? Preencha os espaços indicados

com o número da alternativa adequada.

mãe () pai ()

1) recebeu (___ meses) 2) recebeu e depois parou de trabalhar 3) não recebeu e com parto parou de trabalhar 4) não recebeu e continuou a trabalhar 5) não estava trabalhando 6) outro ()

29) Qual era a idade da criança quando a mãe voltou a trabalhar? Preencha com a idade que a criança tinha quando a mãe voltou ao trabalho: _____ anos _____ meses.

30) Você tentou dar leite materno à criança, dentro do período de 24 horas após o parto? 1) sim 2) não

31) Até quando o bebê recebeu leite materno? (Pode ser incluído aqui o período em que a criança recebeu junto com o leite materno outras formas de alimentação, como leite em pó ou comida de bebê)

1) não dei leite materno 2) dei leite materno até _____ anos _____ meses

32) Se possível, informe qual foi a renda anual da família no ano passado. No caso da mãe e do pai, informe apenas a remuneração no trabalho. No caso da renda familiar total, informe todos os rendimentos, incluindo aposentadoria e benefícios sociais como auxílios de programas de assistência à criança (*jido teate/jido fuyo teate*) e auxílio subsistência (*seikatsu hogo*), pensão alimentícia, mesada, etc.

mãe () pai () renda total da família ()

1) sem renda 2) até 1 milhão de ienes 3) de 1 a 2 milhões de ienes 4) de 2 a 3 milhões de ienes 5) de 3 a 4 milhões de ienes 6) de 4 a 6 milhões de ienes 7) de 6 a 8 milhões de ienes 8) mais de 8 milhões de ienes

33) Quem é o principal responsável pelo controle das finanças na família? Assinale apenas uma alternativa.

1) principalmente a mãe 2) principalmente o pai 3) os dois juntos 4) outro ()

34) Você já sofreu violência (incluindo violência psicológica) por parte do cônjuge/parceiro(a)? 1) sim 2) não

35) Quando era criança, você já sofreu violência (incluindo violência psicológica) por parte dos seus pais? 1) sim 2) não

36) Nesse tempo em que você vem cuidando da criança, houve ocasiões em que você não se sentiu confiante para educá-la?

1) muitas vezes 2) algumas vezes 3) poucas vezes 4) nunca

37) Você sente dificuldade para criar a criança? (por exemplo: os gastos são muito altos, as coisas exigem muito tempo, não tenho ninguém que me ajude, é difícil conciliar com o trabalho, etc.)

38) Você tem alguma opinião ou expectativa que você gostaria de expressar sobre como melhorar o apoio na educação das crianças?

As perguntas abaixo são apenas para as famílias que têm laços com um país estrangeiro

39) Desde quando a família reside no Japão?

mãe 1) desde o nascimento 2) desde o ano de _____, quando tinha _____ anos de idade

pai 1) desde o nascimento 2) desde o ano de _____, quando tinha _____ anos de idade

criança 1) desde o nascimento 2) desde o ano de _____, quando tinha _____ anos de idade

40) O pai ou a mãe possui algum certificado/qualificação (*shikaku*)?

mãe: 1) não 2) sim (quais?)

pai: 1) não 2) sim (quais?)

41) Qual é a língua falada dentro de casa? Assinale todas as alternativas relevantes. Quando for o caso, especifique nos espaços indicados quais línguas são usadas.

Exemplo: se a família fala japonês, inglês e português dentro de casa: 1) japonês 2) língua estrangeira (inglês, português)

1) japonês 2) língua estrangeira ()

42) Qual é a língua materna da criança (aquela que ela domina melhor)?

1) língua: () 2) não sei

43) Existe alguma coisa no desenvolvimento linguístico da criança que seja motivo de atenção?

Por exemplo: embora a criança já viva no Japão há mais de um ano, ela tem dificuldades para se comunicar no dia a dia da escola (com amigos e professores); a criança tem dificuldade de conversar com os pais em casa, etc.

Muito obrigado pela colaboração

資料5 保健学チームの調査票 + 社会学チームの新規調査票・韓国語版

가입일자: (20 년 월 일기입), (20 년 월 일기입), (20 년 월 일기입),
 어린이집코드 () 개인 ID 번호()

사회·대인기술 발달평가 시트

가입자() 세대: 비과세·과세 국적: 부·모·아동 (국적이 일본 이외 분에게 ○을 쳐 주십시오)
 아들이름 () 남·여 생년월일 ()년 ()월 ()일 어린이집 입소연령()살()개월
 보육시간:평상시(AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분 특별시 1.있음 2.없음
 (AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분
 가족구성: ()명 1)모 2)부 3)조모 4)조부 5)형/오빠()명 6)누나/언니()명 7)남동생()명
 8)여동생()명 9)기타()명
 가족의 직업: 부() 모() ※아래①~⑩에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.
 ①서비스업 ②자영업 ③전문기술직 ④사무직 ⑤기능직/노무직/판매직 ⑥자유업 ⑦전업주부 ⑧무직 ⑨불명 ⑩기타()
 가족의 학력: 부() 모() ※아래①~⑦에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.
 ①중학교 졸업 ②고등학교 졸업 ③전문학교 졸업 ④단기대학 졸업 ⑤대학교졸업 ⑥대학원이상졸업 ⑦기타()

사회적 스킬(30 항목 전부에 대답해 주십시오.)

항목	2012년				2013년				2014년				특기사항
	언제나	가끔	없음	불명	언제나	가끔	없음	불명	언제나	가끔	없음	불명	
1 누군가가 말을 하면 얼굴을 본다													
2 누군가가 말을 하면 명백한 반응을 한다													
3 뭔가를 해 주면 기분 얼굴을 한다													
4 감정을 얼굴에 나타낸다													
5 인사를 한다													
6 사람에게 다가가 이야기를 한다													
7 이야기를 할 때는 얼굴을 본다													
8 날이 부르면 끼어서 놀 수 있다													
9 다른 친구한테 배려하는 행동을 보인다													
10 다른 친구한테 공격적인 태도를 취하지 않는다													
11 자기 성과 이름을 말할 수 있다													
12 보거나 들은 일들을 스스로 이야기할 수 있다													
13 '이따가'라는 말에 기다릴 수 있다													
14 가지고 있는 물건을 다른 아이들과 서로 나눈다													
15 다른 사람의 말을 마지막까지 듣는다													
16 순서를 안다													
17 장난감을 빌려주거나 빌린다													
18 필요한 장면에서 예절 바르게 있을 수 있다													
19 갖고 싶은 물건이 있어도 설박을 받으면 받을 수 있다													
20 많은 사람들이 있는 곳에서 때를 쓰지 않는다													
21 다른 친구를 도와 준다													
22 외로워 보이는 친구를 위로해 준다													
23 누군가가 실수를 하면 힘을 북돋아 주거나 위로해 준다													
24 누군가가 잘하면 기뻐한다													
25 누군가가 잘하면 좋겠다고 칭찬한다													

01 주변 사람들의 지원 부족				
02 부부, 가족, 친척 등의 스트레스				
03 이웃과의 스트레스				
04 직장과의 스트레스				
05 주변 사람들의 과도한 간섭				
06 불안정한 생활				
07 열악한 물리적 환경 조건				
08 원인이 불명확하지만 환경의 원인				
09 기타 ()				

〈변경이 있을 경우〉

2013 년

아동이름 () 기입담당자()

세대 : 비과세·과세 국적 : 부·모·아동 (국적이 일본 이외의 본인에게 ○을 쳐 주세요)

보육시간:평상시(AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분 특별시 1.있음 2.없음 (AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분

가족구성 : ()명 1)모 2)부 3)조모 4)조부 5)형/오빠()명 6)누나/언니()명 7)남동생()명 8)여동생()명 9) 기타()명

가족의 직업 : 부() 모() ※아래①~⑩에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.

①서비스업 ②자영업 ③전문기술직 ④사무직 ⑤기능직/노무직/판매직 ⑥자유업 ⑦전업주부 ⑧무직 ⑨불명 ⑩기타()

가족의 학력 : 부() 모() ※아래①~⑦에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.

①중학교 졸업 ②고등학교 졸업 ③전문학교 졸업 ④단기대학 졸업 ⑤대학교졸업 ⑥대학이상졸업 ⑦기타()

2014 년

아동이름 () 기입담당자()

세대 : 비과세·과세 국적 : 부·모·아동 (국적이 일본이외의본인에게 ○을 쳐 주세요)

보육시간:평상시(AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분 특별시 1.있음 2.없음 (AM·PM)시()분~(AM·PM)시()분

가족구성 : ()명 1)모 2)부 3)조모 4)조부 5)형/오빠()명 6)누나/언니()명 7)남동생()명 8)여동생()명 9) 기타()명

가족의 직업 : 부() 모() ※아래①~⑩에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.

①서비스업 ②자영업 ③전문기술직 ④사무직 ⑤기능직/노무직/판매직 ⑥자유업 ⑦전업주부 ⑧무직 ⑨불명 ⑩기타()

가족의 학력 : 부() 모() ※아래①~⑦에서 하나를 골라 부모 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오.

①중학교 졸업 ②고등학교 졸업 ③전문학교 졸업 ④단기대학 졸업 ⑤대학교졸업 ⑥대학이상졸업 ⑦기타()

걱정 되는 아동의 체크 리스트

- | | |
|--------------------|--|
| 1 소리에 대한 반응의 이상 | ①소리에 대한 반응이 둔하거나 반응하지 않는다
②소리에 대해 아주 민감하게 반응한다 |
| 2 부자연스러운 울음의 습관 | ①습관적으로 운다
②습관적으로 안기려고 한다
③밤에 자주 운다 |
| 3 안기 힘들다 | ①안기는 것을 싫어한다
②몸이 유연하지 않다 |
| 4 발육 불량 | ①발육 불량이다
②발육 불량에 이행할 가능성이 있다 |
| 5 생활 리듬의 혼란 | ①식사량(수유량)이 일정하지 않다
②식사(수유)횟수가 일정하지 않다
③수면시간이 일정하지 않다
④취침시간이 일정하지 않다
⑤기상시간이 일정하지 않다
⑥낮잠 시간이 일정하지 않다
⑦하루 안에서 부자연스러운 체온변화가 있다
⑧낮/밤의 구별을 못하고 있다 |
| 6 빛(시력)에 대한 반응의 이상 | ①보는 것에 대한 반응의 이상이 있다 |

- 7 경련을 일으킨다
 ②빛에 대한 반응이 민감하거나 반응이 둔하다
 ①간질
 ②분노경련
 ③열성경련
- 8 알레르기가 있다
 ①식품알레르기가 있다
 ②아나필락시스 쇼크를 일으킨 적이 있다
 ③아토피성피부염이 있다
 ④화분증이 있다
- 9 부자연스러운 낮가림/분리불안
 ①부자연스러운 낮가림
 ②부자연스러운 분리불안
- 10 극단적으로 내향적이다
 ①자기표현(주장)을 잘 못한다
 ②얌전하다
- 11 부자연스러운 관계
 ①부자연스러운 친구관계
 ②부자연스러운 친자관계
- 12 무관심
 ①달래 줘도 웃지 않는다
 ②시선을 맞추지 않는다
 ③뒤에서 목소리만으로 이름을 불러도 뒤돌아보지 않는다
 ④아이들이나 어른들의 몸짓을 흉내내지 않는다
 ⑤친구에게 관심을 보이지 않는다
- 13 구애됨
 ①가까이에 있는 특정한 것에 흥미를 집중시킨다
 ② 물건을 정렬하게 세운다 등의 묘한 버릇이 있다
 ③순서에 집착한다
 ④공간/ 장소에 집착한다
 ⑤같은 행동을 자주 되풀이한다(상습적인 행동)
 ⑥행동에 집착이 있다
- 14 자주 토한다
 ①소화기계통에 질병이상이 있다
 ②신체에 질병이상이 있다
 ③신경성 구토가 있다
- 15 부자연스러운 식습관
 ①너무 먹는다
 ②조금만 먹는다
 ③식사량이 일정하지 않는다
 ④이식(異食)
 ⑤기타
- 16 부자연스러운 기어가기, 보행, 움직임이 있다. 보행의 지체
 ①뇌신경학계통의 질병이상이 있다
 ②운동기계통의 질병이상이 있다
 ③조대운동발달에 지체가 있다
- 17 손가락 움직임이 둔하다/ 부자연스러운 움직임이 있다
 ①손가락의 정형외과계통의 질환이상
 ②미세운동발달에 지체가 있다
- 18 심한 짜증
 ①짜증 내기 쉽다
 ②하고 싶은 일을 못하게 하면 혼란을 보인다
- 19 부자연스러운 어리광
 ①갑자기 어리광을 부리게 됐다
 ②별로 어리광을 부리지 않는다
 ③어른(직원/보호자)을 독점한다
- 20 함묵
 ①말을 하지 않는다
- 21 다동
 ①부주의
 ②다동성
 ③충동성
- 22 싸움이 많다
 ①스스로 싸움을 걸 때가 있다
- 23 반항이 심하다
 ①심하게 반항한다
 ②물건을 험하게 다룬다
- 24 운동을 싫어한다
 ①움직이는 것을 싫어한다
- 25 말에 관한 문제
 ①말이 느리다
 ②회화가 되기 어렵다
 ③너무 많이 말한다
 ④구음장애가 있다

- 26 신경질 ①어지러워지는 것을 심하게 싫어한다
②까다롭게 군다
- 27 피곤하기 쉽다 ①집에 온 후나 아침에 자는 일이 많다
②낮잠 시간이 길다
③게으름 피울 때가 많다
④'힘들다'라고 말할 때가 많다
- 28 야뇨 ①다량으로 나온다
②양은 적지만 자주 나온다
- 29 빈뇨 ①화장실에 간 직후에 다시 갈 때가 많다
②화장실에 약 1시간 간격으로 갈 때가 많다
- 30 걱정이 되는 버릇 ①손가락 빨기 ②자위 ③손톱 씹기 ④안면 경련
- 31 규칙에서의 이탈행동 ①남의 물건을 허락없이 가져 간다
②어른의 말을 무시하고 행동한다
- 32 너무 시끄럽다 ①때나 장소를 가리지 않고 빠른 말투로 계속 이야기한다
②자기자신의 흥미를 일방적으로 말하는 행동이 현저하다. 같은 말을 계속 되풀이한다
③사회적으로 사양해야 할 장소에서 부적절할 정도로 심하게 이야기한다
- 33 나이에 맞는 생활습관에 지체 ①식사
②배설
③수면
④착탈의
⑤청결
⑥아침 준비, 집에 갈 준비 등 몸차림을 갖추는 것을 어려워한다.

7 : 06	한 발로 30초 선다	피아노나 종이를 마음대로 친다	비를 써서 청소한다	한 사람이 쓰레받기를 들고 한 사람이 비를 써서 협력적으로 청소를 한다	히라가나를 완벽하게 읽는다	간단한 덧셈을 할 수 있다
7:00	공을 치면서 친 공을 발을 올려 발 밑으로 통과시킬 수 있다	종이를 집어 학이나 종선을 만들 수 있다	줄로 나비매듭을 할 수 있다	친구가 원하는 것을 알아서 스스로 해 준다	유아 말투를 거의 안 쓰게 했다	시계 바늘을 정확히 읽는다
6:06	혼자서 줄넘기를 한다	물감으로 그림을 그린다	손수건이나 컵레를 짜다	카드로 도둑잡기놀이를 할 수 있다	히라가나를 거의 읽을 수 있다	카드로 기억력 게임을 할 수 있다
6:00	한 발로 10초 선다	인물화 (6 부분)	혼자서 의술할 차비를 할 수 있다	혼자서 간단한 물의 게임을 할 수 있다	자발적으로 이야기를 만든다	반대말을 예측한다
5:06	그녀를 타면서 서거나 앉을 수 있다	잘 날도록 비행기를 접는 법이나 날리는 방법을 생각한다	몸을 수건으로 닦는다	가게에서 물건들 사서 거스름돈을 받는다	말꼬리를 이을 수 있다	수수께끼를 한다
5:00	한 발로 5초 선다	인물화 (3 부분)	혼자서 의술할 차비를 거의 할 수 있다	총내내면서 간단한 물의 게임을 할 수 있다	총내내면서 이야기를 만든다	베고프, 피르, 추위를 이해한다
4:08	번갈아 한 쪽 발로 뿔 수 있다	종이비행기를 혼자서 접을 수 있다	혼자서 옷을 입을 수 있다	모래밭에서 돌이서 협력해서 하나의 산을 만들 수 있다	문장 암송(2/3) 어이가 없이 그대를 타고 있습니다 산 위에 트 덮어 있습니다 아래 기계에 소원을 갚습니다	좌우를 안다
4:04	그녀를 서서 탈 수 있다	뛰는 공을 잡을 수 있다	신호를 보고 정확하게 도로를 건너갈 수 있다	가위바위보로 승부를 정한다	네가지 숫자의 암송(2/3) 5-2-4-9 6-8-3-5 7-3-2-8	수의 개념을 안다 (5 까지)
4:00	한발로 몇걸음 켜다	종이를 직선을 따라서 자른다	사위를 할 때 어느 정도 스스로 몸을 찾는다	어린한테 허락을 받고 이동한다	부모의 성명을 말한다	쓰임에 따른 물건지시(5/5) 책, 연필, 시계, 의자, 전등
3:09	양발로 뛰기	십자를 쓴다	코를 쫄다	친구와 번갈아서 물건을 쓴다	문장 암송(2/3) 고운 꽃이 필니다 비행기는 하늘을 날니다 노래를 잘 부릅니다.	수의 개념을 안다 (3 까지)
3:06	3 른차를 탄다	던진 공을 잡는다	손을 씻고 닦는다	친구한테 장난감을 빌리거나 빌려준다	문장 암송(1/3) 고운 꽃이 필니다 비행기는 하늘을 날니다 노래를 잘 부릅니다.	수의 개념을 안다 (2 까지)
3:03	알곡기를 한다	단추를 채운다	혼자서 세수를 한다	'이렇게 해도 돼?'라고 허락을 원한다	같은 나이에 아이들과 회화를 할 수 있다	높다와 낮다를 안다
3:00	한 발로 2~3초 선다	가위를 써서 종이를 자른다	겉옷을 혼자서 벗는다	소꿉놀이로 역할을 맡을 수 있다	두 단어의 문장 암송(2/3) 작은 인형, 빨간 종선,맛있는 과자	빨간,파란, 노란, 초록을 안다 (4/4)
2:09	선 채로 한 바퀴 든다	총내내서 공을 그린다	신발을 혼자서 신는다	연하 아이를 돌보고 싶어 한다	두가지 숫자의 암송(2/3) 5-8 6-2 3-9	길다와 짧다를 안다
2:06	발을 번갈아 내면서 계단을 오른다	총내내서 직선을 그린다	흘리지 않고 혼자 먹는다	친구와 싸우면 고자질을 한다	자기 성명을 말한다	크다와 작다를 안다
2:03	두 발로 강종강종 켜다	철봉 등에 두 손으로 매달린다	혼자서 편지를 벗는다	풍화 놀이를 한다	에브리네, 맛있네 등의 표현을 한다	코,머리,이,혀,배꼽,손톱을 지시한다(4/6)
2:00	공을 앞으로 찬다	적복을 옆으로 2개 이상 늘어놓는다	베노를 예고한다	주된 양육자에서 떨어져 는다	두 단어 문장을 말한다 (강아지 왔다 등)	하나 더, 좀 더 를 안다
1:09	혼자서 두발을 맞추면서 계단을 1 단씩 올라갈 수 있다	연필로 빙빙 공을 그린다	빨대로 마신다	친구와 손을 잡는다	그림책을 보고 3가지 물건의 이름을 말한다	눈,입,귀,손,발,배를 지시한다 (4/6)
1:06	켄다	컵에서 컵으로 물을 옮긴다	편지를 입힐 때 양다리를 벌린다	근관한 일이 생기면 도움을 청한다	그림책을 보고 1가지 물건의 이름을 말한다	그림책을 읽어달라고 한다
1:04	신발을 신고 걸는다	적복을 2개 쌓는다	자기 입가를 스스로 닦으려고 한다	간단한 일손을 돕는다	3 단어를 말할 수 있다	간단한 지시를 실행한다 (신문 가져 오세요 등)
1:02	2~3 걸음 걷는다	컵 안의 작은 알갱이를	과자의 포장지를 벗겨서	칭찬을 들으면 같은 동작을	2 단어를 말할 수 있다	요구를 이해한다(3/3)

1:00	앉은 위치에서 선다	집어내려고 한다 막 그린다	먹는다 손가락으로 먹으려고 한다	되풀이한다 주된 양육자 뒤를 쫓아온다	말을 1~2개 정확하게 홍내낸다	(오세요, 주세요, 잘 자) 요구를 이해한다(1/3) (오세요, 주세요, 잘 자)
0:11	잡고 걸어간다	장난감 차를 손으로 굴린다	컵을 스스로 들고 마신다	낮가짐을 한다	음성을 홍내내려고 한다	안녕이라는 말에 반응한다
0:10	잡고 선다	병 뚜껑을 열거나 달거나 한다	울지 않고 요구를 한다	물질을 홍내낸다	자꾸 말한다(옹아리)	안 돼라고 하면 손을 뗀다
0:09	물건을 잡고 서 있다	장난감 복을 친다	컵 등을 두 손으로 입에 가져간다	장난감을 떼앗기면 불쾌함을 나타낸다	다,타,차 등의 소리를 낸다	아는 사람의 목소리를 구별한다
0:08	혼자 앉아서 논다	엄지손가락과 집게손가락으로 잡으려고 한다	얼굴을 뒤으려고 하면 싫어한다	거울을 보고 웃거나 말을 걸거나 한다	마,바,파 등의소리를 낸다	소리 나는 방향으로 뒤 돌아본다
0:07	엎드린 채로 몸을 돌린다	장난감을 한쪽손에서 반대손으로 옮긴다	컵에서 마신다	친근함과 화난 표정을 안다	장난감 등을 향해 소리 친다	상대방의 말투로 감정을 안다
0:06	자다가 몸을 뒤칠 수 있다	손을 내밀어서 물건을 잡는다	손으로 잡을 수 있는 물건 등을 자기 입으로 가져 간다	거울에 비친 자신의 얼굴에 반응한다	사람을 향해 소리를 낸다	보고 웃는다
0:05	옆으로 눕히면 뒤친다	소리나는 장난감을 흔든다	장난감을 보면 움직임이 활발해 진다	사람을 보면 웃는다	높은 소리를 지른다	주된 양육자와 다른 사람의 목소리를 구별한다
0:04	목이 단단히 자리 잡는다	장난감을 잡고 있다	손가락으로 마실 수 있다	달래진 소리를 내어 웃는다	소리를 내어 웃는다	부르는 방향을 보려고 한다
0:03	위를 보고 누운 상태에서 몸을 일으키면 머리를 든다	얼굴에 단 물건을 만지려고 손을 움직인다	얼굴에 천을 걸치면 불쾌함을 나타낸다	사람 목소리가 나는 방향을 본다	울지 않고 소리를 낸다	사람 목소리로 조용해 진다
0:02	엎드려서 고개를 조금 든다	손을 입으로 가져가 핏는다	배 부르면 뒷쪽지를 허로 내밀거나 얼굴을 둘러거나 한다	사람 얼굴을 쳐다 본다	여러 가지 음음소리를 낸다	말을 걸어주는 방향을 본다
0:01	위를 보고 누우면서 가끔씩 좌우로 고개 방향을 바꾼다	손에 닿은 물건을 잡는다	배 고티울 때 안으면 얼굴을 젓 방향으로 둘러 먹고 싫어 한다	울 때 안아주면 음음을 멈춘다	힘있게 운다	큰 소리에 반응한다
연령	조대운동	미세운동	생활기술	대인기술	표현	이해
	운동발달		사회성발달		언어발달	

더 좋은 육아지원에 대한 질문

아동이름() 연령(세 개월)

(남·여)

이것은 더 좋은 육아지원을 위한 여러분의 의견이나 아동의 가정에서의 상태를 알아보기 위한 것입니다. 이 목적 이외로 쓸 일은 없으며 개인명이 나오는 일은 없으므로 부디 있는 그대로를 기입해 주시도록 부탁드립니다.

★기입에 있어서 부탁드립니다★

선택사가 있는 질문은 해당하는 번호 하나에 ○을, '해당 사항 모두'라고 된 질문은 해당되는 것들 전부에 ○을 쳐 주십시오. 질문이 있을 시에는 다음 연락처에 문의해 주십시오.(연락처 : 京都大学社会学研究室**)

1. 기입자와 어린이집을 이용하는 아동과의 관계에 ○을 쳐 주십시오. 1)모 2)부 3)조모 4)조부 5)기타()
2. 세대 구성 : 동거 인원수(아동 포함)()명 → 함께 사는 분들 전부에 ○을 쳐 주십시오.
1) 아동의 생모 2) 아동의 생부 3) 아동의 외할머니 4) 아동의 외할아버지 5) 아동의 할머니 6) 아동의 할아버지
7) 아동의 형/오빠, 누나/언니 8) 아동의 남동생/여동생 9) 모친 대신이 될 분 10) 부친 대신이 될 분 11) 그 외 친척(구체적으로)
12) 친척 이외 (구체적으로)
3. 하루에 아동을 마주 하여 같이 놀 시간은 얼마나 있습니까? (단, 수면시간은 제외)
1) 평일 약 시간 분 2) 휴일 약 시간 분
4. 아동과 같이 놀 기회(아동을 마주 하여 지내는 일)는 얼마나 있습니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
5. 아동과 같이 쇼핑 갈 기회는 얼마나 있습니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
6. 아동에게 책을 읽어 줄 기회는 얼마나 있습니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
7. 기입자는 동요나 아동이 좋아하는 노래를 같이 부릅니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
8. 아동과 공원에 갈 기회는 얼마나 있습니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
9. 아동과 같은 연령대의 아이를 가지는 친구나 친척을 어느 정도로 방문하거나 방문을 받거나 합니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
10. 아버지(어머니)는 (혹은 아버지(어머니)대신이 될 분) 어느 정도 협력적입니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
11. 아동은 부모(혹은 어머니, 아버지 대신이 될 분) 와 같이 식탁에 앉아서 식사는 몇번정도 합니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
12. 아동이 일부러 우유를 흘리면 어떻게 합니까? 해당하는 번호 하나에 ○을 쳐 주십시오.
1) 아동을 때린다 2) 말로 나무란다 3) 어떤 방법으로 잘못을 알린다 (내용;)
4) 다른 방법으로 흘리지 않도록 생각한다 5) 기타()
13. 지난 주는 몇번정도 아동을 때렸습니까?
1) 안 때렸다 2) 1~2 번정도 3) 3~4 번정도 4) 5~6 번정도 5) 거의 매일
14. 부부(혹은 아버지(어머니)대신이 될 분)로 아동에 대한 이야기를 할 시간은 어느 정도 있습니까?
1) 거의 없다 2) 달에 1~3 번 3) 주에 1~2 번 4) 주에 3~4 번 5) 거의 매일 6) 기타
15. 어린이집 외에 일상적으로 아동을 돌봐 줄 사람은 있습니까?
1) 없다 2) 있다-그 분은 누구입니까? 해당하는 번호 전부에 ○을 쳐 주십시오.
1) 아동의 생모 2) 아동의 생부 3) 아동의 외할머니 4) 아동의 외할아버지 5) 아동의 할머니 6) 아동의 할아버지
7) 아동의 형/오빠, 누나/언니 8) 모친 대신이 될 분 9) 부친 대신이 될 분 10) 그 외 동거하는 친척()
11) 그 외 별거하는 친척() 12) 친구 13) 이웃집 14) 근처에 사는 분 15) 직장동료 16) 베이비 시터
17) 자치체나 민간시설 18) 기타()
16. 육아에 대해서 누군가 상담할 사람이 있습니까?
1) 없다 2) 있다-그 분은 누구입니까? 해당하는 번호 전부에 ○을 쳐 주십시오.
1) 배우자(대신이 될 분 포함) 2) 조부모 3) 친구 4) 동거하는 친척 5) 별거하는 친척 6) 이웃집 7) 근처에 사는 분
8) 어린이 집 직원 9) 베이비 시터 10) 직장동료 11) 자치체나 민간시설 12) 기타()
17. 아동이 몇 살 때 쭉부터 탁아소, 베이비호텔, 베이비 시터 등 보육서비스(어린이 집은 제외)를 이용하기 시작했습니까?
1) 이용한 적이 없다 2) 이용했다 (아동이 살 개월 경부터)
18. 아래의 자치체에 의한 육아지원 중 이용한 적이 있는 것 전부에 ○을 쳐 주십시오.
1) 지역육아지원거점사업 2) 임시 보육 3) 영유아가정전세대방문사업(안녕하세요 아기 사업)
4) 양육지원방문사업, 그 외 지원필요아동, 보호필요아동 등의 지원에 이바지하는 사업 5) 패밀리 사포트 센터
6) 육아단기지원사업(단기숙박 등 숙박을 포함한 보육) 7) 연장보육 8) 병든 아동, 병후 아동을 위한 보육 9) 임신부 건강진단에 대한 지원
19. 아동은 어린이집에 다니는 것을 즐기고 있습니까?

1)매우 즐기고 있다 2) 비교적 즐기고 있다 3)어느 쪽도 아니다 4)그렇게 다니고 싶어하지 않는다 5)싫어한다

20. 아들은 항상 몇시에 일어나고 몇시에 잠니까? 가장 많은 시간을 평일과 휴일 각각 기입해 주십시오.

평일- 기상(AM·PM)시()분 경 취침(AM·PM)시()분 경
휴일- 기상(AM·PM)시()분 경 취침(AM·PM)시()분 경

21.아동의 수면은 규칙적입니까?

1)항상 불규칙적이다 2)가끔 불규칙적이다 3)거의 규칙적이다 4)항상 규칙적이다 5)모른다

22.기입자의 스트레스는 어느 정도입니까? 한가지에 **○**을, 또 그 내용에 관해서도 해당하는 번호 전부에 **○**을 쳐 주십시오.

(없다/ 낮다 / 중정도 / 좀 높다 / 아주 높다) → 내용 (육아/ 건강상태 / 일 / 인간관계 / 기타())

23.아동과 부모의 국적을 알려 주십시오. 여러 국적이 있으시는 분은 해당하는 것 전부에 **○**을 쳐 주시고 ()에 국명을 기입해 주십시오.

예) 아동이 일본, 독일, 영국의 3중국적일 경우 아동: 일본 외국 (독일·영국)
아동: 일본·외국 () 모: 일본·외국 ()
부: 일본·외국 ()

24. 기입자의 현재 주거는 아래의 어느 것에 해당됩니까?

1)단독주택 (자기소유) 2) 단독주택 (임대차) 3)분양아파트 4)민간 임대아파트
5)도시재생기구(구 공단)·공사등의 임대주택 6)공영주택 7) 그 외()

25.기입자는 현재 지역에 얼마나 살고 있습니까? ()년 (1년미만의 경우 **개월**)

26. 어머니와 아버지의 직업을 [A]와 [B]에서 하나씩 골라 각각 ()안에 번호를 기입해 주십시오. 여러 가지 일을 하고 계실 시에는 주된 것을

답해 주십시오. 예)파트타임 사무직 (A: ③) (B: d) , 전업주부 (A: ⑥) (B: i)

어머니(A:) (B:) 아버지(A:) (B:)

[A] ①경영자·이사 ②상근 고공의 일반종업자 ③임시고용·파트타임·아르바이트 ④파견직원·계약직원·축적직원

⑤자영업·자유업 ⑥자영업의 가족종사자 ⑦내직 ⑧전업주부 ⑨무직 ⑩기타()

[B] a 판매직·서비스업 b 관리직직업 c 전문직·기술직 d 사무직·영업직 e 기능직·노무직·작업직

f 농림어업직 g 불명 h 기타() i 일을 안 함

27. 어머니와 아버지는 주에 평균 몇 시간 일합니까? 여러 가지 일을 하고 계실 시에는 합계 시간을 써 주십시오.

어머니(시간) 아버지(시간)

28. 아동이 태어난 후에 어머니와 아버지는 육아휴업을 취득했습니까? 각각 ()안에 번호를 써 주십시오.

어머니() 아버지()

1) 취득했다(**개월**간) 2)취득하고 나서 퇴직했다 3) 취득하지 않고 출산을 계기로 퇴직했다
4) 취득하지 않고 계속 일했다 5)일을 안 하고 있었다 6) 기타()

29. 어머니는 아동이 몇 살때 일에 복귀했습니까? 복귀했을 때 아동의 나이를 기입해 주십시오. (**살** **개월** 경)

30. 산 후 24 시간 이내에 아이에게 모유를 줄 것을 시도했습니까? 1) 시도했다 2)시도하지 않았다

31. 아이가 몇개월이 될 때까지 모유를 썼습니까?(모유와 함께 모유 이외의 영양물(영유아용 분유, 이유식 등)을 주고 있을 경우도 포함)

1) 주지 않았다. 2)찰다 (**살** **개월** 경까지)

32.괜찮으시면 작년 1년간의 수입(세금 포함)을 대답해 주십시오. 어머니, 아버지의 수입에는 일에서의 수입에 관해서 대답해 주십시오. 세대 전체 수입에는 언급이나 아동수당, 아동부양수당, 생활보호 등의 사회보장급부금, 양육비 등 전체 수입을 포함해 주십시오.

어머니() 아버지() 세대전체()

1) 없음 2)100 만엔미만 3)100~200 만엔 4)200~300 만엔 5)300~400 만엔 6)400~600 만엔 7)600~800 만엔 8)800 만엔 이상

33.가정에서 가게 관리를 하는 분은 주로 어느 분입니까? 하나만 **○**을 쳐 주십시오.

1) 주로 어머니 2)주로 아버지 3)공동관리 4)기타()

34. 기입자는 이제까지 배우자한테서 폭력(정신적인 것을 포함), 폭행을 당한 경험이 있습니까? 1) 네 2)아니오

35. 기입자는 어릴 때 부모한테서 폭력(정신적인 것을 포함), 폭행을 당한 경험이 있습니까? 1) 네 2)아니오

36. 아동을 키우면서 육아에 자신이 없어진다고 느낄 때가 있습니까? 1)자주 있다 2)가끔 있다 3)거의 없다 4)전혀 없다

37.육아에 관해서 곤란한 일은 있습니까?(돈이 든다, 시간이 든다, 도와 줄 사람이 없다,일하고의 양립이 어렵다 등)

38.육아 지원에 관해서 무엇인가 의견이나 희망이 있으면 기입해 주십시오.

※아래 질문은 외국인 가정 분만 대답해 주십시오.

資料6 保健学チームの調査票 + 社会学チームの新規調査票・タガログ語版

Araw ng Pagsagot: (Taon _____ Buwan _____ Araw), (Taon _____ Buwan _____ Araw), (Taon _____ Buwan _____ Araw),

Code sa Kindergarten ()

Personal na I.D. Number ()

Ebalwasyon para sa Pagbabagong Panlipunan at Inter-Personal na Pakikisalamuha

Tagasagot ()	
Sambahayan:	May tax exemption () May tax ()
Nasyonalidad:	Tatay Nanay Anak (Bilugan kung hindi Hapones)
Pangalan ng Anak:	() Lalaki/Babae
Kaarawan:	(Taon _____ Buwan _____ Araw _____) Edad ng Pumasok sa Kindergarten
()	Taon () Buwan ()
Oras ng Pag-aalaga sa Bata:	
Normal (AM/PM) Oras () Minuto ~ (AM/PM) Oras () Minuto	
Di Pangkaraniwang Oras (AM/PM) Oras () Minuto	1. Wala 2. Meron (AM/PM) Oras () Minuto ~
Istruktura ng Pamilya: Apelyido ()	
1. Nanay (Pangalan:)	
2. Tatay (Pangalan:)	
3. Lola (Pangalan:)	
4. Lolo (Pangalan:)	
5. Kuya (Pangalan:)	
Trabaho ng Pamilya: Tatay () Nanay ()	
Pumili ng tig-isa sa (1-10) at ilagay sa puwang ang numerong napili.	
1) Serbisyo 2) Sariling Bisnes 3) Trabahong Teknikal 4) Opisina 5) <i>Craftsmen/Labor/Sales</i> 6) <i>Freelance</i> 7) <i>Housewife</i> 8) Wala 9) Hindi alam 10) Atbp	

Edukasyon ng Pamilya:	Tatay ()	Nanay ()				
Pumili ng tig-isa sa (1-8) at ilagay sa puwang ang numerong napili.						
1) <i>Middle School</i>	2) <i>High School</i>	3) <i>Vocational</i>	4) <i>2-year Course (Tanki)</i>	5) <i>University</i>	6) <i>Masters Degree</i>	7) <i>Others</i>
8) Hindi alam						

Panlipunang Kakayahan
(*Social skills*)

(Sagutin ang lahat ng tatlung katanungan)

	2012				2013				2014				<i>Espesya I na Tala</i>
	Palagi	Minsan	Hindi/Wala	Hindi Alam	Palagi	Minsan	Hindi/Wala	Hindi Alam	Palagi	Minsan	Hindi/Wala	Hindi Alam	
1. Nakatingin sa mukha ng ispiker habang nagsasalita (ang ispiker).													
2. Nagpapahayag ng maliwanag na reaksyon sa ispiker.													
3. Tila nasisiyahan ang mukha kapag nagagawa ang isang bagay na pinapagawa.													
4. Pinakikita sa mukha ang kanyang nararamdaman/damdamin.													
5. Bumabati.													
6. Lumalapit sa tao at nakikipag-usap													
7. Nakatingin sa mukha (ng tagapakinig) kapag nakikipag-usap.													
8. Kapag nayaya, nagiging kalaro.													
9. Nagpapakita ng may simpatiya/konsiderasyon sa ibang bata.													
10. Hindi nagpapakita ng pagiging agresibo sa ibang bata													
11. Kayang sabihin ang sariling apelyido at pangalan.													
12. Kayang sabihin sa sarili kung ano ang nakita at narinig.													

13. Kayang maghintay kapag sinabihang
[mamaya na].

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

IV. Ukol sa mga posibleng sanhi ng mga alalahanin sa mga bata at mga magulang (mabagal na pagkilos at pagdebelop).

Lagyan ng kung ito ang pinaka-primerong dahilan, at para sa lahat ng nauukol.

A. Dahil sa mga Bata (Children Factor)	2012	2013	2014	Espesyal na tala
1. Mababang timbang noong kapanganakan. (<i>Low birth weight</i>)				
2. May kapansanan (<i>Person with Disabilities=PWD</i>) [mata, tenga, daliri atbp]				
3. Intelektuwal na kapansanan				
4. Sakit				
5. <i>Stress</i>				
6. Temperamente/Personalidad (<i>Nervousness, etc</i>)				
7. Kakulangan sa karanasan				
8. Kahinaan ng kapasidad sa adaptasyon				
9. Hindi umaayon o umaakma sa <i>Kindergarten</i>				
10. Ang pagsisi ay sa mga bata kahit hindi malinaw ang dahilan				
11. At iba pa ()				
B. Dahil sa mga Magulang (Guardian's Factor)				
1. Karamdaman sa Isipan (<i>Mental Illness</i>)				
2. Karamdaman sa Katawan (<i>Physical Illness</i>)				
3. Intelektuwal na kapansanan				
4. May kapansanan (<i>Person with Disabilities=PWD</i>)				
5. <i>Stress</i>				
6. Personalidad/Karakter				
7. Kababaan ng lebel ng <i>maturity</i> ng magulang.				
8. Kababaan ng lebel ng <i>maturity</i> pagdating sa pakikisalamuha sa tao.				
9. Walang panahon para sa malayang oras/paglilibang (leisure time) ⁵⁷				

10. Ang pagsisi ay sa mga magulang kahit hindi malinaw ang dahilan				
11. At iba pa. ()				
C. Dahil sa Partisipasyon/Koneksyon				
1. Sobrang kulang ng koneksyon ng bata sa magulang.				
2. Sobrang kulang ng koneksyon ng bata sa lipunan.				
3. Hindi akma/swak ang bata sa mga kawani.				
4. May kinikilingan (<i>bias</i>) ang partisipasyon ng magulang.				
5. May tendensiyang maabuso ang partisipasyon ng magulang.				
6. Labis na pakikialam ng magulang.				
7. Ang sanhi ay ang partisipasyon/koneksyon kahit hindi malinaw ang pinagmulan				
8. At iba pa.				
D. Mga dahilan mula sa kapaligirang nakapalibot sa mga magulang.				
1. Kakulangan ng suporta mula sa ibang tao.				
2. <i>Stress</i> ng mga magulang, pamilya, kamag-anak atbp.				
3. <i>Stress</i> sa kapit-.bahay				
4. <i>Stress</i> sa trabaho.				
5. Labis na panghihimasok o pakikialam ng ibang tao.				
6. Kawalang-tatag ng pamumuhay.				
7. Hindi magandang kondisyon ng kapaligiran (<i>Poor Physical Environment Condition</i>)				
8. Ang sanhi ay ang kapaligiran kahit hindi malinaw ang pinagmulan.				
9. At iba pa.				

TAONG 2013

Pangalan ng Anak: ()	Furigana ()	Tagasagot
()		
Sambahayan:	May tax exemption ()	May tax ()
Nasyonalidad: Tatay	Nanay	Anak (Bilugan kung hindi Hapones)
Oras ng Pag-aalaga sa Bata:		
Normal (AM/PM)	Oras ()	Minuto ~ (AM/PM)
Di Pangkaraniwang (AM/PM)	Oras ()	Minuto ~
1. Wala	2. Meron	(AM/PM) Oras ()
Minuto		
Istruktura ng Pamilya: Apelyido ()		
1. Nanay	(Pangalan:)	
2. Tatay	(Pangalan:)	
3. Lola	(Pangalan:)	
4. Lolo	(Pangalan:)	
5. Kuya	(Pangalan:)	
6. Ate	(Pangalan:)	
7. Nakababatang kapatid na Lalaki	(Pangalan:)	
8. Nakababatang kapatid na Babae	(Pangalan:)	
9. At iba pa	(Pangalan:)	
Trabaho ng Pamilya: Tatay () Nanay ()		
Pumili ng tig-isa sa (1-10) at ilagay sa puwang ang numerong napili.		
1) Serbisyo 2) Sariling Bisnes 3) Trabahong Teknikal 4) Opisina 5) <i>Craftsmen/Labor/Sales</i> 6) <i>Freelance</i> 7) <i>Housewife</i> 8) Wala 9) Hindi alam 10) Atbp		
Edukasyon ng Pamilya: Tatay () Nanay ()		
Pumili ng tig-isa sa (1-8) at ilagay sa puwang ang numerong napili.		
1) <i>Middle School</i> 2) <i>High School</i> 3) <i>Vocational</i> 4) <i>2-year Course (Tanki)</i> 5) <i>University</i> 6) <i>Masters Degree</i> 7) <i>Others</i> 8) Hindi alam		

Pangalan ng Anak: ()	Furigana ()	Tagasagot
Sambahayan: May tax exemption ()	May tax ()	
Nasyonalidad: Tatay	Nanay	Anak (Bilugan kung hindi Hapones)
Oras ng Pag-aalaga sa Bata:		
Normal (AM/PM)	Oras ()	Minuto ~ (AM/PM) Oras ()
Di Pangkaraniwang Oras	1. Wala	
2. Meron (AM/PM)	Oras ()	Minuto ~ (AM/PM) Oras ()
Istruktura ng Pamilya: Apelyido ()		
1. Nanay (Pangalan:)		2. Tatay (Pangalan:)
3. Lola (Pangalan :)		4. Lolo (Pangalan :)
5. Kuya (Pangalan :)		6. Ate (Pangalan:)
Trabaho ng Pamilya: Tatay () Nanay ()		
Pumili ng tig-isa sa (1-10) at ilagay sa puwang ang numerong napili.		
1) Serbisyo 2) Sariling Bisnes 3) Trabahong Teknikal 4) Opisina 5) <i>Craftsmen/Labor/Sales</i>		
6) <i>Freelance</i> 7) <i>Housewife</i> 8) Wala 9) Hindi alam 10) Atbp		
Edukasyon ng Pamilya: Tatay () Nanay ()		
Pumili ng tig-isa sa (1-8) at ilagay sa puwang ang numerong napili.		
1) <i>Middle School</i> 2) <i>High School</i> 3) <i>Vocational</i> 4) <i>2-year Course (Tanki)</i> 5) <i>University</i> 6) <i>Masters Degree</i> 7) <i>Others</i>		
8) Hindi alam		

Listahan ng mga Alalahanin sa mga Bata

気になる子供チェックリスト

1. abnormal na reaksiyon sa tunog	1) matalas na reaksiyon o walang reaksiyon sa tunog 2) sensitibong reaksiyon sa tunog
2. kakaibang gawi sa pag-iyak	1) may nakasanayang pag-iyak 2) may nakasanayang pagyakap 3) pag-iyak sa gabi
3. mahirap yakapin	1) ayaw magpayakap 2) matigas ang katawan
4. mahinang paglaki	1) mahinang paglaki 2) may posibilidad na mapunta sa mahinang paglaki
5. pagkabahala o maguluhan sa ritmo ng pamumuhay	1) may baryasyon sa dami ng iniinom na gatas (<i>amount sucked</i>) 2) may baryasyon sa bilang ng pag-inom ng gatas (<i>breast-feeding</i>) (pagdede sa suso ng ina) 3) may baryasyon sa haba ng pagtulog 4) may baryasyon sa oras ng pagtulog 5) may baryasyon sa oras ng paggising 6) may baryasyon sa oras ng pagtulog sa tanghali 7) hindi natural na pagbabago sa temperatura ng katawan sa loob ng isang araw 8) hindi malaman ang kaibahan ng tanghali at gabi
6. abnormal na reaksiyon sa liwanag (linaw ng mata)	1) abnormal na reaksiyon sa pagtingin/panonood 2) sensitibo o matalas ang reaksiyon sa liwanag
7. kombulsyon	1) <i>epilepsy/seizure</i> (epilepsi/pagkahimatay) 2) kombulsyon 3) <i>fever convulsion</i> (kombulsyon sanhi ng lagnat)
8. may <i>allergy</i>	1) may <i>allergy</i> sa pagkain 2) nakaranas ng <i>anaphylactic shock</i> 3) may <i>atopic dermatitis</i> 4) may <i>hay fever (pollen allergy)</i>
9. nahihiya sa hindi kakilala o pamilyar na tao; <i>separation anxiety</i> (takot na mahiwalay)	1) hindi natural na pagkamahiyain 2) hindi natural na <i>separation anxiety</i>
10. sobrang pagkamahiyain	1) kahinaan sa pagpapahayag sa sarili 2) matahimik/maamo
11. hindi natural na relasyon	1) hindi natural na relasyong pangkaibigan 2) hindi natural na relasyong magulang-anak
12. walang pakialam/pakiramdam	1) kahit patawanin o iduyan hindi natatawa 2) hindi nagtatagpo ng tingin 3) hindi lumilingon kahit tawagin ang pangalan mula sa likuran 4) hindi ginagaya ang kilos ng kapwa bata at matanda 5) hindi nagpapakita ng interes miski sa kaibigan
13. partikular (sa isang bagay)	1) pokus sa kanyang interes

	<p>2)kakatwang gawi kung saan inaayos/inihahanay ng maigi ang isang bagay</p> <p>3) partikular sa ayos (pagkasunod-sunod)</p> <p>4)partikular sa espasyo/lugar</p> <p>5)<i>stereotyped behaviour</i> (nakaugaliang ugali)</p> <p>6) partikular sa galaw/kilos/asta/pag-uugali</p>
14. madaling masuka	<p>1) may <i>abnormality</i> sa <i>digestive system</i> (sistemang panunaw)</p> <p>2) may <i>abnormality</i> sa katawan</p> <p>3) may <i>nervous vomiting</i></p>
15. hindi natural na pagkain	<p>1) sobrang kain</p> <p>2) konting kumain</p> <p>3) may pagbabago sa pagkain</p> <p>4) may <i>parorexia/pica</i> (abnormal na pagkain sa mga bagay na hindi itinuturing na pagkain)</p> <p>5) at iba pa</p>
16. hindi natural na paggapang, paglakad, pagkilos, mabagal na paglakad	<p>1) may abnormalidad sa <i>cranial nerves</i></p> <p>2)may abnormalidad sa <i>motor system</i></p> <p>3) may pagbagal o pagkaantala sa pagbabago sa <i>large movement (grass motor movement)</i></p>
17. matalas na paggalaw ng daliri; hindi natural na paggalaw	<p>1) abnormalidad sa daliri</p> <p>2) may pagbagal o pagkaantala sa pagbabago sa <i>motor-skill</i></p>
18.bayolenteng pag-uugali	<p>1) maigsi ang pasensya, madaling mawalan ng pasensya, madaling uminit ang ulo</p> <p>2) nagiging aligaga (<i>panic</i>) kapag pinagbawalan sa mga bagay na nais niyang gawin</p>
19. hindi natural na paglalambing/umaasa /palaasa	<p>1) biglaang paglalambing</p> <p>2) ayaw magpalambing</p> <p>3) nais na ang mga may edad (<i>adult</i>) tulad ng (empleyado/tagapag-alaga) ay maging <i>single/huwag mag-asawa</i></p>
20. <i>mutism</i> (hindi pagsasalita o <i>pagre-react</i> dahil sa <i>trauma</i> o depresyon)	<p>1) ayaw magsalita/sumagot</p>
21. <i>hyperkineses</i> (walang konsentrasyon, walang kontrol)	<p>1)hindi atentibo</p> <p>2)sobrang aktibo</p> <p>3)walang kontrol na paggalaw</p>
22. malimit na pakikipag-away	<p>1) agresibo/palaaway</p>
23. grabeng pagsuway o di pagsunod	<p>1) grabeng pagsuway</p> <p>2) bayolente/marahas na paghawak sa mga bagay</p>
24. hindi mahilig sa pag-ehersisyo	<p>1) ayaw ang pagkilos o paggalaw</p>
25. suliranin ukol sa pananalita	<p>1) mabagal magsalita</p> <p>2) hirap sa komunikasyon</p> <p>3)sobrang daldal</p> <p>4) may <i>dysarthria</i> (problema sa pananalita)</p>

26.nerbiyos/pagiging sensitibo	1) nagagalit/naiinis ng sobra sa mga maruming bagay 2) napapansin miski ang maliit na bagay
27.madaling mapagod	1) pagkatapos pumasok sa <i>kindergarten school</i> , malimit ang pagtulog mula umaga 2) mahabang pag-idlip sa tanghali 3) madalas na tinatamad 4) malimit na binabanggit ang salitang [pagod] [hirap]
28. <i>enuresis</i> (pag-ihi sa gabi ng walang kontrol)	1) marami kung umihi 2) kaunti kung umihi subalit madalas
29. malimit na pag-ihi	1) malimit na pagpunta sa palikuran (<i>toilet</i>)kahit katatapos lamang 2) malimit na pagpunta sa palikuran (<i>toilet</i>) kada isang oras
30. mga nakasayanan o gawing (<i>habit</i>) nagiging alalahanin	1) pagsubo sa daliri 2) pagkagat sa kuko 3)paglalaro sa kanyang ari 4. <i>tic</i> (paggalaw ng mukha, mata ng walang kontrol)
31. ang hindi pagsunod sa mga patakaran	1) ang pagkuha ng gamit ng ibang tao ng hindi napapansin 2) ang pagkilos o paggalaw ng hindi pinapansin ang mga salita o pangaral ng mga mas nakatatanda
32.sobrang ingay	1) patuloy sa pagsasalita ng mabilis ng walang pakialam na hindi alintana ang oras at lugar 2) kapansin-pansin na ang sariling interes lamang ang kinukuwento at paulit-ulit itong binabanggit 3) ang sobrang pagdaldal kahit sa isang lugar na kung saan dapat iwasan ang pag-iingay
33. ang pagkahuli sa <i>life-style</i> (pamumuhay) na naaayon sa kanyang edad	1) pagkain 2) pagdumi/pag-ihi 3) pagtulog 4) pagsuot at paghubad ng damit 5)paglilinis 6) pagkabahala o pagkaligalig sa paghahanda sa umaga, paghahanda sa pag-uwi mula sa <i>kindergarten</i> at pagpalit ng damit

Talaan sa Pagsusuri ng Pangkalahatang Pagbabago (Taong 2012, 2013, 2014)
Punan ang bawat taon ng ibat ibang kulay

7:06	Tumatayo ng 30 segundo gamit ang isang paa lamang	Tumutugtog ng piano o organ hanggat gusto.	Naglilinis gamit ang walis.	Tumutulong sa paglinis kung saan ang isa ay may dalang walis at ang isa naman ay may dalang pandakot.	Tinatapos basahin ang aklat sa hiragana.	Kayang magsuma ng simpleng <i>addition</i> .
7:00	Pinapasa ang bola mula sa ilalim ng paa sa larong <i>"ball bouncing"</i> [maritsuki]	Gumagawa ng papel na lobo at tsuru (<i>origami</i>) sa kanyang sarili	Nagbubuhol ng <i>"butterfly knot"</i> .	Sinusunod ang pinapagawa ng kaibigan.	Halos hindi na nagbe- <i>"baby talk"</i> .	Nakakabasa ng tama sa relo.
6:06	Naglalaro ng luksong-lubid mag-isa. [nawa tobi]	Nagdo-drawing gamit ang pangguhit.	Nagpipiga ng pamunas at basahan.	Kayang maglaro ng <i>"unggoy-unggoyan"</i> [bab anuki]	Halos nakakapagbasa na ng aklat sa hiragana.	Nagko- <i>"concentration game"</i> . [torampu no shinkei]
6:00	Tumatayo ng 10 segundo gamit ang isang paa lamang.	Nado-drawing ng mga pigura/tao. (6 na bahagi)	Kayang-kaya maghanda sa sarili kapag aalis.	Kayang gawin ang simpleng tuntunin sa sarili.	Nakakapagkuwento ng tuloy-tuloy.	Kayang mag- <i>analogy</i> (paghahalintulad) Ang apoy ay mainit, ang yelo ay _____; Ang kabayo ay malaki, ang daga ay _____; Ang tanghali ay maliwanag, ang _____ gabi

5:06	Tumatayo at umuupo habang inuugoy ang duyan.	Pinag-iisapang maigi ang paggawa ng eroplanong papel at ang paghagis nito.	Pinupunasan ang katawan gamit ang pamunas. (<i>towel</i>)	Bumibili sa tindahan at kinukuha ang sukli.	Naglalaro ng “ <i>word game</i> ” . [<i>shiritori</i>]	Nagbubugtung-bugtungan. (<i>riddle</i>)
5:00	Tumatayo ng 5 segundo gamit ang isang paa lamang.	Nagdo-drawing ng mga pigura/tao. (3 na bahagi)	Halos kayang maghanda sa sarili kapag aalis.	Kayang sundin ang simpleng tuntunin ng may ginagayahan.	Nagkukuwento ng may ginagayahang tao. (<i>mimicking</i>)	Alam kung nagugutom, napapagod at giniginaw. Ano ang gagawin kung nagugutom. Ano ang gagawin kung napapagod. Ano ang gagawin kung giniginaw.
4:08	Kayang kumandirit. (<i>mag-skip</i>)	Gumagawa ng eroplanong papel (origami) sa kanyang sarili.	Kayang magsuot ng damit sa sarili.	Gumagawa ng bundok-bundokan sa buhanginan ng may pakikipagtulungan	Pag-uulit ng pangungusap. (2/3) Sumasakay sa duyan.ang dalawang bata Sa ibabaw ng kabundukan, mababanaag ang buwan. Nagpunta ako sa tindahan para bumili kahapon.	Alam kung ano ang kanan at kaliwa.
4:04	Sumasakay sa duyan ng patayo at inuugoy ito.	Kinukuha ang tumatalbog na bola.	Tumitingin sa ilaw ng trapiko (<i>traffic light</i>) saka tumatawid ng tama sa daan.	Nakakapagpasya sa larong jack en poy.	Pag-uulit ng 4 na numero 5-2-4-9 ; 6-8-3-5; 7-3-2-8	Alam ang konsepto ng pagbilang. (hanggang 5)

4:00	Lumulukso ng ilang hakbang sa pamamagitan ng isang paa.	Ginugupit ang papel ayon sa linya.	Nililinis ang sariling katawan kahit papaano kapag naliligo.	Humihingi muna ng permiso sa nakatatanda bago ito kumilos.	Nasasabi ang pangalan ng mga magulang.	Natutukoy ang mga bagay ayon sa gamit nito. (5/5) aklat, lapis, relo, upuan, ilaw
------	---	------------------------------------	--	--	--	--

3:09	Tumatalon ng malayo. (inilahanda ang mga paa bago lumukso sa harapan)	Gumuguhit ng kurus.	Sumisinga.	Naglalaro kasama ang mga kaibigan ayon sa pagkakasunod-sunod nila. (paglaro sa duyan atbp.)	Pag-uulit ng pangungusap. (2/3) Namumukadkad ang magandang bulaklak. Lumilipad ang eroplano sa langit. Umaawit ng mahusay.	Alam ang konsepto ng pagbilang. (hanggang 3)
3:06	Nagpipidal ng bisikleta.	Sinasalo ang inihagis na bola.	Hinuhugasan ang kamay at tsaka pinupunusan.	Nanghihiram at nagpapahiram ng laruan sa kaibigan.	Pag-uulit ng pangungusap. (1/3) Namumukadkad ang magandang bulaklak. Lumilipad ang eroplano sa langit. Umaawit ng mahusay.	Alam ang konsepto ng pagbilang (hanggang 2)
3:03	Nagtitiwarik. / Nagsisisirko.	Nagsasara ng butones.	Naghuhugas ng mukha mag-isa.	Humihingi ng pahintulot [okay ba ang ganito?]	Kayang makipag-usap sa batang kaedad.	Alam kung ano ang mataas at mababa.
3:00	Tumatayo ng 2-3 segundo gamit ang isang paa lamang.	Ginugupit ang papel gamit ang gunting.	Naghuhubad ng jaket mag-isa.	Kayang gampanan ang isang papel bilang nanay, tatay o anak sa larong bahay-bahayan.	Pag-uulit ng pangungusap ng may dalawang salita (2/3) maliit na manyika, pulang lobo, masarap na tsitsirya	Alam kung ano ang kulay pula, asul, dilaw at berde (4/4)
2:09	Paikot-ikot habang nakatayo.	Gumuguhit ng bilog ng may ginagayahan.	Nagsusuot ng sapatos mag-isa.	Nag-aalaga ng mas bata sa kanya.	Pag-uulit ng 2 tambilang (2-digit numbers) (2/3) 5-8	Alam kung ano ang mahaba at maigsi. 6-2

2:06	Umaakyat ng hagdanan ng papalit-palit ang mga paa.	Gumuguhit ng linya ng may ginagayahan.	Kumakain mag-isa ng hindi nakakatapon.	Nagsusumbong kapag nakipag-away sa kaibigan.	Nasasabi ang sariling pangalan.	Alam kung ano ang malaki at maliit.
2:03	Lumulukso gamit ang dalawang paa.	Lumalambitin sa barilya (tungkod na bakal) gamit ang dalawang kamay.	Naghuhubad ng salawal mag-isa.	Naglalaro ng telepono. (nagkukunwaring may kausap)	Kayang sabihin ang mga katagang [ang ganda] [ang sarap] atbp	Naituturo ang ilong, buhok, ipin, dila, pusod, kuko (4/6)
2:00	Sinisipa ang bola sa harapan.	Inihahanay ng pahalang ang higit pa sa dalawang "building blocks".	Nagsasabi kung ihi.	Humihawalay sa tagapag-alaga at tsaka naglalaro.	Nakakapagsalita ng mga 2 salita. [dumating na ang aso] atbp.	Alam ang [isa pa] at [konti pa]
1:09	Umaakyat ng paisa-isang hakbang sa hagdanan mag-isa.	Nagsusulat ng bilog-bilog gamit ang lapis.	Umiinom gamit ang istro (<i>straw</i>).	Kumakapit sa kamay ng kaibigan.	Nasasabi ang pangalan ng 3 bagay na nakita sa larawang aklat.	Naituturo ang mata, bibig, tenga, kamay, paa, tiyan (4/6)
1:06	Tumatakbo	Isinasalin ang tubig sa baso mula sa isang baso.	Ibinubuka ang dalawang paa kapag sinusuotan ng salawal.	Humihingi ng tulong kapag nasa kaguluhan o pangamba.	Nasasabi ang pangalan ng 1 bagay na nakita sa larawang aklat.	Nais magpabasa ng larawan g aklat (<i>picture book</i>)
1:04	Nagsusuot ng sapatos at naglalakad.	Tinutumpok ang dalawang <i>building blocks</i> .	Nagpupunas ng bibig mag-isa.	Tumutulong kahit sa simpleng paraan.	Kayang magsabi/magbanggit ng 3 salita.	Nagagawa ang simpleng utos. [kunin mo ang pahayagan] atbp.

1:02	Naglalakad ng mga 2-3 hakbang.	Tinatanggal ang maliit ng butil mula sa loob ng baso.	Kinakain ang tsitsirya pagkatapos tanggalin sa balot.	Inuulit ang nagawa kapag napupuri.	Kayang magsabi/ magbanggit ng 2 salita.	Nauunawaan ang mga utos(3/3) (halika, pahingi, tulog na)
------	--------------------------------	---	---	------------------------------------	---	--

1:00	Tumatayo mula sa pagkakaupo.	Nagsusulat ng walang direksyon.	Sinusubukang kumain gamit ang kutsara.	Sinusundan ang tagapag-alaga.	Nakapanggagaya ng 1-2 salita ng tama.	Nauunawaan ang mga utos(1/3) (halika, pahingi, tulog na)
0:11	Naglalakad ng may hawak.	Pinapatakbo ang laruang kotse sa pamamagitan ng kamay.	Nagdadala ng baso sa sarili at tsaka umiinom.	Nahihiya sa ibang tao.	Nanggagaya ng boses/tunog.	Nagrereak sa salitang [bye bye] at [paalam]
0:10	Tumatayo ng may gabay.	Binubuksan at sinasara ang takip ng botelya.	Itinuturo ang nais ng hindi umiiyak.	Ginagaya ang galaw/kilos. (<i>Otsumu tenten</i>)	Nagdadadaldal ng malakas. (ngumangawa)	Inaalis ang kamay kapag sinabihang [hindi pwede]
0:09	Nakatayo habang nakahawak sa isang bagay.	Pinapalo ang laruang tambol.	Inilalapat ang baso sa bibig gamit ang dalawang kamay.	Nagpapahiwatig ng pagkadismaya kapag kinuha ang laruan.	Lumalabas ang tunog na [ta, da, cha, atbp]	Natutukoy ang boses ng kakilalang tao.
0:08	Naglalaro mag-isa ng nakaupo.	Dinadampot ang isang bagay gamit ang hinlalaki at hintuturo.	Naiinis o nagagalit kapag pinupunasan ang mukha.	Tumatawa at nagsasalita kapag humaharap sa salamin.	Lumalabas ang tunog na [ma, ba, pa, atbp]	Napapalingon sa (narinig na) boses.
0:07	Umiikot ang katawan habang nakadapa.	Inilalagay sa kabilang kamay ang hawak na laruan.	Umiinom sa baso.	Natutukoy ang mukha kung magiliw o galit.	Nagsasalita sa harap ng laruan.	Natutukoy ang emosyon/damdam in ng nagsasalita. (pagbabawal, atbp.)
0:06	Natutulog ng papaling-paling.	Inaabot ng kanyang kamay ang bagay na nais kunin.	Isinusubo sa bibig ang mga bagay na nahahawakan.	Nagrereak kapag nakikita ang sarili sa salamin.	Nagsasalita sa harap ng mga tao.	Nangingiti kapag napapatingin.

0:05	Pumapaling kapag pinatulong ng patagilid.	Kinakalog ang <i>rattle</i> .	Nagiging aktibo kapag nakakakita ng laruan.	Ngumingiti kapag napapatingin sa tao.	Sumisigaw	Natutukoy ang boses ng tagapagalaga sa boses ng ibang tao.
0:04	Naitatayo ang sariling leeg.	Dinadampot ang laruan.	Kayang uminom sa pamamagitan ng kutsara.	Tumatawa kapag idinuduyan.	Tumatawa habang nagsasalita.	Pumapaling sa ibang direksyon kapag kinakausap.
0:03	Kinakarga mula sa pagkakahiga ang bata ng diretso ang ulo.	Kinukuha ang bagay na nadikit sa pisngi.	Naiirita kapag nalalagyan ng pamunas sa mukha.	Napapaligon kapag may naririnig na boses.	Nagsasalita ng hindi umiiyak (ah, wah, atbp.)	Tumatahimik sa boses ng tao.
0:02	Itinataas ang ulo habang nakadapa.	Isinusubo ang daliri sa bibig	Itinutulak ng dila ang utong kapag busog na at inilalayo ang sariling mukha.	Tumititig sa mga mukha ng tao.	Umiiyak ng paiba-iba.	Tumitingin kapag kinakausap.
0:01	Pinagpapalit-palit (ng bata) ang direksyon ng kanyang leeg sa kanan o kaliwa paminsan-minsan .	Hinahawakan ng mahigpit ang bagay na nahawakan.	Tila gustong dumede kapag natapat ang mukha sa dibdib at nagugutom.	Tumatahan tuwing binubuhat papaitaas kapag umiiyak.	Umiiyak ng malakas ang boses. (Pumapalahaw ng iyak.)	Nagrereak sa malakas na tunog.
Edad	Malawakang Paggalaw/Pagkilos <i>(Gross Motor</i>	Pinong Paggalaw/Pagkilos <i>(Fine Motor Skills)</i>	Kakayahang Mamuhay <i>(Life Skills)</i>	Kakayahang Interpersonal <i>(Interpersonal</i>	Pagpapahayag <i>(Expressions)</i>	Pang-unawa <i>(Understanding)</i>
	Pagbabago sa Pagkilos (Motor Development)		Pagbabagong Sosyal (Social Development)		Pagbabago sa Wika (Language Development)	

Mga Katanungan Tungkol sa Mahusay na Pagtulong sa Pag-aalaga ng Bata

(Baby Care Support)

Pangalan ng Anak (_____)

Edad (_____ Taon _____ Buwan) Ito ay mga katanungan para sa

mas mahusay na pagtulong sa pag-aalaga ng bata (*baby care support*) kung kaya't nais namin sanang malaman ang iyong opinyon . Walang intensyong gamitin ito sa ibang bagay. Hindi rin ilalathala ang pangalan ng bawat indibidwal kung kaya't sagutin sana ito ng buong katapatan.

★ Pakiusap sa pagpunan. ★ Bilugan ang isang numero lamang para sa pinakaangkop na kasagutan sa mga pagpipilian. Para sa lahat na angkop ang kasagutan, ay bilugan ang lahat ng nauukol dito. (*Contact information: Kyoto University***)

1. Bilugan sa mga pagpipilian ang inyong kaugnayan sa batang dinadala dito sa *day care center*.

- 1) nanay 2) tatay 3) lola
4) lolo 5) atbp (_____)

2. Istrukturang Pamilya: Bilang ng mga kasamang naninirahan sa bahay (kasama ang bata).

Kabuuang Bilang: (_____) → Bilugan ang lahat ng kasama sa bahay.

- 1) nanay 2) tatay 3) lola sa nanay 4) lolo sa nanay
5) lola sa tatay
6) lolo sa tatay 7) nakatatandang kapatid 8) nakababatang kapatid 9) kahalili ng nanay
10) kahalili ng tatay 11) iba pang kapamilya (_____) 12) hindi kapamilya (_____)

3. Sa isang araw, gaano kayo kahaba nakapaglalaro ng inyong anak? (hindi kasama ang oras ng pagtulog)

- 1) Lunes – Biyernes _____ oras _____ minuto 2) Araw na walang Pasok _____ oras _____ minuto

4. Gaano mo kadalas nakakasama ang inyong anak sa paglalaro? Gaano mo kadalas nakakasama ang inyong anak sa pamimili/pamamalengke?

- 1) bihira 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo
4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo 5) halos araw-araw 6) iba pa

5. Gaano mo kadalas nakakasama ang inyong anak sa pamimili/pamamalengke?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

6. Gaano mo kadalas binabasahan ng libro ang inyong anak?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

7. Sinasabayan mo ba sa pagkanta ang inyong anak sa paborito niyang awiting pambata?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-----------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | |
| 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo | | |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

8. Gaano kayo kadalas magkasama ng inyong anak sa pagpunta sa parke o palaruan ?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

9. Gaano kadalas bumibisita ang inyong anak sa kanyang mga ka-edad na kaibigan o pinsan?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

10. Gaano kamatulongin (*cooperative*) ang tatay /nanay (o kung sinumang kahalili ng magulang) sa kanyang mga anak?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

11. Gaano mo kadalas kasama ang inyong anak sa hapag-kainan?

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1) bihira | 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan | 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo |
| 4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo | 5) halos araw-araw | 6) iba pa |

12. Kapag intensyonal na itinapon ng inyong anak ang kanyang gatas, ano ang inyong ginagawa? Bilugan lamang ang isa.

- | | | |
|---|--------------------|--------------------------------------|
| 1) pinapalo (detalye: | 2) pinapagalitan) | 3) ipinapaunawa ang di-tamang nagawa |
| 4) nag-iisip ng ibang paraan upang hindi ito itapon (| | 5) iba pa) |

13. Ilang beses mo napalo ang inyong anak noong isang Linggo?

- 1) hindi pinapalo 2) 1 ~ 2 beses 3) 3 ~ 4 na beses 4) 5 ~ 6 beses na beses 5) halos araw-araw

14. Gaano ninyo kadalas napag-uusapang mag-asawa (o kahalili ng magulang) ang tungkol sa inyong anak?

- 1) bihira 2) 1 ~ 3 beses sa isang buwan 3) 1 ~ 2 beses sa isang linggo
4) 3 ~ 4 beses sa isang linggo 5) halos araw-araw 6) iba pa

15. Mayroon bang maaaring tumingin o mag-alaga sa inyong anak sa pang-araw-araw maliban sa "En" (*day care center*) na ito?

1) wala 2) meron →sino siya? Bilugan lahat ang mga numerong nauukol dito

- 1) nanay 2) tatay 3) lola sa nanay 4) lolo sa nanay 5) lola sa tatay
6) lolo sa tatay 7) kapatid 8) kahalili ng nanay 9) kahalili ng tatay 10) iba pang kamag-anak na kasama sa bahay ()
11) iba pang kamag-anak na hindi kasama sa bahay ()
12) kaibigan 13) katabing-bahay 14) kapit-bahay 15) katrabaho
16) yaya (*baby sitter*) 17) lokal at pribadong pasilidad 18) atbp. ()

16. Mayroon ba kayong tagapayo tungkol sa pagpapalaki ng bata?

1) wala 2) meron →sino siya? Bilugan lahat ang mga numerong nauukol dito.

- 1) asawa (kasama na rin ang kahalili) 2) lolo't lola 3) kaibigan
4) kamag-anak na kasama sa bahay 5) kamag-anak na hindi kasama sa bahay
6) katabing-bahay 7) kapit-bahay 8) mga kawani ng "En" (*day care center*)
9) yaya (*baby sitter*) 10) katrabaho 11) lokal at pribadong pasilidad 12) atbp. ()

17. Mga ilang taon na ang inyong anak ng magsimulang mag-*baby care center*, mag-*baby hotel*, magyaya (*baby sitter*) (hindi kasama ang *nursery school*)

1) Hindi pa nakakagamit (ng ganitong serbisyo). 2) Nakagamit na (ng ganitong serbisyo) (Magmula ng _____ taong gulang _____ buwan)

18. Sa mga sumusunod na pribadong pasilidad na may kinalaman sa pag-aalaga ng bata, bilugan lahat ang mga numerong nauukol dito.

- 1) *Community Child Rearing Support* 2) *Temporary Custody* 3) *Home Visit for the Infants*
4) *Child Care Support Visit* 5) *Family Support Center*

26. Trabaho ng mag-asawa. Pumili ng tig-iisa mula sa **【Pangkat A】** at **【Pangkat B】** at ilagay ang numero sa puwang.

Hal.: *Part-timer* sa opisina. (Pangkat A: ③)
(Pangkat B: d) *Maybahay (housewife)* (Pangkat A: ⑧)
(Pangkat B: i)

Nanay (Pangkat A:) (Pangkat B:) **Tatay** (Pangkat A:) (Pangkat B:)

【Pangkat A】 ① *Proprietor Officer* ② *Regular employees (rank & file)* ③ *Temporary/Part-timer*
④ *Temporary/Contract/Non-regular Employee* ⑤ *Self-employed/Freelancer*
⑥ *Self-employed family workers* ⑦ *Sideline* ⑧ *maybahay (housekeeper)*
⑨ *walang trabaho* ⑩ *atbp ()*

【Pangkat B】 a) *Sales/Service* b) *Managerial Position* c) *Professionals and Technical Jobs*
d) *Office Workers and Sales Position Laborers, Task Workers* e) *Skilled job,*
f) *Agriculture & Fisheries* g) *hindi alam* h) *iba pa()* i) *hindi nagtatrabaho*

27. Mga ilang oras kayong nagtatrabaho sa isang linggo (*average*). Kung sakaling maraming trabaho, isulat ang kabuuang oras.

Nanay (oras) Tatay (oras)

28. Pagkasilang ng inyong anak, kumuha ka ba ng *maternity/paternity leave*? Isulat ang numerong angkop sa mga sumusunod.

Nanay () Tatay ()

- 1) Kumuha ng *leave* (buwan) 2) Nag-
resign sa trabaho pagkakuha ng *leave*.
3) Hindi kumuha ng *leave* subalit nag-*resign* pagkapanganak.
4) Hindi kumuha ng *leave* at nagpatuloy sa pagtatrabaho 5) hindi na nakapagtrabaho

29) Nanay, ilang taon na ang anak ninyo ng makabalik ka sa trabaho. Isulat ang edad ng inyong anak ng makabalik ka sa trabaho. (taon buwan)

30. Sinubukan mo bang magpadede sa inyong anak sa loob ng 24 na oras pagkasilang nito?

1) Sinubukan

2) Hindi sinubukan

31. Hanggang ilang buwan mo pinapadede ang inyong anak? (Bukod sa pagpapadede, kasama rin dito ang pagbibigay ng iba pang pagkaing may nutrisyon. (*infant powdered milk, baby food*))

1) Hindi nagbibigay

2) Nagbibigay (taon buwan)

32. Kung hindi naman po kalabisan, maaari bang malaman ang inyong kinita (*income*) kasama ang buwis (*tax*) noong nakaraang taon? Pakisagutan ang tungkol sa inyong kinita (*income*) mula sa pagtatrabaho. Kasama rin sa kabuuang kinita (*income*) ng isang pamilya ang Pensyon, *Child-care Allowance, Child-rearing allowance, Social Security (Social Security Benefits, Child-care Expenses, Remittance, etc.)*

Nanay ()
()

Tatay ()

Kabuuang Pamilya

1) wala
200 – 300 lapad

2) mababa sa 100 lapad

3) 100 – 200 lapad

4)

5) 300 – 400 na lapad

6) 400 – 600 na lapad

7) 600 – 800 na labad

8) higit pa sa 800 lapad

33. Sa inyong pamilya, sino ang pangunahing namamahala sa mga gastusin. Bilugan lamang ang isa.

1) nanay
()

2) tatay
()

3) pareho

4) iba pa

34. Sa ngayon, nakaranas ka ba mula sa inyong asawa ng karahasan (kasama na ang emosyonal na bagay) o pag-atake? 1) Oo
2) Hindi

35. Noong bata ka pa, nakaranas ka ba ng karahasan mula sa inyong magulang (kasama na ang emosyonal na bagay)? 1) Oo
2) Hindi

36. Nakakaranas ka ba na parang nawawalan ka ng tiwala sa sarili sa pagpapalaki ng inyong anak?

1) Madalas

2) Paminsan-minsan

3) Hindi masyado

4) Hindi kailanman

37. May mga pinagdaraan ka ba tungkol sa pagpapalaki ng bata? (magastos, pinaglalaanan ng oras, walang katulong/walang katuwang, mahirap pagsabayin ang trabaho at pag-aalaga, atbp)

38. Maaari mong isulat ang inyong opinyon o mga ninanais tungkol sa pagtulong sa pag-aalaga ng bata (*baby care support*).

✕ Pakisagutan ang mga sumusunod na katanungan at ito ay para sa mga banyagang pamilya lamang.

39. Kailan ka nanirahan sa Japan? (mahabang paninirahan)

nanay	1) mula ng isilang	2)	(<i>Western</i>	<i>calendar:</i>	taong gulang)
tatay	1) mula ng isilang	2)	(<i>Western</i>	<i>calendar:</i>	taong gulang)
anak	1) mula ng isilang	2)	(<i>Western</i>	<i>calendar:</i>	taong gulang)

40. Meron ba kayong “Pagpapatibay” (*certification*) na nakuha?

nanay	1) wala	2) meron (tulad ng:)
tatay	1) wala	2) meron (tulad ng:)

41) Ano ang wikang ginagamit ninyo sa inyong tahanan. Bilugan lahat ang nauukol dito at ilagay sa puwang.

Hal.: Kung ang ginagamit ninyo ay Nihongo • Ingles • Portuges

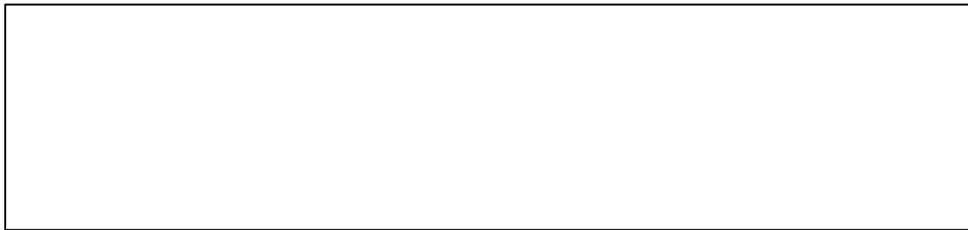
1) Nihongo	2) Ibang Wika (Ingles • Portuges)
------------	-----------------------------------

42) Ano ang *mother tongue* (pinakamahusay sa wikang ito) ng inyong anak?

1) (Wikang)
2) hindi ko alam

43. Isulat kung may napansin kayong pagbabago sa inyong anak sa kanyang pananalita.

Hal) Magmula ng dumating kayo sa Japan isang taon na ang nakalilipas, sa pang-araw-araw na komunikasyon ay nakikisabat na ang inyong anak sa kanyang mga (kaibigan, guro) sa wikang Hapon sa Day Care Center; nakikisabat din kasama ang pamilya sa loob ng tahanan, atbp.



Maraming salamat po sa inyong pakikipagtulungan.

資料7 保健学チームの調査票 + 社会学チームの新規調査票・フランス語版

Date de remplissage du questionnaire : (/ /) (/
 /) (/ /)
 Code : () Identifiant : ()

Feuille d'estimation du développement des relations à autrui et de la sociabilité

Écrit par (nom et prénom : _____) Impôt : exonéré/imposé
Nationalité : père / mère / enfant (entourez la ou les personnes qui ont la nationalité française)
Nom de l'enfant () Prénom () Sexe : Garçon / Fille
Date de naissance : / / Âge d'inscription dans une crèche ou à l'école : ans mois
Durée de garde d'enfant : durée ordinaire () h () min durée exceptionnelle 1. Non 2. Oui () h () min
Composition du foyer : nombre total de membres : () (Entourez ci-dessous les membres concernés) 1) mère 2) père 3) grand-mère 4) grand-père 5) grand frère (nombre :) 6) grande sœur (nombre :) 7) petit frère (nombre :) 8) petite sœur (nombre :) 9) autre (nombre :)
Profession de la famille : père () * mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants 1) Personnel des services aux particuliers (Hôtels, restaurants, aide domestique, etc.) 2) Professions indépendantes 3) Ingénieur professionnel 4) employé de bureau 5) Techniciens, ouvriers, commerçants 6) Professions libérales 7) Femme/Homme au foyer 8) Sans activité 9) Ne sais pas 10) Autre ()
Niveau d'éducation de la famille : père () mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants 1) 1er cycle d'enseignement secondaire (Collège) 2) 2ème cycle d'enseignement secondaire (lycée) 3) Brevet d'études professionnelles 4) Enseignement supérieur de court cycle (BTS, DUT, etc.) 5) Licence 6) Master et plus 7) Autre () 8) Ne sait pas

Compétences sociales (merci de répondre à toutes ces 30 questions)

Questions	2012				2013				2014				Remarques	
	Toujours	Parfois	Non	NSP*	Toujours	Parfois	Non	NSP	Toujours	Parfois	Non	NSP		
1 Regarder la personne qui parle														
2 Réagir clairement si on lui parle														
3 Montrer de la joie si on lui rend service														
4 Exprimer ses sentiments sur son visage														
5 Saluer quelqu'un														
6 S'approcher de quelqu'un pour discuter avec lui														
7 Regarder dans les yeux la personne avec qui je parle														
8 Être capable de s'intégrer parmi des gens qui l'invitent														
9 Montrer son attention aux autres en action														
10 Ne pas adopter une attitude agressive envers les autres														
11 Être capable de dire son nom de famille et son prénom														
12 Être capable de parler spontanément de ce qu'il a vu et écouté														
13 Être capable d'attendre si on lui dit : "plus tard"														
14 Partager ses affaires avec les autres														
15 Ecouter les gens jusqu'au bout														
16 Être capable de comprendre l'ordre														
17 Prêter et emprunter des jouets														
18 Être capable d'être poli lorsqu'il le faut														
19 Être capable d'attendre d'avoir ce qu'il veut si on le convainc														
20 Ne pas faire l'enfant gâté dans la foule														
21 Aider ses amis blessés														
22 Encourager ses amis qui ont l'air tristes														
23 Encourager ou consoler celui/celle qui a échoué														
24 Je suis content(e) pour celui/celle qui a réussi														
25 Féliciter celui/celle qui a réussi														
26 Transmettre son appréciation à celui/celle qu'il apprécie														
27 Donner un coup de main si ses amis lui demandent quelque chose														
28 Donner spontanément un coup de main à ses amis														
29 Demander à ses amis s'il peut faire quelque chose pour eux														
30 Suivre les décisions prises par les autres même s'il n'est pas d'accord														

*NSP: Ne sais pas

IV. En ce qui concerne l'enfant et les parents dont vous vous occupez (gestes préoccupants, retard de développement, etc.), quelles causes, selon vous, pourraient être concernées ? Mettez un X pour une cause principale et des ✓ pour toutes les causes qui peuvent être liées.

	2012	2013	2014	Remarques
A Causes chez l'enfant				
Q1 Naissance avec un poids faible				
Q2 Handicap physique (yeux, oreilles, doigts, etc.)				
Q3 Handicap intellectuel				
Q4 Maladie				
Q5 Stress				
Q6 Personnalité (caractère nerveux, etc.)				
Q7 Manque d'expérience				
Q8 Faibles capacités d'adaptation				
Q9 Difficultés d'intégration à l'école ou à la crèche				
Q10 Causes introuvables mais relevant de l'enfant				
Q11 Autres ()				
B Causes chez les parents				
Q1 Problèmes psychiques				
Q2 Problèmes physiques				
Q3 Handicap intellectuel				
Q4 Handicap physique				
Q5 Stress				
Q6 Personnalité				
Q7 Immaturité en tant que parents				
Q8 Immaturité des relations humaines				
Q9 Difficultés de niveau de vie				
Q10 Causes introuvables mais relevant des parents				
Q11 Autres ()				
C Causes dans les relations humaines				
Q1 Grand manque d'interaction entre l'enfant et les parents				
Q2 Grand manque d'interaction entre l'enfant et la société				
Q3 Interaction difficile entre l'enfant et le personnel				
Q4 Rapport des parents favorisant ou défavorisant un enfant				
Q5 Tendance à la maltraitance de la part des parents				
Q6 Excès d'intervention des parents				
Q7 Causes introuvables mais relevant des relations humaines				
Q8 Autres ()				

D Causes liés à l'environnement des parents				
Q1 Manque de soutien de la part des autres				
Q2 Stress lié au couple, à la famille et aux proches				
Q3 Stress lié aux voisins				
Q4 Stress lié à l'environnement professionnel				
Q5 Excès d'intervention de la part des autres				
Q6 Vie instable				
Q7 Conditions défavorables de l'environnement physique				
Q8 Causes introuvables mais liées à l'environnement des parents				
Q9 Autres ()				

< En cas de changement >

2013

<p>Nom de l'enfant () Prénom () Fiche remplie par : ()</p> <p>Impôt : exonéré/imposé Nationalité : père mère enfant (entourez celui/celle qui n'a pas la nationalité française)</p>
<p>Durée de garde d'enfant : durée ordinaire () h () min</p> <p>durée exceptionnelle 1. Non 2. Oui () h () min</p>
<p>Composition du foyer : nombre total de membres : () (Entourez ci-dessous les membres concernés)</p> <p>1) mère 2) père 3) grand-mère 4) grand-père 5) grand frère (nombre :) 6) grande sœur (nombre :)</p> <p>7) petit frère (nombre :) 8) petite sœur (nombre :) 9) autre (nombre :)</p>
<p>Profession de la famille : père () * mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants</p> <p>1) Personnel des services aux particuliers (Hôtels, restaurants, aide domestique, etc.)</p> <p>2) Professions indépendantes 3) Ingénieur professionnel 4) employé de bureau</p> <p>5) Techniciens, ouvriers, commerçants 6) Professions libérales 7) Femme/Homme au foyer 8) Sans activité</p> <p>9) Ne sais pas 10) Autre ()</p>
<p>Niveau d'éducation de la famille : père () mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants</p> <p>1) 1er cycle d'enseignement secondaire (Collège) 2) 2ème cycle d'enseignement secondaire (lycée)</p> <p>3) Brevet d'études professionnelles 4) Enseignement supérieur de court cycle (BTS, DUT, etc.) 5) Licence</p> <p>6) Master et plus 7) Autre () 8) Ne sait pas</p>

2014

<p>Nom de l'enfant () Prénom () Fiche remplie par : ()</p> <p>Impôt : exonéré/imposé Nationalité : père mère enfant (entourez celui/celle qui n'a pas la nationalité française)</p>
<p>Durée de garde d'enfant : durée ordinaire () h () min</p> <p>durée exceptionnelle 1. Non 2. Oui () h () min</p>
<p>Composition du foyer : nombre total de membres : () (Entourez ci-dessous les membres concernés)</p> <p>1) mère 2) père 3) grand-mère 4) grand-père 5) grand frère (nombre :) 6) grande sœur (nombre :)</p> <p>7) petit frère (nombre :) 8) petite sœur (nombre :) 9) autre (nombre :)</p>
<p>Profession de la famille : père () * mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants</p> <p>1) Personnel des services aux particuliers (Hôtels, restaurants, aide domestique, etc.)</p> <p>2) Professions indépendantes 3) Ingénieur professionnel 4) employé de bureau</p> <p>5) Techniciens, ouvriers, commerçants 6) Professions libérales 7) Femme/Homme au foyer 8) Sans activité</p> <p>9) Ne sais pas 10) Autre ()</p>
<p>Niveau d'éducation de la famille : père () mère () * * Indiquez ici les chiffres correspondants</p> <p>1) 1er cycle d'enseignement secondaire (Collège) 2) 2ème cycle d'enseignement secondaire (lycée)</p> <p>3) Brevet d'études professionnelles 4) Enseignement supérieur de court cycle (BTS, DUT, etc.) 5) Licence</p> <p>6) Master et plus 7) Autre () 8) Ne sait pas</p>

Check-list sur l'enfant suscitant des préoccupations

1	Anormalité de la réaction aux sons	<ul style="list-style-type: none"> ① Il réagit lentement ou il ne réagit pas du tout aux sons ② Il réagit très sensiblement aux sons
2	Habitude peu naturelle de pleurer	<ul style="list-style-type: none"> ① Il a l'habitude de pousser des sanglots ② Il a l'habitude de prendre quelque chose dans ses bras ③ Il a l'habitude de pleurer pendant la nuit
3	Difficulté pour le prendre dans les bras	<ul style="list-style-type: none"> ① Il n'aime pas être pris dans les bras ② Son corps est dur
4	Rachitisme	<ul style="list-style-type: none"> ① Il est rachitique ② Il a des possibilités de devenir rachitique
5	Rythme de la vie en désordre	<ul style="list-style-type: none"> ① Les portions du repas (ou de biberon) ne sont pas équilibrées ② Le nombre de repas (ou d'allaitement) n'est pas équilibré ③ Le nombre d'heures de sommeil n'est pas équilibré ④ L'heure de coucher n'est pas fixe ⑤ L'heure de lever n'est pas fixe ⑥ L'heure de sieste n'est pas stable ⑦ La température du corps change de manière instable dans la journée ⑧ Il ne distingue pas le jour et la nuit
6	Réaction anormale à la lumière (la vue)	<ul style="list-style-type: none"> ① Il montre une réaction anormale au fait de regarder quelque chose ② Sa réaction à la lumière est lente ou sensible
7	La crise d'épilepsie	<ul style="list-style-type: none"> ① Il s'agit d'épilepsie ② Il s'agit du spasme du sanglot ③ Il s'agit de convulsion hyperthermique
8	L'allergie	<ul style="list-style-type: none"> ① Il est allergique à un aliment ② Il a connu un choc anaphylactique ③ Il a une dermatite atopique ④ Il est allergique aux pollens
9	Anxiété sociale, peur de la séparation	<ul style="list-style-type: none"> ① Il éprouve une anxiété sociale peu naturelle ② Il a peur de la séparation
10	Timidité extrême	<ul style="list-style-type: none"> ① Il a du mal à s'exprimer (à argumenter) ② Il est timide
11	Relations sociales peu naturelles	<ul style="list-style-type: none"> ① Ses rapports avec ses amis ne sont pas naturels ② Ses rapports avec ses parents ne sont pas naturels
12	Désintérêt	<ul style="list-style-type: none"> ① Il ne sourit pas même si on le berce ② Il ne croise pas le regard des autres ③ Il ne se retourne pas si on appelle son nom par derrière ④ Il n'imité pas les gestes des enfants et des adultes ⑤ Il ne s'intéresse pas à ses amis
13	Goûts particuliers	<ul style="list-style-type: none"> ① Il concentre son intérêt sur un objet qui l'entoure ② Il montre une habitude étrange ③ Il accorde de l'importance à l'ordre ④ Il accorde de l'importance à l'espace et à l'endroit ⑤ Il répète les mêmes actions ⑥ Il accorde de l'importance aux actions
14	Tendance à vomir	<ul style="list-style-type: none"> ① Il a des problèmes digestifs ② <i>Il est malade physiquement</i> ③ Il vomit à cause d'un excès de nervosité
15	Repas déséquilibré	<ul style="list-style-type: none"> ① Il mange trop ② Il mange peu ③ La quantité varie ④ <i>Il souffre de pica</i> ⑤ Autre

16 Anormalité de marche, retard de la marche	<ul style="list-style-type: none"> ① Il a des problèmes neurologiques ② Il a des problèmes d'appareil locomoteur ③ Il a un retard pour la motricité globale
17 Mouvements lents et étranges des doigts	<ul style="list-style-type: none"> ① Ses doigts présentent des troubles orthopédiques ② Retard dans le développement des mouvements fins
18 Accès de colère	<ul style="list-style-type: none"> ① Il est impatient et a tendance à avoir des accès de colère ② Il panique lorsque l'on lui interdit quelque chose qu'il veut faire
19 Dépendance inaturelle	<ul style="list-style-type: none"> ① Il a commencé à être dépendant tout d'un coup ② Il n'est guère dépendant ③ Il monopolise les adultes (parents, personnel)
20 Être silencieux	<ul style="list-style-type: none"> ① Il ne parle pas
21 Hyperactivité	<ul style="list-style-type: none"> ① Il manque d'attention ② Il est hyperactif ③ Il est impulsif
22 Nombreuses disputes	<ul style="list-style-type: none"> ① Il est parfois agressif (provocant)
23 Excès de révolte	<ul style="list-style-type: none"> ① Il se révolte de manière excessive ② Il dirige sa violence contre des objets
24 Dégoût du sport	<ul style="list-style-type: none"> ① Il n'aime pas bouger
25 Problèmes de langage	<ul style="list-style-type: none"> ① Il commence à parler tard ② Il a du mal à discuter ③ Il parle trop ④ Il a une dyslalie
26 Caractère nerveux	<ul style="list-style-type: none"> ① Il déteste la salissure de manière excessive ② Il fait attention au moindre détail
27 Tendance à être fatigué	<ul style="list-style-type: none"> ① Il dort souvent le matin après l'école ② Il fait une grande sieste ③ Il est souvent paresseux ④ Il dit souvent être fatigué
28 Énurésie nocturne	<ul style="list-style-type: none"> ① La quantité est importante ② La quantité est modeste mais la fréquence est haute
29 Envie fréquente d'uriner	<ul style="list-style-type: none"> ① Il va souvent aux toilettes juste après avoir fait ses besoins ② Il va souvent aux toilettes (toutes les heures)
30 Habitude préoccupante	<ul style="list-style-type: none"> ① Il suce ses doigts ② Il mord ses ongles ③ Il se masturbe ④ Il a un tic
31 Actions déviantes	<ul style="list-style-type: none"> ① Il prend les objets des autres sans leur demander ② Il agit en ignorant les paroles des adultes
32 Très bruyant	<ul style="list-style-type: none"> ① Il continue à barvarder malgré le lieu et le moment ② Il a tendance à parler de ce qui l'intéresse sans penser aux autres et à répéter les mêmes phrases ③ Il parle trop au moment où il doit se réserver compte tenu du contexte
33 Retard pour son âge dans certaines habitudes	<ul style="list-style-type: none"> ① Repas ② Urine et selles ③ Sommeil ④ Habillage/déshabillage ⑤ Propreté ⑥ Il a du mal à se préparer le matin ou à la sortie de l'école

Liste pour examiner les grandes étapes du développement (2012, 2013, 2014)

7:06	Se tenir debout sur une jambe pendant 30 secondes	Taper sur les touches d'un piano ou d'un clavier électronique	Balayer le sol	L'un porte une pelle à poussière et l'autre nettoie avec un balai	Lire parfaitement des livres faciles	Faire une addition facile
7:00	Faire passer un ballon entre ses jambes	Faire un pliage (de l'origami)	Nouer un ruban	Imaginer ce que ses amis veulent faire	Cesser d'utiliser le langage enfantin	Lire l'heure correctement
6:06	Sauter à la corde tout seul	Peindre un tableau en couleur	Essorer une serviette ou une serpillère	Être capable de jouer au mistrigi (ou "pouilleux")	Lire la plupart des livres faciles	Jouer au memory
6:00	Se tenir debout sur une jambe pendant 10 secondes	Dessiner un personnage (6 parties)	Être capable de se préparer parfaitement pour sortir	Être capable de faire des jeux ayant des règles simples	Raconter spontanément des histoires	Maîtriser un raisonnement analogique par opposition (Le feu est chaud, le glaçon est... Le cheval est grand, le rat est... La journée est claire, la nuit est...)
5:06	Se lever et s'asseoir en se balançant	Réfléchir aux différentes manières de plier des avions en papier pour qu'il volent loin	Essuyer son corps avec une serviette	Recevoir la monnaie dans un magasin	Participer au jeu des queues-de-mots (shiritori)	Jouer aux devinettes
5:00	Se tenir debout sur une jambe pendant 5 secondes	Dessiner un portrait (3 parties)	Être capable de se préparer seul pour sortir	Être capable de participer à un jeu avec des règles simples en imitant les autres	Réciter une histoire en imitant les autres	Comprendre la faim, la fatigue, le froid. (si on a faim ? si on est fatigué ? si on a froid ?)
4:08	Sautiller	Plier par soi-même des avions en papier	S'habiller tout seul	Faire un paté au bac à sable avec plus de 2 personnes	Répéter des phrases (2/3) (Il y a deux enfants sur une balançoire. Une grande lune apparaît sur la montagne. Je suis allé faire du shopping hier)	Distinguer la droite et la gauche
4:04	Jouer à la balançoire debout	Rattraper un ballon qui rebondit	Traverser la rue correctement en regardant le feu	Décider le gagnant au jeu "Pierre, papier, ciseaux"	Répéter 4 chiffres (2/3) (5-2-4-9, 6-8-3-5, 7-3-2-8)	Comprendre ce qu'est un chiffre (jusqu'à 5)
4:00	Sauter à cloche-pied pour quelques pas	Découper un papier en suivant des lignes droites	Faire sa toilette par soi-même (pour la plus grande partie)	Se déplacer en demandant la permission aux adultes	Dire le nom de ses parents	Indiquer les objets en fonction de leur utilité (livre, crayon, horloge, chaise, lampe)
3:09	Sauter à la corde (sauter à pieds joints en avant)	Dessiner un croix	Se moucher	Utiliser des objets chacun son tour avec ses amis	Répéter des phrases (2/3) (Il y a des belles fleurs, l'avion vole dans le ciel, je chante bien une chanson)	Comprendre ce qu'est un chiffre (jusqu'à 3)
3:06	Savoir rouler en tricycle	Saisir un ballon lancé	Laver ses mains et les essuyer	Prêter et emprunter un jouet à ses amis	Répéter des phrases (1/3) (Il y a des belles fleurs, l'avion vole dans le ciel, je chante bien une chanson)	Comprendre ce qu'est un chiffre (jusqu'à 2)
3:03	Faire une culbute	Se boutonner	Se laver le visage tout seul	Demander s'il peut faire quelque chose	Être capable de discuter avec des enfants du même âge que lui	Distinguer le haut et le bas
3:00	Être debout sur une seule jambe pendant 2 ou 3 secondes	Découper un papier avec des ciseaux	Déshabiller sa veste tout seul	Savoir jouer	Répéter des phrases composées de deux mots (2/3) (petite poupée, ballon rouge, bon gâteau)	Comprendre le rouge, le bleu, le jaune, le vert (4/4)
2:09	Faire un tour complet sur soi-même en se tenant debout	Dessiner des cercles en imitant	Mettre ses chaussures tout seul	Vouloir s'occuper des enfants moins âgés	Prononcer deux chiffres (2/3) (5-8, 6-2, 3-9)	Distinguer le long et le court
2:06	Monter les escaliers en posant les pieds l'un après l'autre	Dessiner une ligne droite en imitant	Manger seul sans se salir	Désigner les amis avec qui il s'est disputé	Prononcer son nom	Distinguer le grand et le petit
2:03	Sauter	Se suspendre à une barre avec ses bras	Enlever tout seul sa culotte	Jouer avec le téléphone	Savoir dire quelque chose comme "c'est beau" "c'est bon"	Indiquer le nez, les cheveux, les dents, la langue, le nombril, les ongles
2:00	Donner un coup de pied dans un ballon	Mettre plus de 2 cubes côte à côte	Prévenir l'urine	S'amuser à l'écart de celui/celle qui s'occupe de lui	Prononcer des phrases composées de deux mots ("le chien venu", etc.)	Comprendre "encore un", "encore un peu"
1:09	Monter les escaliers en joignant les pieds à chaque marche	Tracer des cercles au crayon	Boire avec une paille	Tenir la main des amis	Prononcer le nom de trois objets en lisant un livre illustré	Indiquer les yeux, la bouche, les oreilles, les mains, les jambes, le ventre (4/6)
1:06	Courir	Verser de l'eau d'un verre à l'autre	Écarter ses jambes quand on lui met une culotte	Demander de l'aide aux moments difficiles	Dire le nom d'un objet en lisant un livre illustré	Avoir envie d'entendre lire un livre illustré
1:04	Marcher avec ses chaussures	Empiler 2 cubes	Essuyer tout seul le tour de sa bouche	Donner un petit coup de main	Être capable de prononcer trois mots	Suivre des indications faciles ("apporte un journal", etc.)
1:02	Marcher deux ou trois pas	Tenter de sortir des petites billes d'un verre	Manger un gâteau en enlevant l'emballage	Répéter les mêmes gestes lorsque l'on les apprécie	Être capable de prononcer deux mots	Comprendre une demande (3/3) (viens, donne, dodo)
1:00	Se lever à l'endroit où il s'est assis	Griffonner	Tenter de manger à la cuillère	Suivre la personne qui s'occupe principalement de lui	Imiter correctement 1 ou 2 mots	Comprendre une demande (1/3) (viens, donne, dodo)
0:11	Marcher en s'accrochant à un objet	Faire rouler un jouet de voiture à la main	Boire en tenant son verre par soi-même	Se montrer apeuré devant les personnes inconnues	Imiter les voix	Réagir à "salut" et à "au revoir"
0:10	Se lever en s'accrochant à un objet	Ouvrir et fermer le bouchon d'une bouteille	Montrer ce qu'il souhaite sans pleurer	Imiter les gestes (ainsi font font font...etc.)	Bavarder beaucoup (langage enfantin)	Retirer ses mains si on lui dit "non"
0:09	Se tenir en s'accrochant à un objet	Taper sur un tambourin	Approcher son verre de sa bouche à deux mains	Se montrer énervé si on lui prend son jouet	Être capable de prononcer des syllabes comme "ta, da, tcha", etc.	Distinguer la voix de ceux qu'il connaît
0:08	S'amuser seul en étant assis	Saisir un objet entre son pouce et son index	Détester lorsqu'on lui nettoie le visage	Adresser des paroles et sourire en se regardant dans le miroir	Être capable de prononcer des syllabes comme "ma, pa, ba" etc.	Se tourner en direction de la voix
0:07	Se mettre à plat ventre	Passer un jouet d'une main à l'autre	Boire au verre	Distinguer la gentillesse de la colère sur un visage	Exprimer des sons envers les jouets	Distinguer les sentiments en fonction de la manière de parler des gens (interdiction, etc.)
0:06	Tourner sur lui-même dans son lit	Tenir un objet par la main	Approcher de sa bouche un objet qu'il peut prendre à la main	Réagir à sa tête reflétée dans le miroir	Exprimer des sons en s'adressant à quelqu'un	Sourire en regardant quelque chose
0:05	Se retourner quand on le couche sur le côté	Agiter un hochet	Devenir actif en regardant un jouet	Sourire en voyant quelqu'un	Pousser des cris aigus d'excitation	Distinguer la voix de la personne principale qui s'occupe de lui et celle des autres
0:04	Tenir sa tête	Tenir un jouet	Être capable de boire à la cuillère	Rire quand on le berce	Avoir des éclats de rire	Essayer de se tourner en direction des paroles
0:03	Retenir sa tête quand il est sur le dos et qu'on le porte	Bouger sa main pour prendre ce qui a touché son jouet	Se montrer mécontent lorsque son visage est couvert d'un tissu	Se tourner dans la direction des voix	Exprimer des sons sans pleurer (ah, euh, etc.)	Se calmer en entendant la voix des gens
0:02	Lever un peu sa tête lorsqu'il est à plat ventre	Sucer ses doigts dans sa bouche	Pousser les seins avec la langue ou tourner sa tête quand il est rassasié	Fixer quelqu'un dans les yeux	Pousser différents cris	Regarder en direction de la personne qui s'adresse à lui
0:01	Changer parfois l'orientation de sa tête en étant allongée sur le dos	Réflexe de s'agripper	Tourner sa tête vers les seins quand il a faim	Cesser de pleurer lorsqu'on le prend dans les bras	Pleurer à haute voix	Être attentif aux sons les plus forts
年齢	Motricité globale	Motricité fine	Aptitude pratique	Relations avec autrui	Expressions	Compréhension
	Développement moteur		Développement social		Développement linguistique	

Questions pour améliorer l'aide à la petite enfance

Le nom de votre enfant (_____) Âge
(_____ ans _____ mois)

Nous aimerions connaître vos avis et la manière de vivre de votre enfant afin d'améliorer les modes d'aide à la petite enfance. Nous vous promettons que nous n'allons pas utiliser ces résultats pour un autre objectif et que votre nom restera toujours couvert par l'anonymat complet.

* Quelques précisions avant de remplir

Entourez une bonne réponse et entourez toutes les réponses bonnes lorsque la question vous demande d'entourer « tout ce qui vous correspond ». Si vous avez des questions, merci de nous contacter : Laboratoire

- 1 Entourer d'un cerle le chiffre de la réponse qui montre votre statut par rapport à l'enfant suivi par un service de la petite enfance.
1) Mère 2) Père 3) Grand-mère 4) Grand-père 5) Autre ()
- 2 Composition du foyer : nombre des personnes habitant ensemble (y compris l'enfant lui-même) ()
→ Entourer d'un cercle tous les chiffres correspondant aux personnes avec qui l'enfant vit actuellement.
1) Sa mère biologique 2) Son père biologique 3) La grand-mère du côté de sa mère 4) Le grand-père du côté de sa mère 5) La grand-mère du côté de son père 6) Le grand-père du côté de son père 7) Ses frères ou/et sœurs plus âgés/es 8) Ses frères ou/et sœurs moins âgés/es 9) Remplaçant(e) de sa mère 10) Remplaçant(e) de son père 11) Autre proche (qui ?) 12) Autre que les proches (qui ?)
- 3 Combien d'heures pouvez-vous consacrer pour rester avec l'enfant ? (sans compter les heures de sommeil)
1) Dans la semaine environ heures minutes 2) Les jours de congé environ heures minutes
- 4 À quelle fréquence vous amusez-vous avec l'enfant (en étant face à face avec lui) ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 5 À quelle fréquence allez-vous faire des courses avec l'enfant ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 6 À quelle fréquence lisez-vous un livre à l'enfant ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 7 À quelle fréquence lui chantez-vous des chansons d'enfants ou des chansons qu'il aime ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 8 À quelle fréquence allez-vous dans un parc avec l'enfant ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 9 Avec quelle fréquence rendez-vous visite à des amis ou à des proches ayant des enfants d'un âge proche de celui de l'enfant ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 10 À quelle fréquence le père (la mère) de l'enfant (ou celui et celle qui joue ce rôle) vous donne-il (elle) un coup de main ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 11 À quelle fréquence l'enfant mange-t-il un repas avec ses parents (ou sa mère, son père, ceux qui jouent ce rôle) ?
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre
- 12 Comment réagiriez-vous si votre enfant renversait son lait ? Entourez la réponse qui vous correspond
1) Taper l'enfant 2) Le gronder verbalement 3) Faire comprendre par moyen (lequel ? :)
4) Réfléchir à une manière de faire en sorte qu'il ne le renverse pas 5) autre ()
- 13 Combien de fois avez-vous tapé l'enfant la semaine dernière ?
1) Je ne le tappe pas 2) 1 ou 2 fois 3) 3 ou 4 fois 4) 5 ou 6 fois 5) presque tous les jours
- 14 Combien de temps pouvez-vous vous occuper de l'enfant en couple ? (ou avec celui/celle qui joue ce rôle)
1) Rarement 2) 1, 2 ou 3 fois par mois 3) 1 ou 2 fois par semaine 4) 3 ou 4 fois par semaine 5) presque tous les jours 6) autre

- 15 Y a-t-il quelqu'un qui s'occupe de l'enfant en dehors de la crèche ou de l'école maternelle ?
 1) non 2) oui → qui est-ce ? Entourer d'un cercle TOUS les chiffres qui vous correspondent :
 1) Sa mère biologique 2) Son père biologique 3) La grand-mère du côté de sa mère 4) Le grand-père du côté de sa mère 5) La grand-mère du côté de son père 6) Le grand-père du côté de son père 7) Ses frères ou/et sœurs 8) Remplaçant(e) de sa mère 9) Remplaçant(e) de son père 10) proche qui habite avec l'enfant (qui ?) 11) proche qui habite ailleurs (qui ?) 12) Ami(e) 13) Voisin(e)s 14) Habitant(e) du quartier 15) Collègue 16) Baby-sitter 17) Etablissement public ou privé 18) Autre ()
- 16 Avez-vous quelqu'un à qui vous pouvez demander des conseils pour élever les enfants ?
 1) non 2) oui → qui est-ce ? Entourer d'un cercle TOUS les chiffres qui vous correspondent :
 1) conjoint/e (y compris le remplaçant/e) 2) grands-parents 3) amis 4) proches qui habitent avec l'enfant 5) proche qui habitent ailleurs 6) voisins 7) habitant(e) du quartier 8) personnel de la crèche ou de l'école maternelle 9) baby-sitter 10) collègue 11) établissement public ou privé 12) autre ()
- 17 A quel âge de l'enfant avez-vous commencé à avoir recours aux services de garde tels que le baby-sitter, l'halte-garderie, la garde à domicile ? (excepté les crèches, l'école maternelle et les assistantes sociales)
 1) je ne l'ai jamais utilisé 2) je l'ai utilisé (à partir de quel âge et quel mois ? ())
- 18 Parmi ces services publics de la petite enfance, entourez d'un cercle tous les chiffres correspondant aux services que vous avez utilisés.
 1) Lieu d'échanges pour les parents au sein du quartier 2) halte-garderie (accueil provisoire)
 3) visite des familles ayant un nourrisson 4) visite des professionnels pour les parents d'enfant ayant besoin du soutien 5) centre du soutien familial 6) centre d'hébergement de la garde d'enfant 7) garde d'enfant avec des horaires élargies 8) services de la garde d'enfant malade 9) subvention pour la visite médicale des femmes enceintes
- 19 L'enfant prend-il plaisir à aller à la crèche ou à l'école maternelle ?
 1) beaucoup 2) assez 3) ni l'un ni l'autre 4) presque pas 5) pas du tout
- 20 A quelle heure se lève et se couche l'enfant ? Marquez l'heure la plus fréquente dans chaque case.
 < Dans la semaine > Lever vers () h () min Coucher vers () h () min
 < Les jours fériés > Lever vers () h () min Coucher vers () h () min
- 21 Les heures de sommeil de l'enfant sont-elles régulières ?
 1) toujours irrégulières 2) de temps en temps irrégulières 3) presque régulières 4) toujours régulières 5) je ne sais pas
- 22 Quel est le degré de votre stress ? Entourez d'un cercle UN degré qui vous correspond et TOUTES ses causes. (pas de stress / un peu / moyen / assez / beaucoup)
 → Causes (le fait d'élever les enfants / la santé / le travail / les relations humaines / autres ())
- 23 Si vous avez des avis ou des souhaits par rapport à la garde d'enfants, merci de les marquer ici. (vous pouvez écrire de l'autre côté de la feuille)
 ex). Si votre enfant possède une nationalité française, allemande et anglaise
 → enfant ; française / étrangère (allemande anglaise)
 enfant : française / étrangère ()
 mère (ou sa remplaçante) : française / étrangère ()
 père (ou son remplaçant) : française / étrangère ()
- 24 Quel est votre logement actuel ?
 1) maison (achetée) 2) maison (louée) 3) appartement (acheté) 4) appartement (loué)
 5) logement social (PLI, PLS) 6) logement social (PLUS, PLAI) 7) autre ()
- 25 Depuis combien de temps habitez-vous dans le quartier de votre résidence ?
 () ans (pour ceux qui habitent depuis moins d'un an ;) mois
- 26 Mettez le chiffre dans la case A et B correspondant aux professions de la mère et du père de l'enfant. Si vous en avez plusieurs, répondez celle qui est principale.
 ex) employé de bureau à mi-temps (A : ③) (B : d), femme au foyer (A : ⑧) (B : i)
 Mère (A :) (B :) Père (A :) (B :)
 A : ① chef/fe d'entreprise, patron ② salarié/e en CDI ③ salarié/e en CDD, travail partiel, travail à mi-temps ④ intérim ⑤ profession libérale ⑥ travailleur familial de profession libérale ⑦ travail à domicile ⑧ homme/femme au foyer ⑨ sans activité ⑩ autre ()
 B : (a.) personnel de services et de la vente (b.) cadre (c.) profession intellectuelle supérieure et ingénieur (d.) employé administratif et de commerce (e.) ouvrier de type industriel et artisanal (f.) ouvrier agricole et pêche (g.) ne sait pas (h.) autre () (i.) ne travaille pas
- 27 Combien d'heures par semaine en moyenne travaillent la mère et le père de l'enfant ? Indiquer le total des heures s'ils ont plusieurs occupations.
 Mère () h Père () h
- 28 La mère et le père de l'enfant ont-ils obtenu un congé parental après la naissance de l'enfant ? Mettez le chiffre correspondant dans chaque case.
 Mère () Père ()
 1) oui () mois) 2) a cessé le travail après avoir obtenu le congé parental
 3) a cessé le travail sans l'obtenir après la naissance 4) a continué à travailler sans l'obtenir
 5) ne travaillait pas 6) autre ()

- 29 Quel âge l'enfant avait-il quand sa mère a repris le travail ? Indiquer l'âge de l'enfant. () ans.
- 30 La mère de l'enfant a-t-elle essayé d'allaiter son enfant dans les 24h après l'accouchement ?
1) oui 2) non
- 31 Pendant combien de mois la mère de l'enfant a allaité celui-ci ? (y compris le cas où elle aurait donné d'autres aliments (lait en poudre, diversification alimentaire, etc.) en plus de l'allaitement).
1) n'a jamais allaité 2) a allaité (jusqu'à ans mois)
- 32 Si cela vous est possible, indiquez le revenu annuel de l'année dernière. Merci d'indiquer le montant de revenu du travail de la mère et du père dans les cases correspondantes. Dans la case foyer, mettre le montant total qui comprend celui de prestations sociales (allocation familiale, RSA, etc.) et d'éventuelles pensions alimentaires.
Mère () Père () Foyer ()
1) pas de revenu 2) moins de 10 mille euros 3) entre 10 mille et 20 mille euros
4) entre 20 et 30 mille euros 5) entre 30 mille et 40 mille euros 6) entre 40 mille et 60 mille euros
7) entre 60 mille et 80 mille euros 8) plus de 80 mille euros
- 33 Qui s'occupe de la gestion de votre foyer ? Entourez d'un cercle le chiffre qui correspond.
1) principalement la mère 2) principalement le père 3) co-gestion 4) autre ()
- 34 Avez-vous déjà connu une violence domestique (y compris une violence psychologique) de la part de votre conjoint/e ? 1) oui 2) non
- 35 Avez-vous déjà connu une violence domestique (y compris une violence psychologique) de la part de vos parents ? 1) oui 2) non
- 36 Le fait d'élever votre enfant vous amène-t-il à perdre confiance dans vos capacités à éduquer ?
1) très souvent 2) de temps en temps 3) presque pas 4) pas du tout 5) autre ()
- 37 Avez-vous des remarques ou des souhaits par rapport au fait d'élever les enfants ? (ça coûte cher, ça prend le temps, il n'y a personne qui m'aide, il est difficile d'équilibrer le travail et la vie privée, etc.)

- 38 Si vous avez des avis ou des souhaits par rapport aux services de garde d'enfants, vous pouvez les indiquer ci-dessous.

* Les questions suivantes sont destinées aux familles ayant un lien avec les pays étrangers.

- 39 Depuis quand êtes-vous en France ?
Mère 1) dès la naissance 2) (Depuis l'an , à partir de ans)
Père 1) dès la naissance 2) (Depuis l'an , à partir de ans)
Enfant 1) dès la naissance 2) (Depuis l'an , à partir de ans)
- 40 La mère et le père de l'enfant possèdent-ils un diplôme professionnel ?
Mère 1) non 2) oui (lequel ?)
Père 1) non 2) oui (lequel ?)
- 41 Quelle est la langue parlée au sein de la famille ? Entourez d'un cercle tous les chiffres qui correspondent et marquez la langue parlée dans la case.
ex) si vous utilisez le français, l'anglais et le portugais : (1) français (2) langue étrangère (anglais, portugais)
1) français 2) langue étrangère ()
- 42 Quelle est la langue maternelle de votre enfant ? (la langue qu'il/elle maîtrise le mieux)
1) () 2) ne sait pas
- 43 Indiquez vos remarques en ce qui concerne le développement du langage, s'il y a lieu.
ex) « Il/elle a du mal à discuter en français à la crèche ou à l'école maternelle avec ses amis ou des personnels alors que ça fait plus d'un an que nous sommes en France. », « Il/elle a du mal à discuter avec la famille », etc.

Merci pour votre participation

「児童虐待・マルトリートメント予防のための養育者支援」プロジェクト

文献レビューの手引き

この文献レビューは、「児童虐待・マルトリートメント予防のための養育者支援」プロジェクトの一環として実施するものです。文献レビューの対象となるのは、日本・イギリス・フランス・イタリア・フィリピン・中国・韓国の7ヶ国です。

なお、この手引きは、文献レビューについて網羅的に述べたものではなく、また、手引きに書かれていることのすべてが、すべての国に該当するとは限りませんので、注意してください。

1 文献レビューの目的

- a) 対象の国で、児童虐待やマルトリートメントの原因として、どのような要因が指摘されているのかを明らかにする
- b) 対象の国で、児童虐待やマルトリートメントは、どのような社会層に多いとされているのかを明らかにする（移民や貧困、母子世帯、専業主婦など）
- c) 対象の国で、児童虐待やマルトリートメント防止のために、どのような社会的支援が提供され、また有効とみなされているのかを明らかにする

2 文献レビューに、とくに含めて欲しいことがら

- ・ 児童虐待やマルトリートメントの原因や多い社会層に関して、エビデンスとなる数字やデータなど
- ・ 重要な表やグラフ
- ・ それぞれの論文や文献で使われている調査方法、対象者など

3 文献レビューの対象

- ・ 近年の重要な学術論文・文献（社会学の論文・文献を中心に）
- ・ 近年の重要な政策文書
- ・ 対象の国での、入手可能なデータセットや統計など

‘Carer Support for the Prevention of Child Abuse and Child Maltreatment’ Project

Information for literature review

This literature review is designed to be a part of ‘Carer Support for the Prevention of Child Abuse and Child Maltreatment’ project. The literature review will cover 7 countries: Japan, UK, France, Italy, Philippines, China and Korea.

While these information is designed to be helpful, please note that it is not exhaustive and not all of it may be applicable to the context of the studied country.

1 The Objectives of the literature review

This literature review aims to clarify:

- a) What are regarded to be the major causes of child abuse and child maltreatment in the studied country
- b) What social groups/ social conditions are regarded to have/ to lead to more occurrences of child abuse and child maltreatment in the studied country; *i.e.* immigrants, poverty, single parent household, housewives, etc.
- c) What social supports are provided and regarded to be effective for the prevention of child abuse and child maltreatment in the studied country

2 Specifically, please include the information below:

- Empirical data concerning the above stated objectives
- Related important figures and tables
- Research methods and objects in each study or article

3 Specifically the literature review should review and summarize literature covering:

- Important and recent academic articles/ books (with a focus on sociological articles/ books)
- Important recent government policy documents
- Available datasets/ surveys that exist in the studies country

日本における子ども虐待・マルトリートメント問題の文献レビュー

1. 概要

本稿は、日本における子ども虐待・マルトリートメントに関する経験的な研究と日本政府および地方自治体により発行された子ども虐待・マルトリートメントに関する政策文書を対象とし「『児童虐待・マルトリートメント予防のための養育者支援』プロジェクトの文献レビューの手引き」に従って先行研究の知見及び政策の内容を整理したものである。具体的には日本国内の事例を対象にした量的調査と呼べる学術文献または関連記事の中で、社会・環境的要因を変数として用いているものを参照した。その際、調査対象が50ケースに満たない研究については除外した。なお、それぞれの研究の調査、分析方法等については本稿第3章第1節「子ども虐待の要因調査に関する文献リストおよび調査方法の概要」にまとめている。また、本稿では「子ども虐待」と「児童虐待」、「虐待」と「暴力」など類似する用語について統一することをせず、先行研究におけるそれぞれの用語方法に順じて引用している。

2. 子ども虐待やマルトリートメントの要因

先行研究において指摘された子ども虐待・マルトリートメントのリスク要因は、作用のレベルに従って、a)子ども及び養育者の個人レベルの要因、b)家族レベルの要因、c)社会レベルの要因の3種類に分けられた。以下では、先行研究における重要な知見を引用しながら、それぞれの要因に分類して要約していく。

a) 子ども及び養育者の個人レベルの要因

子ども及び養育者個人のレベルの要因については、その性別や年齢、健康状況、養育者の学歴、職業、子ども期の被虐待・ネグレクト経験などが指摘されている。

子どもの性別

・石川義之の研究によれば、加害者が親族、非親族のどちらであるかに関わらず他者から性的虐待を受けたことがある者の割合は男子で27.8%、女子で34.0%となっており、その数字に男女で大きな違いがないことが示されている（石川，2002）。

・岩井宜子・宮園久栄の研究によれば、「性的虐待」が97.1%と圧倒的に女兒に多い一方で、男児が「身体的虐待」で55.1%、「身体的+その他」で58.7%、「それ以外」で56.1%と「性的虐待」以外の虐待については女兒よりも男児の方が多いという結果が出ている（岩井・宮園，1996）。

・田村健二の研究によれば、身体的暴行は男児に多く見られたが、一方で性的暴行の被害者はすべて女兒であった。保護の怠慢・拒否や心理的虐待なども含めた虐待全体では男女の割合はほぼ同じとなっている（田村，1985）。

子どもの年齢

・服部らによる研究によれば、虐待開始年齢は0歳から3歳未満が全体の29.3%をしめ、その中でも0か月に虐待が開始した事例が57例（12.2%）みられた（服部ほか，2003）。

・乳児、1歳6か月児、3歳児を対象にした樋口広美らによる調査によれば、子どもの年齢が高くなるほど、「虐待あり」「虐待傾向」が多い傾向にあった（樋口ほか，2004）。

・岩井・宮園による研究では、もっとも多い年齢層は、「身体的虐待」で1～3歳、「身体的+その他」で4～6歳、「それ以外」で7～9歳、「性的虐待」で13～15歳となっており、年齢と受けやすい虐待の態様に関連が見られる（岩井・宮園，1996）。

・田村の研究によれば、保護の怠慢・拒否では0～4歳が33%、身体的虐待暴行では5～9歳が42%と幼少の子どもが虐待を受けるケースが多くなっている一方で、心理的虐待では10歳以上が過半数を占め、性的暴行では10歳以上が98%、中学生以上が80%と年長者が大多数となっている（田村，1985）。

子どもの身体的、社会情緒的な健康状況

・服部らの研究によれば、約半数の事例に子どもの問題があり、その内容は発達遅れ、育てにくい、多動、知的障害などの「発達と関連した問題」や、「性格上の問題」、盗み・家出などの「行動の問題」などであった（服部ほか，2003）。

・田村の研究によれば、虐待全体で見たときに被虐待児の「問題や症状あり」は、身体の発育で31%、現在の精神状態で不安・怯え以下66%、知能に問題を抱えた子どもが21%、問題行動は非行等が24%、長欠が10%などとなっている。また、性的暴行にしぼってみると外傷等は目立って少ない一方で、身体の発育は普通以上の子どもが89%を占め、精神状態に「問題や症状あり」とされる子どもも65%存在した（田村，1985）。

・東京都福祉保健局のデータでは、虐待を受けた子どもの心身の状況について不安やおびえ、うつ状態などの「情緒的、心理的問題」を示すことが多くなっている。特に、性的虐待を受けた子どもでは40.0%がそのような問題を抱えている。また、食行動や日常行動に支障をきたす「日常行動上の問題」も性的虐待の被害者の子どもでは31.1%にその傾向が見られた（東京都福祉保健局，2005）。

なお、特にこの「子どもの健康状況」についてはいずれの論文においてもこういった状況が虐待の要因であるのか、あるいは帰結であるのかについて十分な考察がなされていないことに留意されたい。

その他子ども個人レベルの要因

・田村の研究によれば、虐待全体で見たときに出生順位の早い方に被虐待児が目立つ傾向がみられた。また、性的暴行においては一人っ子でない長子が被害児として多く見られた。加えて、子どもの生育歴に着目した場合に妊娠や出産前後に「望まれない子」等の問題があった者が41%、そしてその後の実母からの分離体験は、生別以下65%の者がもっているという結果となった（田村，1985）。

養育者の性別（子どもとの続柄）

・石川による研究では虐待全体でみたときに、両親とその実子との間の被虐待経験について父親と母親を比べると男子・女子ともに父親よりも母親から多く被害を受けており、男女を合わせると母親から虐待を受けたものが81.8%、父親から虐待を受けたものが75.6%となっている。また、両親以外の親族については、高い順に祖母から虐待を受けたことがあるものが35.0%、祖父が16.1%、おばが15.7%となっている。また、性的虐待に限ってみた場合には、男子の場合全被害が女性加害者によるもので、女子の場合も女性加害者のの方が多いという結果が示されている（石川，2002）。

・岩井・宮園の研究では、虐待全体でみると実母が45.8%、実父29.4%、それ以外の父13.1%、それ以外の母6.4%、同一の兄弟0.2%、その他4.8%となっている。実父・継父が主体となる虐待は「性的虐待」であり、実母は「それ以外」すなわち保護の怠慢・拒否について多いという結果が示されている（岩井・宮園，1996）。

・田村の研究では、虐待全体で見ると数、加害者とも父親の方が多く、また養・継親に加害率が高いという結果が出ている。虐待の種類別に見ると、身体的暴行では母親の加害率のうち、実母が少なく養母が多い（92%）となっており、保護の怠慢・拒否では父親が少なく、母親（58%）と、うち実母（51%）がとまにかなり多い。心理的虐待では、父親が少なく（42%）、父母以外の人（18%）がやや多い。性的暴行では母親より父親が目立って多く（85%）、うち実父（55%）と継父（21%）が多くなっている、というように虐待の種類によって大きく異なる結果が示されている（田村，1985）。

・東京都福祉保健局が東京都内の児童相談所が受理した虐待事例をまとめたデータによれば、虐待全体でみたとき虐待者の内訳は実母63.3%、実父が21.6%であり、実父以外の父は8%、実母以外の母は1.5%となっている（東京都福祉保健局，2005）。

養育者の学歴

・高橋重宏らの研究によれば、親の最終学歴は回答があったもののうち、父母とも「中学校」「高等学校」の割合が多く、全体的に高学歴の親の割合が低い傾向にあった（高橋ほか，2003）。

養育者の職業

・岩井・宮園の研究結果では、無職・失業中が30.3%を占め、工員・労働作業職17.7%、サービス業11.2%で、管理職、専門技術職、一般事務職は合わせても6.4%にすぎない（岩井・宮園，1996）。

・高橋らの研究では、親の雇用形態は父「無職」は37ケース（11.5%）、母「無職」は227ケース（49.3%）であった。また、3割弱が頻繁に転職しているという結果が示されている（高橋ほか，2003）。

・田村の研究によれば、虐待全体で見ると父親の職業に恵まれないものが半ば～大部分であるとされているが、一方で心理的虐待では父親の職業は無職が少なく、技能・生産工程等が多い（59%）、就業不安定がかなり少なく、常勤が多い（56%）となっており職業・経済的にはその他の虐待と比較しても恵まれているとしている（田村，1985）。

・東京都福祉保健局のデータでは、実父では「定職」55.5%、「転職が多い」10.3%となっており、東京都全体の男性の有業率81.6%と較べて、実父の有業率が低いという結果が得られている。実母は「定職」「パート」などを含めて仕事をしている者が38.4%に対し、「家事専念」と「無職」が合わせて47.4%であり、家庭にいる者が多くなっている。都全体の女性の有業率46.3%と比較しても実母の有業率は低く、家で子どもと一緒にいる時間の長い保護者のリスクが高いことがわかる（東京都福祉保健局，2005）。

養育者の虐待経験

・服部らの研究では、虐待者の16.5%に「被虐待歴」がみられるという結果が示された。

・樋口らの研究によれば、「母親の被虐待歴傾向」の点数から「被虐待歴有り」と区分された者は25.0%で

あった（樋口ほか，2004）。

・高橋らの研究では、虐待者の特徴として「被虐待歴の影響が強い」という傾向が見られた（高橋ほか，2003）。

・田村の研究によれば、虐待全体としてみたときに「自分自身はその親から問題の育児や虐待を受けたことがあるものが過半である」とされている。また保護の怠慢・拒否の場合においては自分自身の親から、厳格は少なく、放任・無視（33%）や保護の怠慢・拒否（31%）を受けた者がともに多くなっている。性的暴行についても自分自身の親から性的暴行を受けた者が15%いるとされている（田村，1985）。

その他の養育者個人レベルの要因

・樋口らの研究では、育児不安がある人は虐待行為の点数が高く、関連があった。育児不安に関する21項目のうち6項目は母親の被虐待歴傾向とも正の相関があった（樋口ほか，2004）。

・田村による研究では、虐待全体で見たときに加害者の性格は、感情に動かされやすく、周囲や社会とのバランスを失いがちで、その配偶者もほぼ同様に抑止力となるには弱い存在であるとしており、特に性的暴行に関しては精神病質（性格異常）が30%となっている（田村，1985）。

b) 家族レベルの要因

次に子どもと養育者との主たる関わりの場であり、特に子どもにとってはもっとも基礎的な日々の生活の基盤となる、家族レベルでのリスク要因をまとめていく。

一人っ子・きょうだい数

・東京都福祉保健局のデータでは、ひとり親家庭は35.6%あり、東京都全体のひとり親家庭が全世帯の7.3%であること（東京都福祉保健局，2002）と比較すると、ひとり親家庭の割合が非常に高いことがわか

る（東京都福祉保健局，2005）。

家族形態

・服部らの研究によれば、離婚、出産、別居などの家族構成の変化が虐待の要因になっているとされている（服部他，2003）。

・岩井・宮園らの研究では、子どもの両親の状況について実父母 33.7%、実父継母 10.5%、継父実母 17.7%、実父のみ 11.9%、実母のみ 22.7%と著しく実父母率が低い（岩井・宮園，1996）。

・高橋らによる研究には、虐待種別において母子・父子のひとり親家庭にネグレクトが多く（それぞれ 50%、37.9%）、「母子と内縁の夫」家庭では性的虐待が多い（17.1%）。母子・父子のひとり親家族では特定の子供だけでなく、他のきょうだいも虐待している割合が多い（それぞれ 43.5%、41.7%）（高橋他，2003）。

・田村の研究によれば、虐待全体において義理などの家族関係の複雑さや片親家族といった不安定な家族形態が多く見られているが、特に保護の怠慢・拒否では核家族が少なく（30%）、母子（特に実母）家族（39%）と、これを含む片親家族が多くなっている（60%）、性的暴行では母子家族は少なく、父子家族が多い（43%）、同居家族員では、実父母同居や実母のみが少なく、実父のみ（41%）、養・継父と実母（30%）、そして実のきょうだい（85%）がいずれも多い、心理的虐待では同居家族員に祖父母などの父母以外の者が多い（24%）などの特徴がみられる（田村，1985）。

・東京都福祉保健局のデータでは、虐待が行われた家族の形態は、実父母と子どもの家族が 43.6%と一番多く、次いで、実母と子どもの家族が 30.6%、実母と養・継父と子どもの家族が 11.7%となっている（東京都福祉保健局，2005）。

社会経済的地位

- ・服部らの研究では、46%の家庭が経済的な問題を抱えている結果となった（服部他，2003）。
- ・岩井・宮園の研究では困窮している家庭が52.5%を占めた一方で、生活が裕福である家庭はわずか2.6%であった（岩井・宮園，1996）。
- ・高橋らの研究によれば、生活保護受給が「母子のみ」家庭と、次いで「父子のみ」家庭のひとり親家庭に多くみられ、全体では2割弱が生活保護受給家庭となっている。また、生活保護の受給と「ネグレクト」には強い相関があることが示されている（高橋他，2003）。
- ・田村の研究では、虐待全体として家計の困難にあるものが多いとされているが、特に保護の怠慢・拒否では69%が経済問題を抱えており、また性的暴行においては72%が家計において時々赤字以下である、一方で心理的虐待においては収支同じ以上が56%であり借金はかなり少ないといったデータが示されている（田村，1985）。
- ・東京都保健福祉局のデータでは、複数回答可で「経済的困難」を抱えていると回答した家庭は30.8%となっている。また、不明分を除いて、生活保護を受給している世帯が15.3%、していない世帯が78.1%となっている（東京都福祉保健局，2005）。
- ・社会保障審議会児童部会の報告によると、2004年から2008年3月までの全国の子どもの死亡事例で家族の経済状況がわかっている77例のうち、生活保護世帯が8例、非課税世帯が31例で、合わせると半数を超える一方で、年収500万円以上は12例であり中間所得層を含みつつ低所得層に集中しているということが示された（社会保障審議会児童部会児童虐待要保護事例の検証に関する委員会，2008）。

養育者同士の関係性

- ・服部らの研究では、19.5%の家庭に「夫婦の問題」がみられた（服部ほか，2003）。
- ・岩井・宮園による研究によれば、18.6%が夫婦不和の問題を抱えており、特に「性的虐待」では42.7%

が夫婦不和となっている（岩井・宮園，1996）。

・高橋らの研究によれば、配偶者・パートナー関係は「父母と子」家庭では「暴力はないが悪い」「暴力を伴った不和」が多い一方で、「母子と内縁の夫」家庭では「良好」が多い結果となっている（高橋ほか，2003）。

c) 社会レベルの要因

最後に、子ども、養育者、そして彼らが暮らす家庭をとりまく社会レベルのリスク要因についてまとめる。

教育機関、コミュニティの環境

・高橋らの研究によれば、近隣との関係は、「母子のみ」家庭が「悪い（敵対的關係）」「孤立・疎遠」が多く、「父子のみ」家庭でも「孤立・疎遠」が多い。また「母子と内縁の夫」家庭は「悪い（敵対的關係）」が多い（高橋ほか，2003）。

・東京都福祉保健局のデータでは、「一戸建て」に住む家庭が18.8%に対し、「集合住宅」に住む家庭が自己所有と賃貸とを合わせて73.3%となっている。一方で、家庭状況について「親族、近隣等からの孤立」していると回答した家庭は23.6%となっている（東京都福祉保健局，2005）。

3. 文献リスト

3-1. 子ども虐待の要因調査に関する文献リストおよび調査方法の概要

服部祥子ほか，2003，「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究」『平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）分担研究報告書』，8／11.

大阪府 30 か所の家庭児童相談所と 2 か所の子ども家庭センターにおける虐待事例（過程児童相談所：468 例、子ども家庭センター：531 例）の実態調査を行っている。対象児の約 75%が 0 歳から就学前年齢で、虐待のタイプは全年齢で身体的虐待（44.7%）、ネグレクト（46.8%）、心理的虐待（9.8%）、性的虐待（0.6%）と大部分が身体的虐待とネグレクトとなっている。重症度は、軽度（35.9%）、中度（39.3%）、重度（12.4%）、グレーゾーン（10.3%）であった。

樋口広美ほか，2004，「育児実態調査から見た子ども虐待のハイリスク要因——子ども虐待を早期発見・予防するために」『保健師ジャーナル』，60(10):1006-12.

新潟県にある新津保健所管内 11 市町村において、2000 年 9 月から 11 月に実施された 3～4 か月児健診、1 歳 6 か月健診および 3 歳児健診の対象児をもつ母親 1559 人を対象（回収数は 759）に自記式調査票による調査を行った。設問は①虐待行為の程度、②育児不安の程度、③母親の被虐待歴傾向の 3 項目の他、基本属性、虐待のリスク要因、観察しやすい育児行動などを設定している。

石川義之，2002，『社会学とその周辺——パーソンズ理解から児童虐待まで』大学教育出版.

1993 年 11 月から 1994 年の 1 月の期間に、山陰、四国、関西の大学・短大・専門学校・工専・高校専攻科計 11 校の学生に対して質問紙法による配票調査法・集合調査票により調査を行い、456 の有効回答数（うち男子 226、女子 228、不明 2）を得たもの。虐待の定義を子どもの観点から見て「間違った取り扱い」でありうるケースは全て拾い上げようという立場に立ったもので、その結果として何らかの虐待を受けたことがある者は回答者の 90%以上に上るとするのが特徴的である。

岩井宜子・宮園久栄, 1996, 「児童虐待問題への一視点——児童相談所介入例の調査を通して」『犯罪社会学研究』, 21号:145-68.

5件27か所の児童相談所に対して、1992年1月から1994年3月までに扱った事例中、児童虐待に相当する事例について、調査票による調査を行った。これにより集まった事例は419例であった。児童虐待の定義としては、『児童虐待とは、親または親に代わる保護者により、非偶発的に児童に加えられた、「身体的虐待」（外傷の残る暴行、あるいは生命に危険のある暴行）、「遺棄・置き去り」、「保護の怠慢・拒否」（衣食住や清潔さについての健康状態を損なう放置）、「性的虐待」（親による近親相姦、または親に代わる保護者による性的暴行）、「心理的虐待」（極端な心理的外傷を与えたと思われる行為）、「登校拒否」（家への閉じこめ）行為をいう』という独自のものを採用しており、その上で419例のケースを①性的虐待を受けているもの（他の虐待を受けているものを含む）…35件、②身体的虐待を受けているもの…156件、③身体的虐待およびその他の何らかの虐待を受けているもの＝身体的虐待+その他の複合的な虐待…121件、④身体的虐待、性的虐待が含まれないもの＝それ以外の虐待…107件、という4つに分類している。

高橋重宏ほか, 2003, 「児童相談所が対応する虐待家族の特性分析——被虐待児及び家族背景に関する考察」『平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）分担研究報告書』, 9/11.

__3都道府県にある17の児童相談所に対して、虐待事例として受理・処理したもののうち、「平成14年度中に一時保護し、一定の方針が立ったケース」を対象として個別に回答の上、郵送により回収を行った。全体で503ケースを回収（うち有効回収数は501ケース）し、きょうだいケースで重複しないようサンプル数を世帯数（416世帯）で再調整したうえで分析を行った。主たる虐待種別としては、①身体的虐待223ケース（44.5%）、②ネグレクト188ケース（37.5%）、③性的虐待32ケース（6.4%）④心理的虐待56ケース（11.2%）となっている。

田村健二, 1985, 「家族内児童虐待の実態」『教育と医学』, 33(9):20-6.

調査は1983年4月1日から1984年3月末までの1年間に、全国の児童相談所で扱い家族内児童虐待と判定された416ケース(児童は0~17歳)について行われた。さらに家族内児童虐待は、①身体的暴行…54%、②保護の怠慢・拒否…27%、③性的暴行…11%、④心理的虐待…8%の4つに分類されて分析されている。

東京都福祉保健局, 2005, 『児童虐待の実態Ⅱ——輝かせよう子どもの未来、育てよう地域のネットワーク』.

2003年度に東京都内の全11の児童相談所が受理した相談事例2481件について分析調査を行ったもの。分析に当たっては、各児童相談所に調査票を配布し、回答の単純集計およびクロス集計を行った。前記の2481件のうち、調査の結果児童虐待ではなかった568件を除き1694件について分析を行った。本調査での児童虐待の定義は2004年10月の改正前の児童虐待の防止等に関する法律第2条によっており、児童虐待はさらに①身体的虐待、②性的虐待、③養育の放棄・怠慢(ネグレクト)、④心理的虐待の4つに分類されている。

社会保障審議会児童部会児童虐待要保護事例の検証に関する委員会, 2005, 「第1次報告から第4次報告までの子ども虐待による死亡事例等の検証結果総括報告」.

2004年から2008年3月までの全国の子どもの死亡事例で家族の経済状況がわかっている77例を対象に分析している。

3-2. その他文献リスト

東京都福祉保健局, 2002, 「平成14年度東京都福祉基礎調査報告書『東京の子どもと家庭』」.

中国における児童虐待・マルトリートメント問題の文献レビュー

1 概要

本稿は、中国における児童虐待・マルトリートメント問題に対する経験的な社会学研究、及び中国の中央政府及び地方政府により公布された児童虐待・マルトリートメント問題に関わる政策文書を対象とし、「児童虐待・マルトリートメント予防のための養育者支援」プロジェクトの文献レビューの手引き」に従って研究の知見及び政策の内容を整理した。具体的に、CNKI、Web of Science の 2 つの電子検索データベース、及び中国政府ホームページを使用し、「児童虐待」、China child abuse、「児童忽視」、China child neglect、「児童傷害」、China maltreatment という 6 つのキーワードで学術文献または関連記事を検索した。本稿に採用された学術文献は、いずれのデータベースにおいて一回または一回以上に引用された、或は 2015 年 1 月 1 日以降出版された文献である。本稿に採用された政府文書は、中国政府に出版された政策文書、或は法律・法令である。社会的・制度的環境の差異を配慮したため、本稿は単に中国大陸の研究成果または政策に注目し、単純に香港、台湾、海外の華僑や華人を対象とした研究をレビューの対象から除外した。詳細は、付録の表 1 を参照する。

2 児童虐待やマルトリートメントの原因

先行研究において指摘された児童虐待・マルトリートメントのリスク要因は、作用のレベルに従って、1. 子ども及び養育者の個人レベルの要因、2. 家族レベルの要因、3. 社会レベルの要因、3 種類に分けられる。以下では、先行研究における重要な知見を引用しながら、それぞれの要因の影響について詳細に説明する。

d) 個人レベルの要因

子ども及び養育者の個人レベルの要因について、子どもと養育者の性別、年齢、健康状況、子どもの学業表現、養育者の児童期の虐待・ネグレクト経験などの要因はしばしば指摘される。

子どもの性別

中国の子どもにおいて、虐待 (Ma, et al. 2011 ; 漆・その他, 2015) やネグレクト (鐘・その他, 2015) 発生率の性別差が検出されなかった報告も時々見えるにもかかわらず、総体的には、男児の虐待・マルトリートメント (楊・その他, 2004) 及びネグレクト (潘・その他, 2010 ; Li, et al. 2015) の発生率が高い。具体的に、虐待またはネグレクトの具体的類型における性別の影響が異なっている。まず、身体的虐待 (陶・その他, 2004 ; 趙・李, 2006 ; 喬・その他, 2010 ; 王・陳, 2012) と精神的虐待 (王・陳, 2012) の場合、女児と比べて男児の発生率が高いと報告される。身体的虐待の強さと性別の関連について、山東省済寧市近郊で0~17歳の子どもの養育者を対象として実施された調査の結果によれば、より弱かった身体的虐待の場合には、男児の発生率が女児より高いが、ひどい虐待の場合、男女の差は見えなくなった (孟, 1994a)。性的虐待の発生率に関する報告はしばしば矛盾している。女児の方が高い (Chen, Dunne and Han, 2004 ; 趙・李, 2006 ; 王・陳, 2012) と示した報告と男児の方が高いという報告 (Wong, et al. 2009 ; Lin, et al. 2011 ; Chan, et al. 2013) は同時に存在し、そして、どちらの立場も自分の結論を支持する解釈を出していた。ネグレクトの諸類型には、男児の身体的ネグレクトの発生率が高く (Hua, et al 2014)、農村部の女児の医療的ネグレクトが高い (Li, et al. 2015) と報告される。

子どもの年齢

年齢と児童虐待及びマルトリートメント、ネグレクトの関係はしばしば経験的な研究に検証されたが、それぞれの研究が時々互いに矛盾する結論が得られた。Wongら (2009a) は広州市区の12~16歳の生徒を対象とした調査の結果によると、12~14歳生徒の身体的マルトリートメントの発生率は、15~16歳生徒の1.3倍であった。Chenら (2013) の研究では、年齢が一歳あがると、性的虐待を受けるリスクが1.11倍増加するということを指摘した。しかし、Linら (2011) に実施された、湖北省農村部8~18歳の子どもに対する調査により、性的虐待の発生率と年齢の統計的な関連性はなかった。また、王ら (1994) 及び漆ら (2015) の研究の研究において、年齢が高いほど、身体的虐待の発生率が低くなる傾向があると報告した。ネグレク

トの発生率については、Liら（2015）は陝西省と重慶市の6～17歳の子どもを対象とした調査では、9～14歳の子どもの感情的ネグレクト及び教育的ネグレクトの発生率が比較的に高いという結果が報告された。

子どもの健康状況

少数ではあるが、中国の子どもの身体的・精神的健康状況と虐待・ネグレクトの関連性を検証した経験的研究があった。1337名の武漢市の中高等学校に在学する中1から高1までの生徒を対象とした調査では、子どもの健康状況と虐待の発生率の関連性が検証された。健康状態の良かった生徒と比べ、慢性疾患を患った生徒の虐待発生率は高い。しかし、病気になりやすい生徒及び障害になった生徒は、健康生徒との間で虐待発生率の差は見えない（張，2007）。Huaら（2014）に実施された、蘇州市の6～9歳一人っ子児童の主要な養育者に対する調査では、身体的健康状況が悪かった子どもの感情的ネグレクトと教育的ネグレクトの発生率が高く、認知障害がある子どもの全ての類型のネグレクト（身体、感情、教育、安全）の発生率が比較的に高いという結論が得られた。

その他の子ども個人レベルの要因

以上の要因を除き、子どもの悪い学業表現（試験やテストの点数が低かった）も虐待の要因として指摘され、とりわけ、常に身体的虐待の発生率と強く関連している（王・その他，1994；孟，1994a；Ma, et al. 2011）。また、Liらの研究（2015）で示したように、少数民族（漢民族以外の民族）6～17歳の子どものネグレクト発生率が、漢民族の子どもより高い。

養育者の個人レベルの要因においては、親の学歴及び職業、児童期の虐待経験が常に検証されていた。

両親の学歴

中国において、養育者の低学歴は児童虐待（王・陳，2005）及び子どもネグレクトの発生（潘・その他，2005；Li, et al. 2015）のリスク要因と指摘された。具体的な項目については、父親の低学歴は身体的虐待（Wong, et al. 2009a；陶・その他，2004）及び性的虐待（Chen, Dunne and Han, 2006；喬・その他，2010；）

のリスクを高める要因と報告される。それに対して、母親の低学歴は、子どもの身体的虐待（Wong, et al. 2009a）のリスク要因である。また、蘇州市 6～9 歳一人っ子の養育者に対する調査（Hua, et al. 2014）の結果によれば、母親の学歴が高いほど、子どもの身体的ネグレクト、感情的ネグレクト、教育的ネグレクトの発生率が低かった。それに対して、学歴の高い父親は、子どもの感情的ネグレクトが比較的になかった。

両親の職業

養育者の職業と児童虐待・マルトリートメントの間における関連性に対する検証が比較的になかった。中国の 6 都市で実施された、15～17 歳の生徒を対象とした調査では、父親の無職は子どもの性的虐待のリスク要因だと報告された（Chan, et al. 2013）。具体的に、父親が有職である回答者と比べ、父親が無職である回答者は児童期において性的虐待を経験した割合が 1.34 倍多かった。Wong ら（2009b）は広州市区の子どもの身体的虐待に関する調査において、父親の職業と子どもの身体的虐待の発生率の関連性を調べたが、有意の結果が得られなかった。しかし、母親がビジネスウーマンの場合には、子どもの身体的虐待の発生率が比較的に高かった。

親の虐待経験

父親と母親とも、児童期の虐待経験は自分の子どもを虐待する、またはネグレクトの行為に影響する。王ら（1994）に行われた調査の結果によると、児童期の虐待経験があった父親は、自分の子どもに対して身体的虐待を実施するリスクが比較的に高い。また、孟の研究（1994a）に報告されたように、両親の児童期の虐待経験と自分の子どもに対する身体的虐待の強さの間には、有意の正の相関性が存在する。また、児童期の身体的虐待だけではなく、児童期の精神的虐待の経験があった親を持つ子どもにおいて、ひどい身体的マルトリートメントの発生率が高い（Ma, et al. 2011）。

その他の子ども個人レベルの要因

以上の要因以外、Hua らの研究（2014）で報告したように、母親の年齢が高いほど、子どもの教育的ネグレクトの発生率が低くなる。

e) 家族レベルの要因

以上では、子ども及び養育者の個人レベルの要因を整理しておいた。つぎに、先行研究に報告された、子どもの毎日に暮らしている家族における児童虐待・マルトリートメントまたは子どものネグレクトのリスク要因をまとめていく。

一人っ子・きょうだい数

中国の児童マルトリートメントまたはネグレクト研究において、兄弟数と虐待・ネグレクトの相関性がしばしば検証される。総体的に、きょうだい数と虐待の発生率の間では、正の相関関係が存在する（漆・その他, 2015）。Chanら（2013）の調査結果で示したように、兄弟数が多いほど、子どもの性的虐待の発生率が高くなる（1.30倍/人）。しかし、多数の研究では、兄弟数の影響効果は線形的に検証されず、代わりに「一人っ子家族」対「非一人っ子家族」のカテゴリ変数の形にされていた。その原因は、恐らく1980年代から実施された一人っ子政策の影響で、「一人っ子家族」は研究者たちから注目されているためであろう。複数の研究に報告されたように、一般的に、一人っ子の虐待（陶・その他, 2004）やネグレクト（Li, et al. 2015）の発生率が一人っ子ではない家族より低い。それにもかかわらず、「一人っ子」と「非一人っ子」の間には虐待の発生率の差はないという報告（王・陳, 2012）、及び一人っ子の方は虐待の発生率が高いという報告（趙・李, 2006）もあった。

家族形態¹⁴

家族形態による児童マルトリートメントやネグレクトに対する影響も先行研究において検討されていた。先行研究の報告によれば、親が再婚した家族においては、児童虐待の発生率（楊・その他, 2004）とネグレクト（潘・その他, 2005）の発生率が高い。それに対して、三世代の拡大家族においてネグレクト（潘・そ

¹⁴ ここでは、両親の婚姻関係は原因であった要因のみが整理された。「留守児童」(left-behind children) といったような両親の出稼ぎや移動による特殊の家族構造は、第二節で詳細に説明する。

の他、2005；Hua, et al. 2014；Li, et al. 2015；鐘・その他, 2015) の発生率が比較的に低い。

片親家族の子どもは、性的虐待の発生率が他の家族形態と比べて 2.3 倍高いと報告された (Chan, et al. 2013)。また、Wong ら (2009b) の調査により、母子家族の子どもの身体的虐待のリスクが高い。しかし、片親家族の子どもネグレクトの発生率について、互いに矛盾する結論が存在する。陝西省と重慶市農村部 12～17 歳の中学生を対象とした調査において、片親家族の児童ネグレクトの発生率が統計的に低いと報告された (鐘・その他, 2015) が、潘らに実施された、中国 25 都市の 6～11 歳児童に対する調査では反対の結論が得られた (潘・その他, 2005)。

社会的経済的地位

よく指摘されたように、貧困は児童虐待・マルトリートメント (王・その他, 1994；喬・その他, 2010) 及びネグレクト (鐘・その他, 2015) の重要なリスク要因である。具体的に、Wong ら (2009a) の研究に報告されたように、持ち家の家族では、子どもの身体的マルトリートメントの発生率が持ち家ではない家族の子どもの 0.8 倍であった。自分の部屋を持っている子どもは、身体的虐待 (Wong, et al. 2009b) 及びネグレクト (鐘・その他, 2015) の発生率が比較的に低い。また、健康状況の悪かった親は、児童虐待の発生率が比較的に高かった (張, 2007)。それ以外、頻繁な転居も児童の虐待 (趙・李, 2006) 及びネグレクト (鐘・その他, 2015) のリスク要因と報告された。

家族の環境

中国の先行研究において、良い夫婦関係は児童虐待 (王・その他, 1994；王・陳, 2012) 及びネグレクト (鐘・その他, 2015) を抑制する要因として検証された。また、農村部の 12～17 歳の中学生を対象とした調査の結果により、夫婦関係だけではなく、母子関係や父子関係が良かった家族においては、子どものネグレクトの発生率が統計的に低かった (鐘・その他, 2015)。それ以外、母親 (張, 2007) と父親のアルコール依存 (漆・その他, 2015) 及び両親の賭博への依存 (張, 2007) も、児童虐待の発生のリスク要因である。

f) 社会レベルの要因

教育機関・コミュニティの環境

個人的要因及び家族の背景だけではなく、子どもの居住地の環境も児童虐待やネグレクトの発生の重要な影響要因である。Wong ら（2009b）は広州市区の中学生 6592 人を対象として身体的虐待の発生率に関する調査の結果に基づき、マルチレベルモデルで学校及びコミュニティの環境による影響を検証した。分析の結果によると、教育の質の良い学校（Wong らの研究において、学校の類型は教育の質によって、「省重点学校」、「市重点学校」、「区重点学校」、「私立学校」と分けられた。「省重点学校」（平均的に、「省重点学校」の教育の質が最も良く、私立が最も悪い）の生徒は、身体的虐待の発生率が比較的に低かった。コミュニティの環境による影響について、居住地の父親の平均的教育年数が高いほど、無職者の比率が低いほど、子どもの身体的虐待の発生率が高い。その原因について、個人の教育年数が高く、キャリアが成功であった父親は子どもに対する期待が高いため、子どもに対してより厳格な教育を与える傾向があると解釈された。また、コミュニティの自家用車の保有率、公共サービス（ガス・水道の使用率）の普及率が高いほど、子どもの身体的虐待のリスクが低くなる。つまり、優れた教育環境や居住環境は、児童虐待を抑制する重要な要因であると確認された。

また、都市内部に限らず、都市部と農村部の子どもの間には、虐待の発生率も異なる。広西省の 10～16 歳の在校生を対象にした調査では、都市部と農村部の間で統計的に有意の差があり、農村部で児童虐待の発生率が比較的に高いと報告された（漆・その他，2015）。その原因については、孟ら（1994b）に行われた都市部と農村部住民を対象とした比較研究に指摘されたように、都市部住民と比較すると、農村部住民の児童虐待に対する認識が少なく、ひどい傷害をもたらさなかった殴打などを虐待に認めない傾向があった。

伝統的教育理念

現代の中国において、伝統的な教育理念は巨大な影響力を持ち、中国の養育者たちに強い影響を与えている。道徳や躰を育つことを重視する一方、中国の伝統的な教育理念においては、「厳しさ」及び「体罰」の手

段を重要視し、「厳しい父と優しい母」という養育者の役割配分を推奨している。その理念は現代の中国社会に広く受け入れるのは、中国における児童虐待研究が少なかった原因の一つかもしれない（朱，2005）。

3 提供された社会的支援とその評価

以上では、中国の先行研究に報告された児童虐待・マルトリートメント及ネグレクトのリスク要因を整理しておいた。本節では、中国において実施された児童虐待・マルトリートメント・ネグレクトの予防や防止に関わる政策や支援プロジェクトについて考察する。

a) ユニセフと中国政府に実施されたプロジェクト

2005年から、国連児童基金会（ユニセフ）と中国政府と共同に児童虐待を予防するプロジェクトを実施してきた。具体的に、2005年から広東省、陝西省、浙江省で「アンチ・対児童暴力」というプロジェクトを実施し、家族、学校、コミュニティ3つの方向から、児童への暴力の予防策と介入ルートを探索する。また、2006年から実施された「児童保護システム及びネットワーク」プロジェクトは、南京、石家荘、済南、成都、瀋陽、天津6つの都市で、コミュニティに基づいた児童保護システムとネットワークの整備を探索してきた（劉・蘇・徐，2015）。

2つのプロジェクトとも、児童虐待の予防及び取り扱うために、予防、報告、対応という3つのシステムを設けていた。まず、予防システムについて、「児童保護システム及びネットワーク」プロジェクトは、コミュニティの児童保護弁公室及びコミュニティの公務員に頼み、虐待された児童の発見、評価、調査、介入、管理などを任せた。その上で、政府の関連部門、警察、地域コミュニティの責任者、コミュニティ診療所の医者、児童保護所の責任者、幼稚園や学校の教師及び精神健康のカウンセラー、人民調停者などの部門や専門家を動員し、専門知識と協力を求めた。一方、「アンチ・対児童暴力」プロジェクトは既存の「婦聯」（女性連合会、政府に管理された部門である）システムを利用し、虐待された児童の発見と救助をそれぞれのレベルの自治体「婦聯」に任せた。それ以外、2つのプロジェクトは、多様な形式を採用し、児童虐待を予防するための啓発活動を実施し、ソーシャルワーカー、教育、医療などの専門知識に基づいて虐待を受けた児

童を取り扱う時のガイドラインを作成した。

つぎに、報告システムは主に2つ部分に構成された。まず、各地域においてメールボックスやホットラインを設置し、児童虐待事件の報告システムを整備する。同時に、学校とコミュニティにおいて、児童虐待事件を発見するシステムを設け、生徒、教師、コミュニティの母親同士及び警察、コミュニティの責任者による検挙を求める。また、介入システムは学校及びコミュニティ、家族の3つの方向から、発見された虐待事件に介入し、住民委員会、派出所、医療機関の協力を求めて問題を解決しようとする。

3つのプロジェクトの実施に従い、以下の効果が得られた。まず、児童虐待の発生リスクが高かった家族は保護され、救助と指導を受けた。広東省において、500人が「アンチ・対児童暴力」プロジェクトのサービスを利用し、97回の指導と救助を受けた。とりわけ、広東省内の7件の嚴重な児童虐待事件が「アンチ・対児童暴力」プロジェクトによって取り扱われた(張, 2010)。また、2つのプロジェクトは社会の児童虐待防止への意識を啓発した。そのうえで、プロジェクトの実施の経験も今後の政策制定と改訂にとって重要な参考とであった(劉・蘇・徐, 2015)。

b) 留守児童のネグレクト及び防止政策

「留守児童」、即ち親が都会に出稼ぎに出たため、両親と離れた状態で農村の実家で祖父、祖母またはほかの親戚と一緒に暮らす(成年の保護者はなく、未成年の兄弟たちが一緒に暮らすといった極端状況もときどき報告される)子どもたちは、近年に中国社会と政府の関心を集めてきた研究の報告によると、留守児童の虐待(漆・その他, 2015)とネグレクト(Li, et al. 2015)の発生率が比較的に高かった。また、両親の出稼ぎのため、父親または母親と一緒に暮らす時間が短いのも、子どもの身体的虐待(Wong, et al. 2009b)またはネグレクト(Li, et al. 2015)のリスク要因と確認された。

親の出稼ぎによる子どものネグレクトないし安全問題を防止するために、2016年2月、中国の国務院は「国務院關於加強農村留守児童關愛保護工作的意見(農村部の留守児童の関心と保護を強化することに関する意見)」(以下では、「意見」と省略する)を公布した。「意見」では、留守児童の保護について以下のよう

に規定した。「農村地域の留守児童を監護のない状態にさせた保護者…、或は 6 か月以上監護の職責を果たさなかった、子どもに基本的な生活保護を受けさせなかった保護者、家庭内暴力を実施し、留守児童を虐待する、または遺棄することにより、子どもの身体的・精神的健康に損害を与えた保護者…の親権を停止し、他の親権者を指定する」(中華人民共和国国務院, 2016)。以上の規定は公布から僅か 2 ヶ月未満なので、「意見」に基づいて制定された法律条例及びその効果に対し、今後引き続き注目する必要がある。

c) 関連する法律

中国では、児童虐待またはマルトリートメント、ネグレクトを予防する、取り扱う法律はまだなく、児童の権利に関わる法律も『未成年人保護法』(未成年者保護法)と『防止未成年人犯罪法』(未成年者犯罪防止法)しかない(李, 2007)。しかし『未成年人保護法』においては、児童虐待の保護に対して単に一般的な規定を作ったが、虐待事件に対する予防、調査、後始末に関する詳しい規定は見えない(何, 2013)。

未成年者を対象とした法律を除き、2016 年 3 月から発効した『反家庭暴力法』(家庭内暴力防止法)においても、児童虐待・マルトリートメントに関わった規定がある。『反家庭暴力法』では、「家庭内暴力」は「家族成員の間で発生した、殴打、緊縛、残酷な傷害、身体的自由の制限、長期にわたった悪口、脅迫などの身体的、精神的侵害行為」と規定されている。つまり、子どもに対する精神的な侵害も家庭内暴力と認められ、取り扱われる対象となっている。これから『反家庭暴力法』に基づいて制定された具体的な条例に対して注目する必要がある。

上述の法律における児童虐待に関わる項目の詳細は、付録の表 2 を参照する。

4 参考文献

Chan K.L., Yan E., Brownridge D.A., Ip P., 2013, “Associating child sexual abuse with child victimization in China,” *The Journal of Pediatrics*, 162(5): 1028-34.

Chen, J.Q., Dunne, P. Michael and Han, P., 2004, “Child sexual abuse in China: a study of adolescents in four provinces,” *Child Abuse and Neglect*, 28(11):1171-86.

- , 2006, “Child sexual abuse in Henan province, China: associations with sadness, suicidality, and risk behaviors among adolescent girls,” *Journal of Adolescent Health*, 38(5): 544-9.
- Hua, J., Mu, Z., Nwaru, Bright I., Gu, G.X., Meng, W. and Wu, Z.C., 2014, “Child neglect in one-child families from Suzhou City of Mainland China,” *BMC International Health and Human Rights*, 14: 8.
- Li, Q., Zhong, Y., Chen, K., Zhong, Z. and Pan, J., 2015, “Identifying risk factors for child neglect in rural areas of western China,” *Child: care, health and development*, 41(6): 895-902.
- Lin, D.H., Li, X.M., Fan, X.H. and Fang, X.Y., 2011, “Child sexual abuse and its relationship with health risk behaviors among rural children and adolescents in Hunan, China,” *Child Abuse and Neglect*, 35(9):680-7.
- Ma, Y.T., Chen, J.Q., Xiao, W.Q., Wang, F.M. and Zhang, M., 2011, “Parents’ self-reporting of child physical maltreatment in Yuncheng City, China,” *Child Abuse and Neglect*, 35(8):592-600.
- Wong, William C.V., Leung, Phil W.S., Tang, Catherine S.K., Chen, W.Q., Lee, Albert and Ling, Davina C., 2009a, “To unfold a hidden epidemic: Prevalence of child maltreatment and its health implications among high school students in Guangzhou, China,” *Child Abuse and Neglect*, 33(7):441-50.
- , Chen, W.Q., Goggins, William B., Tang, Catherine S. and Leung, Phil W.S., 2009b, “Individual, familial and community determinants of child physical abuse among high-school students in China,” *Social Science and Medicine*, 68(10):1819-25.
- 王永紅・陳晶琦, 2012, 「1762 名大專學生童年期虐待經歷及影響因素分析 (高等專門學校の學生 1762 人の児童期虐待経験及びその影響要因に対する分析)」『現代予防医学』, 39(18): 4654-6.
- 王健・劉興柱・孟慶躍・許加竜・陳竜宝, 1994, 「児童虐待頻度及影響因素分析 (児童虐待の頻度及びその影響要因に対する分析)」『中国社会医学』 50: 24-7.
- 何劍, 2013, 「論『虐童』行為的刑法規制 (児童虐待行為に対する刑法による規制)」『中国刑事法雑誌』, 2(6): 49-56.

- 喬俠・李先賓・喬靜・李云・張開紅, 2010, 「290 名青少年童年期受虐狀況及其影響因素分析 (少年 290 人の
兒童期虐待狀況及びその影響要因に対する分析)」『中国兒童保健雜誌』, 18(1): 33-5.
- 鐘引・鐘朝暉・潘建平・李群英・鐘韻・孫浩令, 2015, 「陝西和重慶農村地區 12~17 歲中學生忽視狀況及影
響因素分析 (陝西省及び重慶市の農村部 12~17 歲の中高生のネグレクト狀況及びその影響要因に対す
る分析)」『衛生研究』, 44(5): 756-60.
- 陶芳標・張洪波・王德斌・楊善癸・蘇普玉・鳳爾翠・許娟・張麗英, 2004, 「社会文化因素对安徽省農村兒童
体罰行為的影響」『中国全科医学』, 7(3): 172-4.
- 趙丹・李麗萍, 2006, 「某医科院校 485 名大学生兒童期虐待經歷的調查 (ある医科学校大学生 485 人の兒童
期の虐待経験に関する調査)」『疾病控制雜誌』, 10(2): 154-7.
- 張敏, 2007, 「兒童虐待的相關因素及对心理行為的影響研究 (兒童虐待の影響要因及び精神的行為への影響に
関する研究)」, 華中科技大学, 修士論文.
- 漆光紫・陳施・鄔振先・廖維芳・周敏, 2015, 「少数民族偏遠山区兒童虐待現況及影響因素分析 (少数民族地
域や農山村地域における兒童虐待の現況及びその影響要因に対する分析)」『中国学校衛生』, 36(1): 87-
9, 93.
- 潘建平・張華・曹春紅・羅莎莎・張松傑, 2010, 「中国城市小学生忽視狀況調查分析 (中国の都市部小学生の
ネグレクト狀況に対する調査と分析)」『中国婦幼衛生雜誌』, 1(1): 15-9.
- , 楊子尼・任旭紅・王桂香・王惠珊・席衛平・潘玉泉・馬葆靖・石淑華・弋花妮・傅平・古桂雄・
静進・俞紅・李瓊昭・李威・喻貴清・馬西・武雅麗・黎海蒼, 2005, 「中国部分城市 3~6 歲兒童忽視狀
況及影響因素分析 (一部の中国都市における 3~6 歲兒童のネグレクト狀況及びその影響要因に対する
分析)」『中華流行病学雜誌』, 26(4): 258-62.
- 孟慶躍・劉興柱・王健・黃思桂, 1994a, 「兒童虐待強度及因素分析 (兒童虐待の強さ及びその要因に対する
分析)」『中国社会医学』 50: 28-30.

- , 劉興柱・張輝, 1994b, 「兒童軀體虐待的公衆定義研究 (兒童の身体的虐待の定義への公衆の認知に関する研究)」『中国社会医学』 50: 10-4.
- 楊世昌・張亜林・黄国平・郭果毅, 2004, 「受虐兒童個性特徴初探 (虐待を受けた兒童の個性の特徴に対する探索的研究)」『中国心理衛生雜誌』, 18(9): 617-8,671.
- 劉文利・蘇余芳・徐韜, 2015, 「我国預防兒童虐待的最佳實踐: 来自政府機構的試点項目經驗 (中国的兒童虐待預防の最もよかった実践: 政府機關の試験プロジェクトの經驗について)」『实用預防医学』, 22(2): 254-7.
- 中華人民共和國國務院, 2016, 「國務院關於加強農村留守兒童關愛保護工作的意見 (農村部の留守兒童の関心と保護を強化することに関する意見)」, 政府情報公開ホームページ, (2016年2月20日取得, http://www.gov.cn/zhengce/content/1016-2/14/content_5041066.htm).

5 付録

・ 表 1：重要な学術文献

英語部分：

著者/出版時間	調査方法/データ	調査対象/サンプル数	調査地域	変数（社会学に関連する変数のみ）	重要な知見（社会学の関心のみ）
Chen, Dunne & Han (2006)	児童性的虐待スケール (Chen バージョン)	医学専門高校の 12 歳～16 歳の女子生徒 351 人	河南省	従属変数：性的虐待の経験 独立変数：両親の学歴、回答者の兄弟数、居住地域（農村・都市）	・父親の学歴が低いほど、娘が性的虐待を経験するリスクが高くなる。 ・ほかの変数は有意の影響は確認されなかった。
Chan, et al. (2013)	二段階階層抽出法；児童被害調査票 (Juvenile Victimization Questionnaire) 中国語版	中 3～高 3 の 15～17 歳の生徒 11150 人	中国の 6 都市（香港、上海、武漢、天津、西安、深セン）	従属変数：性的虐待の経験 独立変数：生徒の性別、年齢、兄弟数。保護者の婚姻状況、両親の学歴、両親の失業、世帯収入	・男児の性的虐待の発生率 (1.48 倍) は高い。 ・年齢が高い (1.11 倍/歳) ほど、兄弟数が多い (1.30 倍/人) ほど、性的虐待を受けるリスクが高くなる。 ・片親家族では性的虐待の発生率 (2.3 倍) が高い。 ・父親の無職は性的虐待の重要なリスク要因 (1.34 倍) である。 ・それ以外の変数の有意の効果はなかった。
Chen, Dunne & Han (2004)	児童性的虐待スケール (Chen バージョン)	普通高校の高 2 生徒及び技術専門学校の	北京市、河北省、湖北省、河南省	従属変数：性的虐待の経験 独立変数：回答者の性別、両親	・女子生徒の性的虐待の発生率は高い。 ・ほかの変数は有意の影響は確認されなかった。

Ma, et al. (2011)	児童身体的マルトリートメントスケール (CPM scale)	高2～高3生徒 2300人 小学校在学児童の主要な養育者 1394人	山西省運城市	の学歴、回答者の兄弟数、居住地域 (農村・都市) 従属変数：身体的マルトリートメントの状況 独立変数：社会的育児支援、養育者の性別、年齢、学歴、収入、居住地域、家族構造、児童期の虐待経験、子供の年齢、性別、学業表現、問題行動の有無、兄弟数	・農村住民、兄弟のあり、低収入、子どもの悪い学業表現、子どもの問題行動、養育者の低学歴、社会的育児支援の欠如、児童期の身体的虐待の経験、児童期の精神的虐待の経験は、ひどい身体的マルトリートメントの発生のリスク要因と確認された。 ・家族構造、子どもの年齢と性別、養育者の年齢と性別の有意の効果はなかった。
Wong, et al. (2009a)	児童性的虐待スケール (Chen バージョン)	普通高校の中1～高3の生徒 6593人	広州市区	従属変数：身体的マルトリートメントと性的虐待の経験 独立変数：年齢、性別、両親の学歴、居住状況 (持ち家ダミー)	・身体的マルトリートメントの場合、14歳以下の子どもの発生率が15歳以上の子どもより高い (1.5倍)。 ・父親 (1.3倍) または母親 (1.2倍) の学歴は小学卒業以下 (小学卒業を含む) の場合、身体的マルトリートメントの発生率が高い。 ・持ち家の家族は、身体的マルトリートメントの発生率はより低い (0.8倍)。 ・男児の性的虐待の発生率が高い (女児の3.1倍)。 ・父親の学歴は小学卒業以下

Lin, et al. (2011)	児童性的虐待スケール (Chen バージョン)	8~18 歳の農村部児童 683 人	湖北省農村部	従属変数：性的虐待の経験 独立変数：性別、学年、家計状況	(小学卒業を含む) の場合、性的虐待の発生率が高い (4.2 倍)。 ・男児の性的虐待の発生率は高い ・学年と家計状況の有意の影響はみえなかった。
Wong, et al. (2009b)	コンフリクト対策スケール・親子バージョン	普通高校の中 1~中 3 の生徒 6592 人	広州市区	従属変数：身体的虐待の経験 独立変数：年齢、性別、両親の学歴、両親の仕事 (肉体労働者・農民、専門職、商人、サービス業、無職、その他)、家族構成、自分の部屋の有無、居住条件；学校の類型 (省重点、市重点、区重点、私立校)；コミュニティの教育、経済、公共サービスの条件	・個人・学校・コミュニティ 3 レベルのマルチレベル回帰モデル。 ・個人レベルの要因の中で、低年齢、父親の高学歴 (高卒と比べ、大卒の父が身体的虐待をしやすい)、商人である母親、父親と別居または母子家族、自分の部屋のないこと、公共サービスのないことは、身体的虐待のリスク要因として確認された。 ・学校レベルでは、省重点と市重点と比べ、区重点と私立の中学校の生徒の身体的虐待の発生率が高い。 ・コミュニティレベルでは、コミュニティの父親の平均的教育年数が高いほど、身体的虐待の発生率が高い。また、父親の無職比率が高いほど、子どもの身体的虐待の発生率が低くなる。 ・自家用車の保有率、公共サービスの普及率、子どもの自分

Li, et al. (2015)	オリジナル調査票	農村部の小学校在学児童（6～8歳）の主要な養育者及び小中高等学校の生徒（9～17歳）4131人	陝西省の3都市と重慶市の4都市	従属変数：児童ネグレクトの経験 独立変数：児童・生徒の性別、民族、年齢、兄弟数、留守児童（left-behind child）ダミー、長男/長女ダミー、両親の学歴、職種、子どもと一緒に住む時間、家族構造	の部屋の保有率は、身体的虐待の発生率との負の相関性がある。 ・男児、少数民族、父親の低学歴、母親と一緒に住む時間の少なさ、留守児童のネグレクトの発生率が高い。 ・それに対して、拡大家族、一人っ子の子どものネグレクト発生率が低い。 ・女兒の医療的ネグレクトの発生率が高い。9～14歳の児童は、感情的と教育的ネグレクトの発生率が比較的に高い。
Hua, et al. (2014)	SCNUC 調査票	小学校の6～9歳の一人っ子児童の主要な養育者 2044人	江蘇省蘇州市	従属変数：児童ネグレクトの経験 独立変数：子どもの年齢、性別、子どもの身体的健康状況、認知障害、母親の年齢、母親の無職ダミー、両親の学歴、家族構成	・男児の身体的ネグレクトの発生率は比較的に低い。 ・身体的健康状況の悪い子どもは、感情的と教育的ネグレクトの発生率が高い。 ・認知障害の子どもの全ての種類のネグレクト（身体、感情、教育、保護）発生率が高い。 ・母親の年齢が高いほど、教育的ネグレクトの発生率は低くなる。 ・母親が無職の子どもは教育的ネグレクトの発生率が高い。 ・母親の学歴が高いほど、身体的、感情的、教育的ネグレクトの発生率が低くな

る。それに対して、父親の高学歴は、子どもの感情的ネグレクトの発生に対して抑制の効果が確認された。・核家族と比べ、三世代の大家族の身体的ネグレクトの発生率が最も低い。

中国語部分：

著者/出版時間	調査方法/データ	調査対象/サンプル数	調査地域	変数（社会学に関連する変数のみ）	重要な知見（社会学の関心のみ）
喬、その他（2010）	CTQ-SF 調査票中国語版	中等専門学校及び普通高校の生徒 290 人	山東省済南市	従属変数：16 歳まで虐待・ネグレクト経験 独立変数：回答者の性別、両親の学歴、家計状況	・男児の身体的虐待及び感情的、身体的ネグレクトの発生率が高い。・家計状況が貧しいほど、精神的虐待の発生率が高くなる。・父親の学歴が低いほど、性的虐待の発生率が高い。
王・陳（2012）	オリジナル調査票	短大生 1763 人	河北省	従属変数：16 歳まで虐待経験 独立変数：回答者の性別、一人っ子ダミー、両親の学歴、両親の婚姻状況	・男児の身体的、精神的虐待の発生率が高い。女兒の性的虐待発生率が高い。・母親の高学歴及び両親の良い婚姻関係は、児童虐待の発生を抑制する要因である。・一人っ子と非一人っ子の間には、虐待の発生率の差は見えなかった。

趙・李 (2006)	オリジナル調査票	医科大学の大学生 485人	不明	従属変数：16歳まで虐待経験 独立変数：回答者の性別、一人 っ子ダミー、両親の学歴、両親 の婚姻状況、移動の経験（都市 ー農村）	・男児の身体的虐待の発生率が高い。 ・女児の性的虐待発生率が高い。・一 人っ子の性的虐待の発生率が比較的 高い。・母親の低学歴は、精神的虐 待の発生を抑制する要因である。・ 移動の経験（いずれの方向）と虐待経 験の間の関連性は見えなかった。
王・その他 (1994)	オリジナル調査票	住民の0～17歳の 子どもの養育者	山東省済寧市近 郊	従属変数：身体的虐待の経験 独立変数：子どもの性別、年 齢、家族規模、家計状況、夫婦 関係、母親と別居ダミー、両親 の学歴、養育者の虐待経験、継 母/継父ダミー	・男児の虐待発生率が高い。・年齢 が高いほど、虐待の頻度が低くな る。・夫婦関係の悪さ、貧困、子ど もの学業表現の悪さ、父親の児童期 の虐待経験は、児童虐待のリスク要 因である。
孟 (1994a)	オリジナル調査票	住民の0～17歳の 子どもの養育者	山東省済寧市近 郊	従属変数：身体的虐待の強さ 独立変数：子どもの性別、年 齢、家族規模、家計状況、夫婦 関係、母親と別居ダミー、両親 の学歴、養育者の虐待経験、継 母/継父ダミー	・程度の低い身体的虐待の場合、男 児の発生率が女児より高い。それ に対して、ひどい身体的虐待の場 合、男女の差はなくなる。・子ど もの学業表現の悪さ及び両親の 児童期の虐待経験は、虐待のひど さとの間には、正の相関性がある。

陶・その他 (2004)	構造的インタビュー調査	1~14 歳の子どもの 養育者	不明	従属変数：身体的虐待の経験 独立変数：子どもの性別、年齢、一人っ子ダミー、継母/継父ダミー、養父/養母ダミー、養育者の年齢、学歴、家計状況、家族規模	・子どもの年齢の小さいほど、父親の学歴が低いほど、身体的虐待の発生率が高くなる。 ・女兒と一人っ子の虐待の発生率がより低い。
漆・その他 (2015)	SQCA スケール (Screening Questionnaire of Child Abuse)	小学校と中学校の 10~16 歳生徒 5390 人	広西自治区百色 市	従属変数：児童の虐待経験 独立変数：子どもの性別、年齢、兄弟数、留守児童ダミー、居住地域、両親の学歴、両親の無職ダミー、家計状況、父親のアルコール依存ダミー、両親の賭博依存ダミー	・年齢が小さいほど、兄弟数が多いほど、虐待の発生率が高い。 ・留守児童及び農村部の児童は、虐待の発生率が高い。 ・父親のアルコール依存は、虐待のリスク要因である。
鐘・その他 (2015)	中国農村部 12~17 歳中 学生ネグレクト評価ノー ムズ	農村部の中学生 2257 人	陝西省と重慶市	従属変数：児童ネグレクトの経験 独立変数：生徒の性別、学級、家族構造、父親の教育年数、自分の部屋を持つダミー、転居ダミー、家計状況、親の夫婦関係、両親との関係	・性別の効果は見えない。 ・自分の部屋を持ち、前年度転居の歴のない、親の夫婦関係及び親との関係が良かった子どもは、ネグレクトの発生率が低い。 ・父親の学歴が高いほど、家計状況が良いほど、児童ネグレクトの発生率が低い。 ・三世代の拡大家族及び片親家族の児童ネグレクトの発生率が統計的に低い。

楊・その他 (2004)	オリジナル調査票	中学2年の生徒 282人	湖南省	従属変数：生徒の虐待経験 独立変数：子どもの性別と家族構造	・男児の虐待発生率が高い。 ・再婚家庭の虐待発生率が高い。
潘・その他 (2010)	中国都市部小学生ネグレクト評価ノームズ	小学校の6～11歳の児童 4057人	中国全土	従属変数：児童のネグレクト経験 独立変数：子どもの性別、年齢、家族構造	・男児のネグレクトの発生率が高い。 ・片親家族と再婚家族のネグレクト発生率は、核家族と三世代拡大家族より高い

・ 表2：重要な政策文書

名称	実施/発効時間	内容
未成年者保護法	1991年9月4日公布、2006年12月29日改正	第十条の後半：両親または他の親権者は、未成年者を対象とした家庭内暴力、虐待…をしてはいけない。
予防未成年者犯罪法	1999年6月28日公布	第四十一条の前半：両親または他の親権者に遺棄された、虐待された未成年者は、司法機関、社会福祉機関、共産主義青年団、婦女連合会、未成年者保護組織、学校、都市の住民委員会、農村の村民委員会に保護を請求する権利がある。
反家庭暴力法	2015年12月27日公布	第十二条：未成年者の親権者は、文明的な形式で家庭教育を行い、法の規定に合って監護と教育の職責を果たすべきである。家庭内暴力をしてはいけない。

Review of Related Literature

Multidisciplinary Parental Support for the Prevention of Child Maltreatment: Philippines

Abstract

This paper provides a review of the existing literature on child abuse occurring within Filipino families in the Philippines. The findings in this paper will be used for policy making in crafting parental support in the prevention of child abuse in the home. The study specifically narrowed down on child abuse within the family to understand and identify the risk factors that likely contribute to the occurrence of child abuse within the domestic sphere. To understand the dynamics of abuse within the home, it looks at the parenting and child rearing practices, use of external household help in the rearing of the child, migration of one or both parents, and the available support for parents in the rearing of children through NGOs, civic groups, and interest clubs for mothers, and parenting counseling groups, among others.

Keywords: Filipino parenting, Filipino child rearing practices, solo parent and child abuse, Filipino migrant parents and child neglect, child abuse in the Filipino family

Introduction

Child abuse in the Philippines is regulated under Republic Act No. 7610, or the “Special Protection of Children Against Abuse, Exploitation and Discrimination Act”. The involvement of the state in the protection of the welfare of children is stipulated in Section 2: “...The State shall intervene on behalf of the child when the parent, guardian, teacher or person having care or custody of the child fails or is unable to protect the child against abuse, exploitation and discrimination or when such acts against the child are committed by the said parent, guardian, teacher or person having care and custody of the same.”

This informs the family-centric view of the society, and the treatment of the family as the fundamental unit of safety and refuge for all Filipinos. However, this becomes a serious issue when safety is not guaranteed within the domestic sphere, and the child’s welfare is questioned. The Philippine Child Welfare Code of 1974 (Presidential Decree No. 603) highlights the state responsibility to support and aid the parents, who have the natural right and duty to care for their children, and ensure the preparation of the child to become a responsible adult.

The Philippine state defines child abuse as maltreatment in the following forms: psychological and physical abuse, neglect, cruelty, sexual abuse, emotional maltreatment, acts that degrade the intrinsic worth and dignity of the child, unreasonable deprivation of the child’s basic needs for survival, and failure to provide medical treatment to an injured child that could result to serious impairment in growth and development or to death (RA 7610).

In 2010, the total reported number of cases of child abuse in the country is 9,717.¹⁵ The table below shows the trend in the reported number of cases over a ten-year period (1999-2010).

¹⁵ Philippine Statistics Authority, 2010.

Table 1. Cases of violence against children by classification of offenses (1999-2010)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
Rape	2348	2354	2275	2732	3107	3099	2371	1699	2501	2981	3040	3040
Incestuous rape	284	949	970	430	290	229	191	193	243	229	211	211
Attempted rape	210	303	271	321	293	244	209	118	213	221	251	251
Acts of lasciviousness	786	1181	1312	1154	1090	1058	752	591	702	876	918	918
Physical injuries/maltreatment	1225	1973	2274	2079	1947	1893	1019	928	1150	1450	2388	2388
Abduction/kidnapping	145	348	226	186	78	110	51	19	26	17	37	37
OFCA - Child trafficking	0	17	42	47	15	18	30	38	60	70	0	0
OFCA - Child labor	67	55	49	84	48	22	8	4	6	1	6	6
OFCA - Child prostitution	29	0	52	35	41	37	6	11	15	13	12	12
OFCA - RA 9262	0	0	0	0	0	0	39	43	36	52	60	60
OFCA - Other forms of child abuse	1066	1269	796	650	135	517	481	612	1064	2048	2040	2040
ORC - Parricide	0	4	20	17	5	12	19	5	8	6	24	24
ORC - Neglect/abandonment	48	110	144	57	35	34	28	11	17	7	5	5
ORC - Sexual harrassment	0	0	16	29	13	23	7	9	23	31	42	42
ORC - Inducing a minor to abandon home	0	0	13	8	12	12	4	3	2	2	3	3
ORC - Seduction	0	22	61	111	84	99	47	49	58	72	67	67
ORC - Murder	27	38	55	45	29	37	22	28	59	61	47	47
ORC - Double murder	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	2	2
ORC - Attempted murder	0	0	0	19	16	20	10	22	23	38	79	79
ORC - Abduction	-	-	-	-	-	-	35	40	113	96	108	108
ORC - Homicide	0	6	63	49	21	36	25	23	55	80	119	119
ORC - Abortion	0	0	0	7	2	2	4	6	0	1	3	3
ORC - Simple seduction	0	0	0	9	3	3	7	8	4	6	33	33
ORC - Unjust vexation	0	0	0	0	22	39	16	23	48	65	81	81
ORC - Theft	0	0	0	2	5	10	15	20	35	112	115	115
ORC - Others	-	-	-	-	-	-	-	-	83	17	26	26
TOTAL	6235	8629	8639	8071	7291	7554	5396	4503	6549	8553	9717	9717

Source: National Statistical Coordination Board (2010)

I. Child abuse within the Filipino family

Understanding child abuse in general involves looking at the confluence of factors from the family, community, and social levels. This study specifically focuses on the occurrence of child abuse in the home, and looked at the nature of parent-child relations in the Philippines, as well as current parenting practices that might potentially inculcate an abusive treatment of the child in the home. The following section discusses the cultural and social context of the family in the Philippines.

A. Parenting practices in the Philippines

The family is the basic unit of society. It is the fundamental block where values and cultural orientation are inculcated. It is a very powerful tool in propagating a set of norms and ideals. Oftentimes, a family's makeup and patterns of communication heavily reflects a set of cultural paradigms prevalent in a societal structure. Face negotiation theory classifies the Philippines as a collectivist, high power high distance society. This implies that the concept of harmonious interaction, deference to parental authority and respect for the elderly are highly valued and encouraged. These characteristics greatly affect and influence familial interactions and gives context why certain parenting and communication styles are preferred over others. Values, experiences, adaptation, practices and the unique history of the Philippines serves as a backdrop that contextualizes certain practices, beliefs, goals and attitudes that shapes parents child-rearing behavior and practices. Concepts of traditional Filipino values of *kapwa*, which means "other" or "fellow-being"¹⁶, *hiya*, which can be translated to one's face or sense of propriety or sense of shame, and *utang na loob*, what Alampay calls literally, "debt of one's being" (108) are factors that largely influence familial interaction (Alampay 2014).

Article II, Section 12 of the Philippine Constitution recognizes the centrality of the family to the Filipino nation. According to its' mandate the state in recognition of the sanctity of family life the state "shall protect and strengthen the family as a basic autonomous social institution". Article XV, Section 1 highlights the family as the foundation of a nation and it's thrust for the family's total development. Article 150 of the family code delineates what constitutes as a family: relationship between husband and wives, parents and children, and among siblings regardless if of full or half blood. This also articulates the importance of marriage in the formation of the family.

According to Jocano, "family is the center of the (Filipino) universe" (1998, 11). Having strong family ties is an important component that helps make up the Filipino identity (Medina 2010). Filipino families are often characterized as large in number (may include extended family members living together), they have close family ties (manifested through reciprocity), are family-centered, and child centric (Medina 2001; Miralao 1994). Concern for family is considered a primary motivating factor in interaction. Family members are respected and favored, with each family unit regarded as of primary importance (Morillo et al. 2013, 6). This basic kinship structure also manifests itself in interaction with others outside of the family through kinship calling. Strangers are often attributed familial names during interaction to help smoothen interaction. Depending on the relative age of the interactants, strangers may be called *anak* (child), *manang* or *ate* (older sister), *kuya* (older brother), *tita* (aunt), *nanay* (mother) or *tatang* (father). Close friends can also be a member of the extended family via ceremonies solidifying relationships such as Christening and designation of as *ninong* and *ninang* (godfather and godmother) (Morillo et. al. 2013, 7).

¹⁶ Contrary to framework previously espoused through studies with colonial perspective: SIP or smooth interpersonal communication, which was largely rejected by indigenous Filipino psychologists (p. 109, Alampay, 2014).

1. Parenting Style

Filipino parental strategies lean towards authoritarianism, in contrast to progressive strategies that encourage a more independent, democratic nature, this parenting strategy employ strictness, adherence to elders with emphasis to obedience, and respect for authority (Alampay and Jocson 2011; Alampay 2014; Bornstein et al. 2011). Other studies however, point to a shift from authoritarian styles observed during the Spanish era to a permissive parenting style (Paco 2006). A study conducted by Lanzarotte et. al on child rearing practices in the countryside of the Philippines where 325 households¹⁷ were surveyed showed that permissive parenting style were prevalent with only one in one hundred (100) preferring authoritarian or permissive-authoritarian parenting style. Of all the respondents, only three (0.92 %) expressed preference for the authoritative style, where children are viewed as equal members of the family and as such expectations are verbalized and set high, rules and limitations are clearly delineated and performance are monitored and children are given praise when due (49). Variations were also observed as influenced by certain beliefs and values held by parents. Resulting data also pointed out the lack of total adherence to a standard parenting style. Some parents may exercise the same style but there are other cases where parents mix different styles depending on certain factors—a mother may employ authoritarian strategies while the father is permissive or vice versa. In conclusion, the study's result pointed at personal influence by the family as the dominant factor that affects child rearing. This is followed by norms dictated by society, and lastly, religious beliefs (Lanzarotte et.al. 2013, 54).

More recently, the family dynamics and structure are changing due to changes brought about by migration of family member(s) for work abroad (Morillo et.al. 2013, 3). Morillo et. al. in their study of survey datasets for 1996 and 2001 point to an indication of change in the Filipino family values that diverge from traditional beliefs. Although resulting data point to the centrality of the presence of both parents in child rearing as the most shared value across the group, there are temporal shifts seen with regards to views on single parenthood and the concept of marriage as an outdated institution. There are also divergent answers to previous questions indicating a shift in the views of women's need to bear children. Factors that were found to be significant sources of variations are educational attainment, gender, income class, location (urban or rural), ethnicity and religion (2013, 25). The study also notes that these trends in the changes of family values and vies are directly correlated by a tangible economic need of the family that results in a growing increase in the number of migrant workers. The shared belief that both parents presence is imperative in the rearing of children is undermined by the economic drive for one of them to work abroad (24).

Parr, on her exploratory study on the relationship of family size and a child's development pointed to the direct effect of a family's size on a child's level of development in a low-income family setting. The data also indicated that is effect is independent of parental behavior. The data supports her assumption that a larger family implies more competition for parental time and resources, and thus is negatively correlated with a child's development (Parr 2009)¹⁸.

Alampay and Jocson's study, "Attributions and Attitudes of Mothers and Fathers in the Philippines"

¹⁷ The study was conducted in Catbalogan, in two barangays in the countryside where the respondents have an average family income below the poverty threshold (1000-5000 php per month). The average number of children for the two barangays surveyed is 4.

¹⁸ Sample consisted of 60 parents or primary caregivers from a low-income community in Quezon City. Half had 1-3 children while the other half had 4 or more. The Early Childhood Care and Development Checklist (ECCD) was used for developmental assessment.

(2011) on the other hand, aimed at showing an empirical examination of Filipino parenting cognitions and how these affect parental attributions and attitudes. Results showed that mothers showed higher levels of modernity than fathers.

In summary below are factors that affect parenting styles in the Philippines as gleaned through the above literature.

2. Size of Family

Studies show that there is a direct correlation between a child's development and the size of the family. When there is less number of children in the family, parents have adequate time to rear children properly and satisfy their developmental needs. The higher the number of children in the family, the less these needs are met, thus the development of are thus delayed.

Marriage in the Filipino culture is considered not only the creation of the nuclear family, but a union or an alliance of two families and their kin. When a person marries into the family, they also acquire their spouse's kin group. Good relationship is maintained with both the wife and the husband's relatives. This includes those of consanguineal, affinal and ritual relatives (p. 245, Go, 1993).

3. Parental background

Studies show that educational attainment, gender, religion, social class and the parent's own experience on how they were brought up by their own parents have an impact on what parenting styles they may use. Females tended to accept modern approaches compared to fathers, and this tendency increase as educational attainment increases. Religion also somewhat influences parenting practices as the values espoused in the parent's religious affiliation is passed on to the children, making their tenets guides on how children are to be raised.

A mother and father's role in the family still tend to be in line with the traditional gender differentiation of male and female roles in the family, although the recent feminization of migration and other factors may lead to changes in these aspects of familial interaction. Despite the shared value of having both present to take care of children, socio-economic pressure that results in worker migration of one of the parent resulting in the absence of one of the parents. Recent trends are seeing more and more mothers venture out as migrant workers but at the same time, through technology, still continue their parenting roles over long distances.

Parents' personalities also influence preferred parenting style. Studies show that a mother-father pair may employ different parenting strategies, one may be an authoritarian while the other is permissive, and at times they adapt their parenting style to suit certain circumstances.

4. Cultural context

Indigenous concepts of the self (*utang na loob, hiya, kapwa*) and preferred communication strategies affect family dynamics. The importance of obedience and respect for elders play a crucial role in the discipline dynamics of parent and child. Children are more readily accepting of imposed familial obligations such as deference and obedience to parents and elders in the family, fulfilling familial duties, listening to advice, and upholding family values and facework in the form of *hiya*. Disobedience and lack of respect is an offense deemed to incur discipline that may range from verbal to corporal punishment. Disobedience to parents is also normally frowned upon and discouraged by the society in general.

5. Socio-economic status

Certain economic conditions allow for the proliferation of child labor especially in the below poverty threshold communities. Despite this, working mothers was not viewed as negative as long as parental obligations of the mothers to their families are fulfilled (Tajarroja 2010). In instances where mothers worked abroad, children displayed resilience in helping the fathers cope with responsibilities left by the mother until the whole family is able to adjust to the absence of one of the mothers (Carandang in Tajarroja 2010, 180). Despite the emotional cost, the economic boost in the family finances experienced by mothers working abroad are oftentimes deemed by the parents as a better tradeoff. But these as Tajarroja pointed out were sentiments that were not likely shared by the children, especially since expectations of a breadwinner's role in the family is designated to the father (184).

6. Discipline and obedience

The concept of *utang na loob* plays an important part on the expectation of children's obedience to parents. The debt owed to parents who have reared children are expected to be acknowledged. Parents are treated with gratitude and given obedience in repayment of their sacrifices to bring up the children. They are also required to fulfill familial obligations and uphold the family honor through their actions outside the family. The collectivist nature also implies that behavior of children reflect directly on the family's reputation and the parent's facework or reputation or dignity (*hiya*). Frequent disciplinary action implemented by parents when a child acts up is a reminder to mind their parent's reputation or *hiya* (Alampay & Jocson 2012). Thus, the youth themselves place a high value on familism, where endorsement of parental authority and their influence on one's decision making is considered a normative experience (Darling, Cumsille & Peña-Alampay 2005).

According to Gershoff et. al. on their study on discipline practices across countries including the Philippines, while the rate in child-reported symptoms of aggression were not different for boys and girls, mothers tend to rate their male children as more aggressive than mothers of girls. Their dataset also shows that the more often mothers use corporal punishment the more aggressive they reported their children's behavior. The mothers rating for their children's aggression were also significantly related to the frequency by which the mother yells or scolds their children (2010).

7. Extended family and *yaya* as caretakers

The Filipino family is built up of a highly reciprocal bilateral kinship system (Go 1992). The nuclear family has an extended function. Parents are taken care of by their children during old age, integrating them in their child's current family. The extended family helps in child rearing of new parents when required. Giving aid and support for other family members are normative behavior, and members of the extended family, which can include non-blood relatives, make an effort to keep in touch and keep the ties alive when separated, fostering strong relationships despite distance.

Family members especially the females in the extended family can be looked up as a source of support for childcare. Family with both parents can count on the extended family's support on helping look after the children during their work hours.

II. Social conditions that contribute to the increased occurrence of child abuse in the family

The Filipino view towards children as "*walang malay* (incognizant), *walang muwang sa buhay* (naive), *alanganin* (uncertain), and incapable of self repair and regeneration" perpetuates the idea of their vulnerability and helplessness. However, Bautista, Roldan and Garces-Bacsal (2001) use the lens of

resilience in viewing the abused child's ability to cope in the midst of a negative experience. Their study highlights the traits and characteristics of resilience in a child in the face of an abuse and abusive environment. The goal of the study is to provide program recommendations for social and child care workers in the development of interventions and programs that "encourage the development of these identified traits" and assist in identifying specific child needs and proper support (115).

Resilience as a lens to understand the child's agency in situations of abuse is also used by Protacio, et al (2001).¹⁹ The study viewed children as not necessarily vulnerable and helpless, but recognizes that "children have multiple capacities and competencies that they utilize in the face of overwhelming odds" (148). They found that notions of abuse were shaped within social relationships between children and adults governed by environmental and social constructions.

Important findings include abuse as "constructed as a betrayal of trust on the one hand and a witting or unwitting disregard of children's rights on the other" (149). Hence, child abuse may emanate in relationships not only based on trust, but also where power and authority comes into play. The relationship between children and parents in the Filipino family is based on trust and authority, and child abuse in families may be more difficult to address. While it may be easy to generalize that Filipino culture condones an abusive environment, the study suggests the use of the concept of "*kapwa-tao*" which suggests children to be treated with respect; and strengthen the cultural notion that children are "blessings from God". Finally, the study found that difficulty encountered in combating child abuse in the family is due to the unreliable mechanisms and institutions involved in the reporting process. The loss of trust in the structures and agencies hinder the proper reporting and acknowledgment of child abuses in families.

Yangco (2005) cites the global and technological changes as creating new pressures on the family that affect the children and increasing their vulnerability. These changes include the "fast pace of living, rapid technological development, urban migration and congestion, and increased participation of women in the labour force" (97).²⁰

A. Poverty

In the Philippines, the primary cause of child abuse is poverty. It results to the child's inability to receive the proper nutrition, education, and health services to enable him/her to grow to his/her full potential. The Global Study on Child Poverty (2009) reported that in the Philippines, 7 out of 10 poor children are from the rural areas. National data on poverty among Filipino children in 2009 show that about 13.4 million children below 18 years old are income poor (UNICEF 2015). In 2006, the national data on poverty in the entire Philippine population is 32.9% (PIDS 2010).

The Philippine government's primary anti-poverty program is the *Pantawid Pamilyang Pilipino Program* (4Ps) or the Conditional Cash Transfer (CCT). Launched in 2007, it identified beneficiary households with pregnant mothers and children aged 0-14 to receive monthly the amount of Php500 for health and nutrition expenses and Php300 for education for each schooling child. The longterm goals of the program is to break the intergenerational poverty cycle by ensuring access to education

¹⁹ Protacio, Elizabeth, Ma. Teresa dela Cruz, Faye Balanon, Jay Yacat, and Carolina Francisco. 2001. *Trust and power: Child abuse in the eyes of the child and the parent*. Quezon City: UP CIDS.

²⁰ Yangco, Celia (2005). "A comprehensive approach to prevention of child maltreatment in the Philippines: Building partnerships among agencies, organizations and the community," Visiting Experts' Papers in the 13th International Training Course, UNAFEI. Accessed 08 March 2016. URL: http://www.unafei.or.jp/english/pdf/RS_No69/No69_13VE_Yangco.pdf

and health care for the children of the poorest families in the country (CWC 2010).

While child abuse is commonly correlated with poverty as the root of the problem, it could also be a tool to reduce poverty and contribute to national growth (Save the Children 2011). The situational analysis of child protection in the Philippines published by Save the Children in 2011 highlights that ensuring “social protection for children increases the likelihood of breaking the intergenerational transmission of poverty” (4).

B. Single parent household

In 2008, the Philippine National Statistics Office reported that at least 666,000 (38%) of the 1.8 million babies born in the country in the same year had unmarried mothers, representing a 12% increase from the previous year.²¹ The Philippine government’s recognition of the increasing numbers of single parent households in the country has led to the passing of the legislative act on single parents in 2000. The act provides financial and social support through flexible working hours, additional parental leaves, tax exemptions, health benefits through national medical insurance, discounts on food and medicines, scholarship support for their dependents through the programs offered by the Philippine Technical Education and Skills Development Authority, among others.

In the data collected by the Philippine Statistics Authority on child labor in 2007, 829,200 Filipino children aged 5-14 are engaged in both paid and unpaid work. This is about 16.2% of the total number of children aged 5-14 in the Philippines during that year. Of this number, only 23,380 (2.8%) are engaged in paid work outside of the household, 54% are male and 46% are female, both aged 5-14 years. 53.8% are from households whose head has reached elementary level, 28% have household levels who have reached secondary school level, while 6.4% have households who have not completed any grade at all.²²

C. Migration of one or both parents

Asis’ (2006)²³ study on the experiences of left-behind children of migrant parents found that migration allows for children’s agency and independence despite the emotional distancing and displacement that occurs when one or both parents migrate. The study is based on a nationwide study in 2003 that explored how left-behind children, aged 10-12 and adolescents coped with the absence of one or both parents in the household, what roles they undertook in the absence of one or both parents, and how they reconfigure family activities.

Other studies (Parreñas 2003; Battistela and Conaco 1998) have looked at how children of Filipino migrant parents fared in the absence of a parent or parents in the home, especially in relation to specific growth experiences such as nutritional development (Graham and Jordan 2013), and school performance (Asis and Ruiz-Marave 2013), among others.

Asis and Ruiz-Marave (2013) do not support the perception that “parental absence due to migration

²¹ “Single moms in double bind” Published online on 01 May 2015 in Philippine Daily Inquirer. URL: <http://opinion.inquirer.net/84563/single-moms-in-double-bind>

²² Data taken from the 2007 SR-MICS, published by the Philippine National Statistical Coordination Board (NSCB).

²³ Asis, Maruja (2006). “Living with migration: Experiences of left-behind children in the Philippines,” *Asian Population Studies* 2:1, 45-67, DOI: 10.1080/17441730600700556

can negatively affect school performance” (349). The study found that “positive school outcomes are best associated with a migrant-carer arrangement where fathers work abroad and mothers stay home as carers” (350).

Although the relation between the migration of parents and increased abuse of children left-behind is not clearly established, the lack of a parental figure and carer in the household could increase the vulnerability of a child towards negligence and abuse by other adults. However, the presence of alternative guardians or carers such as the grandmother, external household help or *yaya* or other kin may provide other forms of social support, as is mostly the case in transnational Filipino households.

The increasing participation of women in migration also significantly changes family making dynamics in the country. When mothers, who are traditionally expected to provide care for the children, leaves the family to work abroad, a care gap is formed that leaves the children more vulnerable to neglect. Asis (2006) in Graham and Yeoh (2013) states that the migration of Filipino *mothers* has increased worries that left-behind children become more “spendthrift, delinquent, addicted to drugs, and emotionally scarred” (300).

III. Available social support for the prevention of child abuse and maltreatment in the Philippines

The Department of Social Welfare and Development is the primary agency that spearheads the protection of children’s welfare and is directly involved in the child abuse programs which covers the prevention, early detection, recovery and after care of abused children in the Philippines.

1. National legislations and programs on the prevention of child abuse

Table 2. National legislative acts on child abuse in the Philippines

YEAR	REPUBLIC ACT (RA)	DESCRIPTION
2003	RA No. 9262	“Anti-Violence Against Women Act.” An act defining violence against women and their children, providing for protective measures for victims, prescribing penalties.
2003	RA No. 9208	“Anti-Trafficking in Persons Act”. An act to institute policies to eliminate trafficking in persons especially women and children, establishing the necessary institutional mechanism for the protection and support of trafficked persons, providing penalties for its violations.”
2000	RA No. 8980	“Early Childhood Care and Development (ECCD) Act.” An act promulgating a comprehensive policy and a national system for early childhood care and development.”
1992	RA No. 7610	“Special Protection of Children Against Abuse, Exploitation and Discrimination Act.” An act providing for stronger deterrence and special protection against child abuse, exploitation and discrimination.
2000	RA No. 8972	“Solo Parents’ Welfare Act.” An act providing for benefits and privileges to solo parents and their children, appropriating funds.”
1974	PD No. 603	Presidential Decree no. 63, otherwise known as “The Child and Youth Welfare Code”
2013	RA No. 10410	“Early Years Act (EYA) of 2013” An act recognizing the age from 0 to 8 years as the first crucial stage of educational development and strengthening the early childhood care and development system.”
1990	RA No. 6972	“Barangay-level Total Development and Protection of Children

Act." An act establishing a day care center at every barangay, instituting therein a total development and protection of children.

The Solo Parents' Welfare Act of 2000 (RA No. 8972) recognizes the changing dynamics of family making in the country and provides for the financial and social support needed by single parents in raising their children. The act provides medical, counseling, housing, and employment support to solo parents, or parent who has the sole responsibility of raising his/her child/ren under the following circumstances: death of spouse, legal separation, annulment, abandonment, mental or physical incapacity of spouse to care for children, or unmarried mother or father who decides to keep and rear his/her child/ren.

For a list of the national programs that prevent child abuse in the country, as well as non-government institutions (NGOs) that provide support, protection and care to abused children, please refer to the appendix.

References

Alampay, Liane Peña, and Rosanne M. Jocson. (2011). "Attributions and Attitudes of Mothers and Fathers in the Philippines." *Parenting: Science and Practice* 11, no. 2(3): 163-176.

Asis, Maruja, and Cecilia Ruiz-Marave. (2013). "Leaving a legacy: Parental migration and school outcomes among young children in the Philippines." *Asian and Pacific Migration Journal* 22(3): 349-376.

Arugaan - Manila, Philippines. Accessed 03 March 2016. URL: <http://www.waba.org.my/whatwedo/old-womenandwork/seedgrants/arugaan.htm>

Bautista, Violeta, Aurorita Roldan, and Myra Garces-Bacsal. 2001. *Working with Abused Children: From the lenses of resilience and contextualization*. Quezon City: UP CIDS PST and Save the Children, Sweden.

Bornstein, M, D Putnick, and J Lansford. (2011). "Parenting Attitudes and Attributions in Cross Cultural Perspective." *Parenting: Science and Practice* 11, no. 2(3): 214-237.

Cheah, M. Bornstein. (2006). "The Place of "Culture and Parenting" in the Ecological Contextual Perspective on Developmental Science." In *Parenting Beliefs, Behaviors, and Parent-Child Relations: A Cross-Cultural Perspective*, edited by K Rubin and O.B. Chung, 3-33. New York : Psychology Press.

Council on the Welfare of Children. (2010). *State of the Filipino Children Report*. Quezon City: CWC.

Darling, N, P Cumsille, and L Peña-Alampay. (2005). "Rules, legitimacy of parental authority, and obligation to obey in Chile, the Philippines, and the United States." In *Changing Boundaries of Parental Authority During Adolescence*, edited by J Smetana, 47-60. San Francisco: Jossey-Bass.

Gershoff, Elizabeth T., et al. (2010). "Parent Discipline Practices in an International Sample: Associations With Child Behaviors and Moderation by Perceived Normativeness." *Child Development* (Child Development) 81, no. 2 (March/April 2010): 487-502.

Go, Stella P. (1992). "The Filipino Family in the Eighties." In *The Changing Families in Asia: Bangladesh, India, Japan, Philippines and Thailand*, 239-334. Bangkok: UNESCO Principal Regional Office for Asia and the Pacific.

Graham, Elspeth, and Brenda Yeoh. (2013). "Introduction: Child health and migrant parents in Southeast Asia: Risk and resilience among primary school-aged children." *Asian and Pacific Migration Journal* 22 (3): 297-314.

Hannah M. Morillo, Joseph J. Capuno and Amado M. Mendoza, Jr. (2013). "Views and Values on Family among Filipinos: An Empirical Exploration." *Asian Journal of Social Science* 41: 5-28.

Jocano, F Landa. (1998). *Filipino Social Organization: Traditional Kinship and Family Organization*. Quezon City: Punlad Research House.

Jocson, L.P. Alampay and M.R. (2011). "Attributions and Attitudes of Mothers and Fathers in the Philippines." *Parenting: Science and Practices* 11, no. 2(3): 163-176.

Lanzarrote, Marlyn G., Sherrie Ann C. Labid, Abegail Cabaguing, Elmer Irene, and Jocelyn Macapanas. (2013). "Child Rearing Practices Among Families in Countryside Philippines." *Countryside Development Research Journal* 1.

Medina, Belen T.G. (2001). *The Filipino Family*. Quezon City: University of the Philippine Press.

Miralao, V. (1997). "The Family, Traditional Values and the Sociocultural Transformation of Philippine Society." *Philippine Sociological Review* 45(1-4): 189-215.

Philippine Council for NGO Certification. Accessed March 2, 2016. URL: [ABS-CBN Lingkod Kapamilya Foundation, Inc. http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=1931](http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=1931)

Yacat, Jay. (2011). *Child protection in the Philippines: A situational analysis*. Save the Children Protection Initiative in Southeast Asia and the Pacific: Bangkok.

Yangco, Cecilia. (2005). "Comprehensive approach to prevention of child maltreatment in the Philippines." Resource material series No. 69, visiting experts' papers in the UNAFEI 130th International Training Course.

—. *Alouette Foundation of the Philippines, Inc.* Accessed March 3, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3266>

—. *Child and Family Service Philippines, Inc.* Accessed March 1, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=1989>

—. *Child Protection Network Foundation, Inc.* Accessed March 2, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3120>

—. *Children International (Manila) Inc. (Formerly Abot-Kamay, Inc.)*. Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3271>

—. *Children International (Manila) Inc. (Formerly Abot-Kamay, Inc.)*. Accessed March 2, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3271>

—. *Childrens Hour Philippines, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=1993>

—. *Concordia Children's Services, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3255>

—. *Cribs Foundation, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=2022>

—. *Dynamic Teen Company - Making A Difference, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3231>

—. *Dynamic Teen Company - Making A Difference, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3231>

—. *Fr. Al's Children Foundation, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=2076>

—. *Guanella Center, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3298>

—. *Halad Uma Alang sa Nasud (HAUMAN) Association, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3201>

—. *San Antonio Formation and Enhancement Center, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3285>

—. *SOS Children's Villages, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=2694>

—. *Tulay Ng Kabataan Foundation, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=3264>

—. *Union Church of Manila Philippines Foundation, Inc.* Accessed March 4, 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=2739>

—. *World Vision Development Foundation, Inc.* Accessed March 2016. URL: <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=2762>

APPENDIXES

Initiatives geared towards Childcare, Child Rearing, and Child Protection

⑥ A. National legislations on child protection and prevention of child abuse

1. Presidential Decree No. 1567, s. 1978²⁴

This decree recognizes that children from 0-6 years old are the most vulnerable to malnutrition and delay in social and mental development if not properly taken care of. This law requires the creation of a daycare center in every barangay with at least 100 family heads as residents. These centers shall provide feeding programs for those in need as well as provide social and mental developmental programs for children ages 2-5 with parents that are not able to provide these for them.

2. RA 6972 Barangay-Level Total Development and Protection of Children Act²⁵

This provision promulgates the establishment of Daycare Centers on all the barangays. These daycare centers will serve as institutions that provide health services to children up to 6 years old. This includes immunizations, growth and nutritional supervision and monitoring, care for children of working mothers during the day, materials for foster parents on child rearing and child development, referral and support system for pregnant mothers, including prenatal care, check up, and in appropriate cases, child delivery.

The center also provides protection to abused, abandoned and neglected children. In the case where a child needs to be removed in their present environment for safety reasons, the local barangay officers will liaise with the Centers to facilitate rescue and rehabilitation. They will also disseminate

²⁴ Presidential Decree No. 8972, (June, 11, 1978), GOVPH Official Gazette.

²⁵ Barangay-Level Total Development and Protection of Children, RA 8972, H.NO. 882, S. NO. 801 (November, 23, 1990), GOVPH Official Gazette.

information on the risks and health issues of illegal abortion and be alert against incompetent or untrained hilot (traditional healers), giving them appropriate up to date training on normal delivery and recognizing high risk pregnancies. Upon recognition, these cases should be referred to doctors who are able to administer appropriate medical care for the mother and the baby.

3. RA 7600 Rooming in and Breastfeeding Act of 1992²⁶

In an initiative to protect, encourage and support breastfeeding, the immediate rooming in of newborn infants are adopted as a national policy. The Unang Yakap (first embrace) is a protocol where in the absence of complications, infants are placed on the mother's breast to facilitate bonding and encourage breastfeeding. For spontaneous delivery, the law requires the infant to be put to the breast within thirty minutes of delivery, and three to four hours for caesarian delivery and immediately roomed in thereafter. Recognizing the advantage of breastfeeding for infants and mothers, and its role in immediate health care for infants, this provision seeks to help encourage the mother and hospitals to adopt breastfeeding. The mother has the right to breastfeed, vice versa the infant has the right to her breastmilk. The use of formula and milk bottles will only be allowed after a health practitioner has advised and taught the mother techniques on breastfeeding and their benefits. Written consent of the mother shall be required before adopting formula feeding for her infant.

The Department of Health will also conduct training on medical staff and personnel on current and updated lactation management. Incentives shall also be awarded to hospitals in compliance to the provision, while sanctions can be given upon violation of the Act in the form of reprimand or censure, and in cases of repeat offense, a suspension of the permit to operate of the facility. Breastfeeding programs aimed at pregnant mothers shall also be conducted in order to disseminate information and proper practices on breastfeeding.

4. RA 8972 or the Solo Parent's Welfare Act of 2000²⁷

This law seeks to address and provide basic needs and privileges to solo parents and children with the DSWD (Department of Social Welfare and Development) as the lead government agency. Eligible for this program are unmarried male or female parents who have decided to keep and raise their child or children, including women who gave birth as a result of crimes against chastity regardless of conviction. Parents who were left solo by certain circumstances (death of spouse, detainment due to criminal conviction, physical or mental incapacity, divorce, annulment by a court or church), an individual who solely assumed responsibility of rearing a child or children as well as a family member that assumes the responsibility of the head of the family due to death, abandonment, disappearance or prolonged absence of a parent are also covered in this provision.

Through DSWD's collaboration with other government agencies, solo parents are provided critical support such as counseling services, livelihood development, parent effectiveness services (seminars on behavior management, child development, rights and duties), in cases where needed they provide critical stress debriefing for cases aimed at helping parents cope during crisis and cases of abuse. There are also special projects for those in need of protection (including temporary shelter, medical care, legal assistance, crisis management etc.) Financial aid, health services, and educational assistance can also be availed by a solo parent whose income falls below the poverty

²⁶ Rooming in and Breastfeeding Act of 1992, RA 7600, S. NO 13. (June, 2, 1992), GOVPH Official Gazette.

²⁷ Solo Parents' Welfare Act of 2000, RA 8972, S. NO. 1404 (July, 24, 2000), GOVPH Official Gazette.

threshold, they are also able to avail of more flexible housing loans on government low-cost housing projects with liberal terms of payment.

Work related benefits are also added for solo parents such as, flexible work schedule, and added parental leave.

5. RA 10028 Expanded Breastfeeding Promotion Act of 2009²⁸

This provision gives more teeth to the implementation of breastfeeding practices in health institutions and public spaces through enhanced incentives (tax deductibles upon compliance and upon obtaining a “working mother-baby-friendly” certificate) and more stringent rules on implementation (designation of DOH as the implementing agency), and stricter regulation on formula milk marketing strategies (sanctions of 50,000 – 200,000 php on the first offense and up to more than 1,000,000,000 PHP and cancellation or revocation of business permits or license to operate on the third offense). Officials and employees who violate this act also incur penalties (first offense – reprimand, second offense – suspension for one to thirty days, third offense – dismissal). It also provides better support for women in the workplace, aiming to provide safe and healthful working conditions that are mindful of their maternal function.

Nursing mothers are provided with extra (paid) lactation break on top of their regular break in order to breastfeed or express milk. The interval of which shall not be less than 40 minutes for every eight hour working period.

Health institutions are required to provide facilities, equipment and supplies for breastmilk collection, storage and utilization as per the standards of DOH. They are also encouraged to set up milk banks for breastmilk storage donated by mothers, which will be primarily given to children in the neonatal intensive care unit with seriously ill mothers.

All establishments, including non-health facilities are now required to establish lactation stations that are not located in the toilet, with adequate facilities as mandated by the DOH (easily accessible lavatory for handwashing, cooling storage for breastmilk, electrical outlet for breastpump, table and comfortable chairs). All health and non health establishments are also prevented from allowing any direct or indirect method of promotion, marketing or sale of infant formula and other breastmilk substitutes (i.e. wall displays with milk advertisement, handing out infant formula samples) in lactation stations, events or any circumstances which are conducive to the same.

Breastfeeding is also integrated in the education curriculum in relevant subjects in elementary, high school and college levels, highlighting the medical importance, methods and benefits of breastfeeding to the mother and the child. August is also designated as the breastfeeding awareness month, coupled with a public educational and awareness program that seeks to inform and educate the public on breastfeeding and ensuring the rights of the mother and the baby to breastfeed is fully enforced. This includes regulating marketing of certain foods and feeding bottles, teats and pacifiers, formula to ensure that benefits and superiority of breastmilk and the high risks and cost of bottle feeding is highlighted.

As a form of incentive, institutions and establishments that are able to comply with this provision upon accreditation can be awarded a “mother and baby friendly” certificate. The government

²⁸ Expanded Breastfeeding Promotion Act of 2009, RA 10028, S. NO. 3, (July 2, 2009), GOVPH Official Gazette.

shall also compile a list of mother-baby-friendly establishment for the public.

6. RA 10410 or the Early Years Act (EYA) of 2013²⁹

This law recognizes that the ages 0-8 are critical stages for educational development and the strengthening of childcare. This provision aims to promote the rights of children to survive through enhanced programs aimed at helping arm parents and primary caregivers with services they can avail to improve health and development of children. This also includes providing assistance to children with special needs, enabling them to have access to special education programs and training for parents on how to deal with such disabilities. This includes nutritional programs available for mothers through prenatal care and assistance during the early childhood years.

This comprehensive program is called the Early Childhood Care Development. Services include enhancement of the daycare services established and home based programs (home visit programs, family child care program etc.) under RA 6972 (Barangay – Level Total Development and Protection of Children Act). Other local government units are also tapped in to the creation and implementation of training programs for health workers, parents, and the community on child-care and development.

B. NGO and Online Groups

Breastfeeding Counselors and Parenting Groups in the Philippines:

The below comprehensive list was provided by the Breastfeeding Pinay Online group repository of available breastfeeding contacts and counselors in the Philippines. While descriptions of online parenting support groups and NGO's were sourced from their online websites and used with permission.

Arugaan

According to Ines Fernandez, arugaan is a “deeply rooted Filipino word” that means to fully nurture with lifetime commitment, and this is what their organization is committed to do: helping moms by partnering with them during pregnancy, birthing, breastfeeding and feeding with indigenous food (par 5, Serafica, 2015). They are a group of highly trained professionals that specializes in breastfeeding counseling. Their organization has trained more than 4,000 breastfeeding counselors in over 20 cities. They are a mobile counseling service and support for infant nutrition, and breastfeeding that tackles even the most difficult circumstances (relactation). They advocate for mother-baby friendly alternatives and have setup daycare (Arugaan Toddler Center) and wen nurse facilities for working and breastfeeding mothers. They also have a community-based mother support arm that specializes in lactation massage and breastfeeding counseling through home and hospital visits.

Bosom Buddies

This group provides relactation support and counseling for breastfeeding problems. They provide breastfeeding guide, advice, coaching and support.

Breastfeeding Philippines

They provide free online classes on childbirth and parenting. They provide counseling through home or hospital visits and specializes in massage for pregnant and breastfeeding mothers. They also provide training aimed at fathers or parenting partner of a breastfeeding mother.

²⁹ Early Years Act (EYA) of 2013, RA 10410, S. No. 3206 (July 2, 2012), GOVPH Official Gazette.

Breastfeeding Pinays

With Facebook members numbering at 84,990 (as of March 2016) nationwide, it is the biggest breastfeeding support group online. It aims to disseminate accurate, research-based information on breastfeeding benefits, practices, and techniques. It aims to provide informational and moral support to mothers who are breastfeeding and those wishing to bring back the baby to the breast through relactation. The group's aim is to help regain breastfeeding's importance and prominence as a normative part of child rearing in the Philippines.

Seminars/Trainings Conducted

1. Tamang Kain – A Kid and Infant Nutrition Seminar
2. Hakab na – Breastfeeding Mob
3. Breastfeeding Seminar/ Talk
4. Personal Counseling by BFP Peer Counselors
5. Relactation Counseling
6. The Great Cloth Diaper (Change co Organizer)

LATCH (Lactation, Attachment, Training, Counseling, Help)

This NPO offer parent-to-parent peer counseling via home or hospital visit, one on one classes and breastfeeding workshops. Breastfeeding support is also provided through email, text or phone. Their offshoot Facebook group based in Metro Manila is Mother of Multiples by LATCH, an online support group for parents of multiples (twins, triplets, etc) that provide breastfeeding and parenting support for this unique parenting experience. They also have a branch in Davao (LATCH Davao), and Cebu City (Latch Cebu).

South PiNanays Women Empowerment, Inc

Their aim is to be the principal NGO able to provide information and support on breastfeeding and modern parenting in the South of Metro Manila. They aim to educate, support and empower mothers and families in the community, as well as influence the public on breastfeeding and modern parenting through counseling, digital media, events and forums. Their online Facebook page has offshoot groups (SPIN Happy Babywearers Club, Single (parents) SPiN) in order to cater to other modern parenting practices. They are also active co-participants of Modern Cloth Napping Pinays in organizing events for cloth diaper usage awareness, among others. The Asian Medical Center and Ospital ng Paranaque in the South are their official Hospital partners.

Seminars/Trainings Conducted

1. Tamang Kain – A Kid and Infant Nutrition Seminar
2. Free SPIN Fun Dental Clinic for Kids
3. Hakab na – Breastfeeding Mob
4. Breastfeeding Seminar/ Talk (home/personal and hospital organized)
5. Personal Counseling by BFP Peer Counselors
6. Relactation Counseling
7. The Great Cloth Diaper (Change co Organizer)
8. Babywearing Tutorial/ Seminar
9. Managing Challenging Behavior

The Parenting Emporium by Maricel Cua and Beng Feliciano

<https://www.facebook.com/theparentingemporium/?fref=ts>
<http://www.TheParentingEmporium.com>

A retail social enterprise aimed at making the parenting journey easier. They aspire to be the industry leader in providing parenting and childcare products and support services including lectures, educational workshops, consultation, and other childcare support products and services

Breastfeeding Counselors Outside Metro Manila:

Mommy Bright Side

Breastfeeding, babywearing and cloth diapering Facebook support group and online community for families living in Cagayan de Oro city.

Bacolod Mom & Baby Club

Facebook online community for families in Bacolod city. Advocacies include breastfeeding, babywearing and cloth diapering.

Camiguin Province

Dr. Pauline Tchaiya Alinsangan Cutab, OB/Gyne Camiguin General Hospital

Quezon Province

Dr. Joy Tendero - Lucena United Doctors Hospital

Iligan City

Emerald Tobias-Morgia

C. Child Protection and Child Care Agencies

Below NGO details and profiles were sourced personally from the organization's mission and vision or as available in the Philippine Council for NGO Certification website: www.pcnc.com.ph. Please see separate document for contact details and other pertinent NGO information.

ABS-CBN Lingkod Kapamilya Foundation, Inc.

Awarded with BIR certification number 096-2014 on their renewal last 10/7/2014, this organization's purpose is to serve as a social welfare, social development and a charitable institution. It is registered with the SEC as a non-profit, non-stock corporation on July 1989 as the CSR arm of the company ABS-CBN Broadcasting Corporation, a local television network in the Philippines. Programs initiated by this group include: Kapit Bisig para sa Ilog Pasig Bayan ni Juan, Programa Genio, Sagip Kapamilya, Bantay-Bata Bantay Kalikasan. The organization's aim is "to make a significant impact in the strategic areas of child care, environment, education, disaster management by leveraging the power and reach of media and partnering with concerned sectors of society" (par. 1, Philippine Council for NGO Certification, n.d.).

Alouette Foundation of the Philippines, Inc.

The organization's thrust is "to uplift and enhance the dignity and self-worth of children and youth and to undertake responsive and effective programs and services." Their projects includes: sponsorship program for children and youth, maintenance of a residential care center, educational assistance, community development. They have operating branches in the following cities: Pasay, Baguio, Abra,

Mt. Province, Pangasinan, Batangas, Quezon, Palawan and Cebu (par. 1, Philippine Council for NGO Certification, n.d.).

Child and Family Service Philippines, Inc.

Founded by Consuelo Zobel Alger, Patti Lyons and Daniel Urquico in 1987, this organization aims to be of assistance to abused and disadvantaged children, women and families in the Philippines. 1988 programs include drop-in and residential services to street children of Baguio and Benguet. According to the Philippine Council for Certification NGO website, the organization has serviced thousands of disadvantaged children and families that are shelter and non-shelter based through their program. This includes helping overcome the trauma of child abuse and dysfunctional family relationships. They also help children manage problems arising due to juvenile delinquency in order for them to integrate better in society. CFSPI is currently a partner of the nation in preventing abuse, mitigating effects of juvenile crime and in the alleviation of human distress. While their main office is in Baguio City, they also have satellite offices at Marcos Highway (Consuelo Home) and Beckel (Life Skills Center) (par. 1, Philippine Council for NGO Certification, n.d.). Their geographical scope are Baguio City, Benguet and La Union.

According to the Philippine Council for NGO Certificate website, their thrust is “to work towards the prevention of child abuse, neglect and exploitation through its Healing, Caring and Teaching Framework; to promote the full development of children, women, and families, uphold their rights, enhance their access to social and economic opportunities, and protect them from abuse and exploitation; to provide sanctuary for children and women in need of special protection, help reduce juvenile delinquency, provide skills training, technical and financial support for livelihood opportunities³⁰ ” through the following programs: Nurturing Great Families Program; Restorative Justice; Protective and Social Service and Consuelo Center for Leadership and Social Innovation (par. 2, Philippine Council for NGO Certification, n.d.).

³⁰ Par 2, <http://www.pcnc.com.ph/view-ngodetails.php?itemId=1989>.

LIST OF NGOs PROVIDING SUPPORT AND CARE SERVICES TO ABUSED CHILDREN IN THE PHILIPPINES

	Company Name	City	Purpose	Description
1	ABS-CBN Lingkod Kapamilya Foundation, Inc.	Quezon City	Charitable, Social Welfare, Social Development	Civic and social response arm of a broadcasting station which aims to make a significant impact in the strategic areas of child care, environment, education, disaster management by leveraging the power and reach of media and partnering with concerned sectors of society.
2	Alouette Foundation of the Philippines, Inc.	Pasay	Charitable, Social Welfare	Their projects includes: sponsorship program for children and youth, maintenance of a residential care center, educational assistance, community development.
3	ARUGAAN	Marikina City	Breastfeeding, Parenting	A group of highly trained professionals that specializes in breastfeeding counseling. The organization has trained more than 4,000 breastfeeding counselors in over 20 cities. They are a mobile counseling service and support for infant nutrition, and breastfeeding that tackles even the most difficult circumstances (relactation). They also have a community-based mother support arm that specializes in lactation massage and breastfeeding counseling through home and hospital visits.

4	Breastfeeding Pinays	Manila	Breastfeeding, Parenting	An online community that provides breastfeeding counseling and support as well as tamang kain (healthy eating) seminar.
5	Child and Family Service Philippines, Inc.	Baguio City	Charitable, Social Welfare	Service disadvantaged children and families that are shelter and non-shelter based. Includes helping overcome the trauma of child abuse and dysfunctional family relationships. They also help children manage problems arising due to juvenile delinquency in order for them to integrate better in society.
6	Child Protection Network Foundation, Inc.	Manila	Charitable, Social Welfare	It is a network composed of vulnerable child and women protection units in the different areas of the country in collaboration with all Child Protection Units and the Asian Center for Child Protection.
7	Children International (Manila) Inc. (Formerly Abot-Kamay, Inc.)	Quezon City	Charitable, Social Welfare	Provides health and educational sponsorship for families in financial need.
8	Childrens Hour Philippines, Inc.	Makati City	Charitable, Social Welfare	Generates resources for children in need of special protection, nationwide, mainly through the collective action of employees, corporations, organization, and individuals by giving one hour of their earnings once a year.
9	Concordia Children's Services, Inc.	Manila	Charitable, Social Welfare	Programs include providing temporary care to abandoned, neglected and orphaned children through their Receiving home for infants services and helps in placing children in

				permanent nurturing homes. They also provide educational services through their Educational Assistance Program to indigent children.
10	CRIBS Foundation, Inc.	Marikina City	Charitable, Social Welfare	DSWD accredited residential and community-based social work agency involved in implementing residential care & services for the abandoned, neglected, surrendered and sexually abused girls. They are also a child placing agency implementing foster care services for abandoned, neglected and surrendered children.
11	Dynamic Teen Company - Making A Difference, Inc.	Cavite City	Charitable, Social Welfare, Social Development	Focuses on educating out of school youth by bringing portable school to hard to reach places and communities below the poverty line.
12	Filipino Association of Babywearers	Manila	Parenting, Babywearing	An online community that provides support and information on safe babywearing, provides venue to sell and buy related material at market value/non profit costs. Conducts free tutorial classes on proper and safe babywearing.
13	Fr. Al's Children Foundation, Inc.	Cavite City	Charitable, Social Welfare	Provides support for orphans and indigent children. Focus in child welfare programs in poor communities. Provides shelter (Mary's Boys town and Girls town in Silang, Cavite) to street children.

14	Guanella Center, Inc.	Quezon City	Charitable, Social Welfare	Focusing on providing care for indigent children with disabilities.
15	Halad Uma Alang sa Nasud (HAUMAN) Association, Inc.	North Cotabato	Charitable, Social Development	respond to the needs of children, families, and stakeholders of the community. also aims to help strengthen the network and collaboration/coordination among NGOs, POs, and government agencies in Midsayap, province of Cotabato
16	Kaisahang Buhay Foundation, Inc.	Quezon City	Charitable, Social Welfare	A non-profit child and family welfare organization
17	Little Bamboo Foundation, Incorporated	Cebu City	Charitable, Social Development	Provide formation programs for parents; to refer families to appropriate institutions for economic, psychosocial, legal and health concerns.
18	Modern Cloth Napping Pinays	Manila	Cloth diapering	An online community that provides support and information on cloth diapering, provides venue to sell and buy related material at market value/non profit costs
19	Moms of Multiple by Latch	Manila	Breastfeeding, Parenting twins	An online community that provides breastfeeding and parenting classes for parents with twins or multiples. Also holds sessions on breastfeeding, tamang kain (proper nutrition and eating habits), and other parenting workshops.
20	Nutrition Foundation of the Philippines, Inc.		Health	Provides nutrition program for vulnerable groups, aimed at the community and the whole family. They are also involved in family development programs aimed at nutrition and health

				classes for kids and the community.
21	San Antonio Formation and Enchancement Center, Inc.	Bacolod City	Charitable, Social Welfare	Residential care facility for abandoned, orphaned, street children.
22	SOS Children's Villages, Inc.	Muntinlupa City	Social Welfare	Are licensed to operate by DSWD and provides long-term family-based care and education to children in need.
23	South PiNanays Women Empowerment, Inc	Las Pinas City	Breastfeeding, Parenting	An online community providing reliable information and support on breastfeeding and modern parenting that seeks to empower communities in the South. Also holds sessions on breastfeeding, tamang kain (proper nutrition and eating habits), and other parenting workshop parenting classes and breastfeeding classes
24	The Parenting Emporium	Quezon City	Breastfeeding, Parenting	A social enterprise providing classes on modern parenting and child care related products. Seminars conducted aimed at information dissemination from pregnancy to birth. Also conducts breastfeeding classes, first aid, and yaya (nanny) seminar.
25	Tulay Ng Kabataan Foundation, Inc.	Quezon City	Charitable, Social Welfare	Provides boarding and residential homes for street children

26	Union Church of Manila Philippines Foundation, Inc.	Makati City	Charitable, Educational, Social Welfare, Social Development, Training	Eeducating out of school youth, nutrition enhancement for children through feeding programs etc.
27	World Vision Development Foundation, Inc.		Charitable, Social Welfare, Social Development, Non-formal Education, Training	Educational sponsorship with child protection.
28	Bosom Buddies	Manila	Breastfeeding, Parenting	This group provides relactation support and counseling for breastfeeding problems. They provide breastfeeding guide, advice, coaching and support.